

茨城県教育財団文化財調査報告第146集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 4

前田村遺跡 G・H・I区
(中 卷)

平成 11 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

210.231

Y67

(NK)

茨城県教育財団文化財調査報告第146集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画 整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 4

まえ だ むら

前田村遺跡 G・H・I 区

(中 卷)

平成 11 年 3 月

寄	贈
歴史・人類学系	平成 年 月 日

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

00603030

目 次

— 中 卷 —

第4節 H区の遺構と遺物	397
1 縄文時代の遺構と遺物	397
(1) 竪穴住居跡	398
(2) 土坑墓	432
(3) 土坑	433
(4) 焼土遺構	563
(5) 埋設遺構	564
2 古墳時代の遺構と遺物	565
(1) 竪穴住居跡	565
3 中・近世の遺構と遺物	590
(1) 方形竪穴状遺構	591
(2) 長方形土坑	599
(3) 地下式壙	604
(4) 井戸	610
(5) 堀	613
(6) 溝	616
(7) ピット群	618
4 遺構外出土遺物	619
第5節 I区の遺構と遺物	633
1 縄文時代の遺構と遺物	634
(1) 竪穴住居跡	634

插图目次

H区

第341图	H区南东部遺構配置图	397
第342图	第419号住居跡・出土遺物実測图	398
第343图	第421号住居跡実測图	399
第344图	第421号住居跡出土遺物実測图	400
第345图	第422号住居跡・出土遺物実測图	402
第346图	第424号住居跡・出土遺物実測图	403
第347图	第425号住居跡実測图	404
第348图	第427・428号住居跡実測图	405
第349图	第427号住居跡出土遺物実測图	406
第350图	第428号住居跡出土遺物実測图	407
第351图	第429号住居跡実測图	408
第352图	第429号住居跡出土遺物実測图	409
第353图	第430号住居跡・出土遺物実測图	410
第354图	第431号住居跡実測图	411
第355图	第431号住居跡出土遺物実測图(1)	413
第356图	第431号住居跡出土遺物実測图(2)	414
第357图	第432号住居跡・出土遺物実測图	415
第358图	第433・435・436号 住居跡実測图(1)	416
第359图	第433・435・436号 住居跡実測图(2)	417
第360图	第433号住居跡出土遺物実測图	418
第361图	第435号住居跡出土遺物実測图	419
第362图	第436号住居跡出土遺物実測图	420
第363图	第437・438号住居跡実測图	421
第364图	第438号住居跡出土遺物実測图	422
第365图	第439号住居跡・出土遺物実測图	423
第366图	第440号住居跡実測图	423
第367图	第452号住居跡・出土遺物実測图	424
第368图	第478号住居跡・出土遺物実測图	425
第369图	第499号住居跡・出土遺物実測图	426
第370图	第500号住居跡・出土遺物実測图	427
第371图	第501号住居跡実測图	429
第372图	第501号住居跡出土遺物実測图	430

第373图	第2463号土坑実測图	432
第374图	第2357号土坑・出土遺物実測图	433
第375图	第2361号土坑・出土遺物実測图	434
第376图	第2364号土坑・出土遺物実測图(1)	436
第377图	第2364号土坑出土遺物実測图(2)	437
第378图	第2364号土坑出土遺物実測图(3)	438
第379图	第2364号土坑出土遺物実測图(4)	439
第380图	第2365号土坑・出土遺物実測图(1)	441
第381图	第2365号土坑出土遺物実測图(2)	442
第382图	第2366号土坑・出土遺物実測图	443
第383图	第2370号土坑・出土遺物実測图	444
第384图	第2372号土坑・出土遺物実測图	445
第385图	第2374号土坑・出土遺物実測图	446
第386图	第2375号土坑・出土遺物実測图	447
第387图	第2376号土坑・出土遺物実測图	448
第388图	第2377号土坑・出土遺物実測图	449
第389图	第2378号土坑・出土遺物実測图	450
第390图	第2380号土坑・出土遺物実測图	451
第391图	第2383号土坑・出土遺物実測图	451
第392图	第2388号土坑・出土遺物実測图	453
第393图	第2389号土坑・出土遺物実測图	454
第394图	第2390・2392号土坑実測图	454
第395图	第2390号土坑出土遺物実測图	455
第396图	第2392号土坑出土遺物実測图	456
第397图	第2394号土坑・出土遺物実測图	457
第398图	第2396・2397号土坑実測图	458
第399图	第2396号土坑出土遺物実測图	459
第400图	第2397号土坑出土遺物実測图	459
第401图	第2399号土坑・出土遺物実測图	461
第402图	第2401号土坑・出土遺物実測图(1)	463
第403图	第2401号土坑出土遺物実測图(2)	464
第404图	第2408号土坑・出土遺物実測图	465
第405图	第2415号土坑・出土遺物実測图	467
第406图	第2418号土坑・出土遺物実測图	467
第407图	第2427号土坑・出土遺物実測图	468

第408图	第2429号土坑·出土遺物実測図	……	469	第446图	第2772号土坑·出土遺物実測図	……	507
第409图	第2432号土坑·出土遺物実測図	……	470	第447图	第2773号土坑·出土遺物実測図	……	508
第410图	第2433号土坑·出土遺物実測図	……	471	第448图	第2775号土坑·出土遺物実測図	……	509
第411图	第2444·2445号土坑実測図	……………	471	第449图	第2799号土坑·出土遺物実測図	……	510
第412图	第2444号土坑出土遺物実測図	……………	472	第450图	第2807号土坑·出土遺物実測図	……	511
第413图	第2445号土坑出土遺物実測図	……………	473	第451图	第2811号土坑·出土遺物実測図	……	512
第414图	第2446号土坑·出土遺物実測図	……	474	第452图	第2826·2827号土坑実測図	……………	512
第415图	第2451号土坑·出土遺物実測図	……	475	第453图	第2826号土坑出土遺物実測図	……………	513
第416图	第2456号土坑·出土遺物実測図	……	476	第454图	第2839号土坑·出土遺物実測図	……	514
第417图	第2459号土坑·出土遺物実測図	……	477	第455图	第2840号土坑·出土遺物実測図	……	515
第418图	第2461·2462号土坑実測図	……………	478	第456图	第2841号土坑·出土遺物実測図	……	516
第419图	第2461号土坑出土遺物実測図	……………	478	第457图	第2844号土坑·出土遺物実測図(1)	…	518
第420图	第2462号土坑出土遺物実測図	……………	479	第458图	第2844号土坑出土遺物実測図(2)	……	519
第421图	第2465号土坑·出土遺物実測図	……	480	第459图	第2848号土坑·出土遺物実測図	……	520
第422图	第2468号土坑·出土遺物実測図	……	481	第460图	第2853号土坑·出土遺物実測図(1)	…	521
第423图	第2472号土坑·出土遺物実測図	……	482	第461图	第2853号土坑出土遺物実測図(2)	……	522
第424图	第2474号土坑·出土遺物実測図	……	483	第462图	第2854·2856号土坑実測図	……………	523
第425图	第2475号土坑·出土遺物実測図	……	484	第463图	第2854号土坑出土遺物実測図	……………	523
第426图	第2486号土坑·出土遺物実測図	……	486	第464图	第2856号土坑出土遺物実測図	……………	524
第427图	第2492号土坑·出土遺物実測図	……	487	第465图	第2858号土坑·出土遺物実測図	……	525
第428图	第2493号土坑·出土遺物実測図(1)	…	488	第466图	第2859号土坑·出土遺物実測図	……	527
第429图	第2493号土坑出土遺物実測図(2)	……	489	第467图	第2862号土坑·出土遺物実測図	……	529
第430图	第2495号土坑·出土遺物実測図	……	490	第468图	第2867号土坑·出土遺物実測図	……	531
第431图	第2497号土坑·出土遺物実測図	……	491	第469图	第2870号土坑·出土遺物実測図	……	532
第432图	第2498号土坑·出土遺物実測図	……	493	第470图	第2871·2875号土坑実測図	……………	533
第433图	第2499号土坑·出土遺物実測図	……	494	第471图	第2871号土坑出土遺物実測図	……………	533
第434图	第2502号土坑·出土遺物実測図	……	495	第472图	第2899号土坑·出土遺物実測図	……	535
第435图	第2507号土坑·出土遺物実測図	……	497	第473图	第2900号土坑·出土遺物実測図	……	536
第436图	第2510号土坑·出土遺物実測図	……	497	第474图	第2905号土坑·出土遺物実測図	……	537
第437图	第2512号土坑·出土遺物実測図	……	498	第475图	第2910号土坑·出土遺物実測図	……	538
第438图	第2514号土坑·出土遺物実測図	……	499	第476图	第2912号土坑·出土遺物実測図	……	539
第439图	第2515号土坑·出土遺物実測図	……	500	第477图	第2914号土坑·出土遺物実測図	……	539
第440图	第2516号土坑·出土遺物実測図	……	500	第478图	第2918号土坑·出土遺物実測図	……	540
第441图	第2521号土坑·出土遺物実測図	……	501	第479图	第2920号土坑·出土遺物実測図	……	541
第442图	第2524号土坑·出土遺物実測図	……	503	第480图	第2927号土坑·出土遺物実測図	……	542
第443图	第2541号土坑·出土遺物実測図	……	504	第481图	第2931号土坑·出土遺物実測図	……	543
第444图	第2567号土坑·出土遺物実測図	……	505	第482图	第2932号土坑·出土遺物実測図	……	544
第445图	第2764号土坑·出土遺物実測図	……	506	第483图	第2934号土坑·出土遺物実測図	……	545

第484図	第2937号土坑・出土遺物実測図	546	第520図	第5・6・8号方形竪穴状遺構実測図	592
第485図	第2939号土坑・出土遺物実測図	547	第521図	第7号方形竪穴状遺構実測図	593
第486図	第2945号土坑・出土遺物実測図(1)	549	第522図	第9号方形竪穴状遺構実測図	594
第487図	第2945号土坑出土遺物実測図(2)	550	第523図	第10号方形竪穴状遺構実測図	595
第488図	第2946号土坑・出土遺物実測図	551	第524図	第11号方形竪穴状遺構実測図	597
第489図	第2952号土坑・出土遺物実測図	552	第525図	第11号方形竪穴状遺構出土遺物実測図	598
第490図	第2954号土坑・出土遺物実測図	553	第526図	第2756・2759・2761・2879・2883・2940A号土坑実測図	600
第491図	第2960号土坑・出土遺物実測図	554	第527図	第2940A号土坑出土遺物実測図	602
第492図	第2966号土坑・出土遺物実測図	555	第528図	第25号地下式壙実測図	604
第493図	第1号焼土遺構実測図	563	第529図	第25号地下式壙出土遺物実測図	605
第494図	第2号焼土遺構実測図	564	第530図	第26号地下式壙実測図	606
第495図	第2号土器埋設遺構・出土遺物実測図	564	第531図	第27号地下式壙実測図	607
第496図	第485号住居跡実測図	565	第532図	第28号地下式壙実測図	608
第497図	第485号住居跡出土遺物実測図	566	第533図	第29・30号井戸実測図	610
第498図	第486号住居跡実測図	567	第534図	第29号井戸出土遺物実測図	611
第499図	第486号住居跡出土遺物実測図	568	第535図	第1号堀実測図	613
第500図	第488号住居跡・掘り方実測図	569	第536図	第1号堀出土遺物実測図	614
第501図	第488号住居跡出土遺物実測図	571	第537図	第2A・B号堀実測図	615
第502図	第489号住居跡・出土遺物実測図	572	第538図	第2A・B号堀出土遺物実測図	615
第503図	第490号住居跡・出土遺物実測図	573	第539図	第137号溝出土遺物実測図	616
第504図	第491号住居跡実測図	574	第540図	第130・131・134A・135~139・141号溝実測図	616
第505図	第491号住居跡出土遺物実測図	575	第541図	第1号ピット群実測図	618
第506図	第492号住居跡実測図	576	第542図	遺構外出土遺物実測図(1)	620
第507図	第492号住居跡掘り方実測図	577	第543図	遺構外出土遺物実測図(2)	621
第508図	第492号住居跡出土遺物実測図	578	第544図	遺構外出土遺物実測図(3)	622
第509図	第494号住居跡実測図	579	第545図	遺構外出土遺物実測図(4)	623
第510図	第494号住居跡出土遺物実測図	580	第546図	遺構外出土遺物実測図(5)	624
第511図	第495号住居跡実測図	581	第547図	遺構外出土遺物実測図(6)	625
第512図	第495号住居跡掘り方実測図	582	第548図	遺構外出土遺物実測図(7)	626
第513図	第495号住居跡出土遺物実測図	584	第549図	遺構外出土遺物実測図(8)	627
第514図	第496号住居跡実測図	585			
第515図	第496号住居跡出土遺物実測図	586			
第516図	第498号住居跡実測図	587			
第517図	第498号住居跡出土遺物実測図	588			
第518図	第3号遺構群配置図	590			
第519図	第4号方形竪穴状遺構実測図	591			

I 区

第550图	I 区全体图	633	第570图	第464 A · B 号住居迹 出土遺物実測図(1)	662
第551图	第441号住居迹 · 出土遺物実測図	635	第571图	第464 A · B 号住居迹 出土遺物実測図(2)	663
第552图	第446号住居迹実測図	636	第572图	第464 A · B 号住居迹 出土遺物実測図(3)	664
第553图	第446号住居迹出土遺物実測図	638	第573图	第464 A · B 号住居迹 出土遺物実測図(4)	665
第554图	第447号住居迹 · 出土遺物実測図	639	第574图	第464 A · B 号住居迹 出土遺物実測図(5)	666
✓ 第555图	第448号住居迹 · 出土遺物実測図	641	第575图	第464 A · B 号住居迹 出土遺物実測図(6)	667
第556图	第450号住居迹実測図	642	第576图	第464 B 号住居迹出土遺物実測図	669
第557图	第450号住居迹出土遺物実測図	644	✓ 第577图	第467号住居迹 · 出土遺物実測図	670
第558图	第451号住居迹実測図	645	第578图	第471号住居迹実測図	671
第559图	第453号住居迹 · 出土遺物実測図	646	第579图	第475号住居迹実測図	673
第560图	第454号住居迹 · 出土遺物実測図(1)	648	第580图	第475号住居迹出土遺物実測図(1)	674
第561图	第454号住居迹出土遺物実測図(2)	649	第581图	第475号住居迹出土遺物実測図(2)	675
第562图	第456号住居迹実測図	649	第582图	第475号住居迹出土遺物実測図(3)	676
第563图	第457号住居迹 · 出土遺物実測図	650	第583图	第476号住居迹実測図	677
第564图	第458号住居迹 · 出土遺物実測図	652	第584图	第477号住居迹実測図	679
第565图	第463号住居迹実測図	654	第585图	第477号住居迹出土遺物実測図	680
第566图	第463号住居迹出土遺物実測図(1)	656			
第567图	第463号住居迹出土遺物実測図(2)	657			
第568图	第463号住居迹出土遺物実測図(3)	658			
第569图	第464 A · B 号 住居迹実測図	659 · 660			

表 目 次

表9	前田村遺跡H区縄文時代住居跡一覧表	431
表10	前田村遺跡H区縄文時代土坑一覧表	556
表11	前田村遺跡H区古墳時代住居跡一覧表	589
表12	前田村遺跡H区方形竪穴状遺構一覧表	598
表13	前田村遺跡H区中世土坑一覧表	602
表14	前田村遺跡H区その他の土坑一覧表	603
表15	前田村遺跡H区地下式竈一覧表	609
表16	前田村遺跡H区溝一覧表	617
表17	前田村遺跡I区住居跡一覧表	680

付 図

付図1	前田村遺跡G区全体図
付図2	前田村遺跡H区全体図
付図3	前田村遺跡I区全体図

第4節 H区の遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

H区は、当遺跡のほぼ中央部の、南側から北側に向けて入り込む谷津の先端部の台地上に位置し、南部から南東部は谷津に向けて標高差約1.5mで緩やかに傾斜している。南東部は平成9年に報告されたD区と隣接しており、同時期の遺構が存在している。また、縄文時代の遺構の重複が著しい。遺構は堅穴住居跡23軒、土抗墓1基、土坑334基が検出されている。土坑については、出土遺物の残存状況が良好なもの及び形態に特徴を持つものを取り上げ、それ以外は一覧表で表記した。なお、遺構番号はD区東側に隣接するG区からの続きである。



第341図 H区南東部全体図

(1) 竪穴住居跡

第419号住居跡 (第342図)

位置 調査区の南東部, D14j7区。

重複関係 西壁を第2361号土坑, 第2367号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径3.61m, 短径3.40mの楕円形である。

主軸方向 N-50°-W

壁 壁高は約8~20cmで, 外傾して立ち上がる。

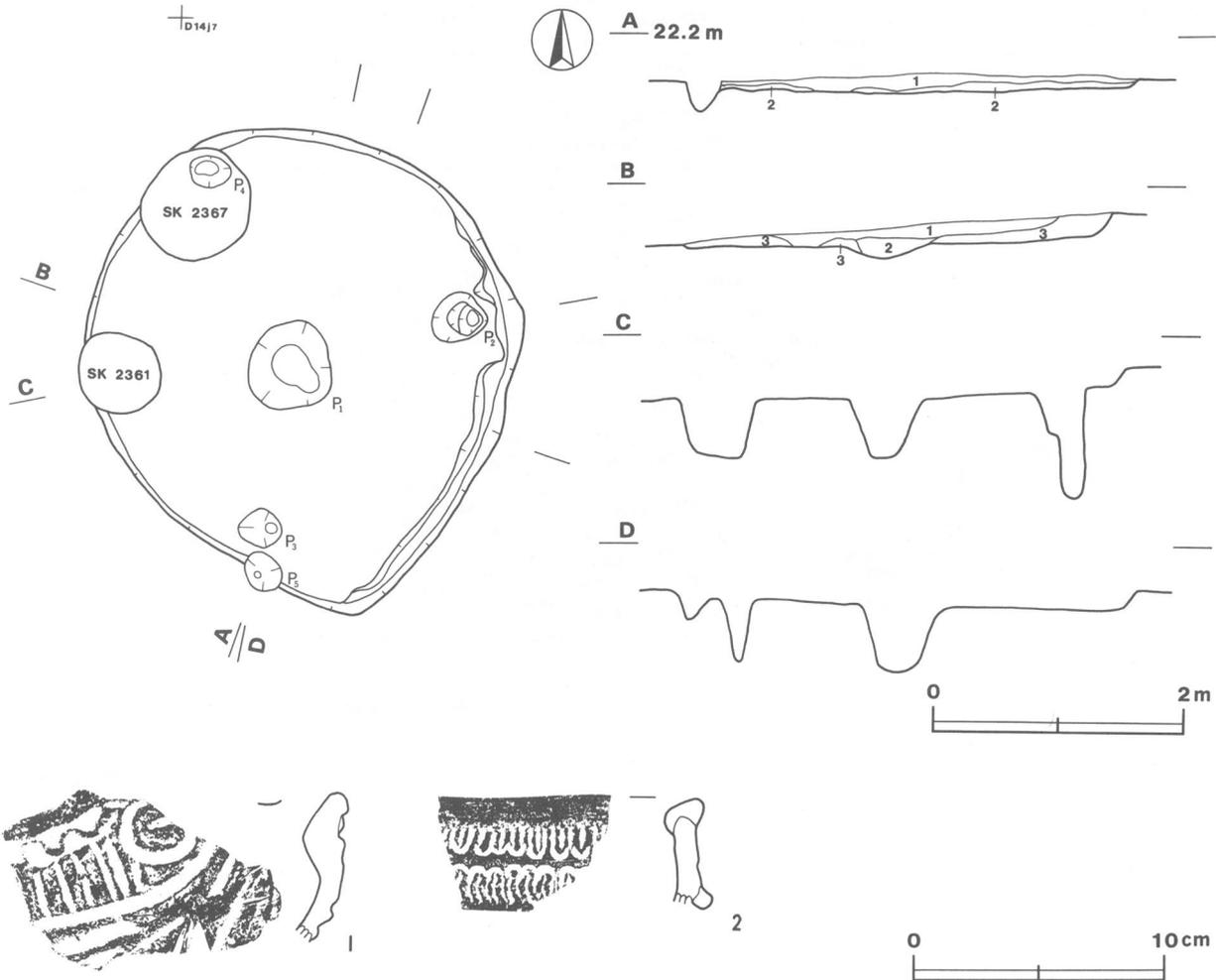
床 平坦である。

ピット 5か所。P₁は住居跡の中央に位置し, 径70cmの円形で, 深さは53cmである。P₂は, 径42cmの円形で, 深さは88cmである。P₃は径33cmの円形で, 深さは52cmである。P₄は, 長径33cm, 短径26cmの楕円形で, 深さは88cmである。いずれも支柱穴と考えられる。P₅は長径32cm, 短径26cmの楕円形で, 深さは18cmである。性格は不明である。

覆土 3層に分層される。3層にロームブロックが含まれるが, その堆積状況を見ると壁の崩落及び周囲の土の流れ込みによるものと思われることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム少ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量



第342図 第419号住居跡・出土遺物実測図

遺物 縄文土器片37点，獣骨片が出土している。第342図1は沈線区画内に渦巻文及び縦位の沈線が施され，口縁端部直下に交互刺突文が施されている。2は半截竹管による刺突文が施されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉(中峠式期)と考えられる。

第421号住居跡 (第343図)

位置 調査区の南東部，D14j8区。

重複関係 第2373号土坑を掘り込み，北側を第2371号土坑に掘り込まれ，中央北寄り部分の炉を第2369号土坑，第2372号土坑に掘り込まれている。

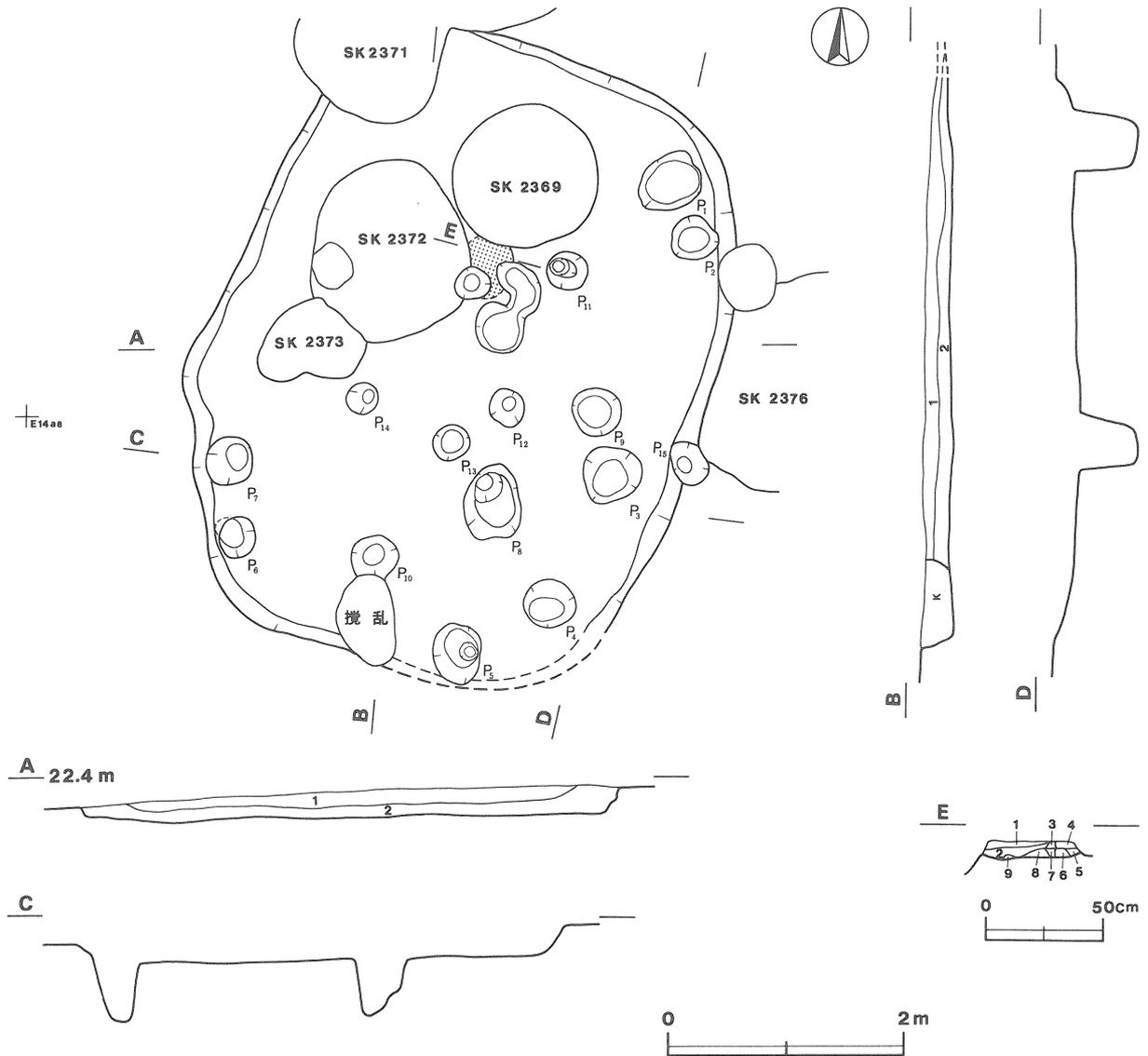
規模と平面形 長軸5.37m，短軸4.25mの隅丸長方形である。

主軸方向 [N-20°-E]

壁 壁高は16~26cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。

ピット 15か所。P₁~P₇は径35~55cmの円形で，深さは20~60cmである。規模と配列から支柱穴と考えられ



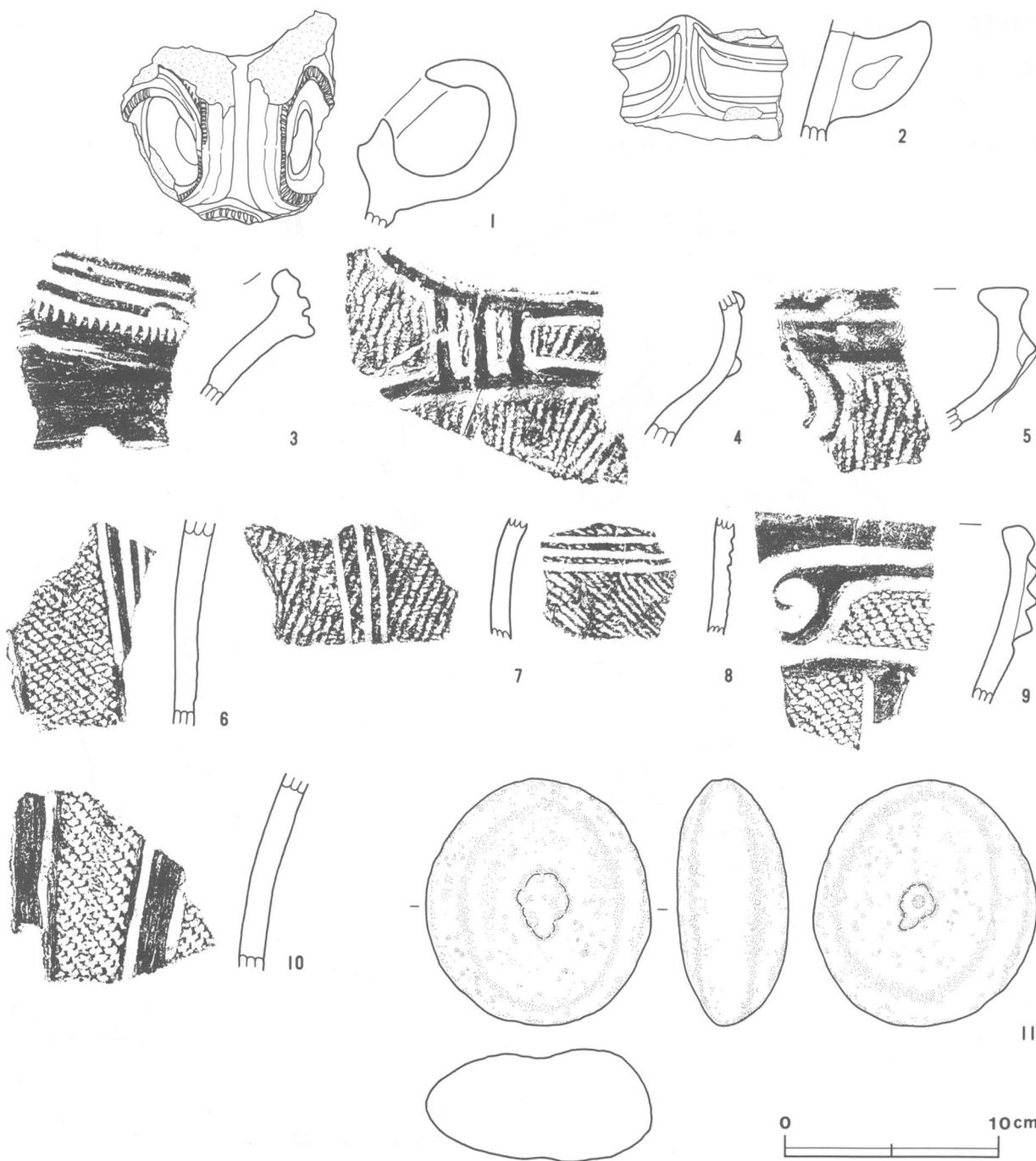
第343図 第421号住居跡実測図

る。Psは長径62cm、短径48cmの楕円形で、深さは50cmである。位置と規模から補助柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

炉 中央より北側に付設されている。ピット及び土坑に掘り込まれているため、形態は不明である。床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|------|-----------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 明褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子少量 | 8 明褐色 | ローム粒子微量, ローム小ブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック微量, 焼土ブロック少量 | 9 明褐色 | ローム粒子微量, ローム小ブロック中量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 焼土ブロック微量 | | |
| 5 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |
| 6 褐色 | ローム粒子微量 | | |



第344図 第421号住居跡出土遺物実測図

覆土 2層に分層される。各層にロームブロックを含み、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量

遺物 縄文土器片662点, 磨石1点, 獣骨片が出土している。第344図1, 2の深鉢把手及び11の磨石は覆土から出土している。3はキザミが施され, 沈線を巡らしている。4はRLの単節縄文を地文とし, 隆帯により区画文を施している。5は沈線を有する隆帯文が施されている。6～8は深鉢の胴部片である。6は複節縄文を地文に3本沈線の磨消懸垂文が施されている。7, 8は単節縄文を地文に3本一組の沈線が施されている。9は深鉢の口縁部片で, 隆帯により区画文及び渦巻文が施され, 区画内にLRの単節縄文が施されている。10は深鉢の胴部片で, 複節縄文を地文に, 幅広の沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曽利E I～II式期)と考えられる。

第421号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第344図 1	深鉢 縄文土器	B (10.0)	眼鏡状把手。孔に沿って隆帯及び沈線が施され, 隆帯にはキザミが施されている。	砂粒・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P1 5% 覆土 加曽利E I式
2	深鉢 縄文土器	B (5.5)	橋状把手。沈線を有する隆帯文が施されている。	砂粒・石英・スコリア 黒褐色 普通	P2 10% 覆土 加曽利E I式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第344図11	磨石	11.6	10.5	5.3	(769.0)	安山岩	Q1 覆土 凹石兼用

第422号住居跡(第345図)

位置 調査区の南東部, D14j0区。

重複関係 南側部分を第2364号土坑, 第2376号土坑に掘り込まれ, 西側部分を第2365号土坑に, 東側部分を第2430号土坑, 第2432号土坑に, 中央部分を第2476号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径[5.11]m, 短径[3.90]mの楕円形と推定される。

主軸方向 N-33°-E

壁 北壁と東壁が残存しており, 壁高は16cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。

ピット 2か所。P₁は径45cmの円形で, 深さは61cmである。規模と位置から支柱穴と考えられる。P₂は径33cmの円形で, 深さは93cmである。性格は不明である。

炉 東側に付設されている。焼土が確認されたのみで, 東半分を土坑に掘り込まれているため形態は不明である。

覆土 6層に分層される。各層にロームブロックを含み, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

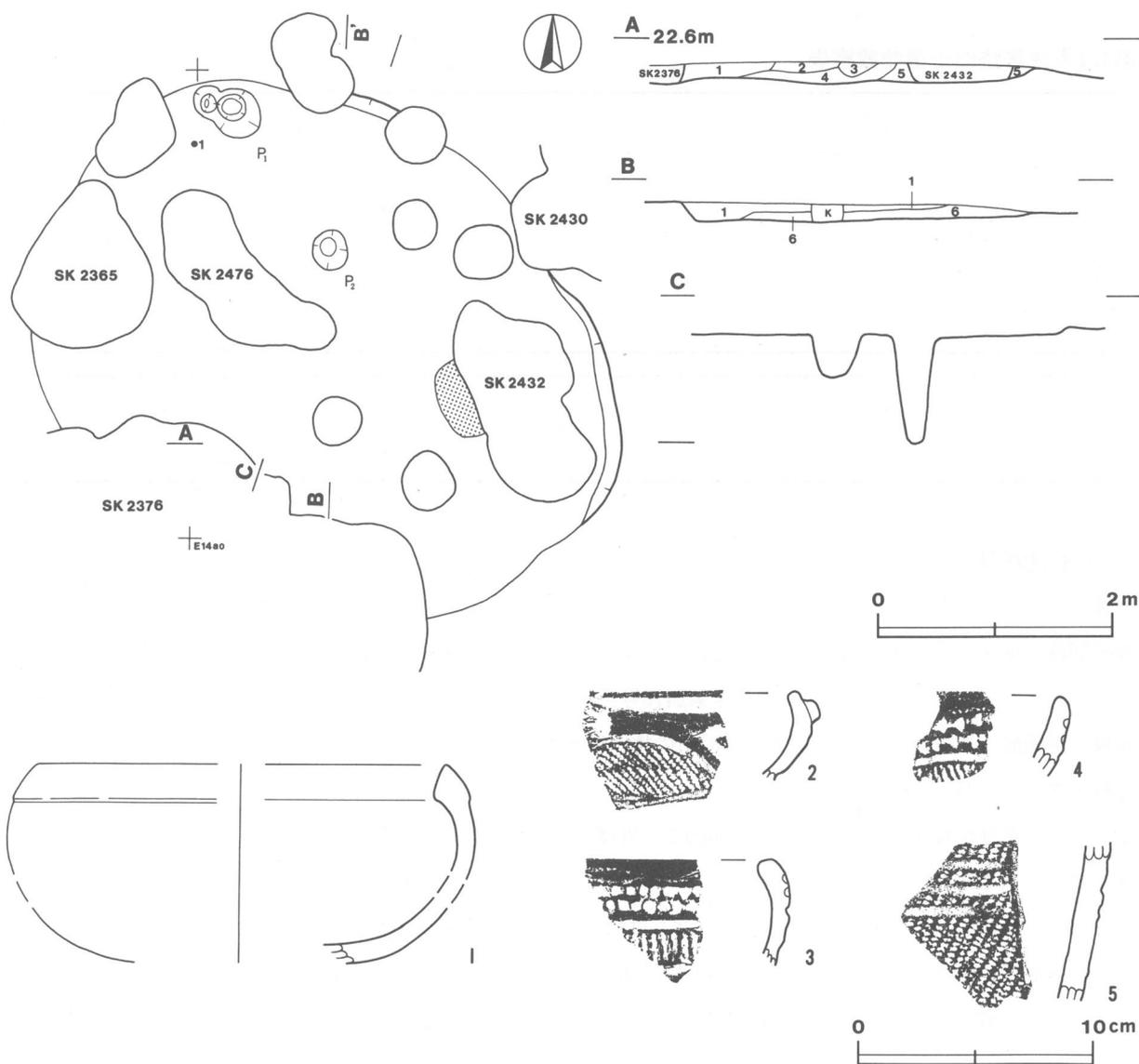
- 1 赤褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子中量
- 2 赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量, 焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子少量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小・大ブロック微量, 焼土粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化物微量

遺物 縄文土器片626点が出土している。第345図1の浅鉢は覆土から出土している。2～4は深鉢の口縁部片である。2は隆帯による区画内にRLの単節縄文が施されている。3, 4は撚糸文を地文とし、刺突文が施されている。5は深鉢の胴部片で、RLの単節縄文を地文に3本単位の沈線が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E I～II式期)と考えられる。

第422号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第345図 1	鉢 縄文土器	A (17.4) B (8.4)	胴部から口縁部にかけて内彎する。口縁部はわずかに厚みをもつ無文である。赤彩痕。	砂粒・長石にぶい褐色普通	P3 30% 覆土 加曾利E I式



第345図 第422号住居跡・出土遺物実測図

第424号住居跡（第346図）

位置 調査区の南東部，D14i9区。

重複関係 北壁際部分を第2394号土坑，東側部分を第2393号土坑，西側部分を第2400号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径〔3.65〕m，短径〔3.37〕mの楕円形と推定される。

主軸方向 〔N-44°-W〕

壁 西壁と東壁が残存しており，壁高は12cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。

ピット 2か所。P₁は長径50cm，短径36cmの楕円形で，深さは88cmである。P₂は長径45cm，短径35cmの楕円形で，深さは82cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。

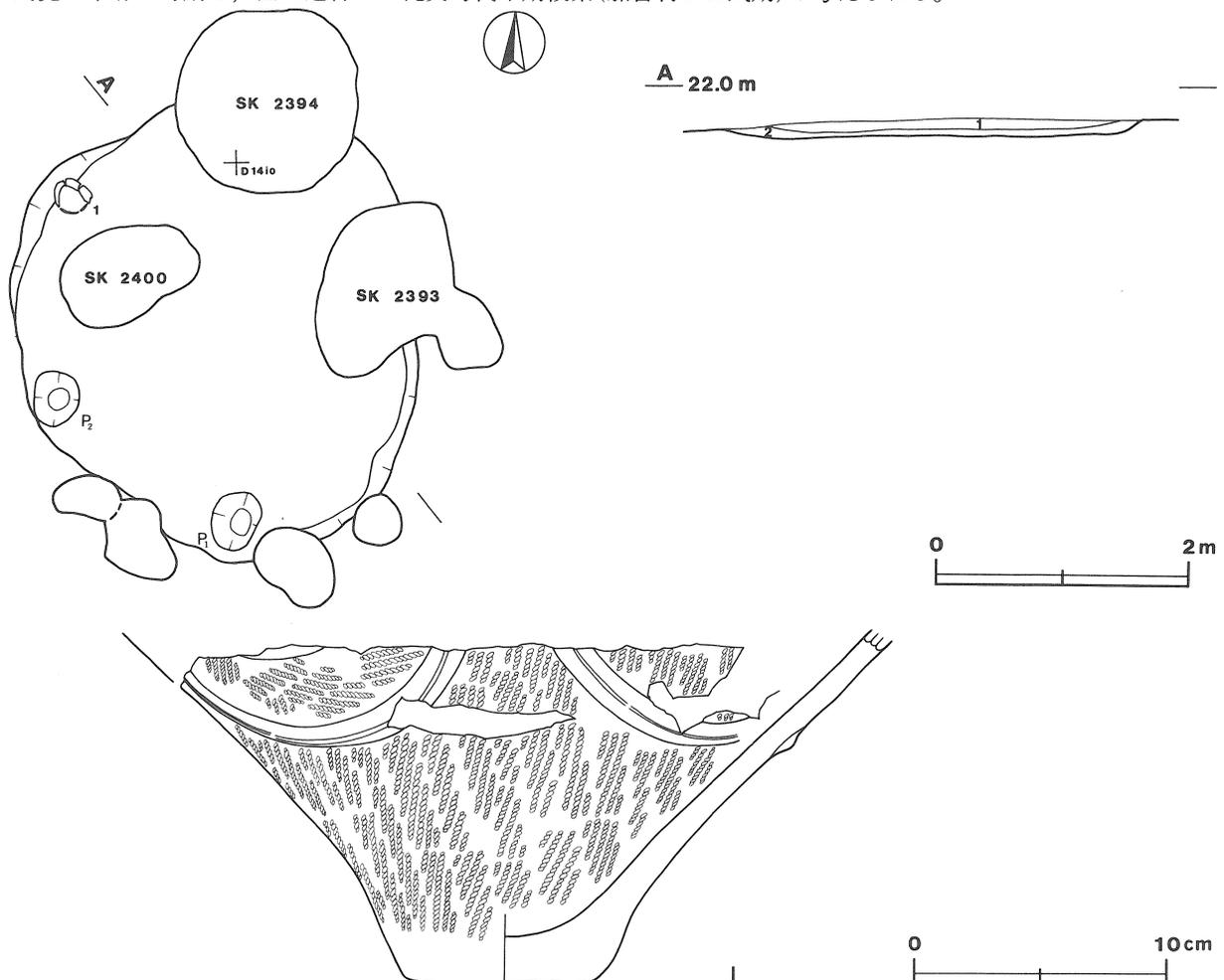
覆土 2層に分層される。削平されているため床面近くの土層の確認だけであるが，堆積状況をみると自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量，ローム大ブロック少量

遺物 縄文土器片2点が出土している。第346図1の深鉢の底部から胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第346図 第424号住居跡・出土遺物実測図

第424号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第346図 1	深鉢 縄文土器	A (14.5) C 8.0	胴部から底部片。底部は小さく、外傾して立ち上がる。胴部にはR Lの単節縄文及び断面三角形の微隆起線文が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母 にぶい赤褐色 普通	P4 30% PL51 覆土 加曾利EⅢ式

第425号住居跡 (第347図)

位置 調査区の南東部，D15i3区。

重複関係 西側部分を第2426号土坑に，東側部分を第2425号土坑に，南壁部分を第2422号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径4.46m，短径3.58mの楕円形である。

主軸方向 [N-7°-E]

壁 壁高は30~41cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。

ピット 2か所。P₁は径40cmの円形で，深さは48cmである。P₂は長径66cm，短径54cmの楕円形で，深さは96cmである。位置と規模から支柱穴と思われる。

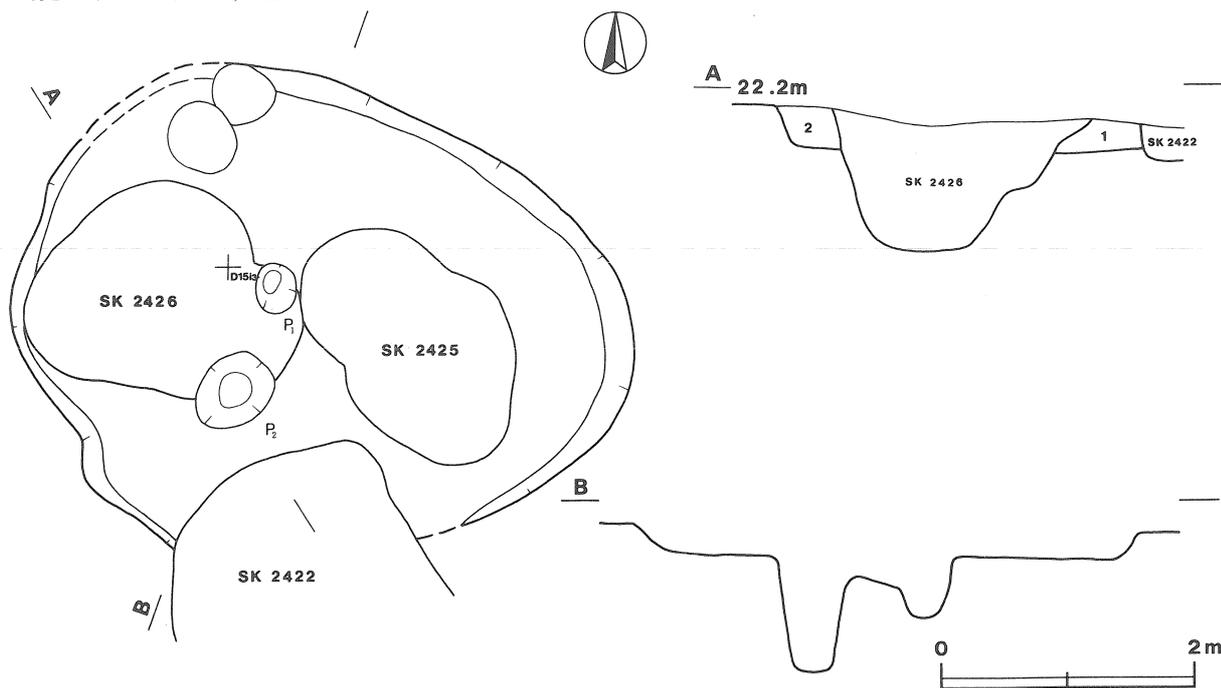
覆土 2層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物 縄文土器片183点が出土している。

所見 本跡の時期は，住居跡の形態と覆土が縄文時代のものと類似することから縄文時代と考えられる。



第347図 第425号住居跡実測図

第427号住居跡 (第348図)

位置 調査区の南東部, D14 f9 区。

重複関係 第428号住居跡を掘り込んでおり, 中央部分を第2457号土坑, 第2458号土坑, 第2459号土坑に, 南側部分を第2517号土坑, 第2518号土坑に, 西側部分を第2456号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸 [5.00]m, 短軸[3.44]mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 [N-33°-E]

壁 東側部分と西側部分に残存しており, 壁高は8~30cmで, 外傾して立ち上がる。

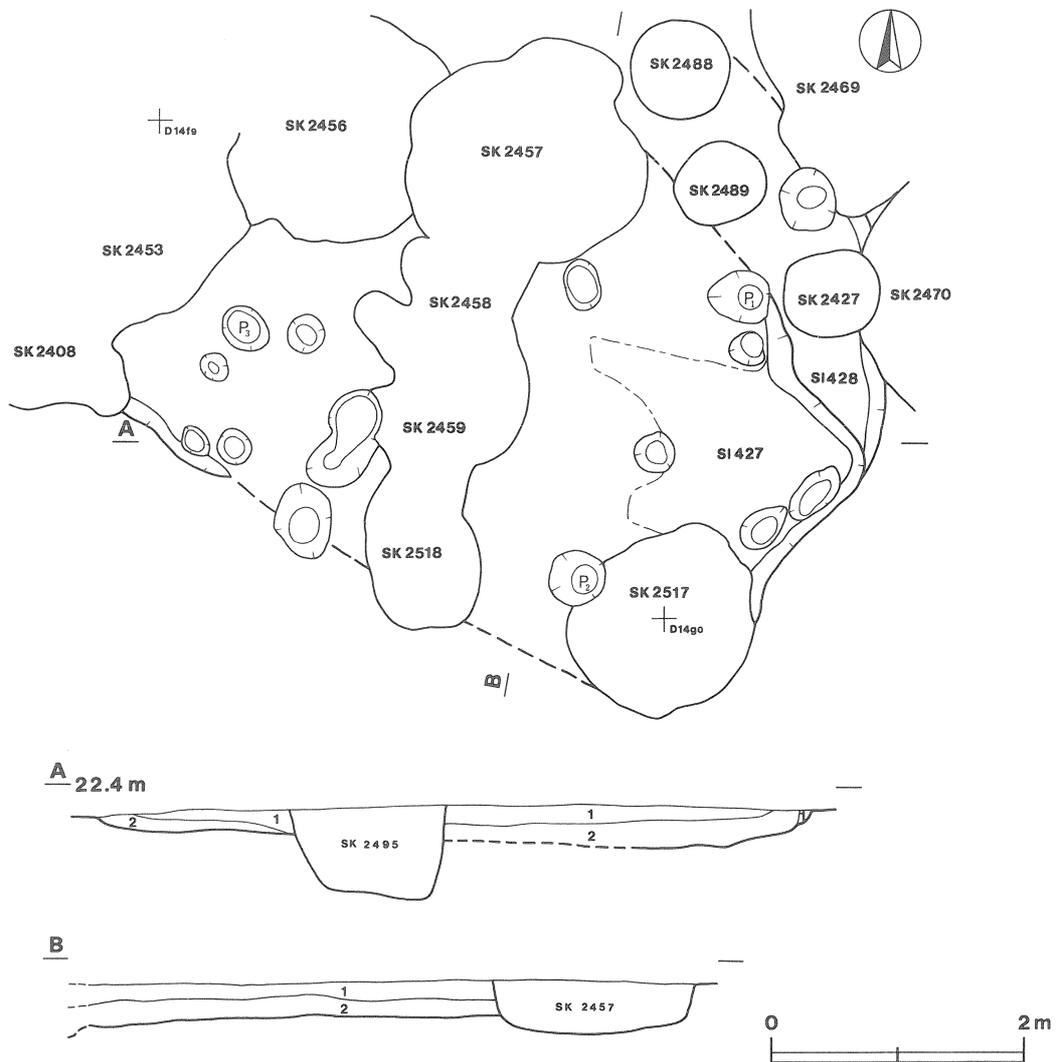
床 ほぼ平坦で, 全面に硬化面がみられ, 特に東壁付近が硬い。

ピット 13か所。P₁~P₃は径30~40cmの円形で, 深さは40~70cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

覆土 2層に分層される。他の遺構に掘り込まれており, 本跡の覆土は一部だけの確認であるが, 堆積状況を見ると自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量



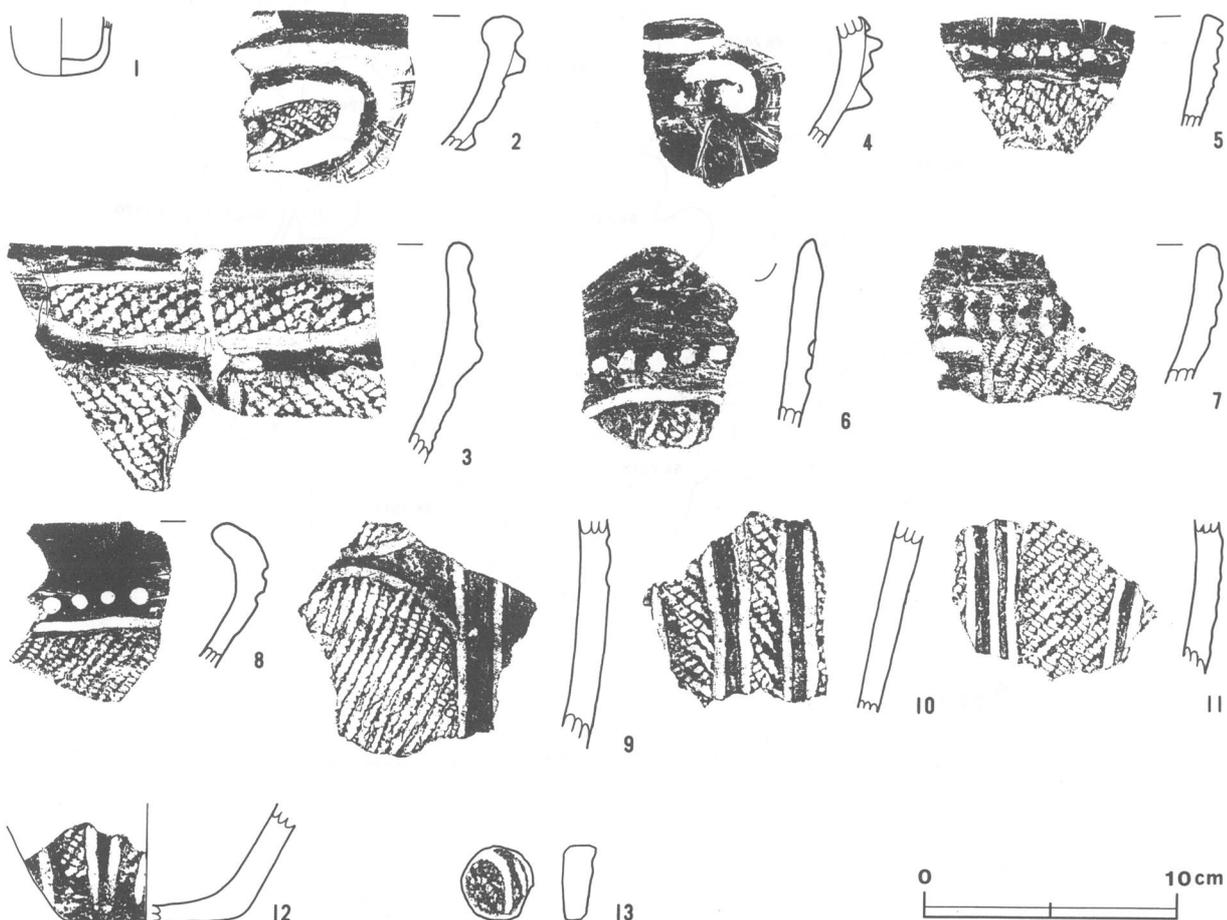
第348図 第427・428号住居跡実測図

遺物 縄文土器片150点が出土している。第349図1はミニチュア土器の底部片で、覆土から出土している。2～8は深鉢の口縁部片である。2は隆帯による区画内にR Lの単節縄文が施され、3は沈線区画内に複節縄文が施されている。4は隆帯による渦巻文が施されている。5～8は口縁部に円形刺突文が施され、沈線が施されている。9、11は深鉢の胴部片で、R Lの単節縄文を地文に、磨消懸垂文が施されている。10はL Rの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。12は深鉢の底部片で、R Lの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。13は土器片円盤である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E II～III式期)と考えられる。

第427号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考			
第349図 1	ミニチュア土器 縄文土器	B (2.3) C 2.0	底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒 黒褐色 普通	P7 40% PL51 覆土			
図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第349図13	土器片円盤	3.0	2.8	1.3	(11.0)	95	沈線及び撚糸文。	DP2 覆土



第349図 第427号住居跡出土遺物実測図

第428号住居跡（第348・350図）

位置 調査区の南東部，D14f0区。

重複関係 第427号住居跡に掘り込まれ，東側部分を第2427号土坑，第2488号土坑，第2489号土坑に掘り込まれている。

壁 東側に一部残存しており，壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

床 東壁付近に硬化面がみられる。

覆土 壁側の1層のみの確認で，ローム粒子を多量に含む。堆積状況は不明である。

土層解説

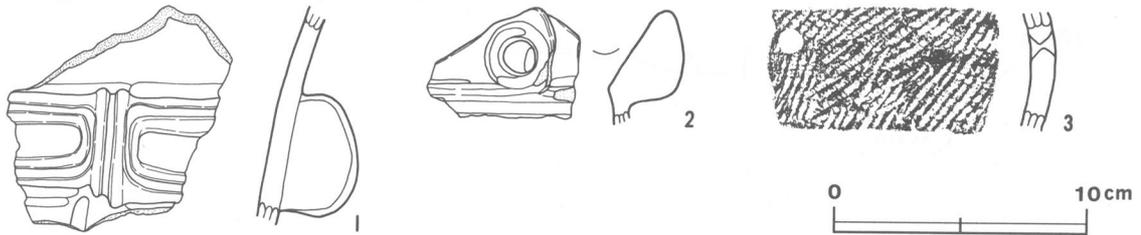
1 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

遺物 縄文土器片1250点，土器片円盤1点，獣骨片が出土している。第350図1の深鉢の頸部片及び2の把手を有する口縁部片は覆土から出土している。3は深鉢の胴部片で，地文はRLの単節縄文で，補修孔がみられる。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。

第428号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第350図 1	深鉢 縄文土器	B (9.0)	突起をもつ頸部片。突起につながる隆帯により口縁部文様帯が作られている。突起及び隆帯には沈線が施されている。	砂粒・バミス にぶい橙色 普通	P5 5% 覆土 加曾利E I式
2	深鉢把手 縄文土器	B (4.6)	三角形の把手を有する口縁部片。片面に円形の穴が開けられ，穴に沿って沈線が施されている。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P6 5% 覆土 加曾利E I式



第350図 第428号住居跡出土遺物実測図

第429号住居跡（第351図）

位置 調査区の南東部，D14g0区。

重複関係 北壁際部分を第2428号土坑，第2471号土坑，第2567号土坑に，中央西側部分を第2415号土坑，第2435号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸[5.35]m，短軸4.42mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-17°-E

壁 西壁と東壁が残存しており，壁高は6~10cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。

ピット 11か所。P₁~P₅は長径53~70cm，短径44~52cmの楕円形で，深さは53~104cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P₆~P₈は長径28~40cm，短径23~35cmの楕円形で，深さは15~60cmである。位置と規模から補助柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

覆土 3層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。



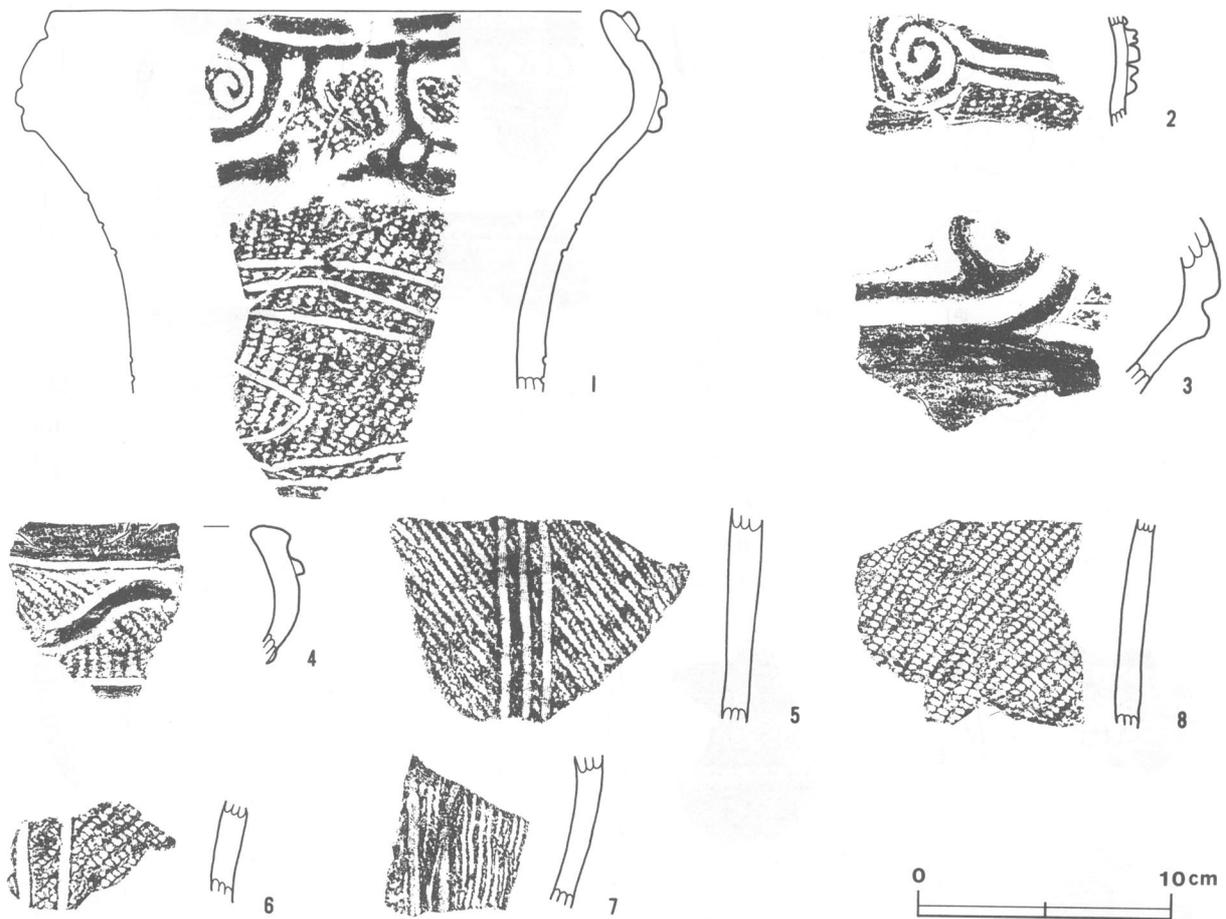
第351図 第429号住居跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量, ローム大ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子微量, ローム大ブロック少量

遺物 縄文土器片716点, 獣骨片が出土している。第352図1は深鉢の口縁部から胴部の破片で, 覆土から出土している。2~4は深鉢の口縁部片で, 2, 3は隆帯により区画文及び渦巻文が施されている。4はRLの単節縄文を地文に隆帯が波状に貼り付けられている。5~8は深鉢の胴部片で, 5, 6は単節縄文を地文に沈線を垂下させている。7は条線文を地文に幅広の沈線を垂下させている。8の縄文はRLの単節縄文である。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第352図 第429号住居跡出土遺物実測図

第429号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第352図 1	深鉢 縄文土器	A [21.0] B (10.2)	口縁部から胴部の破片。キャリパー形の器形で、RLの単節縄文を地文に、隆帯と沈線による渦巻文と区画文が施された口縁部文様帯をもつ。胴部には横位あるいは斜位に浅い沈線が施されている。	砂粒・石英・雲母 赤色粒子 にぶい橙色 良好	P168 10% PL51 覆土 加曾利E I式

第430号住居跡 (第353図)

位置 調査区の南東部, D15g1区。

重複関係 第432号住居跡及び第2474号土坑, 第2481号土坑, 第2504号土坑, 第2505号土坑の覆土に二つの炉及びピットが確認されたことから, 重複する遺構より新しい。

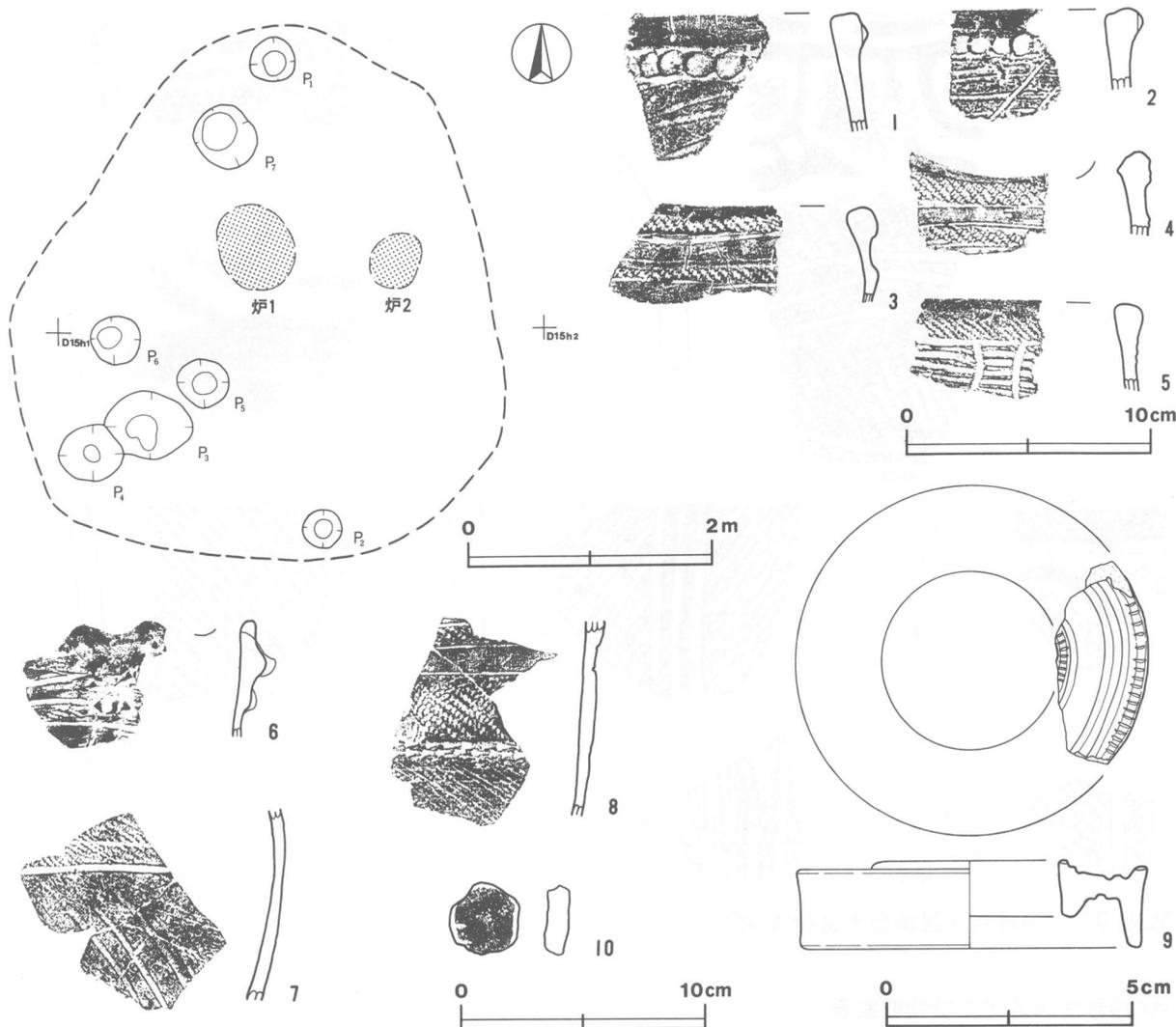
規模と平面形 長径 [4.30]m, 短径 [4.05]mの楕円形と推定される。

主軸方向 N-26°-W

床 ほぼ平坦で, 硬化面は確認できない。

ピット 7か所。P₁~P₅は径33~73cmの円形で, 深さは40~73cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P₆, P₇は径43~50cmの円形で, 深さは44~46cmである。位置と規模から補助柱穴と考えられる。

炉 2か所確認されている。炉1は中央より北側に付設されている。長径72cm, 短径60cmの楕円形である。炉床は赤変している。炉2は中央より東側に付設されている。長径48cm, 短径41cmの楕円形で, 炉床は, 炉1と同じく赤変している。



第353図 第430号住居跡・出土遺物実測図

遺物 縄文土器片109点，土製耳飾り1点，土器片円盤1点が出土している。第353図9の土製耳飾り，10の土器片円盤は覆土から出土している。1～6は深鉢の口縁部片である。1，2は棒状工具による押圧が付された紐線文が施されている。胴部には斜行する条線文が施されている。3～5はRLの単節縄文が充填された隆起手法による帯縄文が施され，6はコブ状突起のつく隆起手法による帯縄文が施されている。7，8は深鉢の胴部片で，7は沈線手法の帯縄文をもち，以下に斜行する条線文が施されている。8はRLの単節縄文が充填された隆起手法による薄い帯縄文が施され，胴部の帯縄文と条線文を押し引き刺突文で区画している。

所見 本跡は，第432号住居跡の上面で確認されたため，土層及び壁の立ち上がりは確認できなかったが，炉及びピットから住居跡の規模を推定したものである。出土土器は加曾利E式期と安行1・2式期のものが多くみられるが，重複する遺構の新旧関係と出土遺物から判断すると，時期は縄文時代後期後葉(安行2式期)と考えられる。

第430号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第353図 9	土製耳飾り	(4.2)	—	1.8	(9.0)	95	H字状の断面形を呈し，キザミを有する。	DP 3 覆土
10	土器片円盤	3.0	2.9	0.9	(8.3)	95	無文。	DP 4 覆土

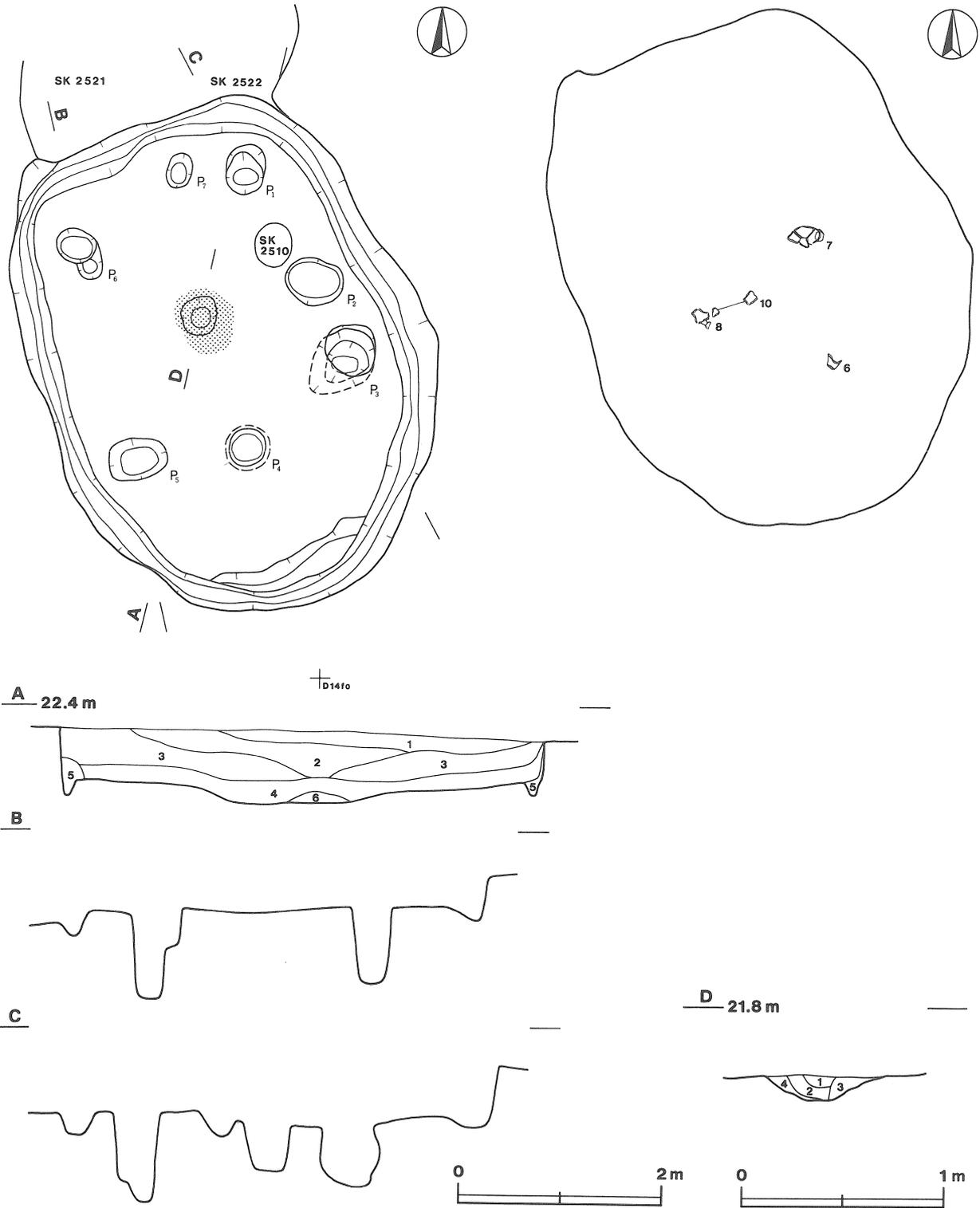
第431号住居跡（第354図）

位置 調査区の南東部，D14e9区。

重複関係 北側部分を第2521号土坑，第2522号土坑に掘り込まれている。第2524号土抗覆土上面を貼床にしている。

規模と平面形 長径5.09m，短径3.72mの楕円形である。

主軸方向 N-23°-W



第354図 第431号住居跡実測図

壁 壁高は34～55cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝が全周している。

床 ほぼ平坦である。

ピット 7か所。P₁、P₃～P₆は長径38～56cm、短径36～48cmの楕円形で、深さは55～93cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P₂、P₇の性格は不明である。

炉 中央に付設されている。長径69cm、短径58cmの楕円形で、床面を11cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|-------|------------|--------|-----------|
| 1 黄橙色 | ローム大ブロック多量 | 3 明赤褐色 | 焼土小ブロック少量 |
| 2 橙色 | 焼土中ブロック中量 | 4 橙色 | 焼土粒子微量 |

覆土 6層に分層される。自然堆積と考えられる。

土層解説

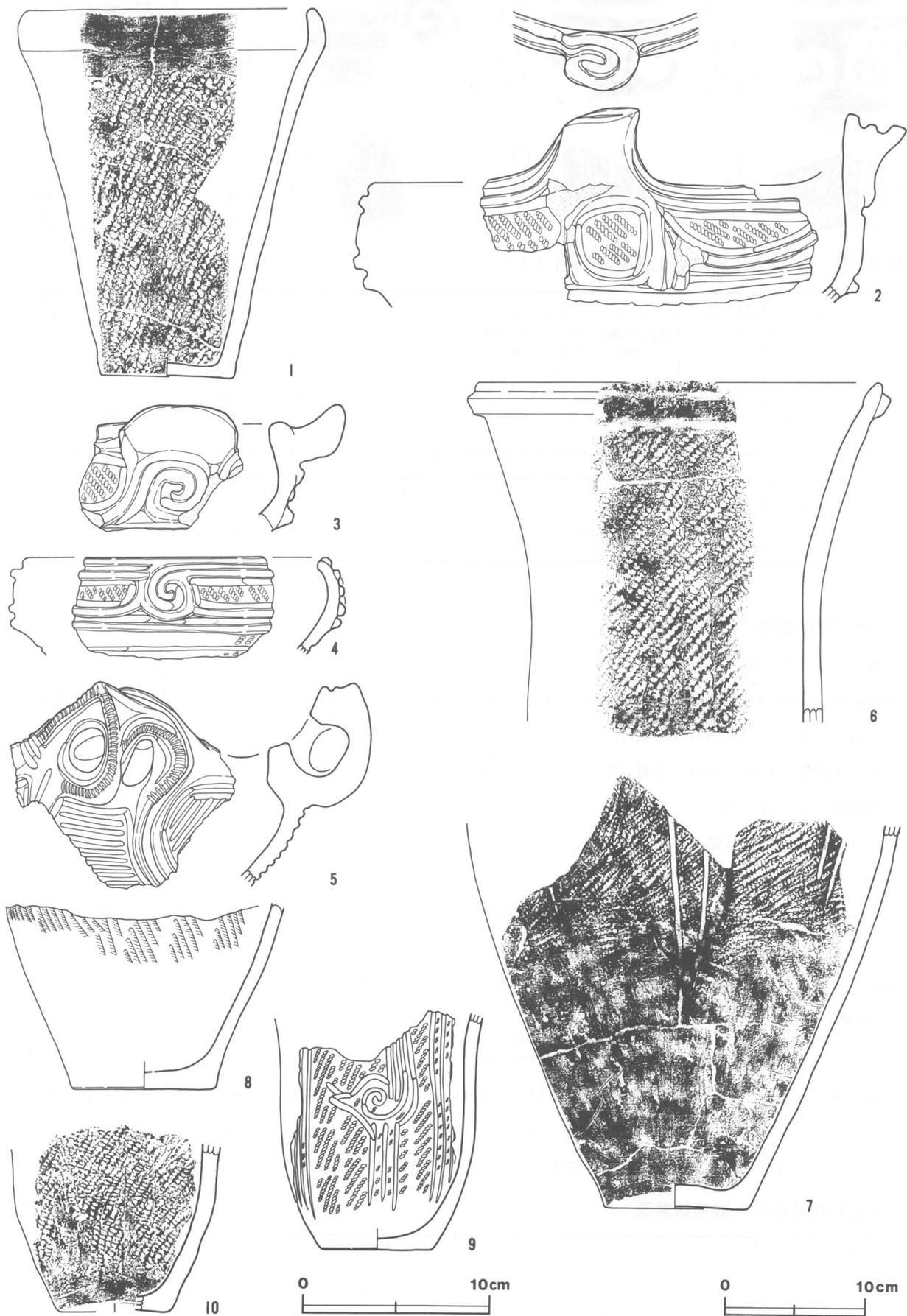
- | | | | |
|-------|--------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量、炭化物少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子微量、ローム小ブロック少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |

遺物 縄文土器片523点及び土器片錘1点が出土している。第355図1の深鉢、2～4の深鉢の口縁部片、5の把手、6の深鉢の胴部から口縁部片、7～10の深鉢の底部から胴部の破片、17の土器片錘は覆土から出土している。11～13は深鉢の口縁部の破片で、隆帯で渦巻文を施し、区画内にはR Lの単節縄文あるいは円形刺突文が施されている。14～16は深鉢の胴部片で、14は複節縄文を地文に沈線が施され、15はL Rの単節縄文を地文に、3本単位の沈線を垂下させている。16はR Lの単節縄文を地文に波状の沈線を垂下させている。

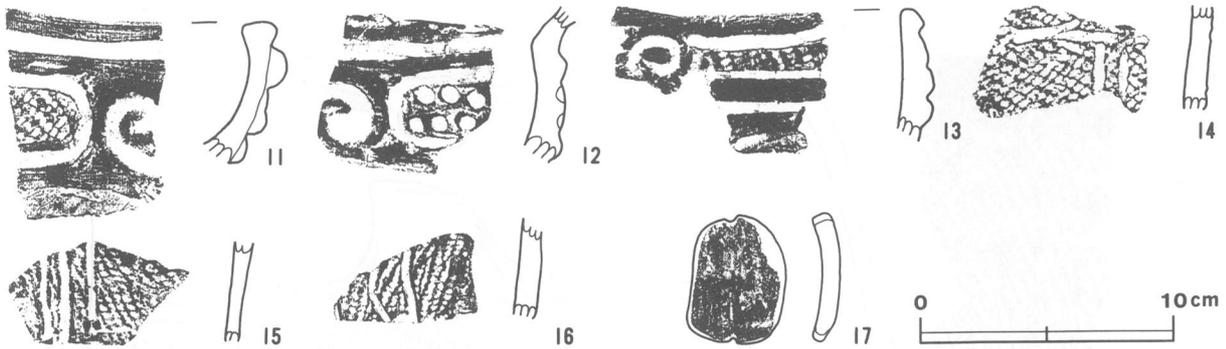
所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。

第431号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第355図 1	深鉢 縄文土器	A 15.4 B 20.2 C 7.0	胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は内彎する。地文はL Rの単節縄文で口縁部は無文である。	砂粒 にぶい褐色 普通	P 8 70% PL51 覆土 加曾利E I 式
2	深鉢 縄文土器	A [25.0] B (10.0)	口縁部片。口縁部は突起をもち、わずかに内彎する。口縁端部の沈線が突起につながり渦巻文を描いている。口縁部は、隆帯による半月状あるいは円形の区画内にR Lの単節縄文が施されている。	砂粒 橙色 普通	P 9 5% 覆土 加曾利E I 式
3	深鉢 縄文土器	B (6.8)	口縁部片。上方に突出する突起をもつ。口縁部には隆帯による渦巻文及び区画文が施され、区画内にR Lの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・スコリア 灰黄褐色 普通	P 10 5% 覆土 加曾利E I 式
4	深鉢 縄文土器	A [16.0] B (5.2)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には沈線と隆帯で区画文及び渦巻文が施され、区画内にR Lの単節縄文が施されている。頸部には横位の沈線が施されている。	砂粒 暗褐色 普通	P 11 5% PL51 覆土 加曾利E I 式
5	深鉢把手 縄文土器	B (10.9)	眼鏡状把手を有する口縁部片。孔に沿って、沈線及びギザミが施されている。口縁部は沈線を有する隆帯によって区画され、区画内には横位あるいは斜位に沈線が施されている。	砂粒・雲母・バミス にぶい褐色 普通	P 12 5% 覆土 加曾利E I 式
6	深鉢 縄文土器	A [21.6] B (18.4)	胴部から口縁部の破片。胴部は外反して立ち上がる。地文はR Lの単節縄文で口縁部に厚みのある隆帯が貼り付けられている。	砂粒・長石・スコリア にぶい赤褐色 普通	P 13 25% PL51 覆土 加曾利E I 式
7	深鉢 縄文土器	B (27.8) C 10.0	底部から胴部の破片。胴部中位にはL Rの単節縄文を地文に、2本単位の沈線を垂下させている。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 15 20% PL51 覆土 加曾利E I 式
8	深鉢 縄文土器	B (10.1) C 7.8	底部から胴部の破片。胴部はわずかに内彎して立ち上がる。無節縄文が施されている。	砂粒・石英 にぶい褐色 普通	P 16 20% PL51 覆土 加曾利E I 式



第355图 第431号住居跡出土遺物実測図(1)



第356図 第431号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第355図 9	深鉢 縄文土器	B (13.0) C 6.0	底部から胴部の破片。胴部は内彎して立ち上がる。RLの単節縄文を地文に、沈線による懸垂文及び蕨手文が施されている。	砂粒・スコリアに ぶい赤褐色 普通	P17 30% PL51 覆土 加曾利E I式
10	深鉢 縄文土器	B (10.1) C [6.3]	底部から胴部の破片。胴部はわずかに内彎して立ち上がる。地文はRLの単節縄文である。	砂粒 にぶい褐色 普通	P18 10% PL51 覆土 加曾利E I式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の 特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第356図17	土器片錘	5.1	3.7	0.7	(24.0)	95	無文。	DP5 覆土

第432号住居跡 (第357図)

位置 調査区の南東部, D15g1区。

重複関係 西壁際部分を第2474号土坑に, 東側部分を第2449号土坑, 第2479号土坑, 第2487号土坑に, 南側部分を第2481号土坑, 第2504号土坑に, 中央部分を第2505号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.19m, 短軸(3.55)mで, 隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-34°-W

壁 壁高は25cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。

ピット 2か所。P₁は長径64cm, 短径50cmの楕円形で, 深さは51cmである。P₂は長径32cm, 短径23cmの楕円形で, 深さは34cmである。性格は不明である。

覆土 2層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

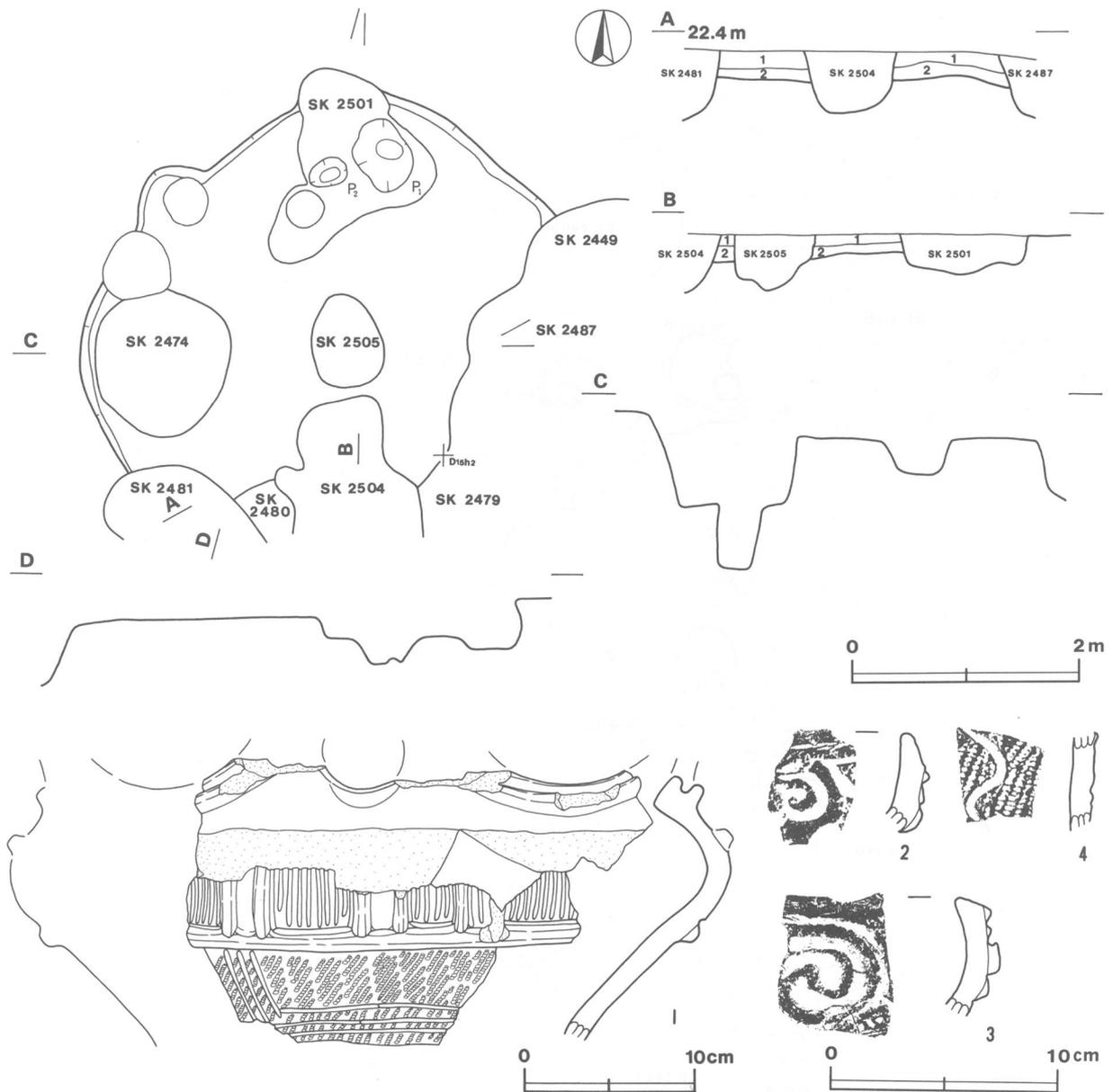
- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量, 焼土粒子微量

遺物 縄文土器片259点, 獣骨片が出土している。第357図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。2, 3は深鉢の口縁部片で, 隆帯で渦巻文が施されている。4は深鉢の胴部片である。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。

第432号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第357図 1	深鉢 縄文土器	A [36.0] B (16.9)	胴部から口縁部の破片。波状口縁で口縁部は内彎する。口縁端部に厚い隆帯が貼り付けられ, 隆帯に沈線が施されている。口縁部は隆帯により区画され, 区画内に縦位の沈線が施されている。胴部にはRLの単節縄文を地文に, 浅い沈線でクランク文が施されている。	砂粒・石英・雲母 灰褐色 普通	P19 10% PL52 覆土 加曾利E I式



第357図 第432号住居跡・出土遺物実測図

第433号住居跡 (第358～360図)

位置 調査区の南東部, D14a0区。

重複関係 東側部分を第2494号土坑, 第2511号土坑に掘り込まれ, 南側部分を第2503号土坑に掘り込まれている。さらに, 北側部分で第435号住居跡, 第436号住居跡と重複しており, 本跡が新しい。

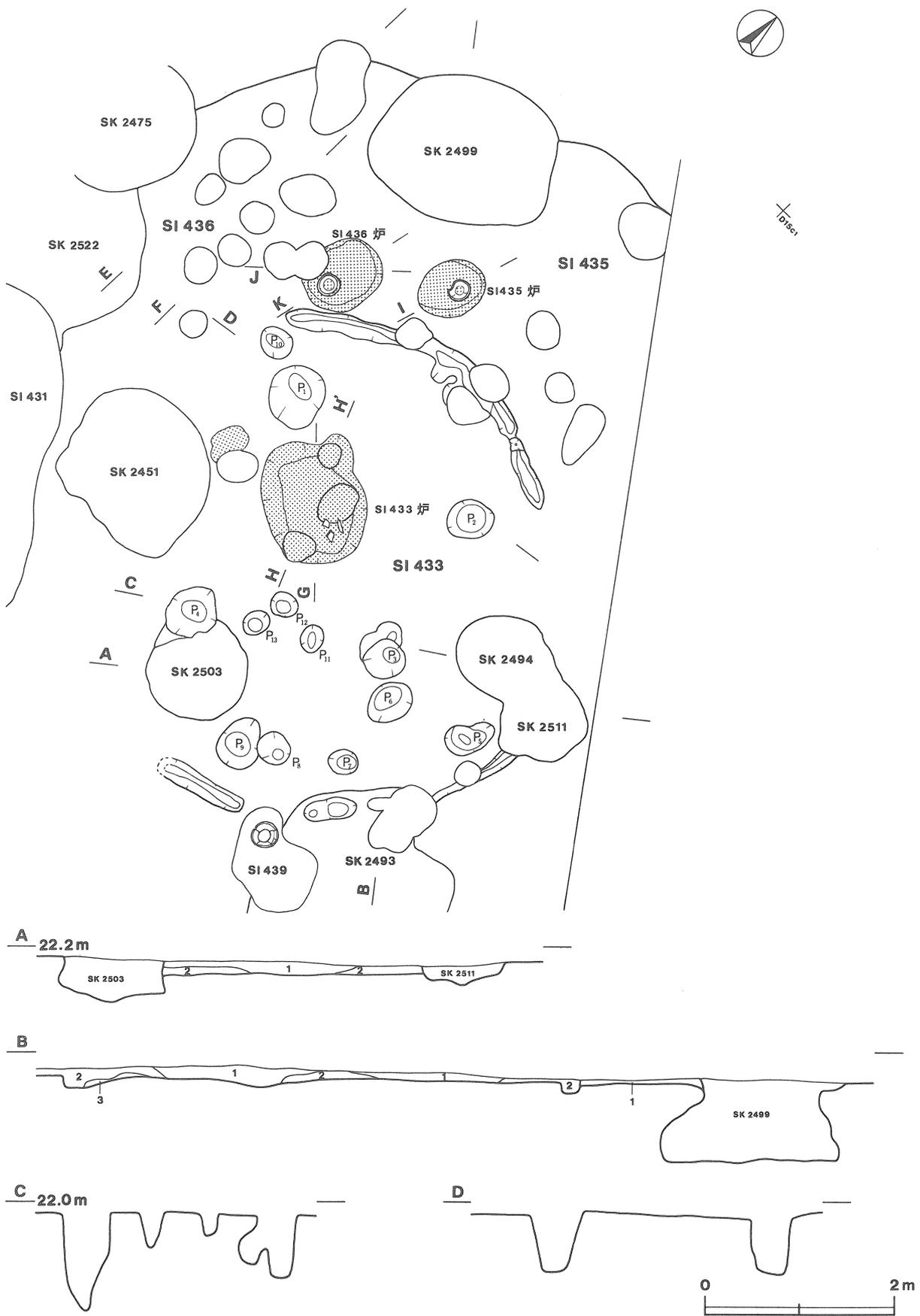
規模と平面形 長径 [5.10]mで, 楕円形と推定される。

主軸方向 N-60°-W

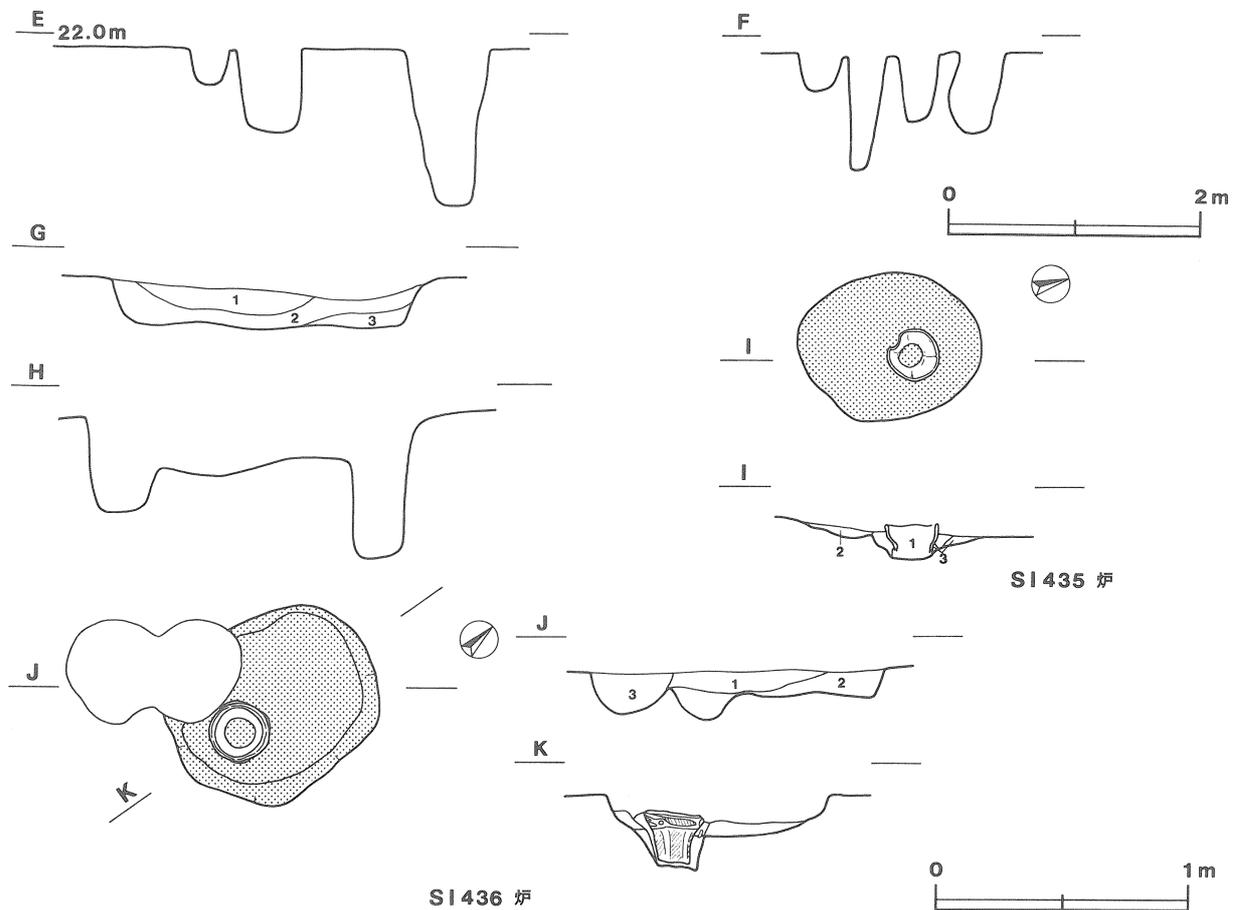
床 ほほ平坦で, 全面に硬化面がみられる。壁溝が北側部分と南側部分に残存している。

ピット 13か所。P₁～P₄は径30～40cmの円形で, 深さは40～70cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

炉 中央より北西側に付設されている。長径133cm, 短径105cmの楕円形で, 床面を15cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。



第358图 第433・435・436号住居跡実测图(1)



第359図 第433・435・436号住居跡実測図（2）

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・焼土ブロック多量

覆土 3層に分層される。下層部のみの確認であるが、その堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

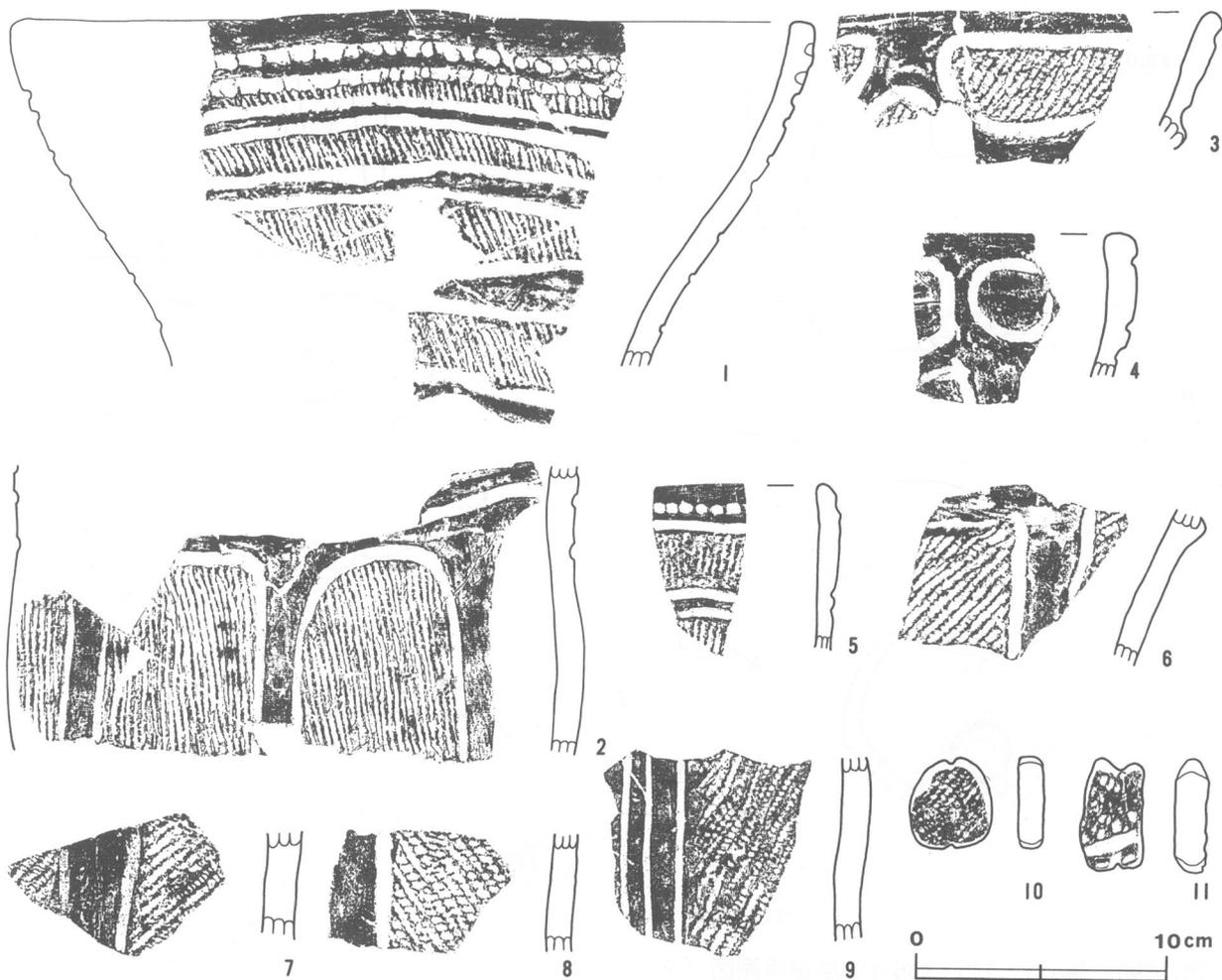
- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量

遺物 縄文土器片326点が出土している。第360図1の深鉢の胴部から口縁部片、2の深鉢の胴部片及び10、11の土器片は覆土から出土している。3～5は深鉢の口縁部片である。3は沈線区画内にR Lの単節縄文が施され、4は隆帯により区画され、区画内は無文である。5は燃糸文を地文に円形刺突文及び沈線が横位に施されている。6～9は深鉢の胴部片である。6、7はR Lの単節縄文を地文に2本沈線の幅広の磨消懸垂文が施されている。8はL Rの単節縄文を地文に太い沈線の磨消懸垂文が施されている。9はR Lの単節縄文を地文に3本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第433号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第360図 1	深鉢 縄文土器	A [30.4] B (13.9)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾し、口縁部はわずかに内彎する。口縁部には2本の沈線が施され、沈線内に円形刺突文が施されている。胴部は燃糸文を地文に、横位に施された沈線間を磨り消している。	砂粒 にぶい橙色 普通	P20 10% PL52 覆土 加曾利EⅡ～Ⅲ式



第360図 第433号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第360図 2	深鉢 縄文土器	B (11.5)	胴部片。胴部はわずかに内彎する。燃糸文を地文に沈線によりT字状文が施され、沈線間を磨り消している。	砂粒・スコリア 黒褐色 普通	P21 15% PL52 覆土 加曾利EⅡ～Ⅲ式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第360図10	土器片錘	3.6	3.3	1.0	(19.0)	95	燃糸文。	DP6 覆土
11	土器片錘	4.6	2.5	1.3	(19.0)	95	沈線及び単節縄文RL。	DP7 覆土

第435号住居跡 (第358・359・361図)

位置 調査区の南東部, D14c0区。

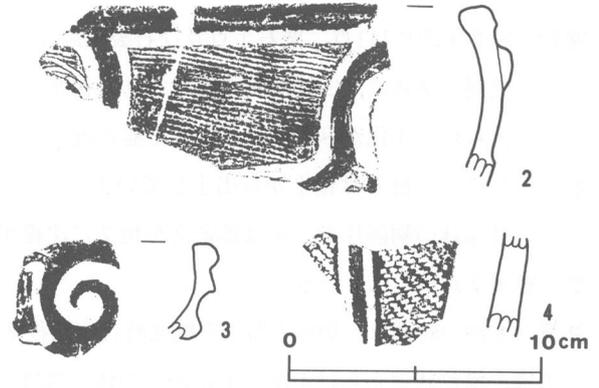
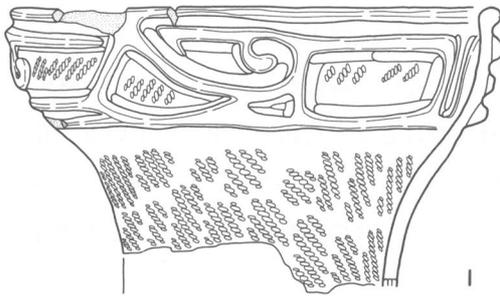
重複関係 北西部分を第2499号土坑に掘り込まれ, 第433号住居跡, 第436号住居跡と重複している。第436号住居跡との新旧関係は不明であるが, 第433号住居跡より古い。

規模と平面形 炉及び床面だけの確認のため, 不明である。

主軸方向 [N-20°-E]

床 ほぼ平坦で, 炉の周囲に硬化面がみられる。

炉 長径72cm, 短径60cmの楕円形で, 床面を11cmほど掘りくぼめ, 深鉢を埋設した土器埋設炉である。炉床は赤変硬化している。



第361図 第435号住居跡出土遺物実測図

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量

覆土 1層。下層部のみの確認であるため、その堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量

遺物 縄文土器片75点が出土している。第361図1の胴部下半を欠失した加曾利E I式期の深鉢は、炉に埋設されて出土した。2, 3は深鉢の口縁部片である。2は隆帯による区画内に撚糸文が施されて、3は隆帯で渦巻文が施されている。4は深鉢の胴部片で、複節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は、炉体土器から縄文時代中期後葉(加曾利E I式期)である。第436号住居跡との新旧関係は不明であるが、炉体土器の文様構成をみると、本跡の炉体土器は第436号住居跡のものより古いと考えられる。

第435号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第361図 1	深鉢 縄文土器	A 18.6 B (11.3)	胴部から口縁部の破片。キャリバー形の器形で、隆帯と沈線による区画文及び渦巻文が施された口縁部文様帯をもつ。口縁部及び胴部の地文はRLの単節縄文である。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P22 50% PL52 炉埋設土器 加曾利E I式

第436号住居跡 (第358・362図)

位置 調査区の南東部, D14c0区。

重複関係 北側部分を第2499号土坑に掘り込まれ、第433号住居跡、第435号住居跡と重複している。第435号住居跡との新旧関係は不明であるが、第433号住居跡より古い。

規模と平面形 炉及び床面だけの確認のため、不明である。

主軸方向 [N-0°]

床 ほぼ平坦で、炉の周囲に硬化面がみられる。

炉 長径86cm, 短径68cmの楕円形で、床面を20cmほど掘りくぼめ、深鉢を埋設した土器埋設炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化物少量, 焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量, 焼土粒子少量

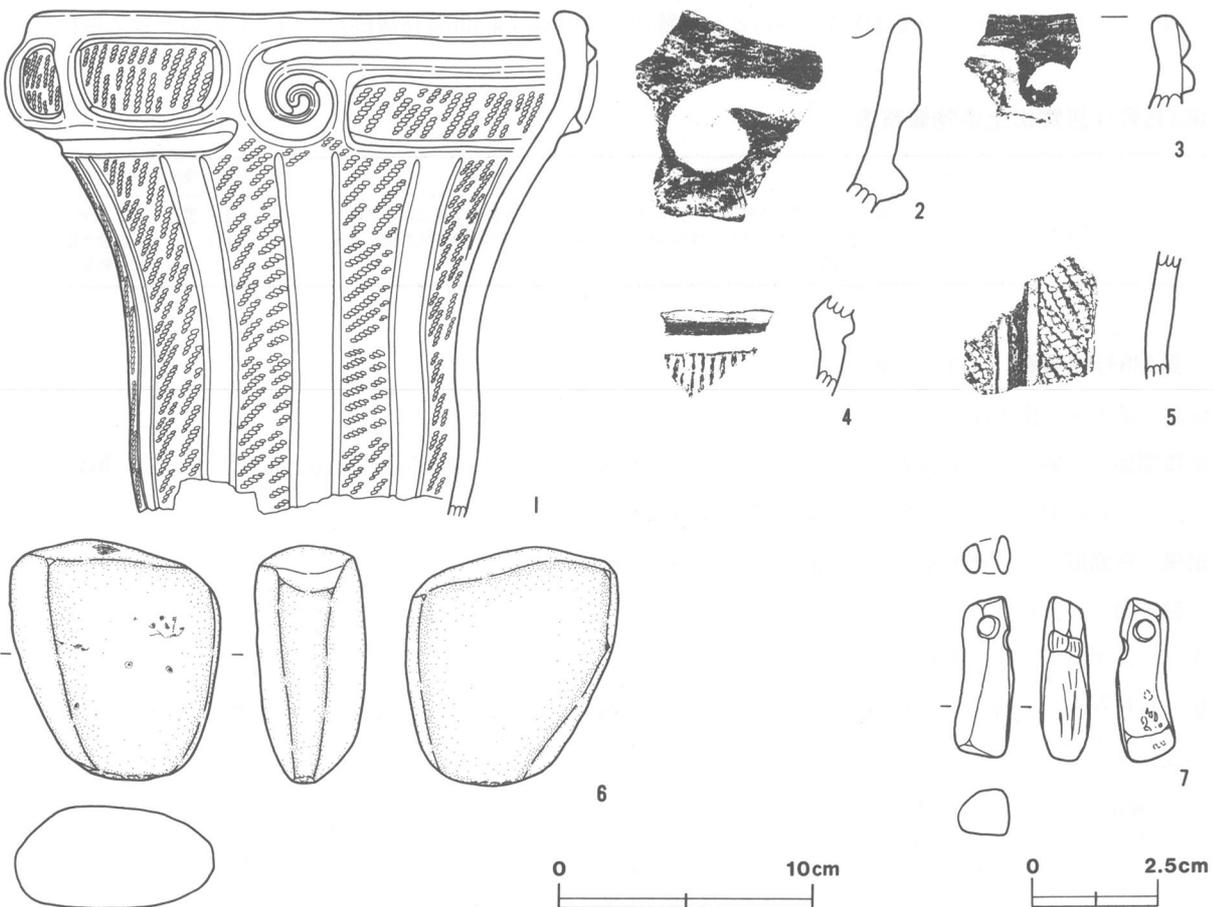
遺物 縄文土器片111点、敲石1点及び石製垂飾り1点が出土している。第362図1の胴部下半を欠失した加曾利EⅡ式期の深鉢は、口縁部まで埋設された状態で炉内から出土している。口縁部から胴部にかけて火熱によると考えられる赤化がみられる。炉体土器と掘り方の間から、石棒片がはさまった状態で出土している。6の敲石及び7の垂飾りは覆土から出土している。2、3は深鉢の口縁部片で、隆帯により渦巻文を施している。4、5は深鉢の胴部片で、4は撚糸文を地文に沈線が施されている。5はLRの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は、炉体土器から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）である。第435号住居跡との新旧関係は遺構の構築状況からは不明であるが、炉体土器はいずれも加曾利EⅡ式期に属し、口縁部の区画及び文様構成をみると、本跡の炉体土器は加曾利EⅡ式期の新しい段階のものと考えられる。

第436号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第362図 1	深鉢 縄文土器	A 20.9 B (20.1)	胴部から口縁部。キャリパー形の器形で、隆帯による区画文、渦巻文及び楕円形文が施された口縁部文様帯をもつ。区画内にはRLの単節縄文が施されている。胴部にはRLの単節縄文を地文に、2本沈線の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・雲母 橙色 普通	P23 70% PL52 炉埋設土器 加曾利EⅡ式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第362図6	敲石	9.6	8.4	4.4	(495.0)	安山岩	Q2 覆土
7	石製垂飾り	3.3	1.1	0.9	(5.35)	ヒスイ	Q3 覆土



第362図 第436号住居跡出土遺物実測図

第437号住居跡（第363図）

位置 調査区の南東部，D14c9区。

重複関係 東側部分を第438号住居跡に掘り込まれ，北壁部分を第2508号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 楕円形と推定される。

主軸方向 [N-77°-W]

壁 壁高は16cmで，外傾して立ち上がる。

床 壁から中央に向かってわずかに傾斜している。

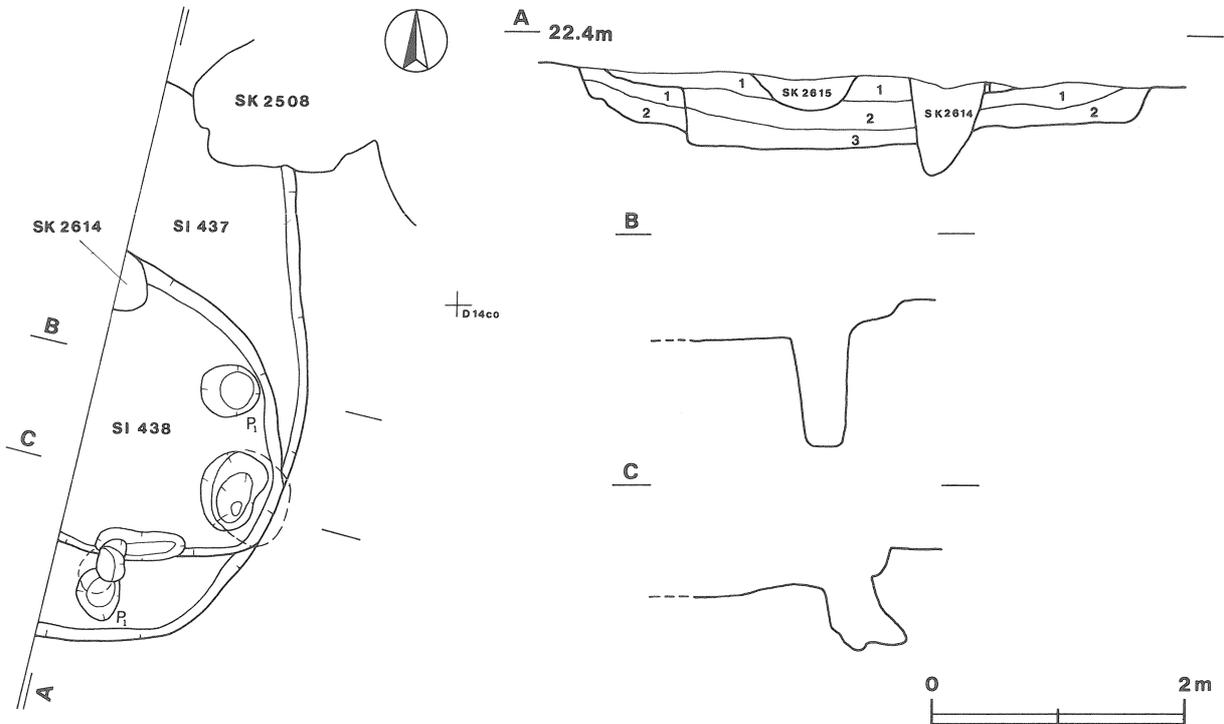
ピット 1か所。P₁は径40cmの円形で，位置から支柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物微量

所見 本跡の時期は，縄文時代中期前葉(阿玉台式期)の遺構に掘り込まれていること及び遺構の形態から縄文時代中期と考えられる。



第363図 第437・438号住居跡実測図

第438号住居跡（第363図）

位置 調査区の南東部，D14c9区。

重複関係 第437号住居跡の東側部分を床下まで掘り込み，覆土上層を第2615号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 楕円形と推定される。

主軸方向 [N-12°-E]

壁 壁高は22cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 1か所。P₁は径45cmの円形で，深さは92cmである。性格は不明である。

覆土 3層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

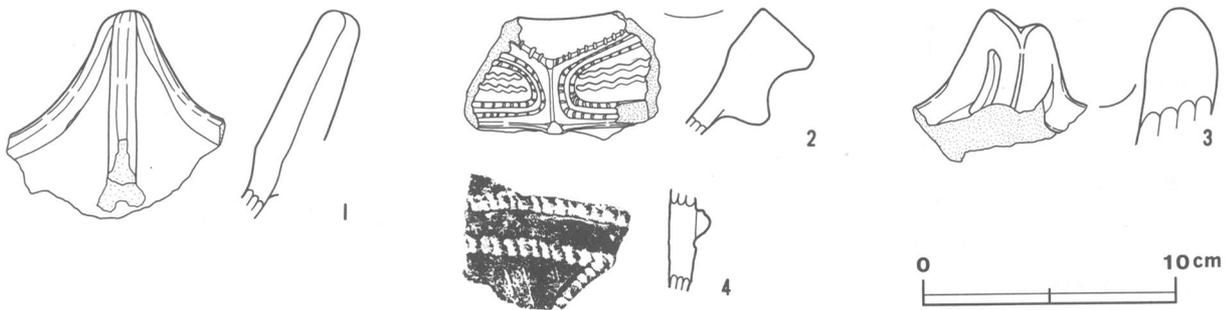
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化物微量

遺物 縄文土器片34点が出土している。第364図1は波状口縁を呈する口縁部片の突起、2・3は深鉢の口縁部片で、覆土から出土している。4は隆帯に沿って連続刺突文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期）と考えられる。

第438号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第364図 1	深鉢突起 縄文土器	B (8.2)	波状口縁の端部に付けられた三角形の突起。口縁部はわずかに内彎する。口縁端部から突起頂部に断面三角形の隆帯が続き、頂部から断面三角形の隆帯が垂下している。	砂粒・雲母 明赤褐色 普通	P24 5% 覆土 阿玉台Ⅱ式
2	深鉢 縄文土器	B (5.2)	口縁部片。口縁部を区画した断面三角形の厚い隆帯上にキザミが施されている。区画する隆帯に沿って半截竹管による結節沈線文が施され、区画内には山形沈線文が施されている。	砂粒・石英・雲母 スコリア 灰黄褐色 普通	P25 5% 覆土 阿玉台Ⅲ式
3	深鉢把手 縄文土器	B (9.0)	口縁端部から続く幅広の隆帯が三角形の突起の頂部で交わり、把手の片面に沈線が施されている。	砂粒 灰黄褐色 普通	P26 5% 覆土 阿玉台Ⅲ式



第364図 第438号住居跡出土遺物実測図

第439号住居跡（第365図）

位置 調査区の南東部、D15e1区。

重複関係 第433号住居跡及び第2493号土坑の上面で土器埋設炉のみが確認された。

主軸方向 [N-58°-W]

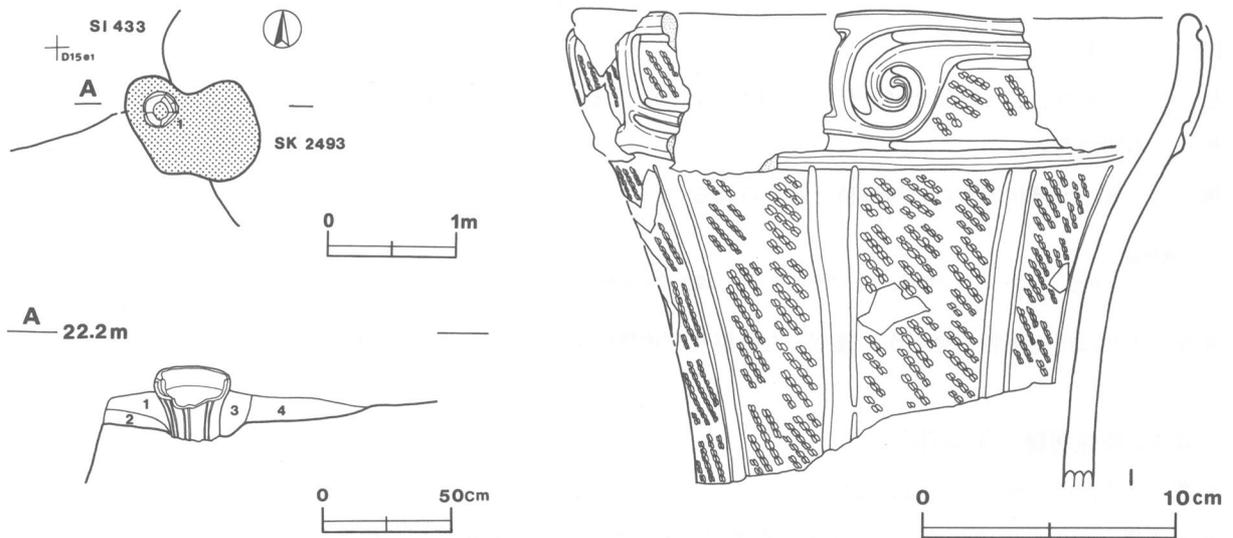
炉 長径114cm、短径87cmの楕円形で、深鉢を口縁部まで埋設した土器埋設炉である。炉床は赤変している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量
- 4 暗褐色 焼土粒子少量

遺物 縄文土器片46点が出土している。第365図1の深鉢は炉埋設土器で、胴部下半を欠失している。胴部から口縁部にかけて火熱による赤化がみられる。

所見 本跡の時期は、炉体土器から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）である。



第365図 第439号住居跡・出土遺物実測図

第439号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第365図 1	深鉢 縄文土器	A 24.0 B (19.0)	口縁部の一部及び胴下半部欠損。キャリバー形の器形で、隆帯と沈線による渦巻文及び区画文が施された口縁部文様帯をもつ。区画内には複節縄文が施されている。口縁部と胴部は隆帯で区画され、胴部には複節縄文を地文に、2本沈線の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P27 50% PL52 炉埋設土器 加曾利EⅡ式

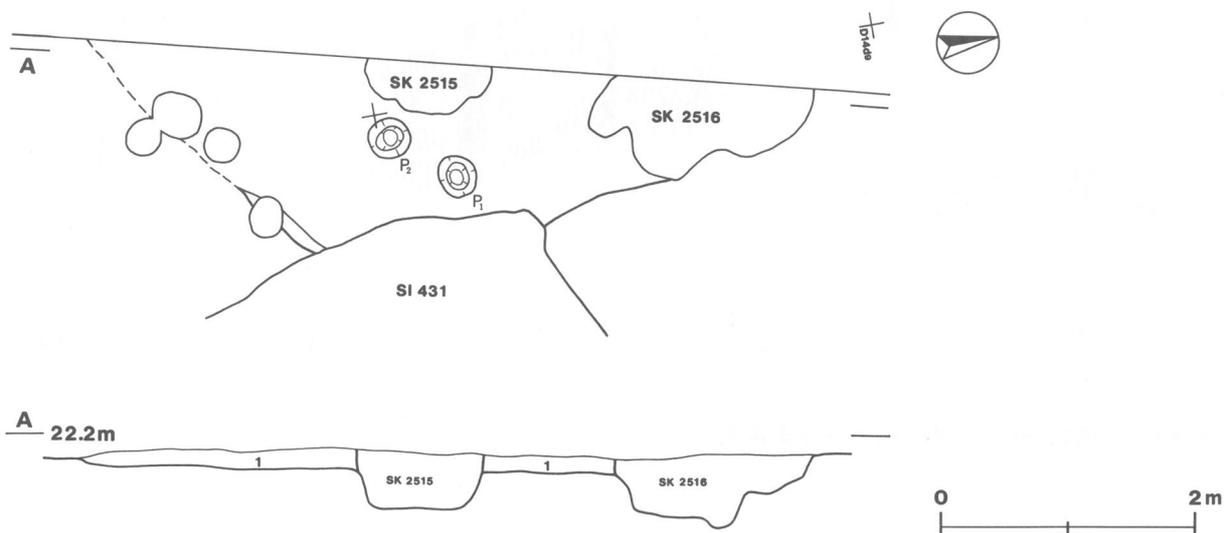
第440号住居跡 (第366図)

位置 調査区の南東部, D14d9区。

重複関係 東側部分を第431号住居跡に掘り込まれ, 北側部分を第2516号土坑に, 中央部分を第2515号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 楕円形と推定される。

壁 壁高は5cmで, 外傾して立ち上がる。



第366図 第440号住居跡実測図

床 平坦である。

ピット 2か所。P₁は径34cmの円形で、深さは51cmである。P₂は径32cmの円形で、深さは42cmである。

性格は不明である。

覆土 1層。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 にぶい褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量

所見 本跡は出土遺物が無いが、確認した層位及び遺構の形態から縄文時代と考えられる。

第452号住居跡（第367図）

位置 調査区の南東部、D14g9区。

重複関係 炉のみの確認で、炉の西半分を第2420号土坑に、北側を第2517号土坑に、南側を第2401号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

主軸方向 [N-44°-W]

床 平坦で、炉の周囲は硬く踏み固められている。

炉 長径68cm、短径57cmの楕円形と推定され、深鉢を埋設した土器埋設炉である。炉床は赤変している。

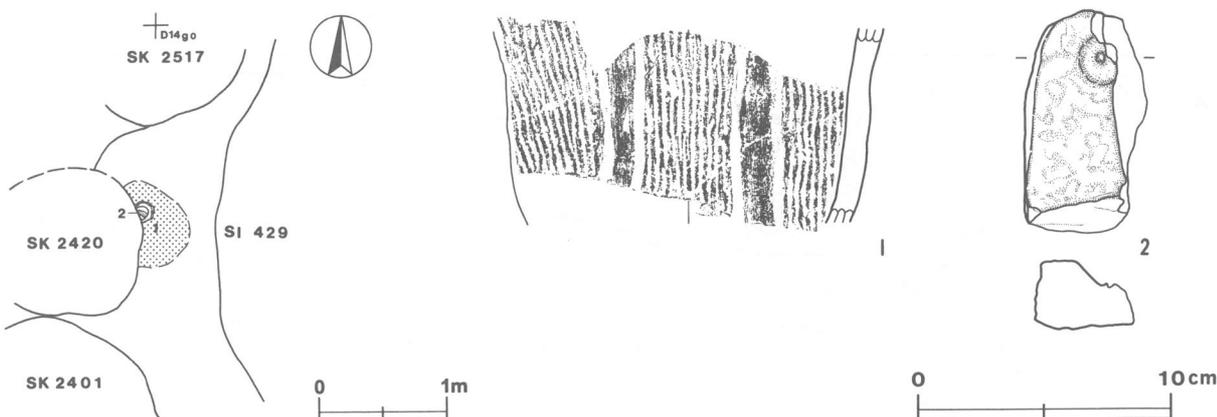
遺物 第367図1の深鉢は炉埋設土器で、胴部が埋設され、その中から2の凹石が出土している。

所見 本跡の時期は、炉埋設土器から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）である。

第452号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第367図 1	深鉢 縄文土器	B (7.7)	胴部片。胴部はわずかに外反する。燃糸文を地文に、2本沈線の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P28 15% PL52 炉埋設土器 加曾利EⅡ式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第367図2	凹石	(8.9)	(4.9)	2.8	(186.0)	雲母片岩	Q4 埋設土器内 覆土



第367図 第452号住居跡・出土遺物実測図

第478号住居跡（第368図）

位置 調査区の東部，D14c7区。

重複関係 西側部分を第2868号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径〔3.48〕m，短径〔3.16〕mの楕円形と推定される。

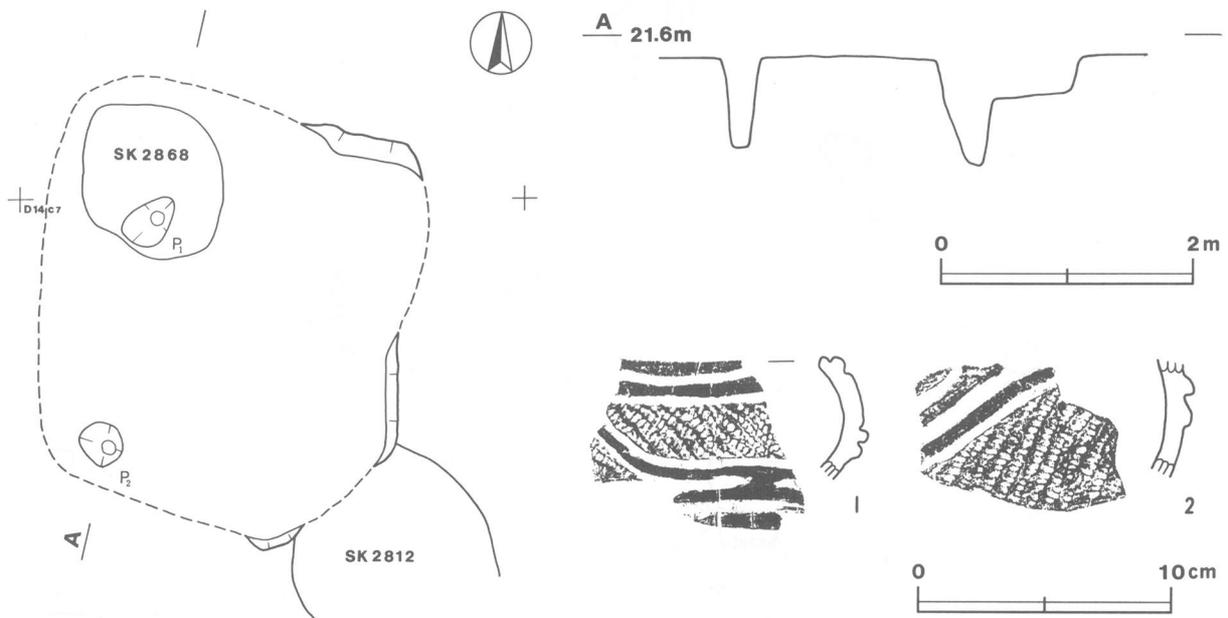
長径方向 〔N-16°-E〕

床 平坦である。

ピット 2か所。P₁は長径45cm，短径32cmの楕円形で，深さは74cmである。P₂は径35cmの楕円形で，深さは76cmである。位置と規模から支柱穴と考えられる。

遺物 縄文土器片134点が出土している。第368図1，2は深鉢の口縁部片である。1は隆帯による区画内にRLの単節縄文が施されている。2はRLの単節縄文を地文に隆帯が斜位に貼り付けられている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利E I式期）と考えられる。



第368図 第478号住居跡・出土遺物実測図

第499号住居跡（第369図）

位置 調査区の中央部，C13g0区。

重複関係 南壁際を第2923号土坑，第2924号土坑に，西側部分を第2929号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

主軸方向 〔N-2°-E〕

ピット 6か所。P₁～P₆は径32～42cmの円形で，深さは34～114cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。

炉 中央より北西寄りに付設されている。長径62cm，短径58cmの楕円形で，床面を31cmほど掘りくぼめ，炉内の西側に深鉢の胴部が埋設された土器埋設炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

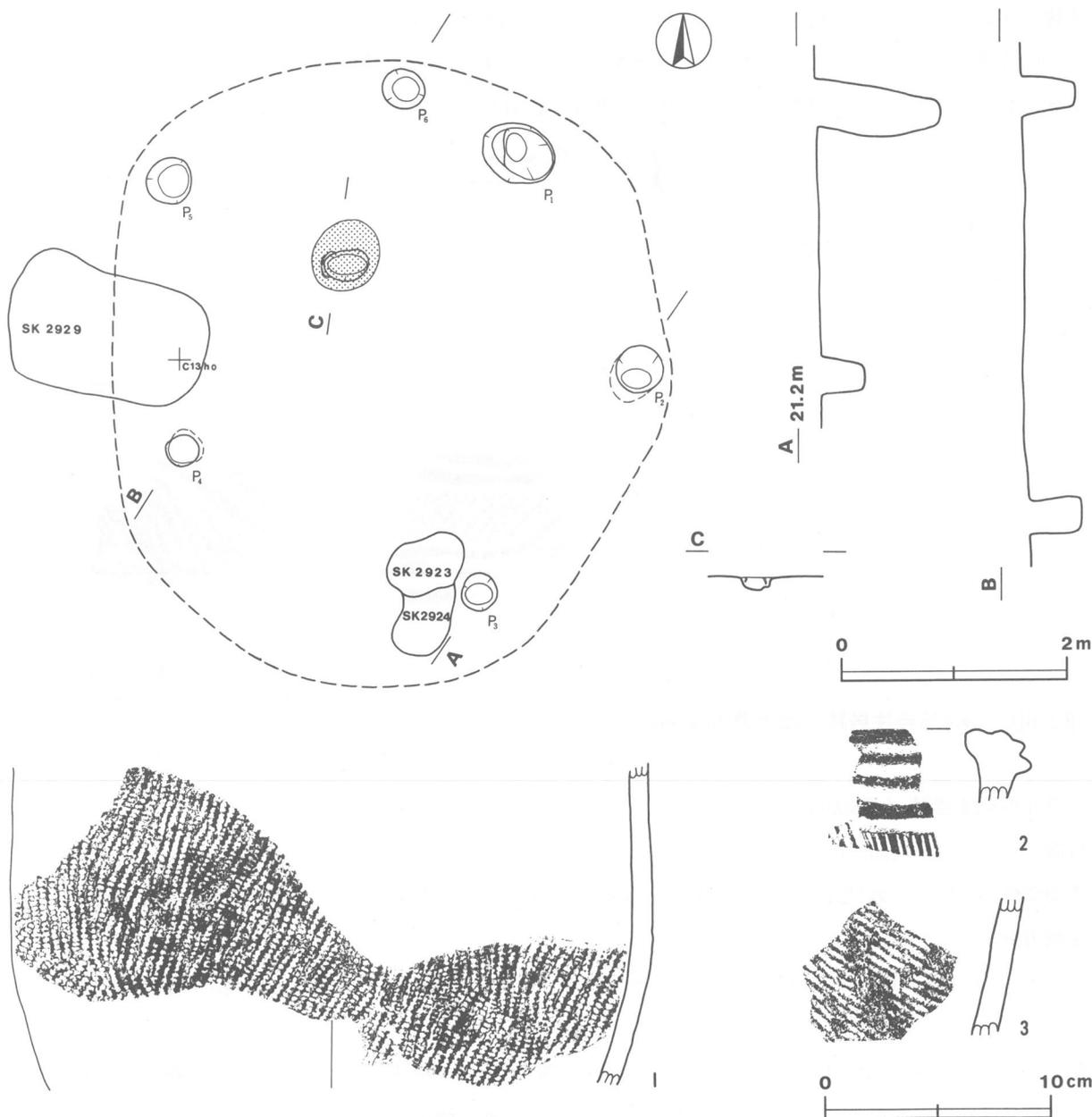
1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子多量

遺物 縄文土器片10点が出土している。第369図1の深鉢の胴部片は覆土中から出土している。2は深鉢の口縁部片で，区画内に斜位の沈線が施されている。3は深鉢の胴部片で，無節縄文が施されている。

所見 本跡の時期は、炉体土器から縄文時代中期後葉(加曾利E I 式期)である。本跡は、谷津に向かって緩やかに傾斜する斜面に確認され、覆土及び床の確認はできなかった。

第499号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第369図 1	深鉢 縄文土器	B (14.4)	胴部片。胴部はわずかに内彎する。地文はRLの単節縄文である。	砂粒・雲母・スコリア 褐灰色 普通	P29 5% PL52 覆土 加曾利E I 式



第369図 第499号住居跡・出土遺物実測図

第500号住居跡（第370図）

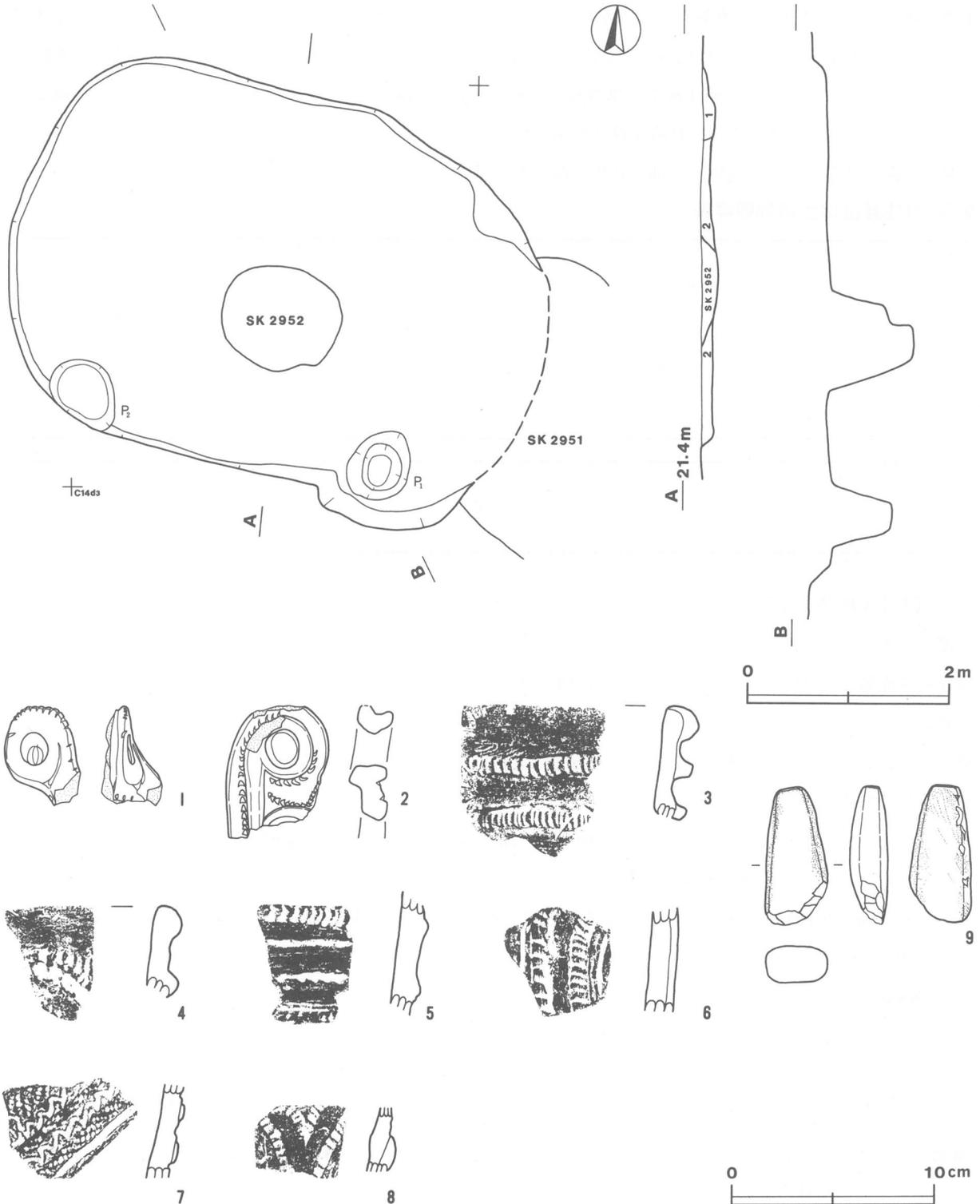
位置 調査区の中央部，C14c3区。

重複関係 中央部分を第2952号土坑に掘り込まれ，東側で第2951号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径5.47m，短径3.83mの楕円形である。

主軸方向 [N-71°-W]

壁 壁高は12~22cmで，外傾して立ち上がる。



第370図 第500号住居跡・出土遺物実測図

床 ほぼ平坦である。

ピット 2か所。P₁は径77cmの円形で、深さは60cmである。P₂は径65cmの円形で、深さは27cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。

覆土 2層に分層される。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 縄文土器片143点及び磨製石斧1点が出土している。第370図1，2の深鉢把手片及び9の磨製石斧は覆土から出土している。3～5は深鉢の口縁部片で、隆帯に沿って爪形文が施されている。6～8は深鉢の胴部片で、6は隆帯に沿って、結節沈線文が施されている。7は単節縄文を地文とし、隆帯に沿って山形沈線文が施されている。8は隆帯に沿って結節沈線文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第500号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第370図 1	深鉢 縄文土器	B (5.1)	粘土紐を渦巻状に貼り、中空部分を粘土で埋めている。端部にキザミが施されている。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P30 3% 覆土 阿玉台Ⅲ式
2	深鉢 縄文土器	B (5.8)	孔を取り巻いて隆帯がP字状に貼り付けられ、隆帯に沿ってペン先状工具により刺突文が施されている。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P31 5% 覆土 阿玉台Ⅲ式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第370図9	磨製石斧	(6.9)	3.2	1.9	(60.0)	安山岩	Q6 覆土

第501号住居跡（第371図）

位置 調査区の中央部，C13e7区。

規模と平面形 長径6.80m，短径4.45mの楕円形である。

主軸方向 [N-2°-E]

壁 壁高は8～10cmで、壁溝が全周し、北東部分と北西部分の壁溝は2条となる。

床 平坦である。

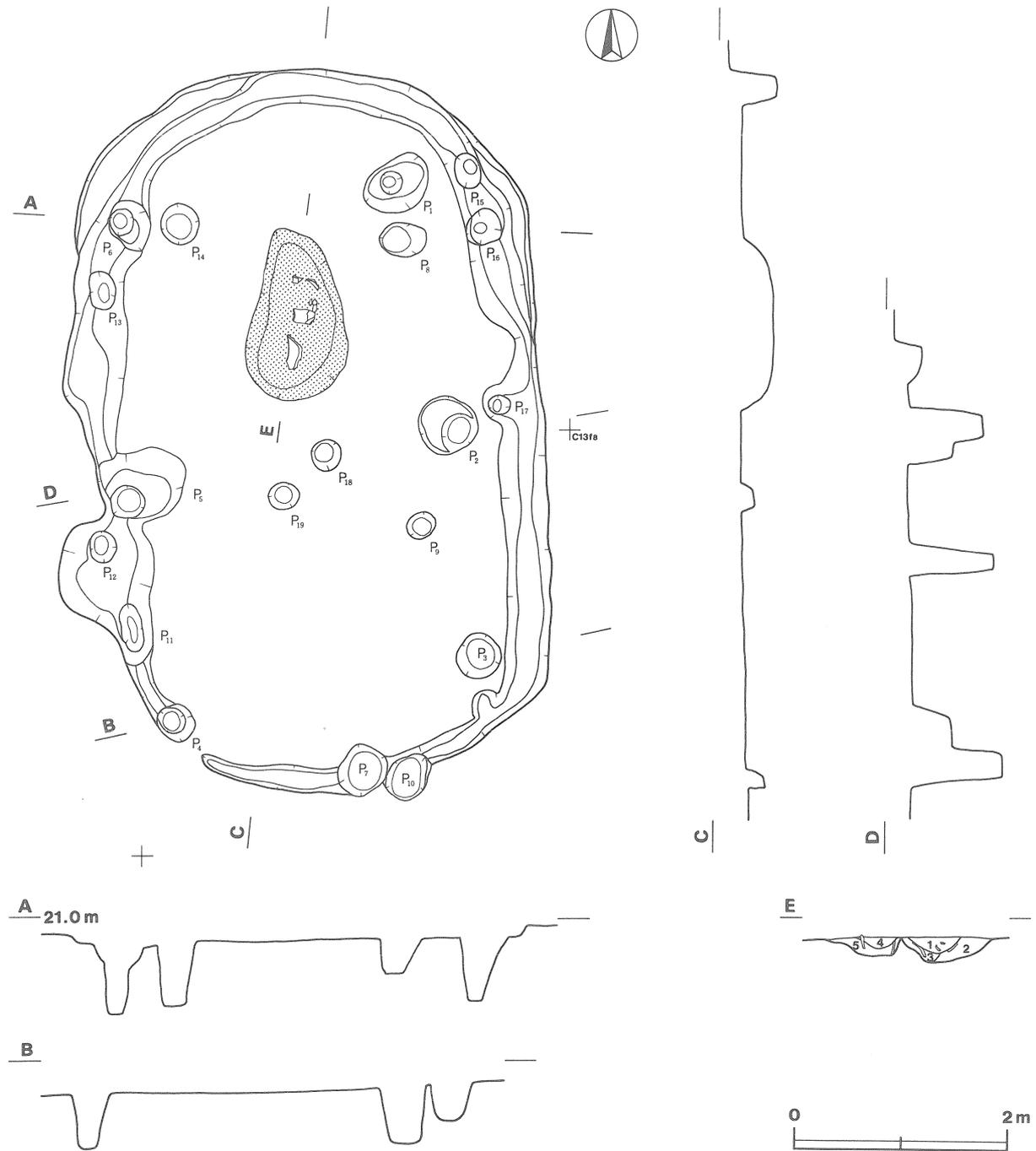
ピット 19か所。P₁～P₆は径37～77cmの円形で、深さは56～87cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。その他のピットの性格は不明である。

炉 長径80cm，短径44cmの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめ、深鉢を埋設した土器片囲い炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 縄文土器片121点が出土している。第372図1の深鉢の胴部から口縁部付近の破片は炉に埋設された状態で出土し、2の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

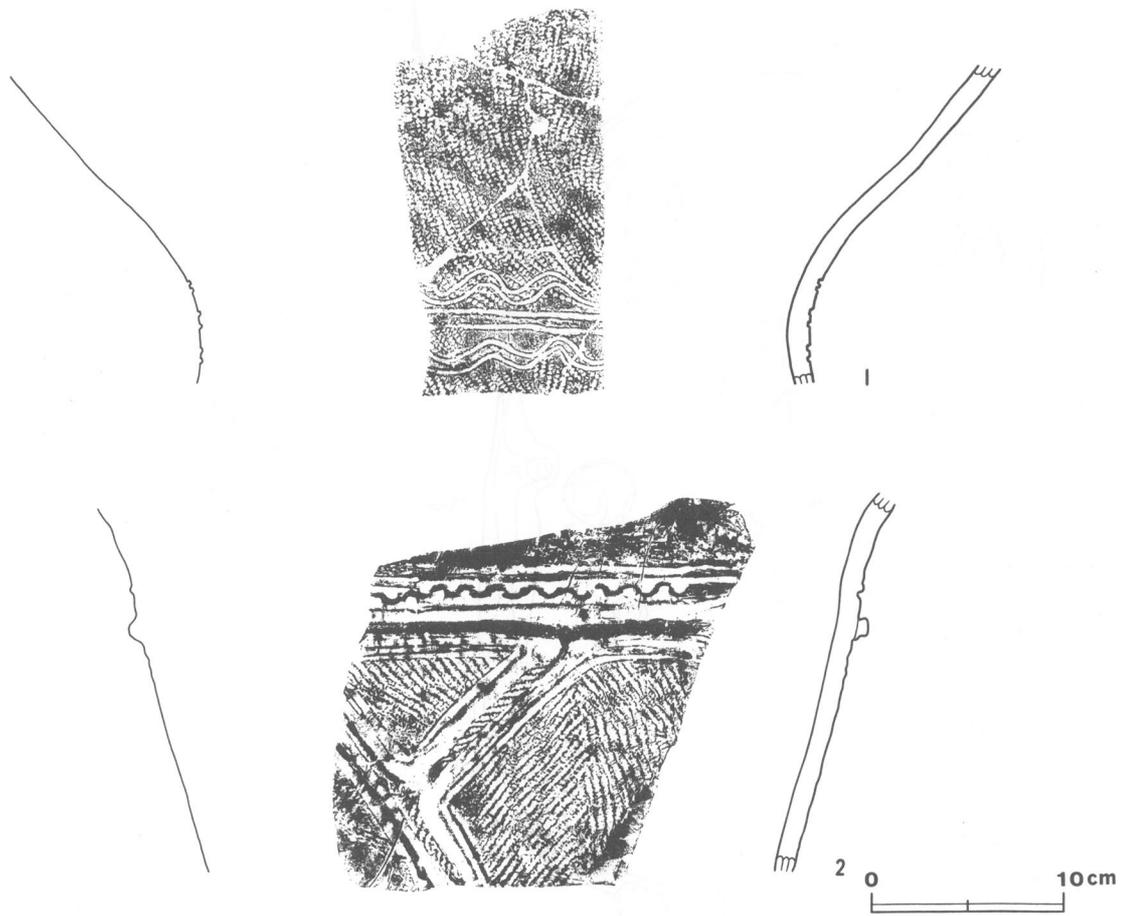


第371図 第501号住居跡実測図

所見 本跡の時期は、埋設土器から縄文時代中期中葉(中峙式期)である。2条の壁溝及び柱穴の配置から、建て替えの可能性が考えられる。

第501号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第372図 1	深鉢 縄文土器	B (17.0)	胴部から口縁部付近の破片。頸部はくびれる。地文はRLの単節縄文で、口縁部と胴部は、2本単位の波状沈線及び横位の沈線により区画されている。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P32 5% PL52 炉埋設土器 中峙式
2	深鉢 縄文土器	B (20.2)	胴部片。胴部はわずかに内彎する。胴部上位には交互刺突文が施され、以下はRLの単節縄文を地文に、断面カマボコ状の隆帯が貼られ、三角形の区画を作っている。隆帯には縄文が施され、隆帯に沿って半截竹管による2本単位の浅い沈線が施されている。	砂粒・長石・雲母 黒褐色 普通	P33 15% PL52 覆土 中峙式併行



第372图 第501号住居跡出土遺物実測図

表9 前田村遺跡H区縄文時代住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸 方向	平面形	規模(m) (長径×短径)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設					炉	覆土	出土遺物	時 期	備 考 (重 複 関 係)
							壁溝	主柱穴	ピット	出入口	貯蔵穴					
419	D14 ₇	N-50°-W	楕円形	3.61 × 3.40	8~20	平坦	-	4	1	-	-	-	自然	深鉢	中峠式期	SK-2361, 2367(より古)
421	D14 ₈	[N-20°-E]	隅丸長方形	5.37 × 4.25	16~26	平坦	-	7	8	-	-	1	人為	深鉢, 磨石	加曾利E I~II式期	SK-2371, 2369, 2372(より古)
422	D14 ₉	N-33°-E	(楕円形)	[5.11 × 3.90]	16	平坦	-	-	2	-	-	1	人為	鉢, 深鉢, 蓋	加曾利E I~II式期	SK-2364, 2376, 2365, 2430, 2432, 2476(より古)
424	D14 ₉	[N-44°-W]	(楕円形)	[3.65 × 3.37]	12	平坦	-	2	-	-	-	-	自然	深鉢	加曾利E III式期	SK-2394, 2393, 2400(より古)
425	D15 ₃	[N-7°-E]	楕円形	4.46 × 3.58	30~41	平坦	-	2	-	-	-	-	自然	深鉢	不明	SK-2426, 2425, 2422(より古)
427	D14 ₉	[N-33°-E]	(隅丸長方形)	5.00 × 3.44	8~30	平坦	-	3	10	-	-	-	自然	深鉢	加曾利E II~III式期	SI-426(より古), SK-2475, 2458, 2459, 2517, 2518, 2456(より古)
428	D14 ₉				20	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	凝ミニチャ7, 土器片	加曾利E I式期	SI-427 SK-2427, 2488, 2489
429	D14 ₉	N-17°-E	隅丸長方形	[5.35] × 4.42	6~10	平坦	-	5	6	-	-	-	自然	深鉢	加曾利E I式期	SK-2428, 2471, 2567, 2491, 2415, 2435
430	D15 ₁	N-26°-W	楕円形	[4.30 × 4.05]	-	平坦	-	5	2	-	-	2	-	深鉢, 耳飾, 土器片	安行2式期	SI-432 SK-2474, 2481, 2504, 2505
431	D14 ₉	N-23°-W	楕円形	5.09 × 3.72	34~55	平坦	-	7	-	-	-	1	人為	深鉢, 土器片	加曾利E I式期	SK-2521, 2522
432	D15 ₁	N-34°-W	(隅丸長方形)	4.19 × (3.55)	25	平坦	-	-	2	-	-	-	自然	深鉢	加曾利E I式期	SK-2474, 2449, 2479, 2487, 2481, 2504, 2505
433	D14 ₉	N-60°-W	(楕円形)	[5.10] ×	-	平坦	一部	4	9	-	-	1	人為	深鉢, 土器片	加曾利E III式期	SI-435, 436 SK-2494, 2511, 2503
435	D14 ₉	[N-20°-E]			-	平坦	-	-	-	-	-	1	不明	深鉢	加曾利E I式期	炉埋設 SI-433, 436 SK-2499
436	D14 ₉	N-0°			-	平坦	-	-	-	-	-	1	自然	深鉢, 磨石, 垂飾	加曾利E II式期	炉埋設 SI-433, 435 SK-2499
437	D14 ₉	[N-77°-W]	(楕円形)	4.50 × 3.40	16	緩斜	-	1	-	-	-	-	自然		阿玉台式期以前	SI-438 SK-2508
438	D14 ₉	[N-12°-E]	(楕円形)	× 4.30	22	平坦	-	-	1	-	-	-	不明	深鉢	阿玉台II~III式期	SI-437 SK-2615
439	D15 ₁	[N-58°-W]			-	-	-	-	-	-	-	1	自然	深鉢	加曾利E II式期	炉埋設 SI-433 SK-2493
440	D14 ₉		(楕円形)	5.24 ×	5	平坦	-	-	2	-	-	1	不明		不明	SI-431 SK-2516, 2515
452	D14 ₉	[N-44°-W]			-	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	深鉢, 凹石	加曾利E II式期	炉埋設 SK-2420
478	D14 ₇	[N-16°-E]	(楕円形)	[3.48 × 3.16]	-	平坦	-	2	-	-	-	1	不明	深鉢	加曾利E I式期	SK-5868
499	C13 ₉	[N-2°-E]	楕円形	[5.60 × 5.00]	-	-	-	6	-	-	-	1	自然	深鉢	加曾利E I式期	
500	C14 ₃	[N-71°-W]	楕円形	5.47 × 3.83	12~22	平坦	-	2	-	-	-	-	自然	深鉢, 磨製石斧	阿玉台III式期	SK-2952
501	C13 ₇	[N-2°-E]	楕円形	6.80 × 4.45	8~10	平坦	全周	6	10	-	-	-	自然	深鉢	中峠式期	炉埋設

(2) 土坑墓

第2463号土坑 (第373図)

位置 調査区の南東部, D14g0区。

重複関係 第2415号土坑, 第2435号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径 [1.66] m, 短径 [0.52] mの長楕円形と推定され, 深さは41cmである。

長径方向 N-58°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 2層に分層され, 人為堆積と考えられる。

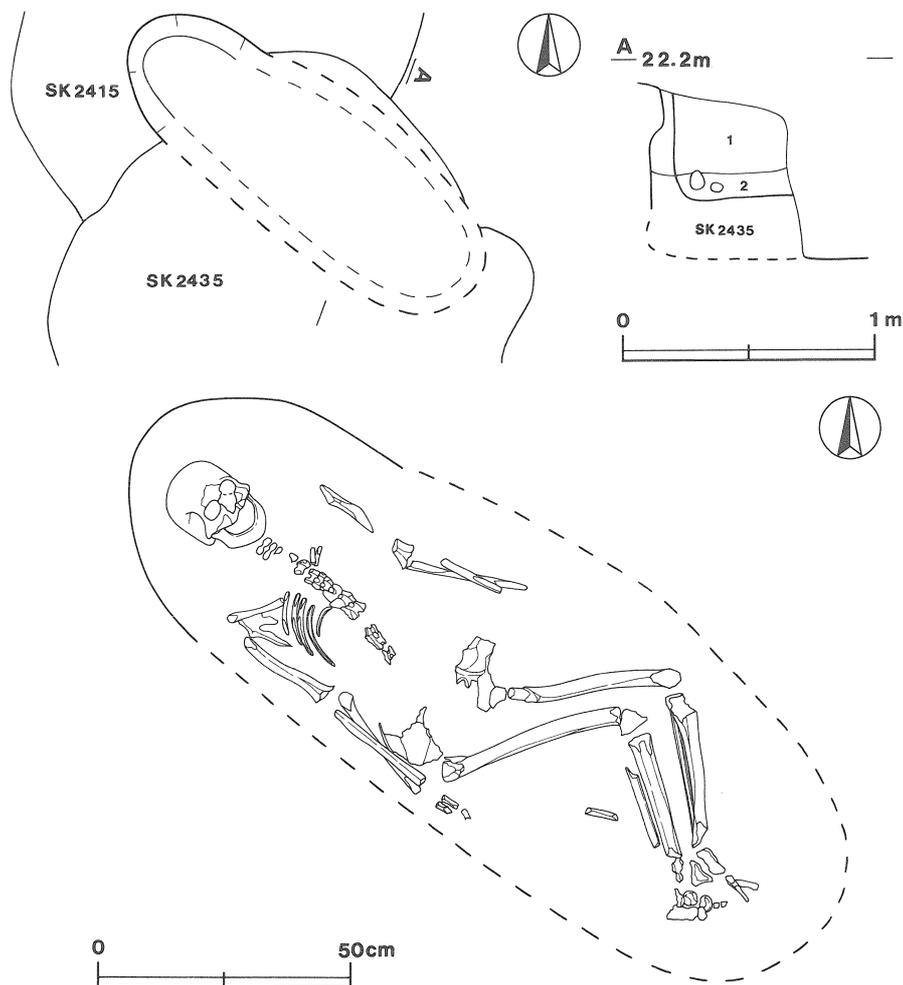
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量

遺物 縄文土器片18点が出土している。

埋葬人骨 埋葬された状態で出土した人骨は, 頭位がN-60°-Wを向き, 埋葬姿勢は膝立屈葬である。

所見 本跡の時期は, 縄文時代中期後葉(加曽利E I式期)の土坑を掘り込んでいること及び縄文時代中期の覆土と類似することから縄文時代中期の土坑墓と考えられる。



第373図 第2463号土坑実測図

(3) 土坑

第2357号土坑 (第374図)

位置 調査区の南東部, D14h7区。

規模と平面形 径2.08mの円形で, 深さは21cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

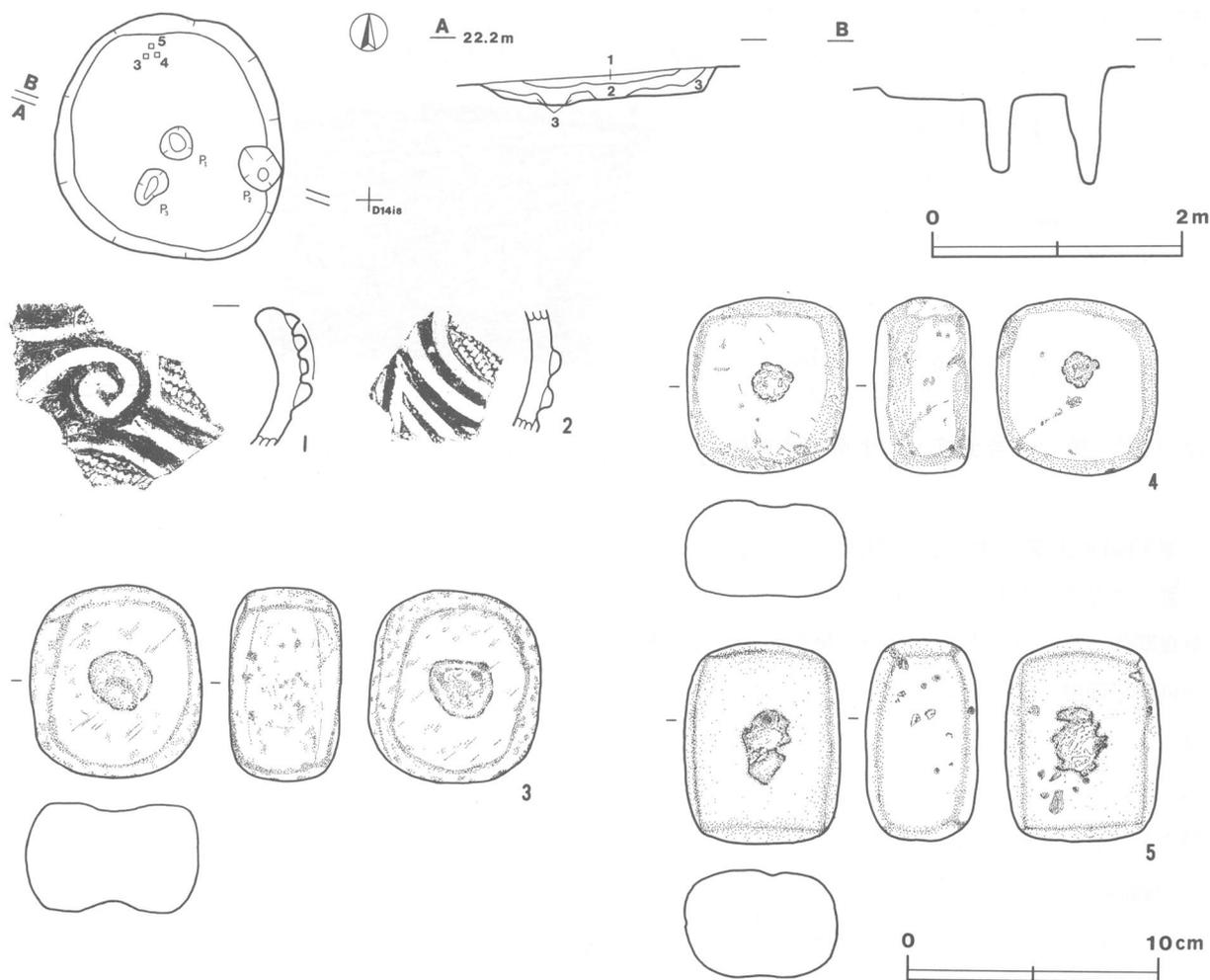
ピット 3か所。P₁は中央部に位置し, 径28cmの円形で, 深さは60cmである。P₂は東壁際に位置し, 長径38cm, 短径32cmの楕円形で, 深さは74cmである。P₃は南側に位置し, 長径32cm, 短径21cmの楕円形で, 深さは18cmである。

覆土 3層に分層され, 堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|----------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物 縄文土器片23点, 磨石3点が出土している。第374図3～5の磨石は覆土下層から出土している。1は深鉢の口縁部片で, RLの単節縄文を地文に沈線による渦巻文が施されている。2は深鉢の胴部片で, 地文はRLの単節縄文である。



第374図 第2357号土坑・出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。

第2357号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第374図3	磨石	7.7	6.9	4.6	(405.0)	綠色凝灰岩	Q 7 覆土下層 凹石兼用
4	磨石	7.1	6.5	3.9	(310.0)	安山岩	Q 8 覆土下層 凹石兼用
5	磨石	8.1	6.2	4.5	(374.0)	安山岩	Q 9 覆土下層 凹石兼用

第2361号土坑（第375図）

位置 調査区の南東部，D14j6区。

重複関係 第419号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。

規模と平面形 径0.70mの円形で、深さは47cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 皿状である。

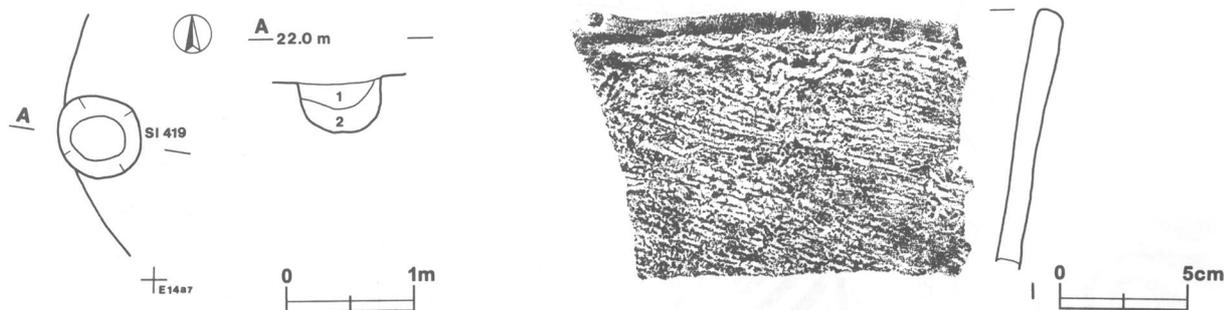
覆土 2層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

遺物 縄文土器片93点が出土している。第375図1は深鉢の口縁部片で、縄文はRの無節縄文である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内I 式期）と考えられる。



第375図 第2361号土坑・出土遺物実測図

第2364号土坑（第376～379図）

位置 調査区の南東部，E14a0区。

重複関係 第422号住居跡の南壁と第2376号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径2.40mの円形で、深さは304cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 18層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 炭化物少量・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，炭化物微量
- 4 暗赤褐色 炭化粒子・焼土ブロック中量，炭化物少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量，炭化物微量，3層より明るい
- 6 黒褐色 炭化物多量，焼土粒子少量

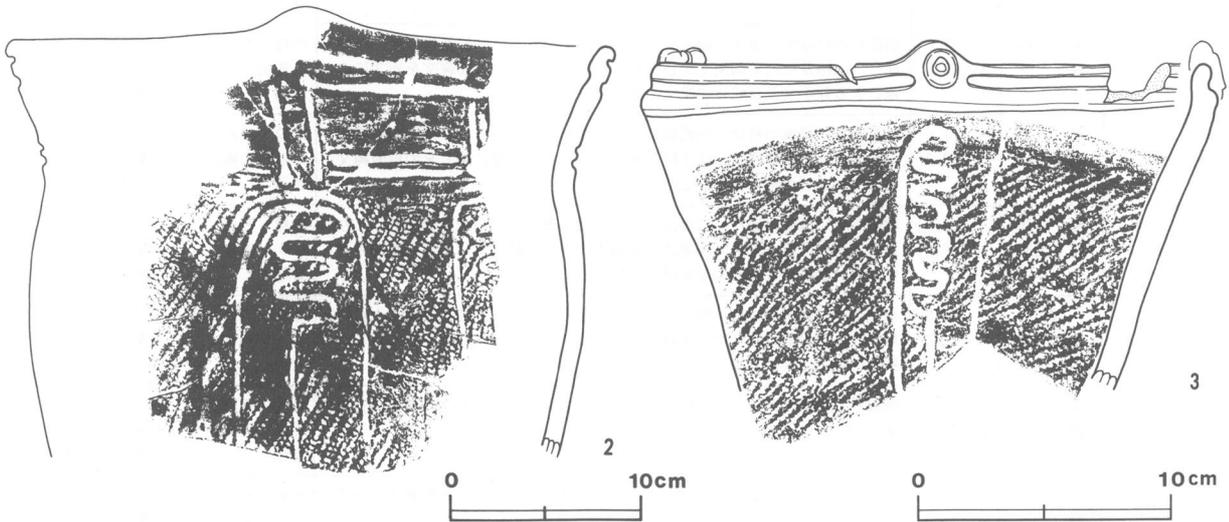
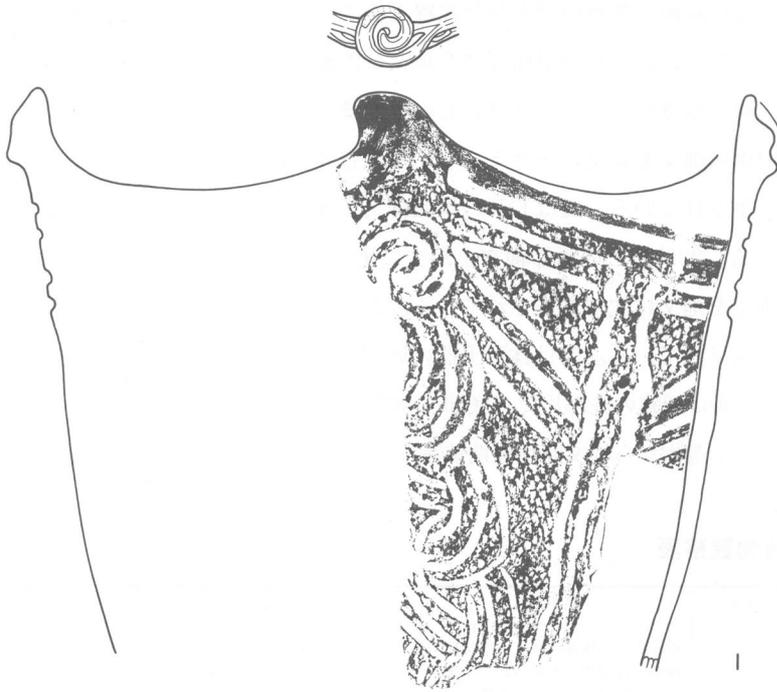
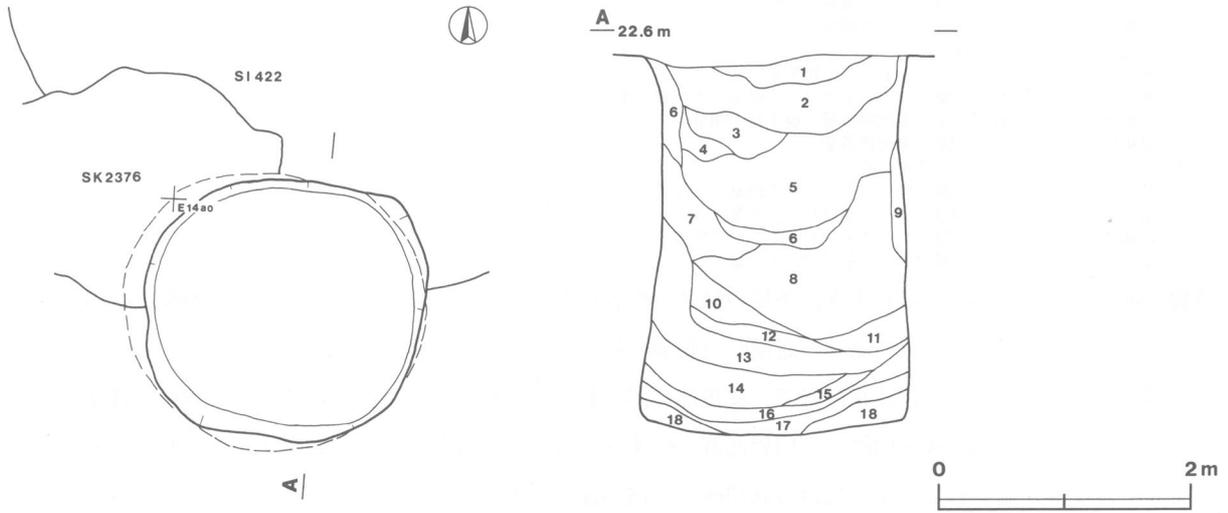
7	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量, 5層より暗い
8	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物微量
9	暗褐色	ローム粒子微量
10	暗褐色	白色粘土ブロック少量, 炭化物多量
11	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化物少量
12	黒褐色	ローム粒子少量, 炭化物多量, 焼土粒子微量
13	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物多量
14	暗褐色	ローム粒子・炭化物少量
15	暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化物少量
16	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
17	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量
18	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片2360点, 敲石1点, 多量の獣骨・魚骨片が出土している。1～9の深鉢の胴部から口縁部の破片, 10の深鉢の胴部片, 11の深鉢の底部から胴部の破片, 31の敲石は覆土から出土している。12～23は深鉢の口縁部片である。12・13は波状口縁で, 波頂部に円形刺突文が施されている。地文はLRの単節縄文で, 沈線が斜行している。14は波状口縁で, 口唇部直下に沈線が施され, 波頂部に円形刺突文が施されている。口縁部より下は沈線が施されている。15は波状口縁で, 波頂部に円形刺突文及び孔が施されている。口縁部より下はRLの単節縄文を地文に断面三角形の隆帯及び沈線が施されている。16は波状口縁で, 口唇部直下に幅広の沈線が施されている。口縁部にはLRの単節縄文を地文に沈線が施されている。17は斜位の沈線文を有する突起を有し, 口唇部は沈線が施されている。18はRLの単節縄文を地文に沈線が施されている。19は波状口縁で小突起を有し, LRの単節縄文を地文にキザミを有する隆帯及び沈線が施されている。20は波状口縁で, 地文は無節縄文で, 沈線が施されている。21はLRの単節縄文を地文に沈線により文様が施されている。22は渦巻状の沈線が施されている。23はRLの単節縄文を地文に沈線が施されている。24～28は深鉢の胴部片である。24～26はLRの単節縄文を地文に沈線が施されている。27は多条の沈線が波状に施されている。28はLRの単節縄文を地文に沈線が施されている。29は鉢形土器の底部片で, LRの単節縄文を地文に半截竹管による平行沈線文が施されている。30は深鉢の底部片で, 底部に網代痕が見られる。

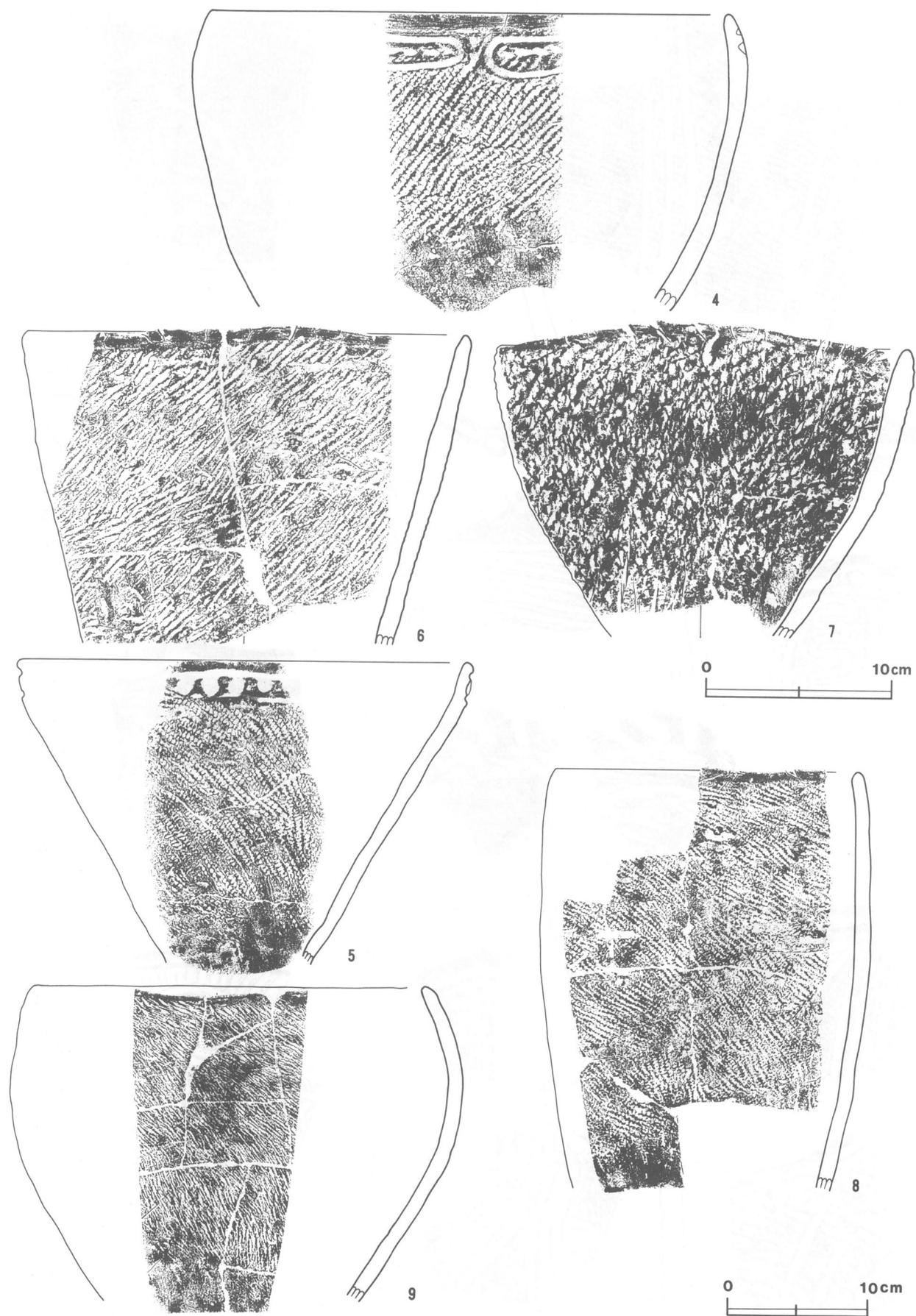
所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉(堀之内I式期)と考えられる。

第2364号土坑出土遺物観察表

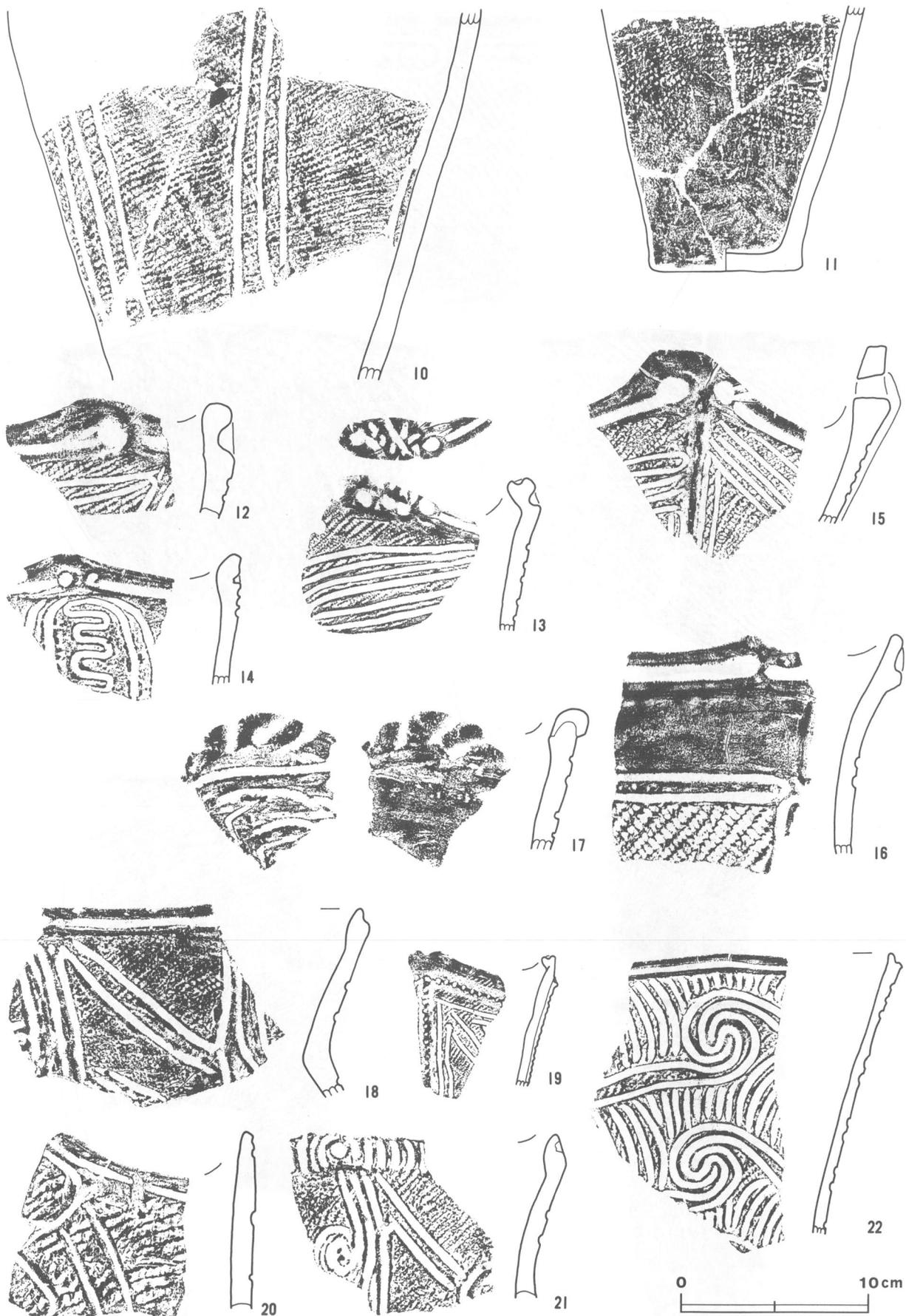
図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第376図 1	深鉢 縄文土器	A [28.1] B (23.0)	胴部から口縁部の破片。波状口縁を呈する口縁部はわずかに外傾する。口縁部には渦巻文が施された小突起を有し, 口唇部直下には沈線が施されている。胴部はLRの単節縄文を地文に, 蛇行沈線文及び蕨手文が施されている。	砂粒・石英・ スコリア 黒褐色 普通	P34 20% PL53 覆土 堀之内I式
2	深鉢 縄文土器	A [31.8] B (23.3)	胴部から口縁部の破片。胴部上位にくびれをもち, 口縁部波状口縁。口縁部には沈線及び円形刺突文が施され, 胴部にはRLの単節縄文を地文に沈線による蕨手文及び蛇行沈線文が施されている。	砂粒・雲母 灰褐色 普通	P35 20% PL53 覆土 堀之内I式
3	深鉢 縄文土器	A [21.6] B (13.0)	胴部から口縁部の破片。円形刺突文及びキザミが施された3単位の小突起を有する。口唇部直下には沈線が施されている。胴部にはLRの単節縄文を地文に蛇行沈線が施されている。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P36 30% PL53 覆土 堀之内I式
第377図 4	深鉢 縄文土器	A [28.0] B (16.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。口縁部は沈線により長楕円形に区画され, 区画間及び区画内に細い竹管による刺突文が施されている。胴部にはLRの単節縄文が施されている。	砂粒・石英 にぶい褐色 普通	P37 10% PL53 覆土 堀之内I式
5	鉢 縄文土器	A [32.4] B (22.0)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾して立ち上がり, 口縁部はわずかに内彎する。口縁部には2本の沈線間に大きめの円形刺突文が施されている。胴部の地文はRLの単節縄文である。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P38 20% 覆土 堀之内I式
6	深鉢 縄文土器	A [23.6] B (16.8)	胴部から口縁部の破片。口縁部は直線的に立ち上がる。地文は無節縄文である。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P39 20% PL53 覆土 堀之内I式
7	深鉢 縄文土器	A [22.0] B (15.7)	胴部から口縁部の破片。胴部はわずかに内彎する。地文は無節縄文である。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P40 20% PL53 覆土 堀之内I式



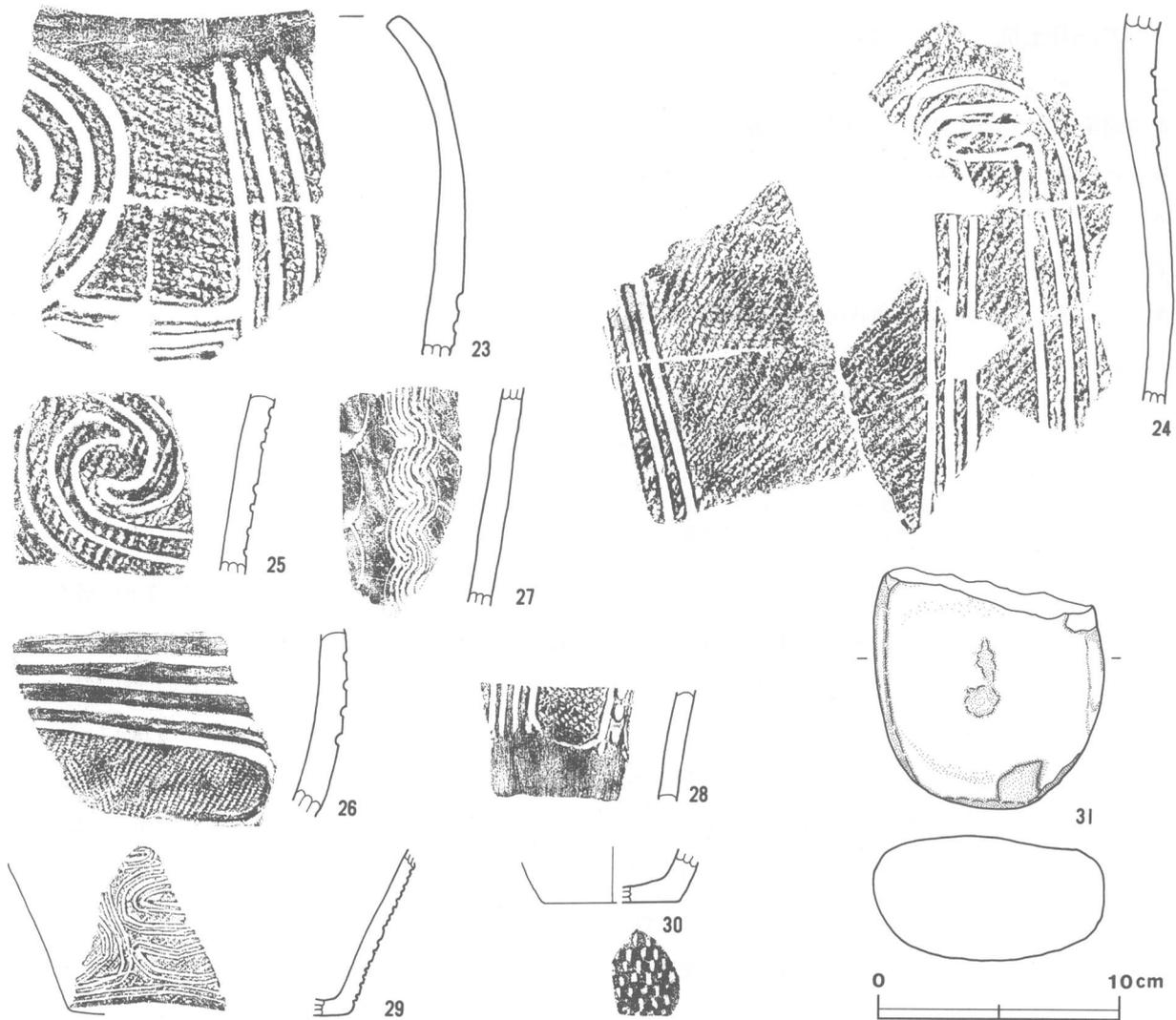
第376图 第2364号土坑·出土遗物实测图(1)



第377图 第2364号土坑出土遗物实测图(2)



第378图 第2364号土坑出土遗物实测图(3)



第379図 第2364号土坑出土遺物実測図(4)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第377図 8	深鉢 縄文土器	A [22.0] B (30.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎して立ち上がる。地文はRLの単節縄文である。	砂粒・長石・石英 灰褐色 普通	P41 20% PL53 覆土 堀之内I式
9	深鉢 縄文土器	A 27.5 B (22.9)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。地文は撚糸文である。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P42 70% PL53 覆土 堀之内I式
第378図 10	深鉢 縄文土器	B (19.7)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。RLの単節縄文を地文に、3本一組の沈線を垂下させている。	砂粒・長石・ スコリア にぶい褐色 普通	P43 15% PL53 覆土 堀之内I式
11	深鉢 縄文土器	B (14.3) C 8.2	底部から胴部の破片。底部はわずかに突出し、胴部は外傾して立ち上がる。地文はLRの単節縄文である。	砂粒 にぶい橙色 普通	P44 30% PL53 覆土 堀之内I式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第379図31	蓋石	(10.0)	9.1	5.3	(735.0)	緑色凝灰岩	Q10 覆土

第2365号土坑（第380・381図）

位置 調査区の南東部，D14j9区。

重複関係 第422号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.40mの円形で，深さは124cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量，炭化物・焼土小ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子微量，ローム中ブロック少量 |

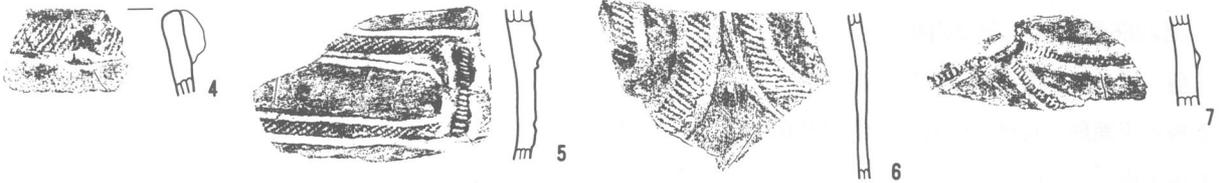
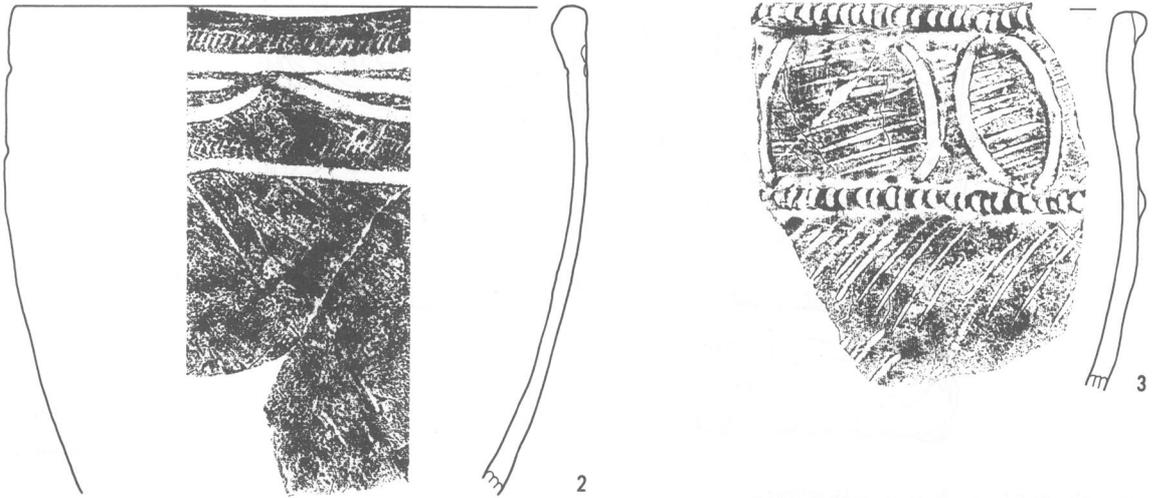
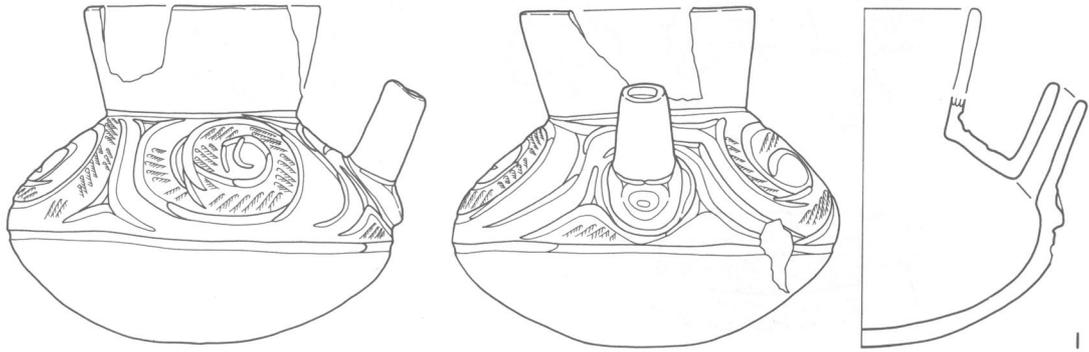
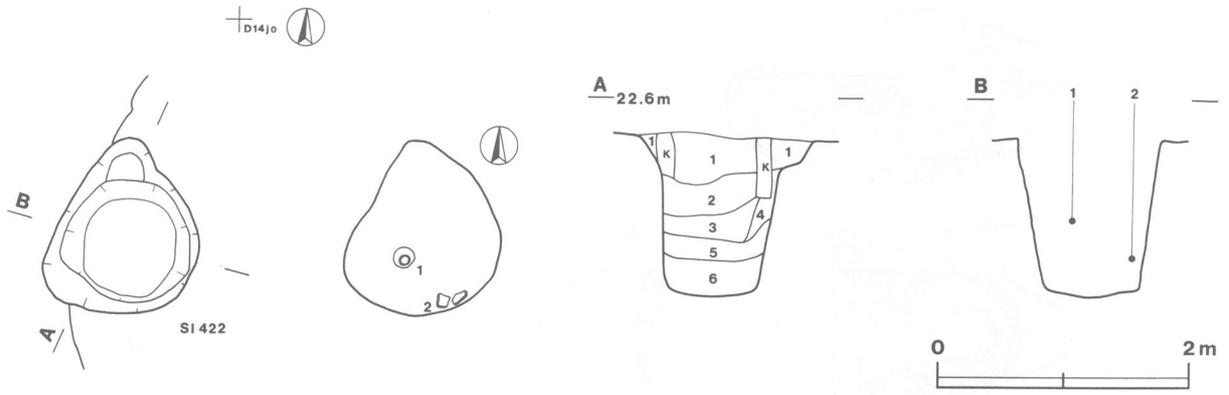
遺物 縄文土器片93点，土偶1点，土版1点，獣骨片が出土している。第380図1の注口土器は覆土中層から，2の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土下層から，第381図8の土偶及び9の土版は覆土から出土している。3～4は深鉢の口縁部片である。3はキザミをもつ紐線文が施され，紐線文による区画内に弧状の沈線が施されている。胴部は斜行する条線文が施されている。4は無節の隆起手法による縄文帯に突起が付されている。5～7は深鉢の胴部片である。5はLRの単節縄文の隆起手法による縄文帯で区画され，キザミをもつ縦長の突起が付されている。6はLRの単節縄文の幅広の沈線による磨消文が施されている。7はキザミをもつ隆帯が施されている。注口土器及び土製品は安行3a式期のものと思われるが，土器片の中に安行1・2式期のものも含まれている。8はミミズク形土偶で，9は土版である。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代晩期（安行3a式期）と考えられる。

第2365号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第380図 1	注口土器 縄文土器	A 9.4 B 13.4 C 2.6	丸底で，胴部は内彎しながら立ち上がり，強く屈曲して内傾し，口縁部に至る。口縁部は無文で，ほぼ直線的に立ち上がる。胴部上位は無節縄文を地文に，浅い沈線による三叉文及び渦巻文が施されている。胴部中位に横位の沈線が施され，以下は無文である。注口基部は膨らみをもち，中央にくぼみがある。赤彩痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P45 90% PL54 覆土中層 安行3a式
2	深鉢 縄文土器	A [22.6] B (19.4)	胴部から口縁部の破片。胴部上位で内彎する。口縁部には横位あるいは斜位の沈線とキザミが施されている。胴部は無文である。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P46 20% PL54 覆土下層 安行3a式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第381図 8	土偶	(9.2)	(9.1)	(4.6)	(146)	30	顔面部はキザミをもつ隆帯で縁取りされて，目と口もキザミをもつ隆帯で描かれている。肩部及び胸部はRLの単節縄文を地文に，沈線による渦巻文と三叉文が施され，胸部は突出している。裏面はRLの単節縄文を地文に，沈線による渦巻文が施されている。赤彩痕。	DP9 覆土 安行3a式
9	土版	9.4	7.3	3.2	(249)	95	上端側面にキザミが施され，頂部は沈線により長楕円形に区画され，区画内には刺突文が施されている。表面及び裏面に沈線による三叉文が施されている。	DP10 覆土 安行3a式



第380图 第2365号土坑·出土遗物实测图(1)



第381図 第2365号土坑出土遺物実測図（2）

第2366号土坑（第382図）

位置 調査区の南東部，D14h9区。

規模と平面形 長径2.83m，短径1.90mの不定形で，深さは67cmである。

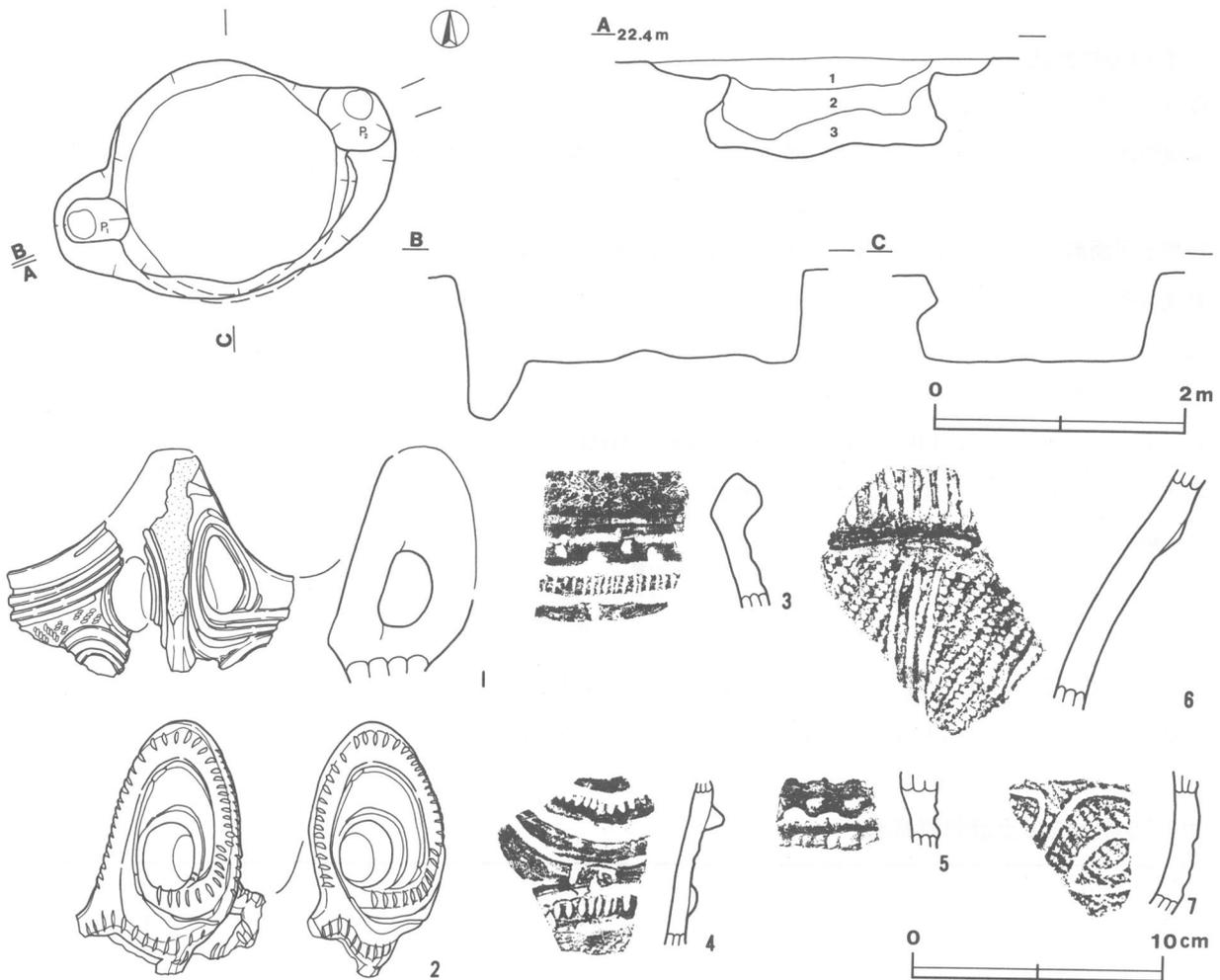
長径方向 N-60°-E

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 2か所。P₁は西壁際に位置し，長径50cm，短径30cmの楕円形で，深さは117cmである。P₂は東壁際に位置し，長径60cm，短径48cmの楕円形で，深さは74cmである。

覆土 3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。



第382図 第2366号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量, ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック中量

遺物 縄文土器片135点が出土している。第382図1・2の深鉢の把手は覆土から出土している。3は深鉢の口縁部片で、沈線間に交互刺突文及びキザミが施されている。4～7は深鉢の胴部片である。4はLRの単節縄文を地文に、隆帯及び沈線が施され、隆帯にはキザミが施されている。5は2本の沈線間に交互刺突文が施されている。6・7はRLの単節縄文を地文に沈線が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2366号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第382図 1	深鉢 縄文土器	B (8.7)	橋状把手。孔に沿って2本あるいは3本の沈線が施されている。以下はRLの単節縄文を地文に、沈線の施された隆帯が貼り付けられている。	砂粒 褐色 普通	P47 5% 覆土 中峠式
2	深鉢 縄文土器	B (10.3)	表側にはキザミをもつ薄い隆帯が貼り付けられ、隆帯に沿って沈線が施されている。裏側には薄い隆帯が貼り付けられ、隆帯に沿ってキザミが施されている。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P48 5% 覆土 中峠式

第2370号土坑（第383図）

位置 調査区の南東部，D14i8区。

重複関係 第421号住居跡の北西壁を掘り込んでいる。南西部分で第2371号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.05m，短径1.88mの楕円形で，深さは45cmである。

長径方向 N-0°

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 1か所。P₁は中央部に位置し，長径25cm，短径20cmの楕円形で，深さは48cmである。

覆土 3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

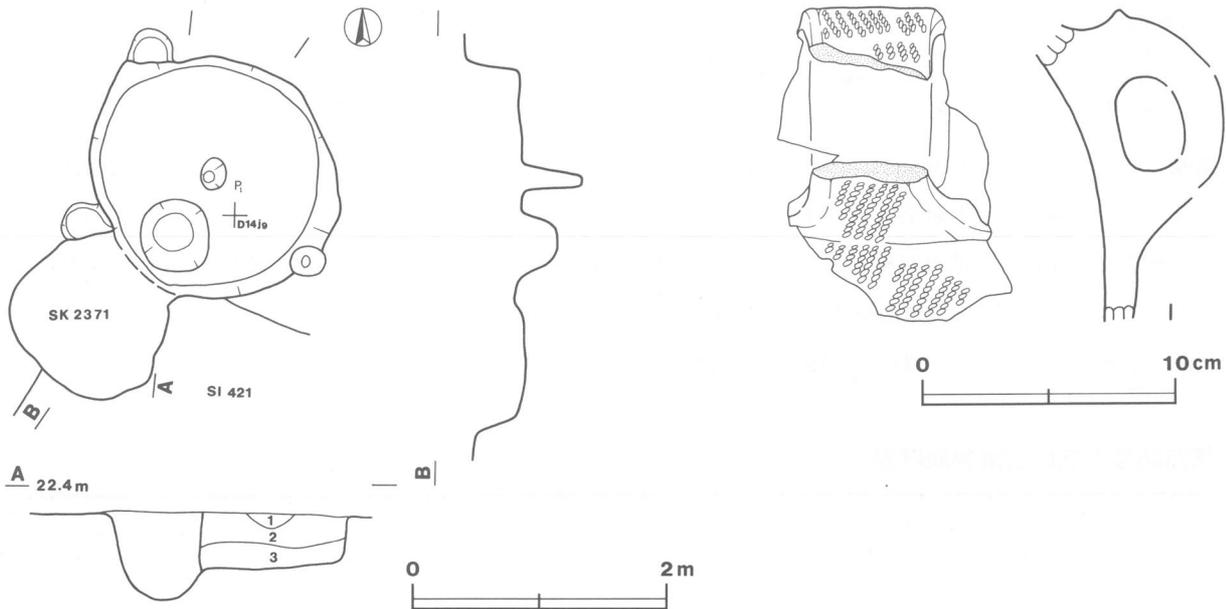
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量，ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中・大ブロック少量

遺物 縄文土器片77点が出土している。第383図1の広口壺把手部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E IV式期）と考えられる。

第2370号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第383図 1	広口壺 縄文土器	B (11.8)	橋状把手。把手表面及び胴部にRLの単節縄文が施されている。	砂粒・スコリア 浅黄橙色 普通	P49 5% 覆土 加曾利E IV式



第383図 第2370号土坑・出土遺物実測図

第2372号土坑（第384図）

位置 調査区の南東部，D14j8区。

重複関係 第421号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。南西部分で第2373号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.56m，短径1.37mの楕円形で，深さは40cmである。

長径方向 N-3°-E

壁 段状である。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

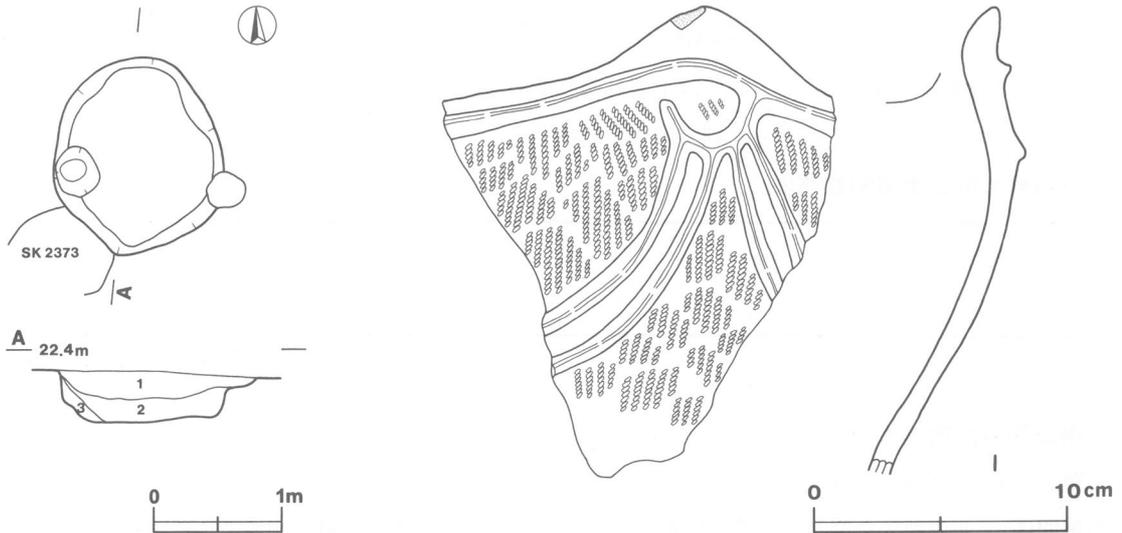
- 1 褐色 ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物 縄文土器片49点が出土している。第384図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第2372号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第384図 1	深鉢 縄文土器	B (18.6)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾し，口縁部はわずかに内彎する。波状口縁。口縁部は微隆起線を巡らし，無文帯を作っている。胴部はR Lの単節縄文を地文とし，2本一組の微隆起線文が施されている。	砂粒・石英・雲母 スコリア にぶい褐色 普通	P50 10% PL54 覆土 加曾利EⅢ式



第384図 第2372号土坑・出土遺物実測図

第2374号土坑（第385図）

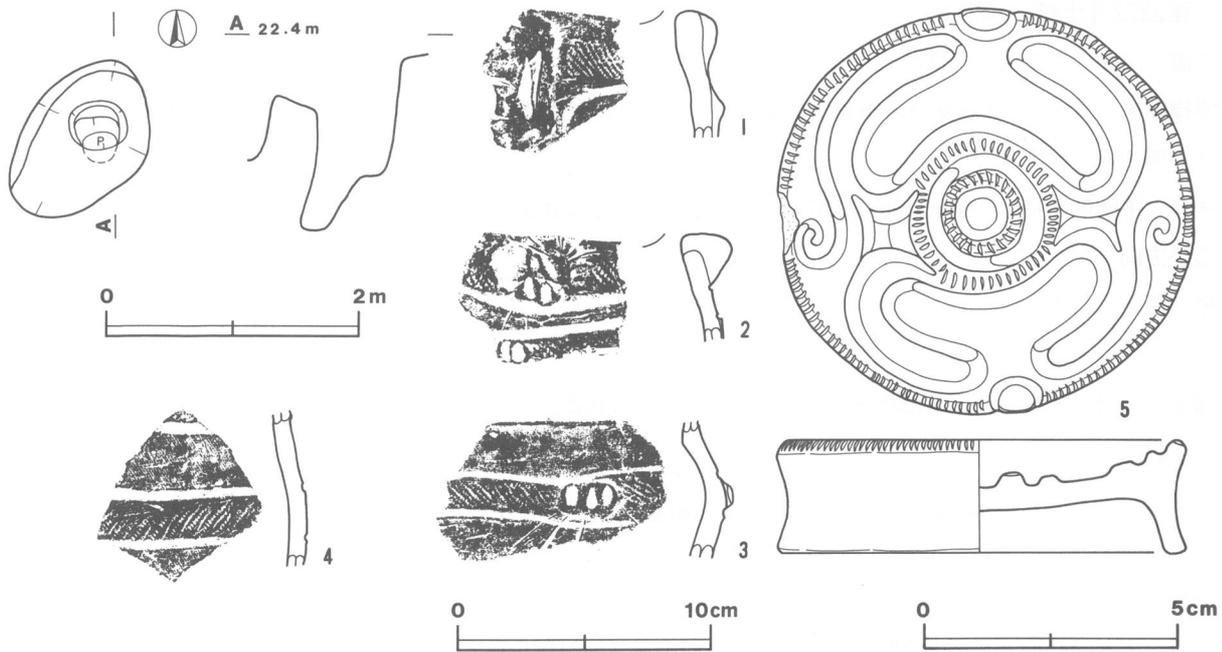
位置 調査区の南東部，E15a1区。

規模と平面形 長径1.40m，短径0.98mの楕円形で，深さは22cmである。

長径方向 N-45°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。



第385図 第2374号土坑・出土遺物実測図

ピット 1か所。P₁は中央部に位置し、長径49cm、短径40cmの楕円形で、深さは99cmである。

遺物 縄文土器片265点及び土製耳飾り1点が出土している。第385図5の土製耳飾りは覆土から出土している。1・2は深鉢の口縁部片である。1はR Lの単節縄文の隆起手法による縄文帯に貼付文が付けられている。2はR Lの単節縄文の隆起手法による縄文帯に、ブタ鼻状貼付文が付けられている。3・4は深鉢の胴部片である。3はR Lの単節縄文の沈線手法の縄文帯にキザミをもつ貼付文が付けられている。4はL Rの単節縄文の沈線手法の縄文帯が施されている。5は土製耳飾りである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期後葉（安行2 a 式期）と考えられる。

第2374号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第385図5	土製耳飾り	8.0	8.2	2.4	(84)	95	白状。沈線によるH字状の文様及びキザミ。	D P 11 覆土

第2375号土坑（第386図）

位置 調査区の南東部、D14h9区。

重複関係 北側部分を第2401号土坑に掘り込まれている。東側部分で第2410号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 径0.98mの円形で、深さは110cmである。

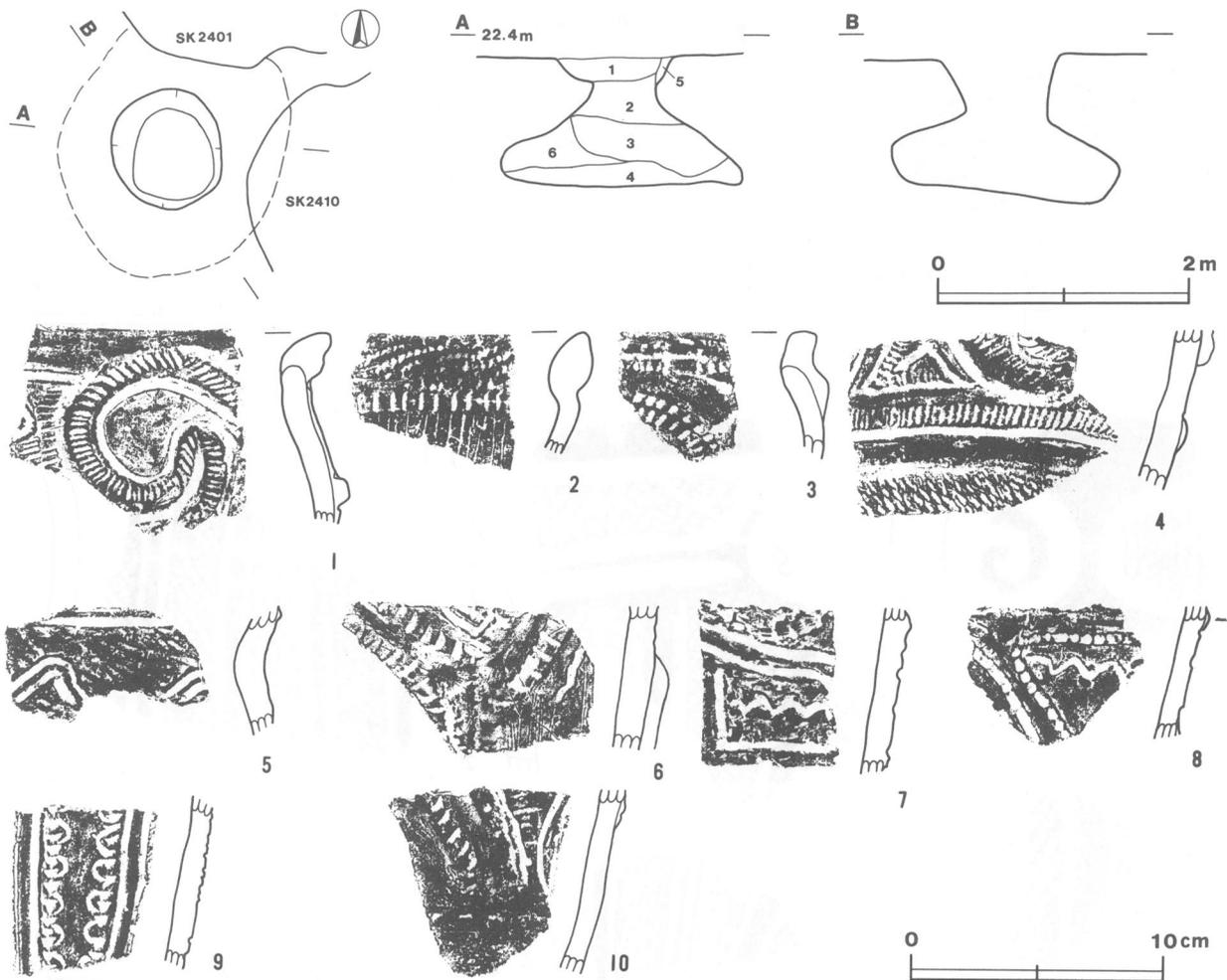
壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	5 褐色	ローム粒子多量
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量	6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量



第386図 第2375号土坑・出土遺物実測図

遺物 縄文土器片26点が出土している。第386図1～3は深鉢の口縁部片である。1は隆帯にキザミが施されている。2は口縁部上端に単節LRの縄文が施され、その下に瓜形文が施されている。3は押しき刺突文が施されている。4～10は深鉢の胴部片である。4は頸部に隆帯を巡らし、口縁部はキザミをもつ隆帯により文様を施している。胴部は撚糸文を施している。5は横位の沈線及び半截竹管による山形沈線文が施されている。6・8は断面三角形の隆帯に沿って押しき文が施されている。7は沈線及び結節沈線文が施されている。9は隆帯に沿って半截竹管による刺突文が施されている。10は沈線及びキザミのある隆帯が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2376号土坑（第387図）

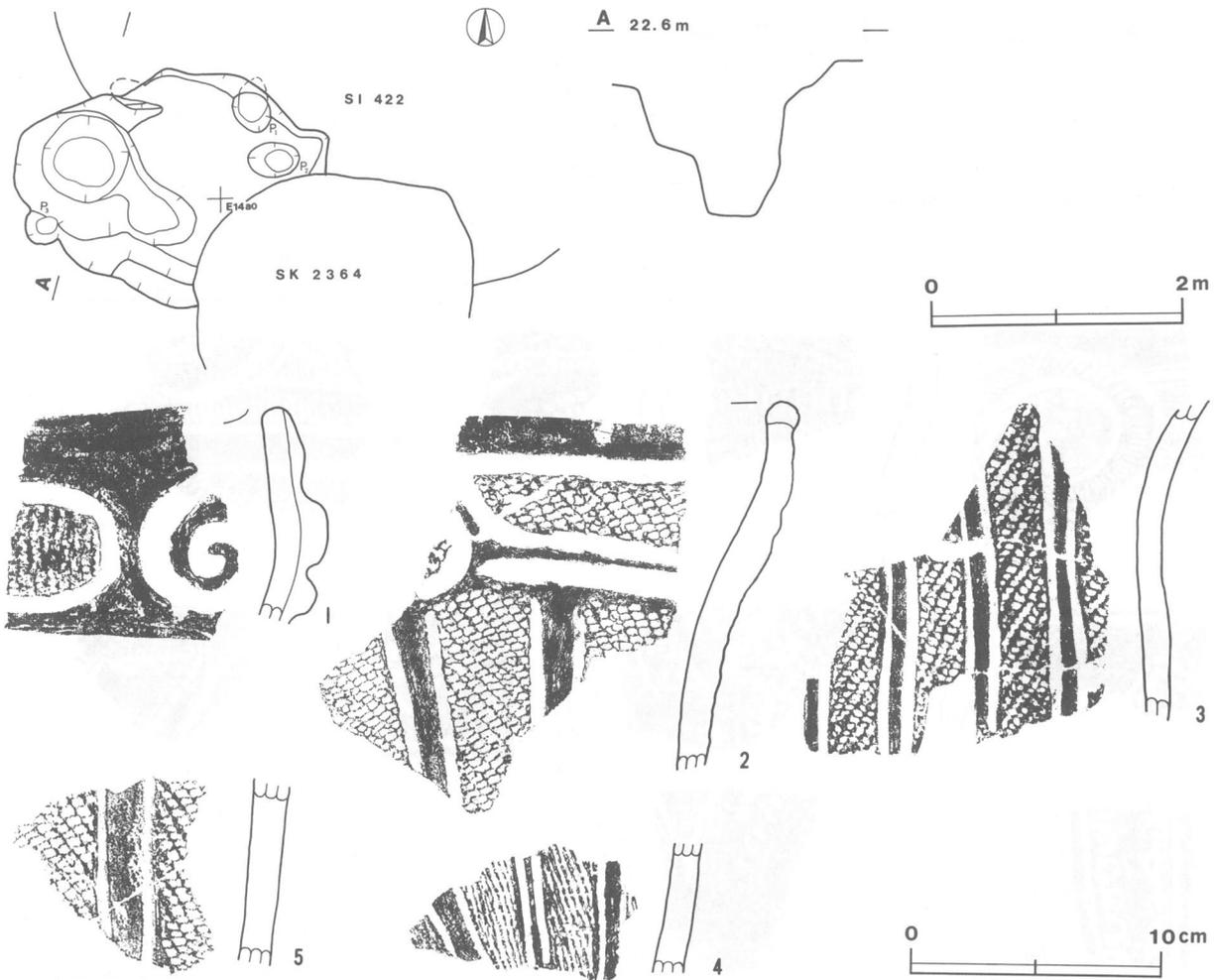
位置 調査区の南東部，D14j9区。

重複関係 第422号住居跡の南西側部分を掘り込んでいる。南東部分で第2364号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.58m，短径1.46mの楕円形で，深さは74cmである。

長径方向 N-90°-E

壁 段状である。



第387図 第2376号土坑・出土遺物実測図

底 平坦である。

ピット 3か所。P₁は北東壁際に位置し、長径35cm、短径28cmの楕円形で、深さは20cmである。P₂は東側に位置し、長径40cm、短径28cmの楕円形で、深さは28cmである。P₃は南西壁際に位置し、径32cmの円形と推定され、深さは40cmである。

遺物 縄文土器片124点が出土している。第387図1・2は深鉢の口縁部片である。1は隆帯による渦巻文及び沈線による楕円区画文が施され、区画内には無節縄文が施されている。2は複節縄文を地文に沈線による区画文及び磨消懸垂文が施されている。3～5は深鉢の胴部片である。3はR Lの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。4は撚糸文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。5は幅広の2本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。

第2377号土坑（第388図）

位置 調査区の南東部，D15j2区。

規模と平面形 径1.89mの円形で，深さは127cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 7層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量，ローム少ブロック・炭化粒子・炭化物・焼土粒子・焼土小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 5 明褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 6 明褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 7 にぶい褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量

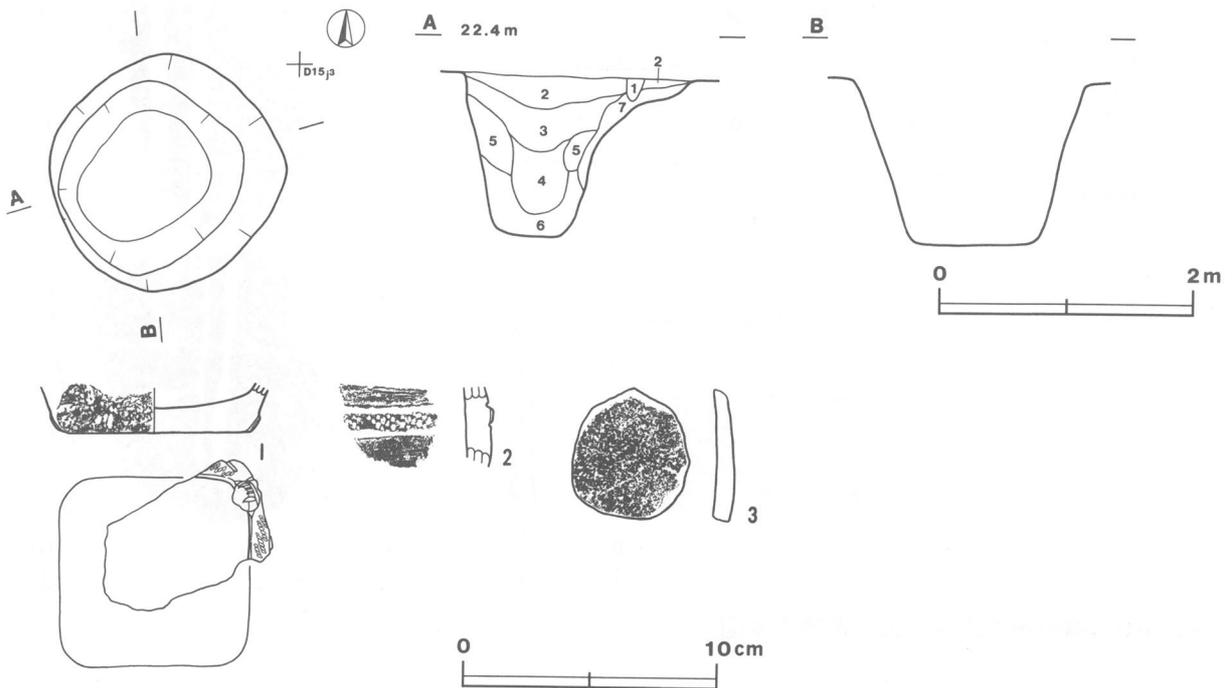
遺物 縄文土器片50点，土器片円盤1点が出土している。第388図1の角底鉢の底部片及び3の土器片円盤は覆土から出土している。2は深鉢の胴部片であり，RLの単節縄文の隆起手法による縄文帯が施されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期後葉（安行2式期）と考えられる。

第2377号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第388図 1	角底鉢 縄文土器	B (2.0) C 8.1	底部片。底部が四角形になる鉢で，沈線及びLRの単節縄文の沈線手法の帯縄文が施され，角に四つのキザミをもつ瘤が貼り付けられている	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P175 5% 覆土 安行2式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第388図3	土器片円盤	5.2	4.5	0.7	(20.0)	95	無文。	DP12 覆土



第388図 第2377号土坑・出土遺物実測図

第2378号土坑（第389図）

位置 調査区の南東部，D15a2区。

重複関係 第423号住居跡の炉を掘り込んでいる。北東部分で第2409号土坑と重複し，南側部分で第2407号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.69m，短径1.29mの楕円形で，深さは31cmである。

長径方向 N-59°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 2層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

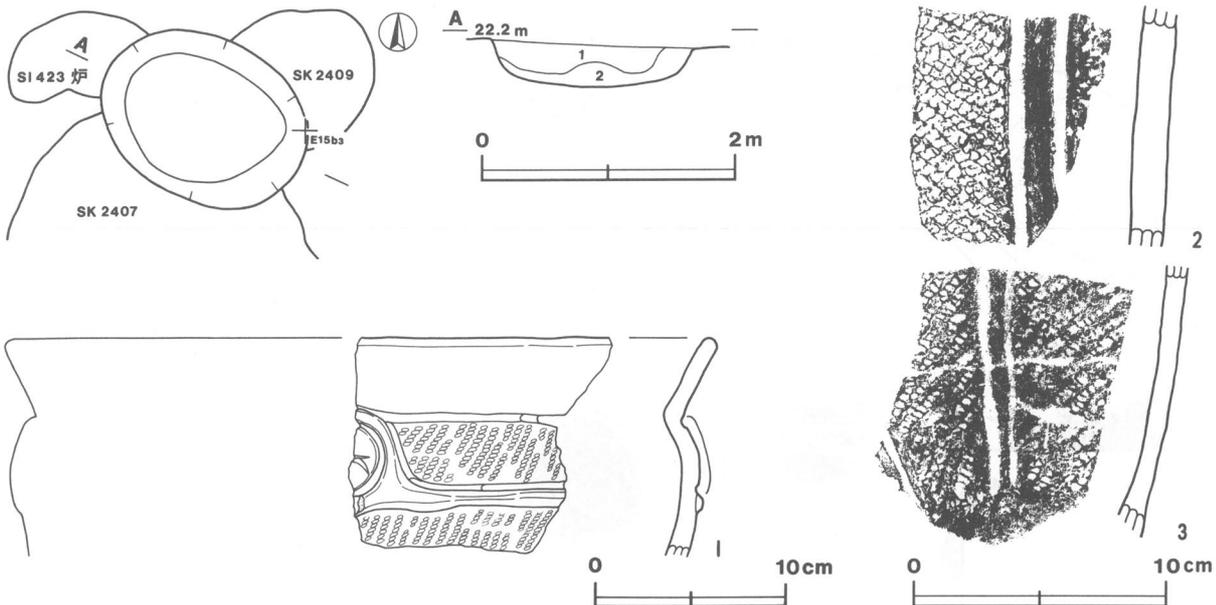
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量

遺物 縄文土器片91点が出土している。第389図1は深鉢の胴部から口縁部の破片で，覆土から出土している。2・3は深鉢の胴部片である。2は複節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。3はRLの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。

第2378号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 1	深鉢 縄文土器	A [36.0] B (11.5)	胴部から口縁部の破片。胴部上位でわずかに内彎し，口縁部は外傾する。 口縁部は無文で，以下はLRの単節縄文を地文に沈線及び隆帯で区画文が施されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P51 5% PL54 覆土 加曾利EⅡ式



第389図 第2378号土坑・出土遺物実測図

第2380号土坑（第390図）

位置 調査区の南東部，E15a1区。

重複関係 北東部分で第2379号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径0.70m，短径0.50mの楕円形で，深さは60cmである。

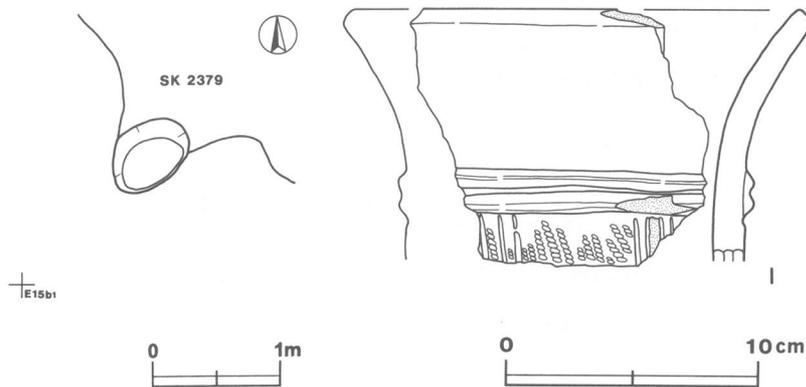
長径方向 N-43°-W

遺物 縄文土器片2点が出土している。第390図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

第2380号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第390図 1	深鉢 縄文土器	A [17.6] B (9.8)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。口縁部は無文である。口縁部と胴部は沈線を有する隆帯で区画され，胴部はLRの単節縄文を地文に半截竹管による沈線を垂下させている。	砂粒 橙色 普通	P52 10% PL54 覆土 加曾利E I式



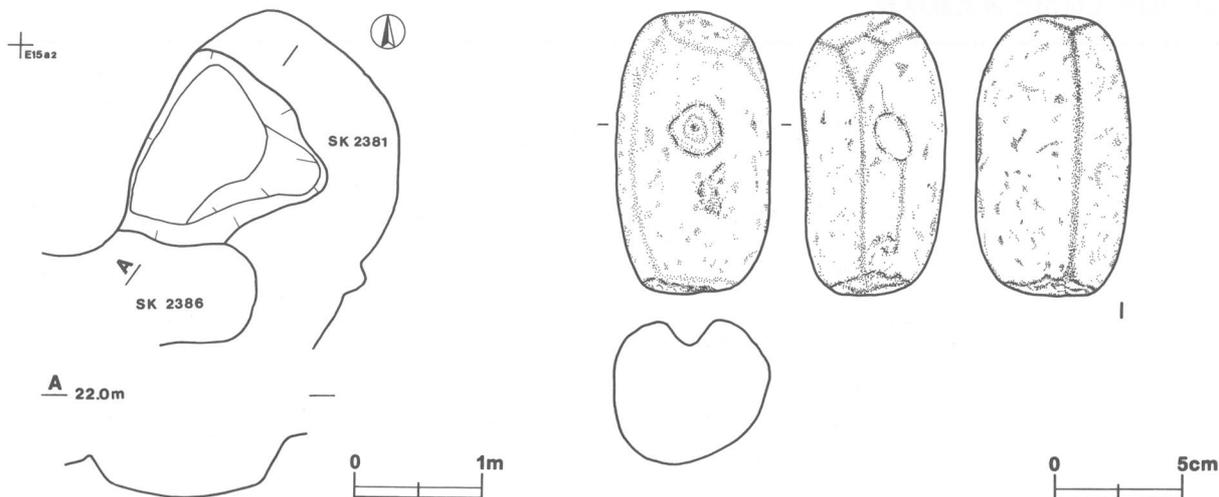
第390図 第2380号土坑・出土遺物実測図

第2383号土坑（第391図）

位置 調査区の南東部，E15a2区。

重複関係 第2381号土坑の西側部分を掘り込んでいる。南側部分で第2386号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.45mの不定形で，深さは61cmである。



第391図 第2383号土坑・出土遺物実測図

長径方向 N-60°-E

壁 緩やかに立ち上がる。

底 皿状である。

遺物 縄文土器片97点, 敲石1点が出土している。第391図1の敲石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物は少量であるが, 出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第2383号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第391図1	敲石	11.2	6.2	5.9	(606.0)	安山岩	Q11 覆土 凹石兼用

第2388号土坑 (第392図)

位置 調査区の南東部, D15i1区。

規模と平面形 径2.05mの円形で, 深さは48cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 3か所。P₁は北壁際に位置し, 径52cmの円形で, 深さは28cmである。P₂は南壁際に位置し, 径34cmの円形で, 深さは46cmである。P₃は南西壁際に位置し, 径44cmの円形で, 深さは60cmである。

覆土 5層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

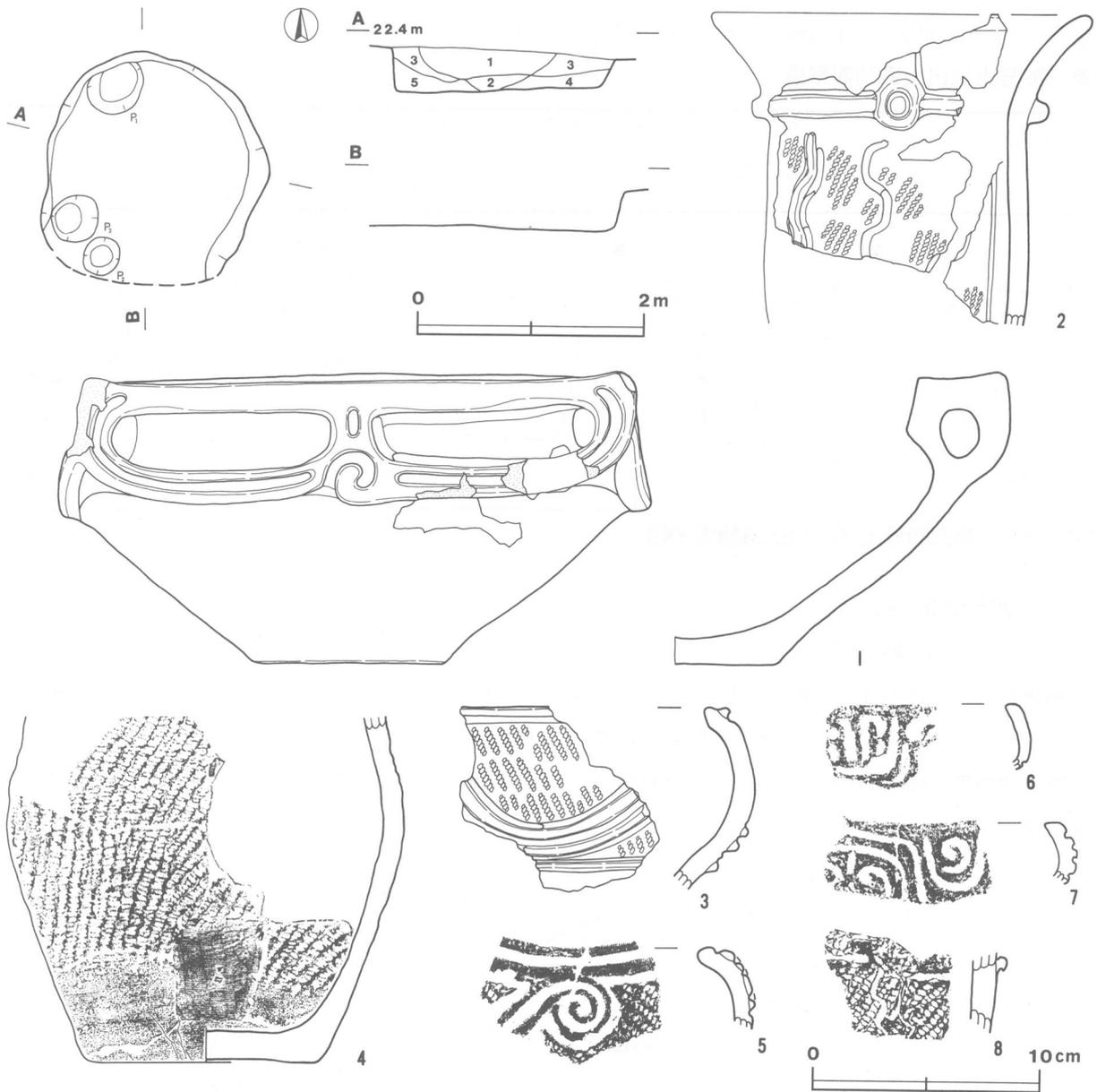
- | | | | |
|-------|-----------------------------------|------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック少量 | 4 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| | | 5 褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 |

遺物 縄文土器片177点が出土している。第392図1の浅鉢, 2の深鉢の胴部から口縁部の破片, 3の深鉢の口縁部片及び4の深鉢の底部から胴部の破片は覆土から出土している。5~7は深鉢の口縁部片である。5は隆帯により渦巻文が施されている。地文はRLの単節縄文である。6・7は沈線で文様が施されている。8は深鉢の胴部片で, RLの単節縄文を地文とし, 隆帯を巡らしている。波状の沈線を垂下させている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。

第2388号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第392図 1	浅鉢 縄文土器	A 24.4 B 13.0	胴部は外傾して立ち上がる。口縁部には3単位の把手が付く。把手から延びる隆帯により, 把手と把手の間に渦巻文が施されている。渦巻文に至るまでの隆帯には沈線が施されている。胴部は無文である。赤彩痕。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P53 75% PL54 覆土 加曾利E I式
2	深鉢 縄文土器	A [17.0] B (13.5)	胴部から口縁部の破片。胴部はわずかに内彎し, 口縁部は外反する。口縁部は無文で, 口縁部と胴部は円形刺突の施された突起をもつ隆帯で区画されている。胴部はRLの単節縄文を地文に, 蛇行する隆帯に沿って2本の蛇行沈線文及び懸垂文が施されている。	砂粒・長石・スコリア 褐灰色 普通	P54 20% PL54 覆土 加曾利E I式
3	深鉢 縄文土器	B (8.2)	口縁部片。口縁部は内彎する。隆帯を巡らして口縁部文様帯を形成し, RLの単節縄文を地文として2本一組の隆帯を施している。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P55 5% PL54 覆土 加曾利E I式
4	深鉢 縄文土器	B (15.4) C 10.0	底部から胴部の破片。胴部は中位で内彎する。地文はRLの単節縄文である。	砂粒・石英・雲母 スコリア にぶい橙色 普通	P56 30% PL54 覆土 加曾利E I式



第392図 第2388号土坑・出土遺物実測図

第2389号土坑 (第393図)

位置 調査区の南東部, D15j1区。

規模と平面形 径1.40mの円形で, 深さは104cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され, 覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

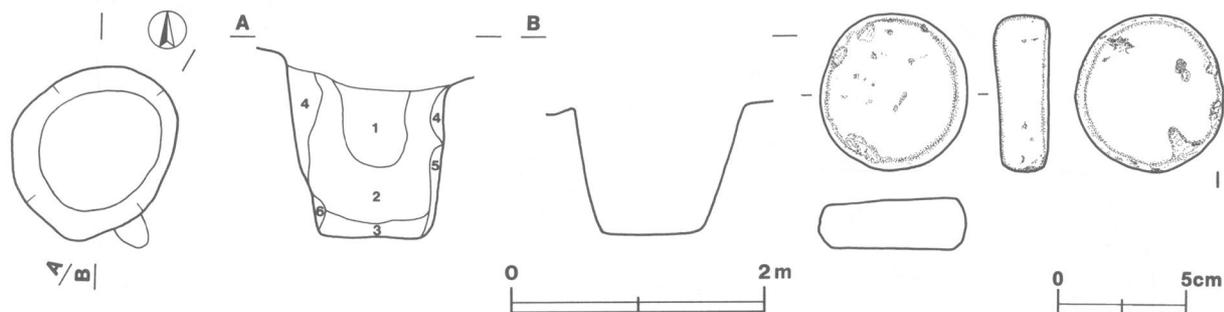
- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, 2層より色調が暗い
- 4 褐色 ローム粒子微量, ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子微量, ロームブロック少量, 4層より色調が明るい
- 6 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量, ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片304点, 磨石1点が出土している。第393図1の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

第2389号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第393図1	磨石	6.3	5.8	2.2	(120.0)	安山岩	Q12 覆土



第393図 第2389号土坑・出土遺物実測図

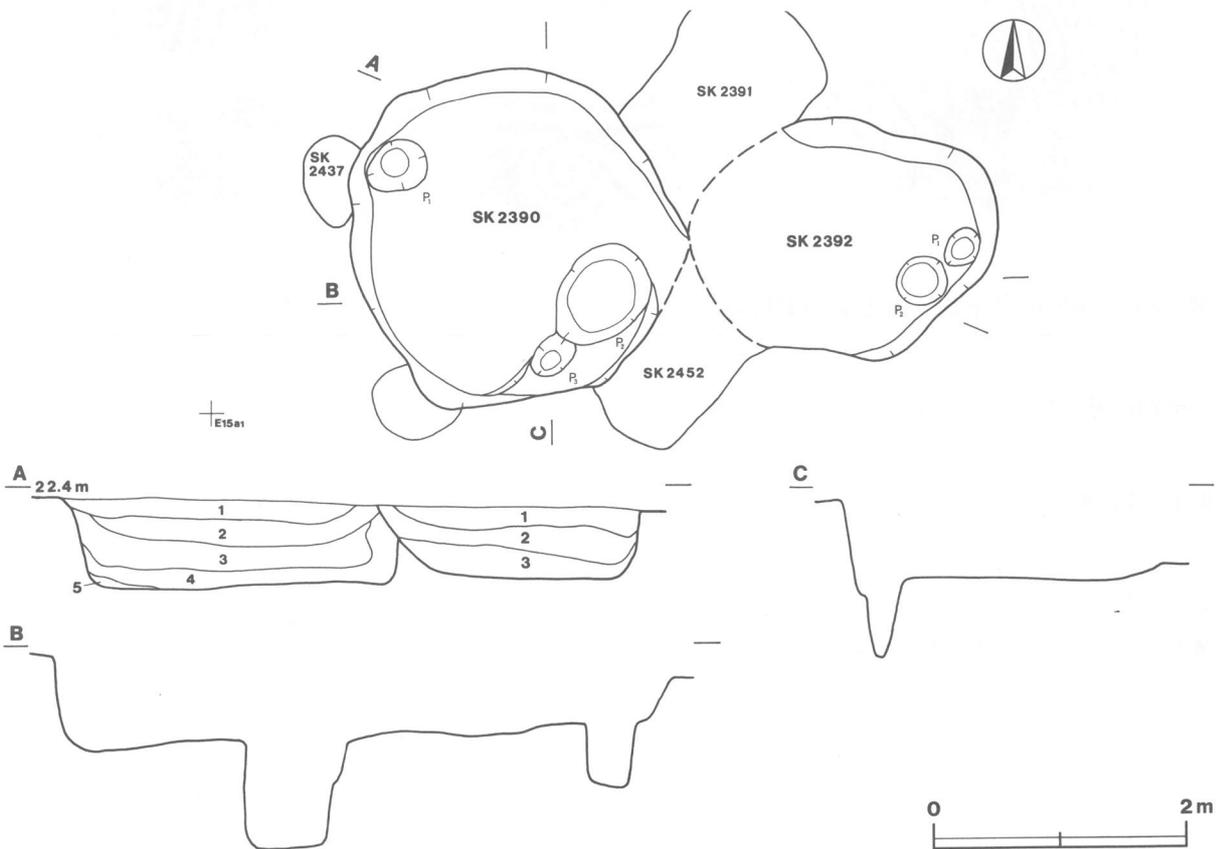
第2390号土坑 (第394図)

位置 調査区の南東部, D15j1区。

重複関係 第2392号土坑に掘り込まれている。東側部分で第2391号土坑, 第2452号土坑と, 西側部分で第2437号土坑とそれぞれ重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.70m, 短径2.57mの楕円形で, 深さは76cmである。

長径方向 N-0°



第394図 第2390・2392号土坑実測図

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

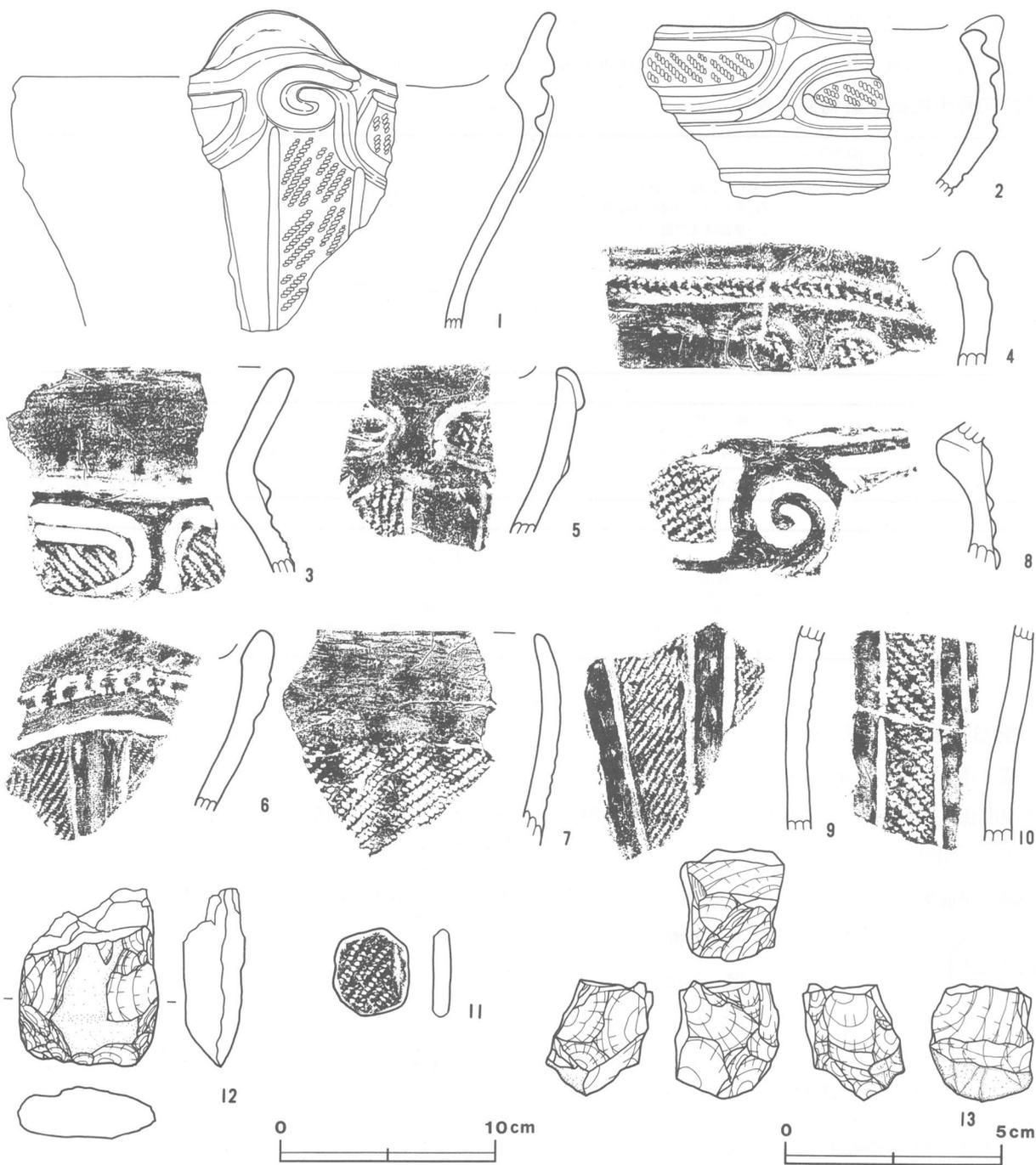
底 平坦である。

ピット 3か所。P₁は北西壁際に位置し、長径50cm、短径42cmの楕円形で、深さは46cmである。P₂は南東壁際に位置し、長径86cm、短径65cmの楕円形で、深さは87cmである。P₃は南壁際に位置し、長径40cm、短径28cmの楕円形で、深さは68cmである。

覆土 5層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量、ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量



第395図 第2390号土坑出土遺物実測図

遺物 縄文土器片932点、土器片円盤1点、打製石斧1点、石核1点が出土している。第395図1・2の深鉢の口縁部片、11の土器片円盤、12の打製石斧及び13の石核は覆土から出土している。3・8は鉢の口縁部片である。3は隆帯による長方形区画文内にR Lの単節縄文が施されている。8は隆帯で渦巻文及び長方形区画文が施され、区画内にはR Lの単節縄文が施されている。4～7は深鉢の口縁部から胴部の破片である。4は口唇部直下に半截竹管による刺突文が施されている。胴部は沈線による逆U字状文内に複節文を充填している。5は隆帯で楕円区画文が施され、区画内にはR Lの単節縄文が施されている。胴部はR Lの単節縄文を地文に沈線の磨消懸垂文が施されている。6は波状口縁で、半截竹管による瓜形文を巡らしている。胴部はR Lの単節縄文を地文に2本単位の沈線を垂下させ、幅広の沈線間を磨り消している。7はR Lの単節縄文を施している。9・10は深鉢の胴部片である。9はR Lの単節縄文を地文に2本沈線の磨消懸垂文が施されている。10は複節縄文を地文に沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。

第2390号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第395図1	深鉢縄文土器	A [23.4] B (15.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。波状口縁。波頂部に突起をもつ。口縁部は隆線と沈線で渦巻文及び区画文を描き、区画内にR Lの単節縄文が施されている。胴部はR Lの単節縄文を地文に、2本沈線による幅広の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・長石・スコリアにぶい褐色	P57 5% 覆土 加曾利EⅡ式
2	深鉢縄文土器	B (8.5)	口縁部片。口縁部には沈線及び隆帯による区画文が施され、隆帯は口縁端部で突起をもつ。区画内にはR Lの単節縄文が施されている。	砂粒・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P58 10% PL54 覆土 加曾利EⅡ式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第395図11	土器片円盤	4.1	3.6	0.7	(16.0)	95	沈線及び単節縄文R L。	D P13 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第395図12	打製石斧	(8.3)	6.5	2.8	(164.0)	砂岩	Q13 覆土
13	石核	2.7	2.4	2.5	(19.0)	チャート	Q14 覆土

第2392号土坑（第394図）

位置 調査区の南東部、D15j2区。

重複関係 第2391号土坑を掘り込んでいる。西側部分で第2390号土坑、第2452号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

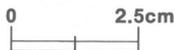
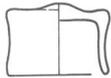
規模と平面形 長径[2.45]m、短径[2.00]mの楕円形と推定され、深さは45cmである。



長径方向 N-5°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。



ピット 2か所。P1は東壁際に位置し、長径33cm、短径25cmの楕円形で、深さは11cmである。P2は南東壁際に位置し、径42cmの円形で、深さは51cmである。

第396図 第2392号土坑出土遺物実測図

覆土 3層に分層され、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色 ローム粒子・炭化物少量

2 褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化物微量

3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片129点, 土製耳飾り1点が出土している。第396図1の土製耳飾りは覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期から晩期と考えられる。

第2392号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第396図1	土製耳飾り	2.0	2.0	1.4	(3.0)	95	白状。弧線。	DP14 覆土

第2394号土坑 (第397図)

位置 調査区の南東部, D14h0区。

重複関係 第424号住居跡の北壁を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.45mの円形で, 深さは119cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 8層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

5 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量

2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子多量

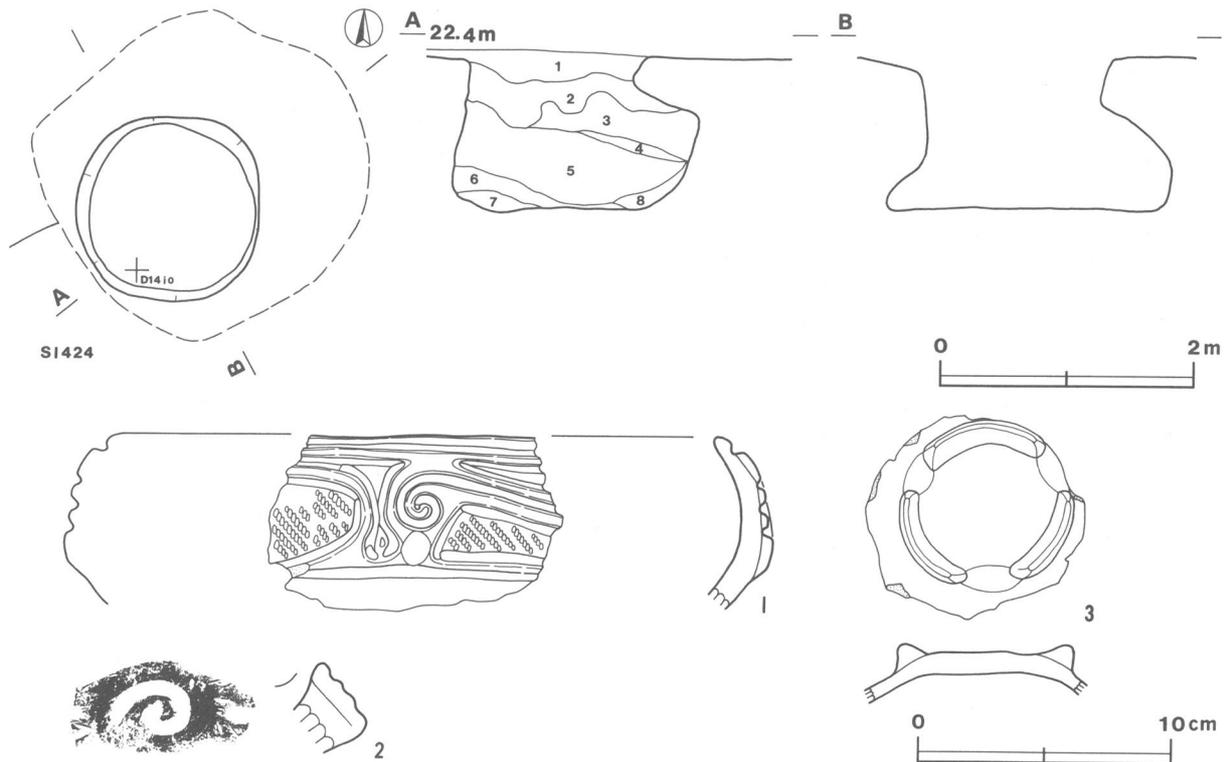
3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

7 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量

4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

8 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量

遺物 縄文土器片170点及び土製蓋が出土している。第397図1の深鉢の口縁部片及び3の蓋は覆土から出土している。2は深鉢の口縁部片で, 沈線による渦巻文が施されている。



第397図 第2394号土坑・出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。

第2394号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第397図 1	深鉢 縄文土器	A [23.2] B (6.9)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には隆帯と沈線による区画文及び渦巻文が施されている。区画内には、RLの単節縄文が充填されている。以下は無文である。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P59 5% PL54 覆土 加曾利E I 式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第397図3	土製蓋	(8.2)	—	(1.9)	(73.0)	60	3本の隆帯を貼り付けた把手。赤彩痕。	D P 39 覆土

第2396号土坑（第398・399図）

位置 調査区の南東部，D14g8区。

重複関係 南側部分で第2397号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径3.05m，短径2.62mで，不定形で，深さは61cmである。

長径方向 N-44°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

ピット 4か所。P₁は中央部に位置し，径28cmの円形で，深さは42cmである。P₂は南西壁際に位置し，径47cmの円形で，深さは65cmである。P₃は北西壁際に位置し，長径86cm，短径69cmの楕円形で，深さは31cmである。P₄は北側に位置し，径32cmの円形で，深さは9cmである。

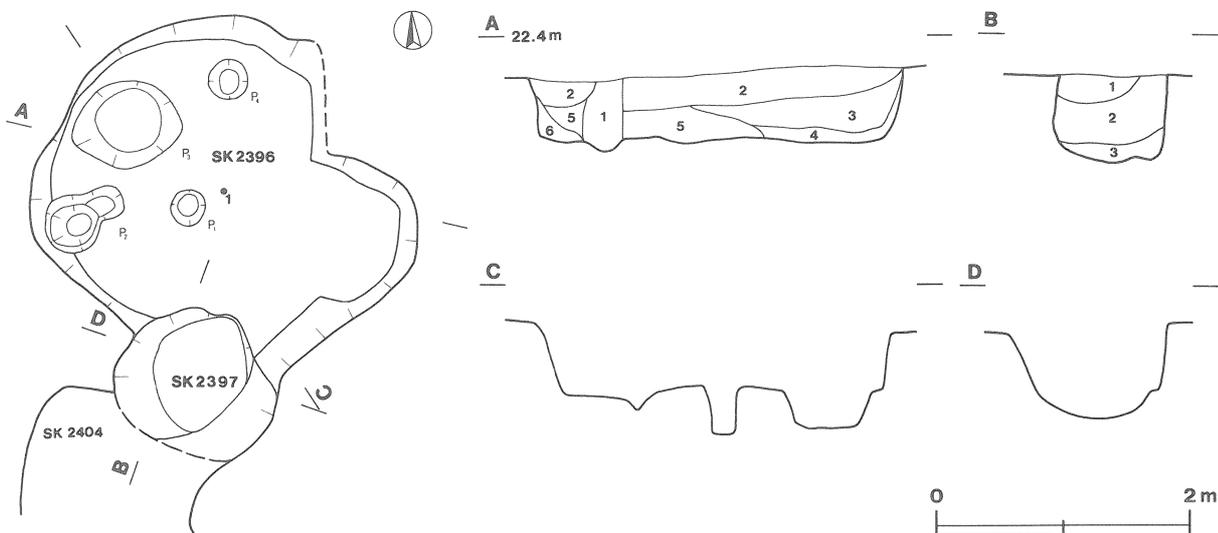
覆土 6層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子・炭化物少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子・ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ロームブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子・ロームブロック中量 |

遺物 縄文土器片27点が出土している。第399図1の鉢の底部から胴部の破片は覆土から出土している。2は微隆起線文及びRLの単節縄文が施されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E III 式期）と考えられる。



第398図 第2396・2397号土坑実測図

第2396号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1	鉢 縄文土器	B (12.7) C (11.4)	底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。地文はR Lの単節縄文である。	砂粒・長石・石英・ 雲母 にぶい黄褐色 普通	P61 10% PL55 覆土 加曽利EⅢ式



第399図 第2396号土坑出土遺物実測図

第2397号土坑 (第398・400図)

位置 調査区の南東部, D14 g8 区。

重複関係 北側部分で第2396号土坑と重複し, 南西側部分で第2404号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.04mの円形と推定され, 深さは75cmである。

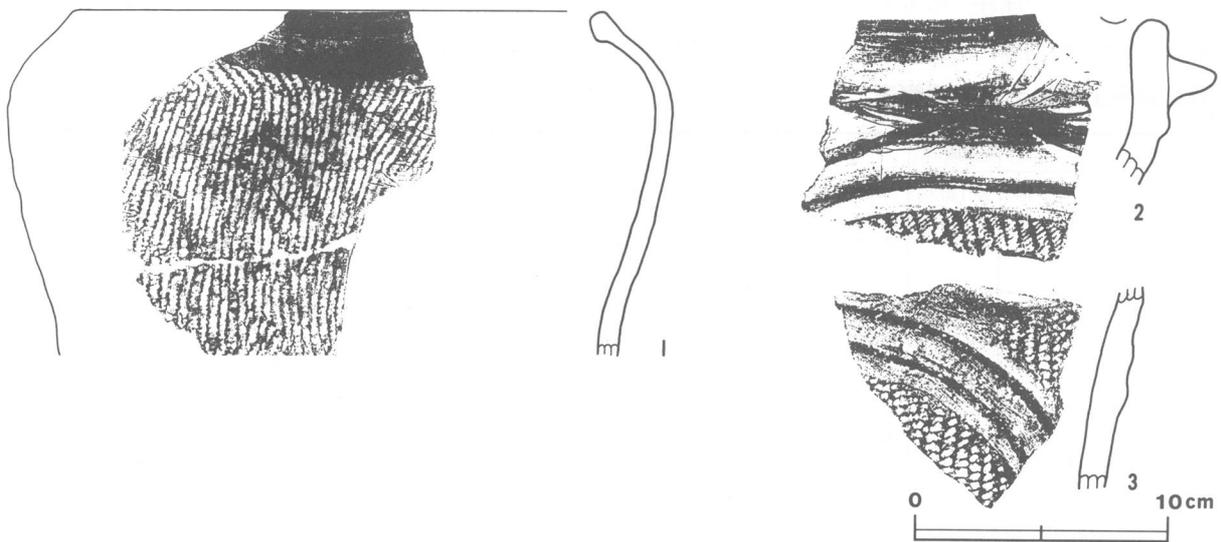
壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 3層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量



第400図 第2397号土坑出土遺物実測図

遺物 縄文土器片267点、不明土製品3点が出土している。第400図1の深鉢は覆土から出土している。2は深鉢の口縁部片で、幅広の沈線及び断面三角形の隆帯が施されている。縄文はRLの単節縄文である。3は深鉢の胴部片で、RLの単節縄文を地文に微隆起線文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第2397号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 1	深鉢 縄文土器	A [21.0] B (13.3)	胴部から口縁部の破片。胴部上位は内彎する。地文はRLの単節縄文で、口縁部は縄文を磨り消している。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P62 10% PL55 覆土 加曾利EⅢ式

第2399号土坑（第401図）

位置 調査区の南東部，D14g9区。

重複関係 北東部分で第2421号土坑，東側部分で第2420号土坑，南東部分で第2401号土坑とそれぞれ重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.96mの円形で，深さは44cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 6か所。P₁は北壁際に位置し，長径57cm，短径46cmの楕円形で，深さは85cmである。P₂は北側に位置し，径50cmの円形で，深さは44cmである。P₃は東壁際に位置し，長径51cm，短径45cmの楕円形で，深さは16cmである。P₄は南東壁際に位置し，長径67cm，短径32cmの楕円形で，深さは26cmである。P₅は南側に位置し，長径53cm，短径38cmの楕円形で，深さは59cmである。P₆は南壁を掘り込み，径48cmの円形である。

覆土 4層に分層され，覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム大ブロック多量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム大ブロック多量

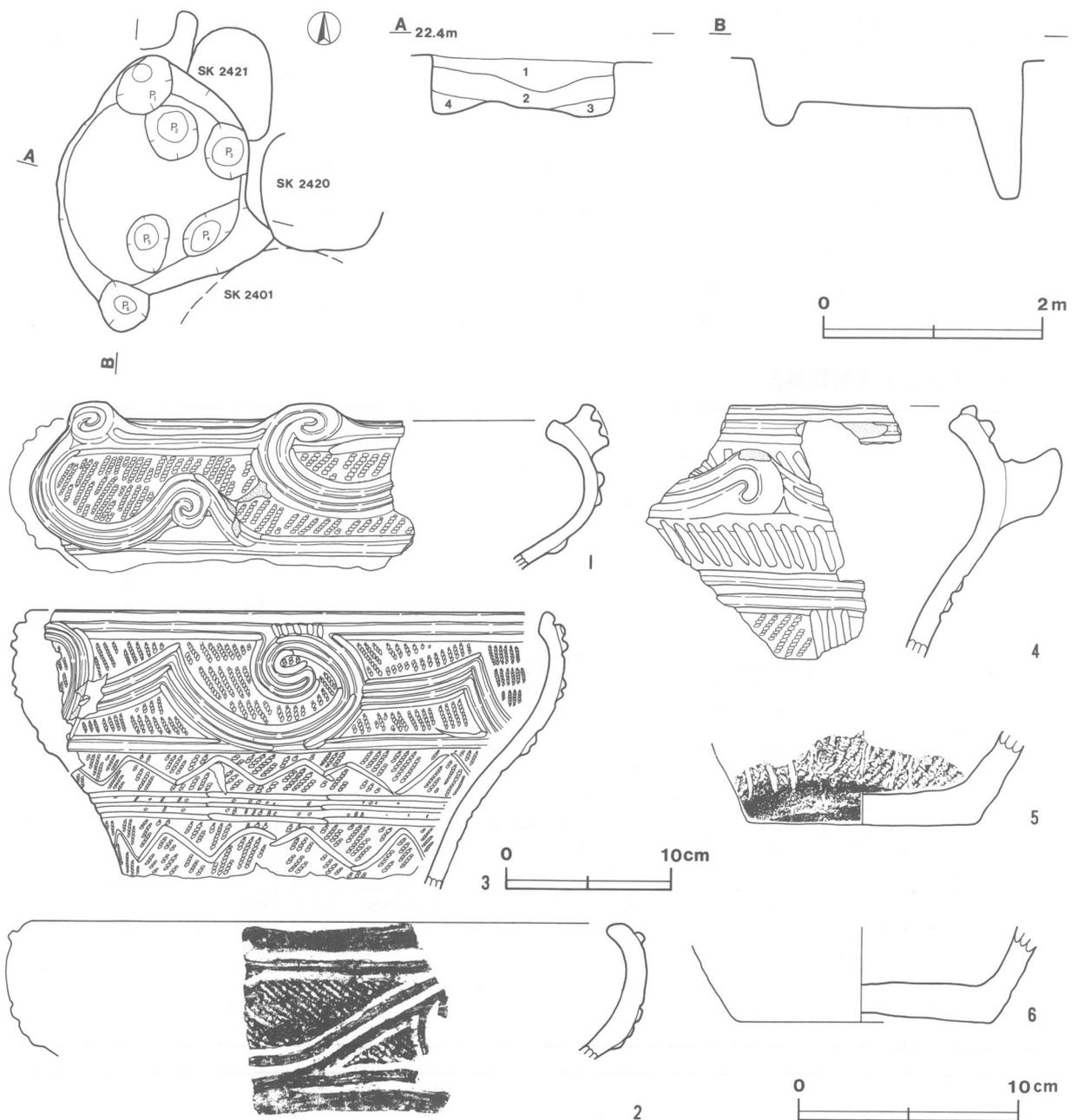
遺物 縄文土器片134点が出土している。第401図1・2の深鉢の口縁部片，3・4の深鉢の胴部から口縁部の破片及び5・6の深鉢の底部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。

第2399号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 1	深鉢 縄文土器	A [30.0] B (10.1)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部は隆帯及び沈線で渦巻文及び区画文を描き，区画内にRLの単節縄文が施されている。口縁端部に施された渦巻文は，肉厚で突出する。頸部は無文である。	砂粒・長石・石英 雲母 にぶい褐色 普通	P63 5% 覆土 加曾利EⅠ式
2	深鉢 縄文土器	A [35.2] B (8.3)	口縁部片。隆帯及び沈線による区画文が施され，区画内には無節縄文が充填されている。頸部は無文である。	砂粒・長石・スコリア にぶい赤褐色 普通	P65 10% PL55 覆土 加曾利EⅠ式
3	深鉢 縄文土器	A [31.0] B (17.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部には2本1組の隆帯で区画文及び渦巻文が施され，区画内にRLの単節縄文が充填されている。渦巻文直上の隆帯にはキザミが施されている。胴はRLの単節縄文を地文に山形沈線文及び横位の沈線が施されている。	砂粒 橙色 普通	P64 30% PL55 覆土 加曾利EⅠ式

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 4	深鉢 縄文土器	B (11.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部に沈線による渦巻文が施された突起を有し、地文として沈線が斜位に施されている。口縁部と胴部は2本の沈線で区画され、胴部はR Lの単節縄文を地文に沈線を垂下させている。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	P66 10% PL55 覆土 加曾利E I式
5	深鉢 縄文土器	B (4.5) C 10.4	底部片。L Rの単節縄文を地文に縦位の沈線が施されている。	砂粒・石英・スコリア 橙色 普通	P67 15% PL55 覆土 加曾利E I式
6	深鉢 縄文土器	B (3.5) C 11.6	底部片。外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P68 5% PL55 覆土 加曾利E I式



第401図 第2399号土坑・出土遺物実測図

第2401号土坑（第402・403図）

位置 調査区の南東部，D14g9区。

重複関係 南側部分で第2375号土坑と接しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.46m，短径2.00mの楕円形で，深さは120cmである。

長径方向 N-85°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され，覆土の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ローム小ブロック多量
3 褐色	ローム少ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量	6 褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量

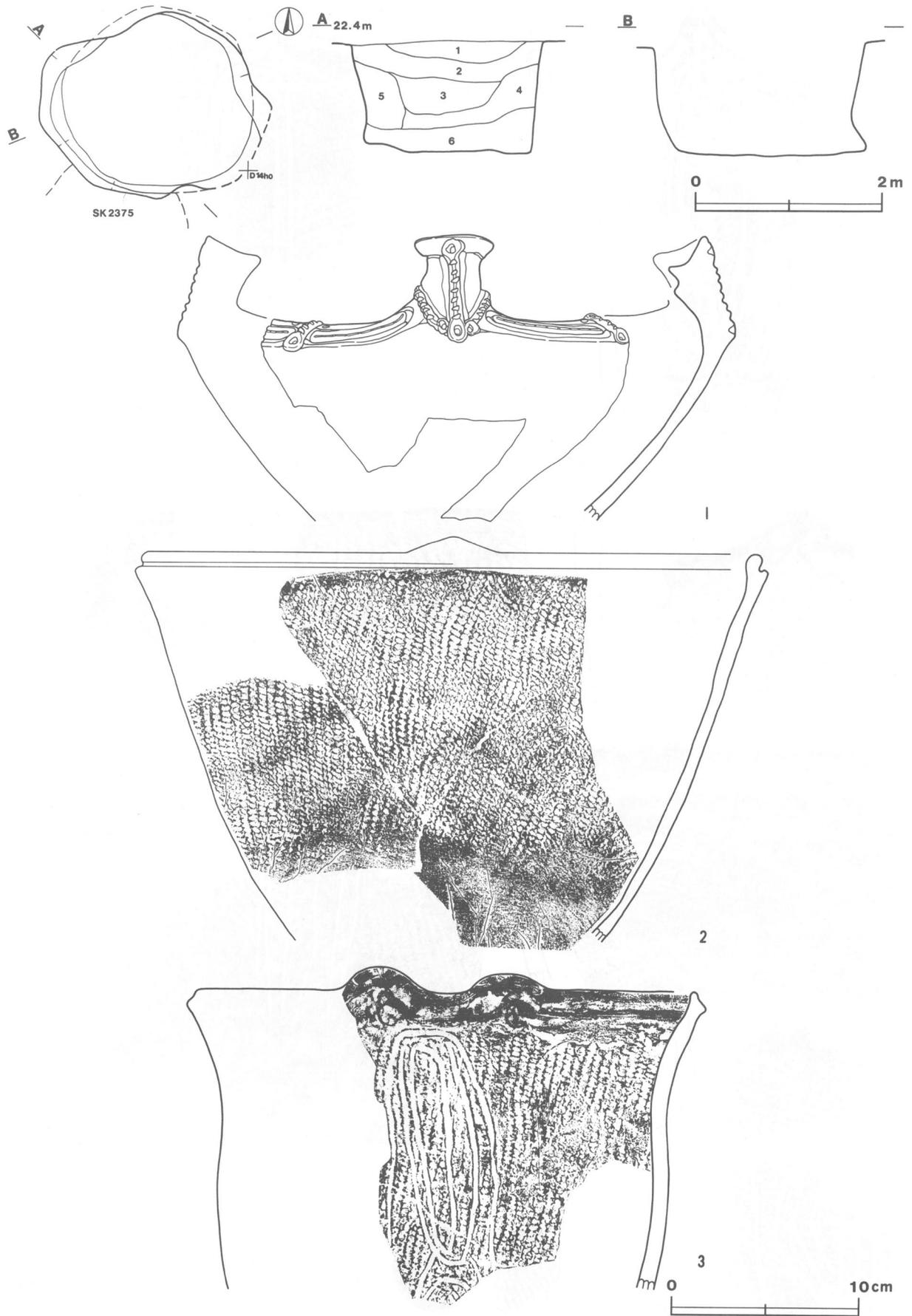
遺物 縄文土器片598点，土器片円盤1点，獣骨片が出土している。1・2の鉢形土器の胴部から口縁部の破片，3～5の深鉢の胴部から口縁部の破片，6・7の深鉢の底部片及び15の土器片円盤は覆土から出土している。8～12は深鉢の口縁部片である。8は波状口縁で，地文はLRの単節縄文である。8は混入したものである。9は条線が横位，縦位あるいは斜位に施されている。10はLRの単節縄文が地文で，補修孔が見られる。11はLRの単節縄文を地文に沈線が施されている。12は波状口縁で，地文はLRの単節縄文である。13・14は深鉢の胴部片で，LRの単節縄文を地文に沈線が施されている。15は土器片円盤である。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内I式期）と考えられる。

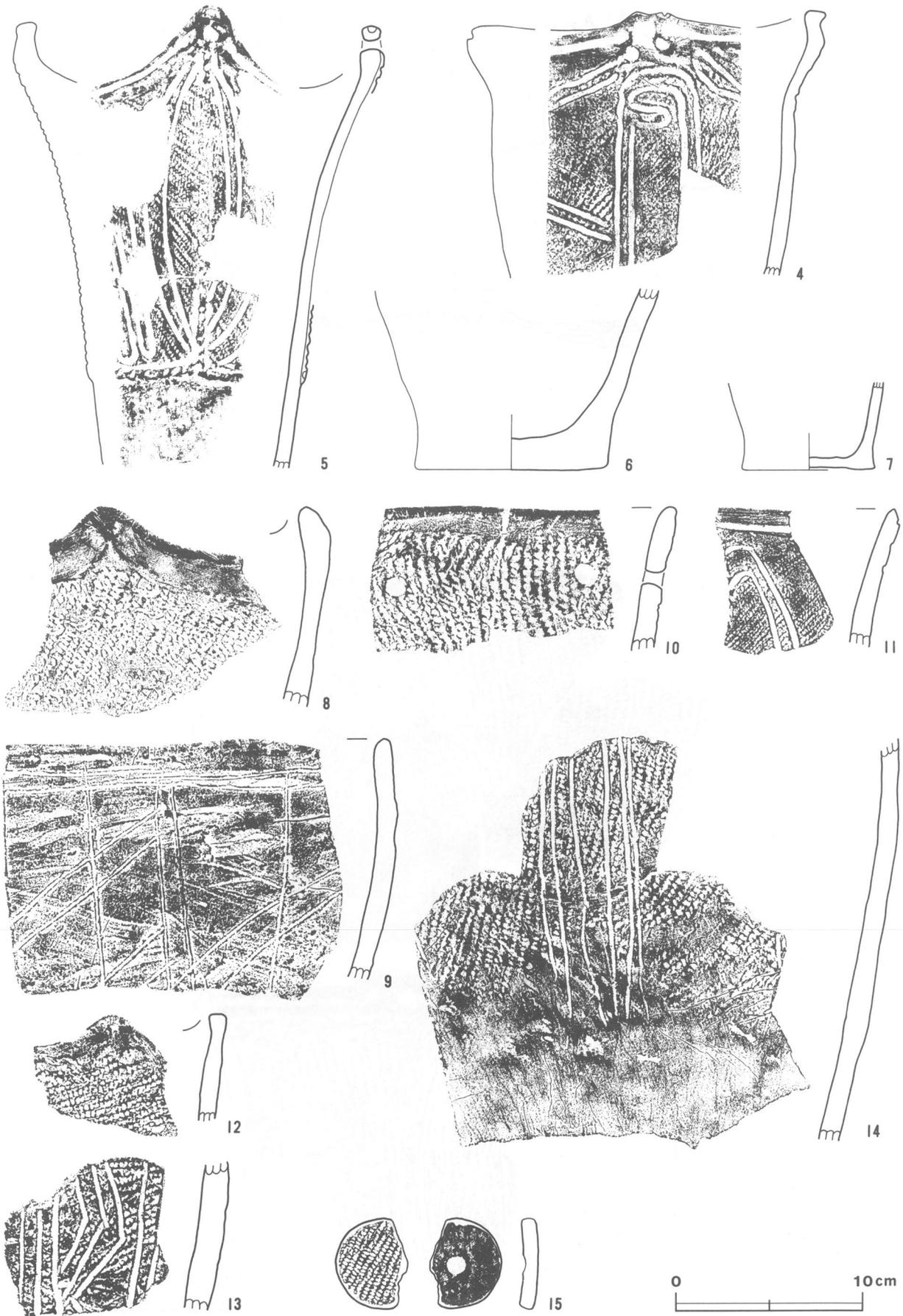
第2401号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第402図 1	深鉢 縄文土器	A [26.6] B (15.4)	口縁部から胴部の破片。波状口縁。波頂部に突起を有し，突起には円形刺突文とキザミが付く隆帯が施されている。口縁部はくの字状に内側に折れ曲がる。口縁部には沈線による長楕円形区画内に押し引き刺突文が施されている。胴部は無文である。	砂粒・スコリア にぶい橙色 にぶい褐	P69 5% 覆土 堀之内I式
2	深鉢 縄文土器	A [32.4] B (21.0)	胴部から口縁部の破片。胴部はわずかに内彎する。口縁端部には沈線が施されている。地文はLRの単節縄文である。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P73 20% PL55 覆土 堀之内I式
3	深鉢 縄文土器	A [26.4] B (16.8)	胴部から口縁部の破片。胴部中位はわずかに内彎する。口縁部は外反する。口縁部に突起を有し，口縁端部に施された断面三角形の隆帯とつながる部分に円形刺突文が施されている。胴部はLRの単節縄文を地文に，長方形の沈線文が施されている。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P72 20% PL55 覆土 堀之内I式
第403図 4	深鉢 縄文土器	A [19.0] B (14.6)	胴部から口縁部の破片。小突起を有し，口縁端部には沈線が施され，小突起の下に円形刺突文が施されている。胴部はLRの単節縄文を地文に，蕨手文懸垂文及び斜位の沈線が施されている。	砂粒 暗赤褐色 普通	P70 15% PL55 覆土 堀之内I式
5	深鉢 縄文土器	A [18.1] B (24.1)	胴部から口縁部の破片。波状口縁。波頂部直下に孔をもち，口縁端部に沈線が施されている。胴部にはRLの単節縄文を地文に，キザミを有する隆帯及び沈線による文様が施されている。	砂粒・石英・長石 灰黄褐色 普通	P71 15% PL55 覆土 堀之内I式
6	深鉢 縄文土器	B (9.8) C 10.2	底部から胴部の破片。底部はわずかに横に突出し，胴部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P74 10% PL55 覆土 堀之内I式
7	深鉢 縄文土器	B (4.7) C 7.0	底部から胴部の破片。底部はわずかに横に突出し，胴部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・スコリア 明赤褐色 普通	P75 10% PL55 覆土 堀之内I式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の 特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第403図15	土器片円盤	4.9	3.8	0.8	(19.0)	95	単節縄文LR。	DP15 覆土



第402图 第2401号土坑·出土遗物实测图(1)



第403图 第2401号土坑出土遗物实测图(2)

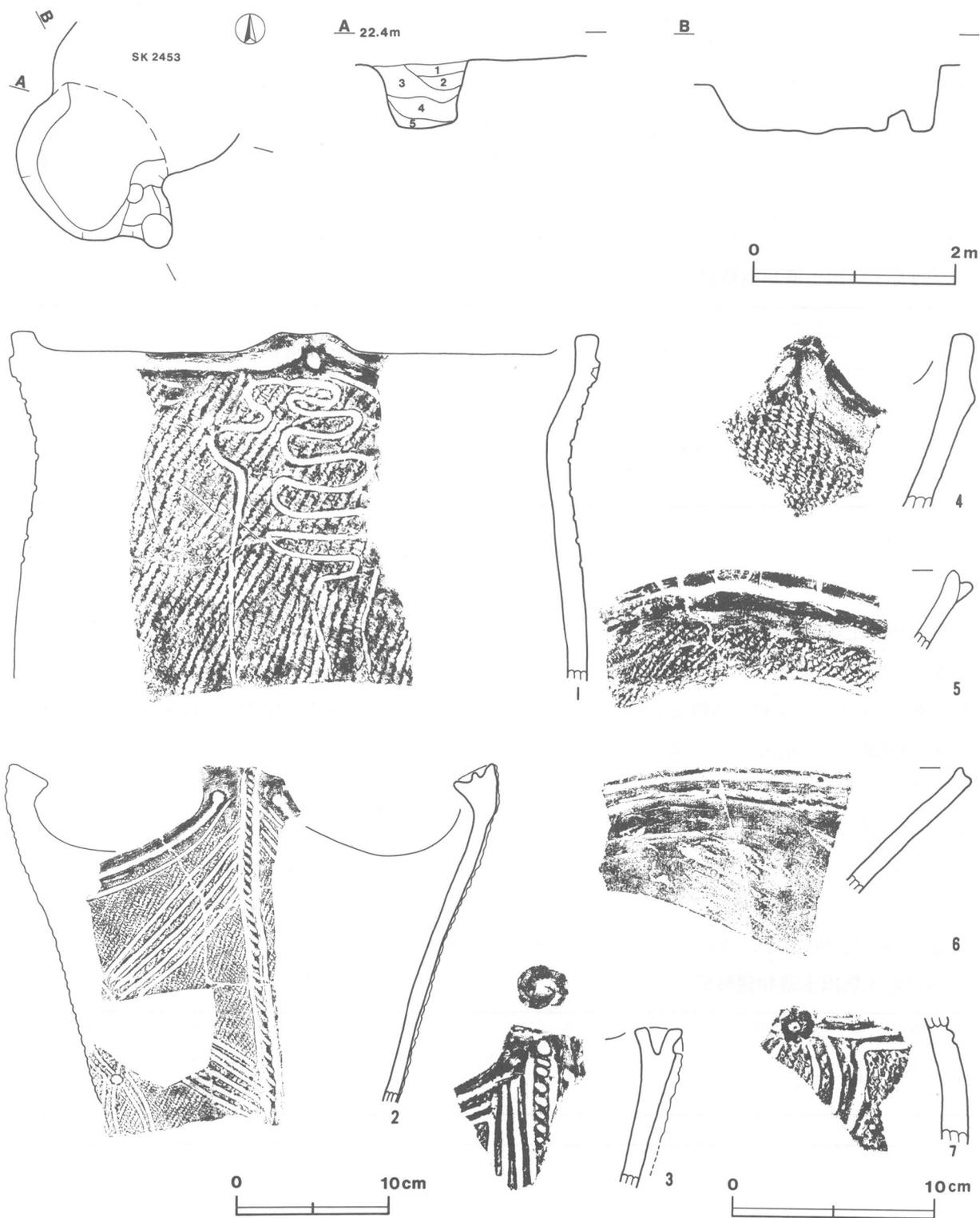
第2408号土坑 (第404図)

位置 調査区の南東部, D14f8区。

重複関係 北側部分で第2453号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.53m, 短径[1.13]mの楕円形と推定され, 深さは85cmである。

長径方向 N-47°-E



第404図 第2408号土坑・出土遺物実測図

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

覆土 5層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック(1層よりやや大きめ)・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化物微量

遺物 縄文土器片308点が出土している。第404図1・2の深鉢の口縁部は覆土から出土している。3～5は深鉢の口縁部片である。3は波状口縁の波頂部で、LRの単節縄文を地文に沈線及びギザミをもつ隆帯が垂下している。4・5は混入したもので、LRの単節縄文が施されている。6は無文の浅鉢で、口唇部に浅い沈線が施されている。7は深鉢の胴部片で、LRの単節縄文を地文に沈線及び円形の突起が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉(堀之内I式期)と考えられる。

第2408号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第404図 1	深鉢 縄文土器	A [29.0] B (17.4)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。口縁部には小突起を有し、突起下には円形刺突文が施されている。胴部にはLRの単節縄文を地文に蛇行沈線が施されている。	砂粒・雲母 に い い 橙 色 普 通	P76 10% PL56 覆土 堀之内I式
2	深鉢 縄文土器	A [32.0] B (22.7)	胴部から口縁部の破片。波状口縁。頂部に渦巻文が施された突起を有し、口縁端部に沈線及び円形刺突文を有する沈線が施されている。胴部にはLRの単節縄文を地文にギザミをもつ隆帯が貼られ、沈線が斜位に施されている。	砂粒 に い い 橙 色 普 通	P76 10% PL56 覆土 堀之内I式

第2415号土坑(第405図)

位置 調査区の南東部、D14g0区。

重複関係 第429号住居跡の西側部分を掘り込み、南東部分を第2435号土坑と第2463号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 径1.60mの円形と推定され、深さは33cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

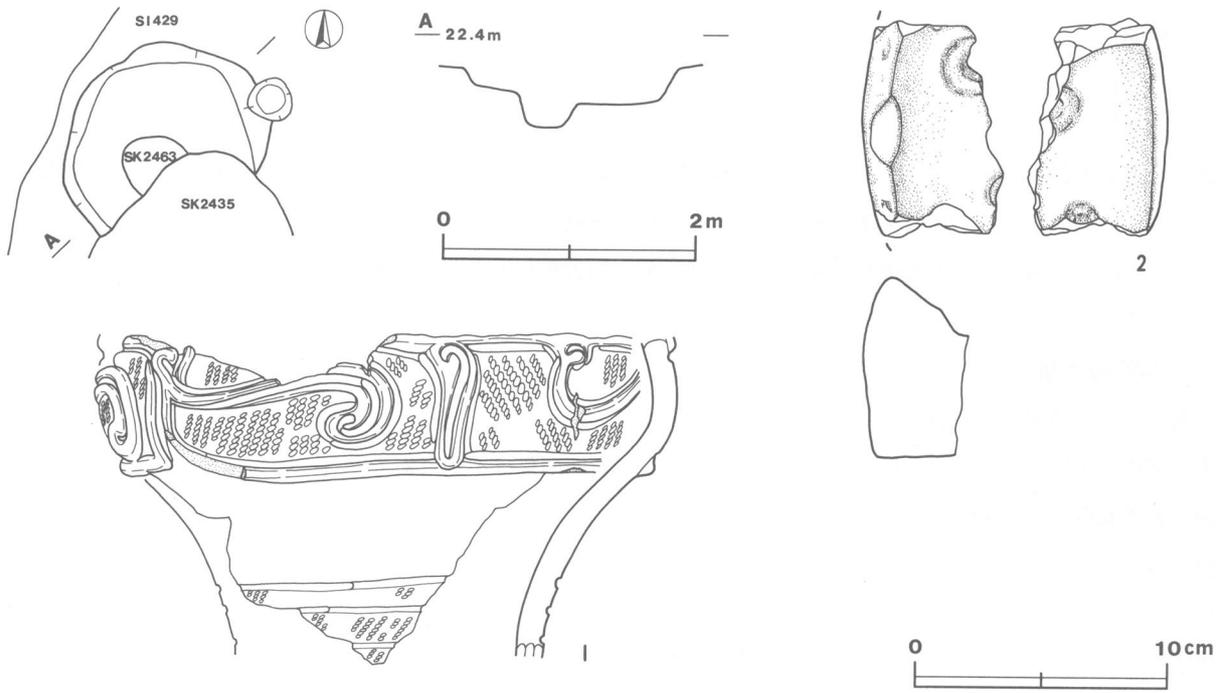
遺物 縄文土器片4点、石皿片1点、獣骨片が出土している。第405図1の深鉢の口縁部片及び2の石皿片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。

第2415号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第405図 1	深鉢 縄文土器	B (13.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部は隆線及び沈線で渦巻文及び区画文を描き、区画内にRLの単節縄文が施されている。頭部は無文で、胴部にはRL単節縄文を地文に横位の沈線が施されている。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P78 20% PL56 覆土 加曾利E I式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)		
第405図2	石皿	8.6	7.2	5.6	(344.0)	安山岩	Q15 覆土 凹石兼用



第405図 第2415号土坑・出土遺物実測図

第2418号土坑（第406図）

位置 調査区の南東部，D14h8区。

重複関係 北西部で第2417号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

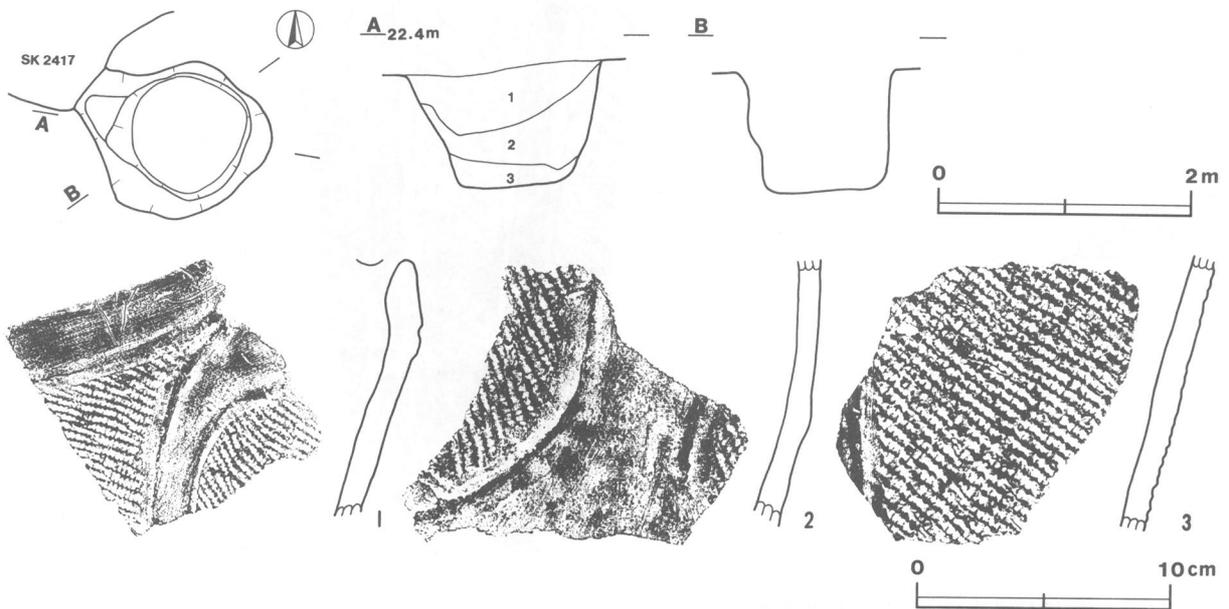
規模と平面形 長径1.50m，短径1.28mの不整楕円形で，深さは98cmである。

長径方向 N-70°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。



第406図 第2418号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子・ロームブロック中量

遺物 縄文土器片59点が出土している。第406図1は深鉢の口縁部片で、RLの単節縄文を地文とし、微隆起線文が施されている。2・3は深鉢の胴部片で、LRの単節縄文を地文とし、微隆起線文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅣ式期）と考えられる。

第2427号土坑（第407図）

位置 調査区の南東部，D14f0区。

重複関係 東側部分で第2470号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 径0.76mの円形で、深さは28cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 2層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

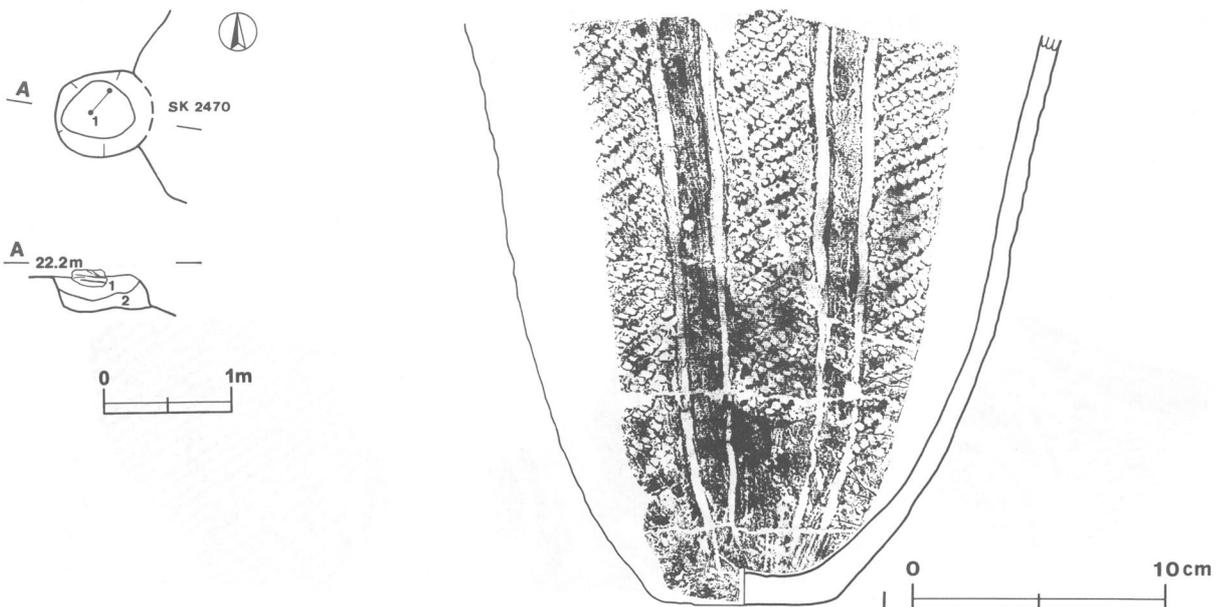
- 1 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片2点が出土している。第407図1の深鉢の底部から胴部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。

第2427号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第407図 1	深鉢 縄文土器	A [23.5] B (23.1)	底部から胴部の破片。底部は小さく、胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。胴部はRLの単節縄文を地文に、2本沈線の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P79 60% PL56 覆土 加曾利EⅡ式



第407図 第2427号土坑・出土遺物実測図

第2429号土坑（第408図）

位置 調査区の南東部，D15h2区。

重複関係 第2506号土坑を掘り込んでいる。北側部分で第2477号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径0.96m，短径0.85mの楕円形で，深さは96cmである。

長径方向 N-48°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

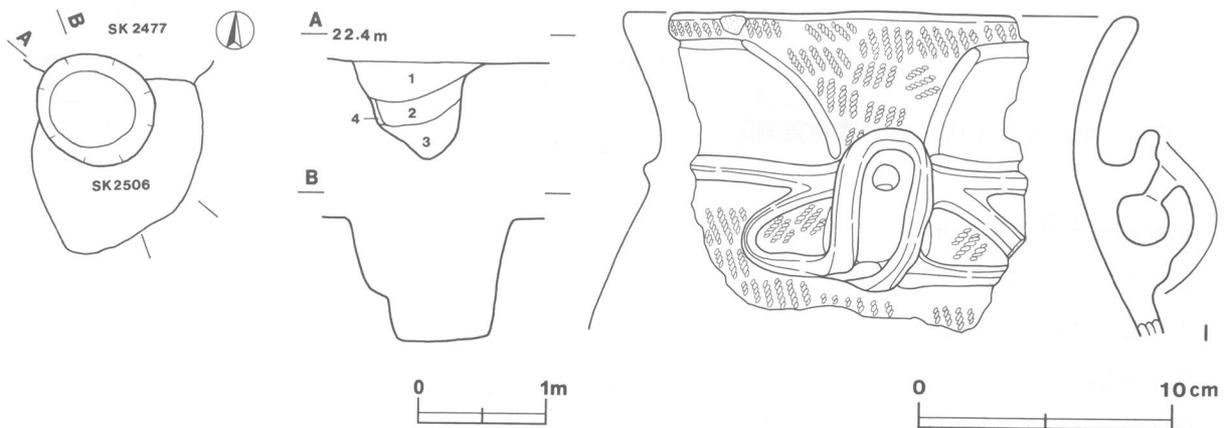
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子・ロームブロック多量

遺物 縄文土器片35点が出土している。第408図1の広口壺の口縁部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EIV式期）と考えられる。

第2429号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	広口壺 縄文土器	A (20.4) B (12.7)	胴部から口縁部の破片。頸部はくびれている。地文はRLの単節縄文で，口縁部に沈線による磨消部を作っている。口縁部と胴部は隆帯により区画され，隆帯は頸部の環状把手につながる。把手には孔があり，微隆起線による区画文が施されている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P80 10% PL56 覆土 加曾利EIV式



第408図 第2429号土坑・出土遺物実測図

第2432号土坑（第409図）

位置 調査区の南東部，D14j0区。

重複関係 第422号住居跡の東側部分を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.86m，短径0.90mの不定形で，深さは106cmである。

長径方向 N-26°-W

壁 段状である。

底 平坦である。

ピット 1か所。P₁は北西部に位置し，長径50cm，短径36cmの楕円形で，深さは75cmである。

覆土 3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

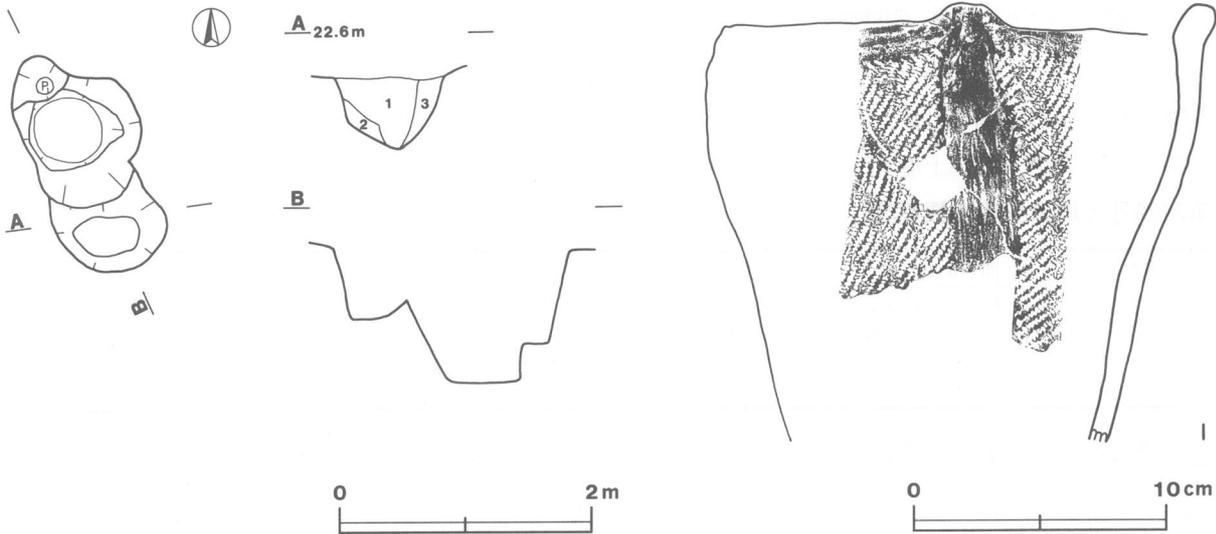
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子・ロームブロック多量

遺物 縄文土器片66点が出土している。第409図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E IV式期）と考えられる。

第2432号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	深鉢 縄文土器	A [18.8] B (17.4)	胴部から口縁部の破片。胴部のくびれは弱い。小波状口縁で、口縁部に無文帯をもつ。小波頂部から、微隆起線による幅広の磨消懸垂文が施されている。地文はRLの単節縄文である。	砂粒・スコリア にぶい赤褐色 普通	P81 30% PL56 覆土 加曾利E IV式



第409図 第2432号土坑・出土遺物実測図

第2433号土坑（第410図）

位置 調査区の南東部，D15g2区

重複関係 東側部分で第2441号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径0.95m，短径〔0.77〕mの楕円形と推定され、深さは64cmである。

長径方向 N-69°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 4層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，炭化物中量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ロームブロック中量

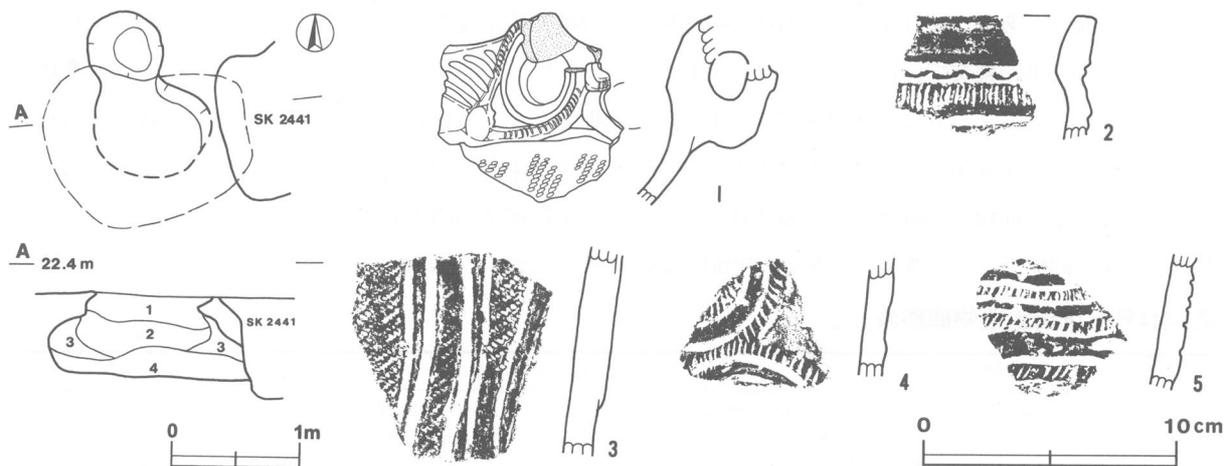
遺物 縄文土器片176点が出土している。第410図1は深鉢の把手を有する口縁部片で、覆土から出土している。

2は深鉢の口縁部片で、交互刺突文が施されている。3～5は深鉢の胴部片である。3はRLの単節縄文を地文に沈線及び隆帯による懸垂文が施され、隆帯上にもRLの単節縄文の縄文が充填されている。4は隆帯にキザミが施され、隆帯に沿って沈線が施されている。5は横位の沈線間にキザミが施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2433号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第410図 1	深鉢 縄文土器	B (7.7)	眼鏡状把手を有する口縁部片。孔に沿ってキザミ及び沈線が施されている。 地文はR Lの単節縄文である。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P 382 2% 覆土 中峠式



第410図 第2433号土坑・出土遺物実測図

第2444号土坑 (第411・412図)

位置 調査区の南東部, D15g2区。

重複関係 第2445号土坑に掘り込まれている。南東部分で第2443号土坑, 第2447号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

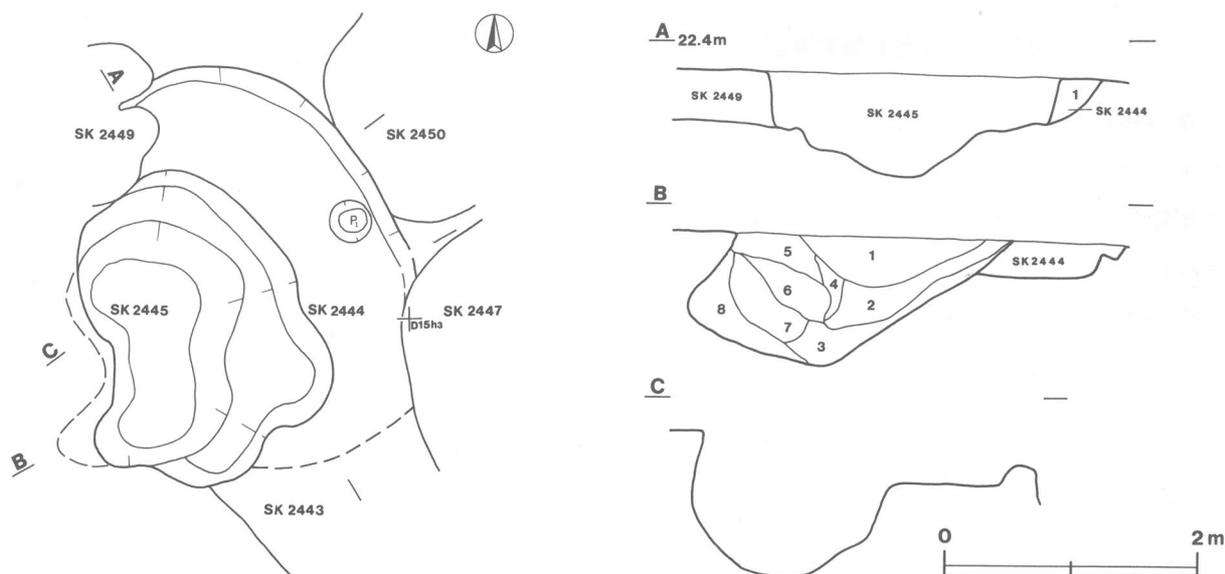
規模と平面形 径[2.30]mの円形と推定され, 深さは30cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 1か所。P1は東壁際に位置し, 径38cmの円形で, 深さは41cmである。

覆土 1層である。



第411図 第2444・2445号土坑実測図

土層解説

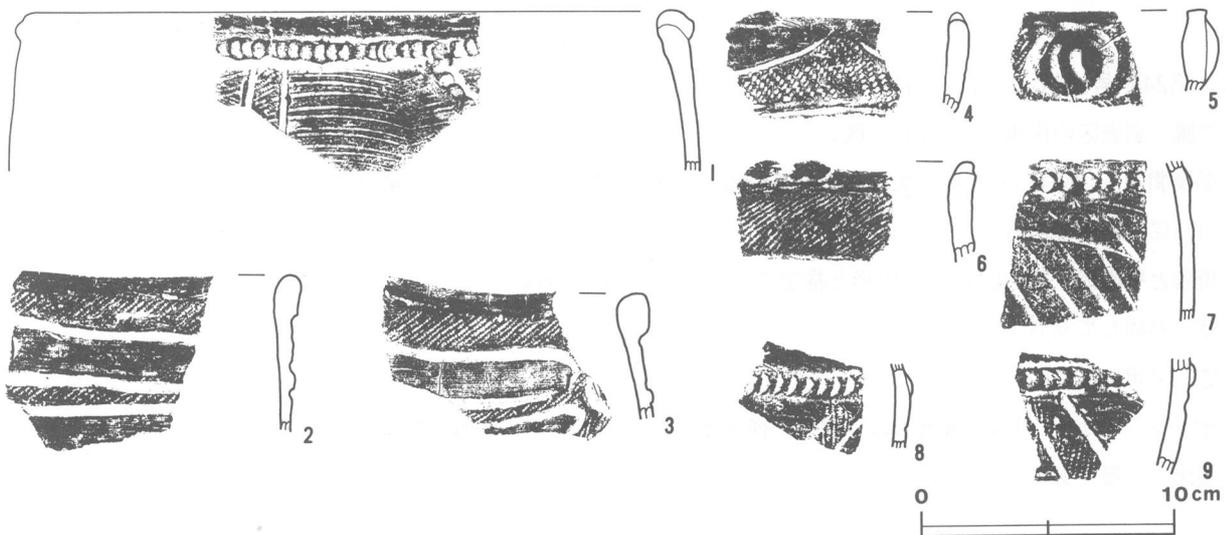
1 褐色 ロームブロック多量

遺物 縄文土器片526点が出土している。第412図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。2～6は深鉢の口縁部片である。2・3はLRの単節縄文の隆起手法の縄文帯に沿って浅い沈線が施されている。4・6は混入した可能性がある。4はRLの単節縄文の沈線手法の縄文帯が施され、口唇部にコブ状突起が付されている。6はLRの単節縄文で、口唇部にコブ状突起が付されている。5はRLの単節縄文で、大形のブタ鼻状突起が付されている。7～9は深鉢の胴部片である。7は押圧文をもつ紐線文が施され、以下に条線文が斜行している。8は押圧文をもつ紐線文が施され、以下にLRの単節縄文の沈線手法による帯縄文が施されている。9は押圧文をもつ紐線文が施され、沈線手法によるRLの単節縄文の縄文帯及び条線文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期後葉（安行2式期）と考えられる。

第2444号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1	深鉢 縄文土器	A [33.0] B (8.5)	口縁部片。口縁部に押圧文を有する紐線文が貼り付けられている。胴部には横位の条線文及び2本単位の沈線文が施され、沈線間にRLの単節縄文が充填されている。	砂粒・スコリア 褐色 普通	P83 10% 覆土 安行2式



第412図 第2444号土坑出土遺物実測図

第2445号土坑（第411・413図）

位置 調査区の南東部，D15g2区。

重複関係 第2444号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.95m，短径0.91mの不定形で，深さは120cmである。

長径方向 N-90°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 8層に分層され，覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|------|----------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック少量，6層より色調が明るい |
| 4 褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色 | ロームブロック微量，7層より色調が明るい |

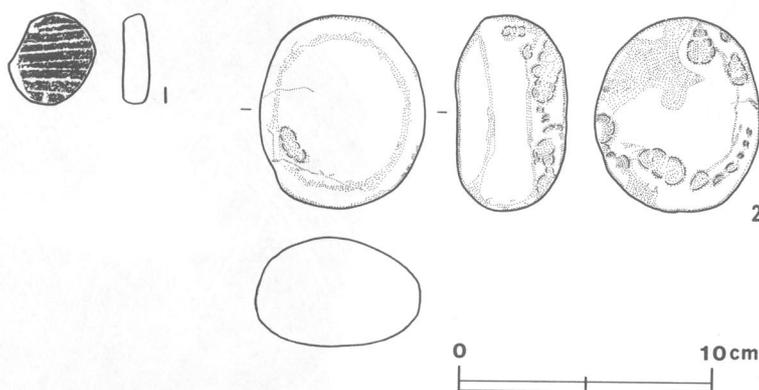
遺物 縄文土器片381点，土器片円盤1点及び磨石1点が出土している。第413図1の土器片円盤と2の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第2445号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第413図1	土器片円盤	3.7	3.3	1.0	(14.0)	95	条線文。	DP17 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第413図2	磨石	7.7	6.5	4.6	(315.0)	安山岩	Q16 覆土



第413図 第2445号土坑出土遺物実測図

第2446号土坑 (第414図)

位置 調査区の南東部，D14e0区。

重複関係 第434号住居跡の南側部分を掘り込んでいる。北側部分で第2503号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 径2.06mの円形で，深さは105cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 2か所。P₁は北東壁際に位置し，長径55cm，短径38cmの楕円形で，深さは50cmである。P₂は北側に位置し，長径42cm，短径34cmの楕円形で，深さは18cmである。

覆土 4層に分層され，覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量，2層より色調が明るい
- 4 褐色 ロームブロック少量

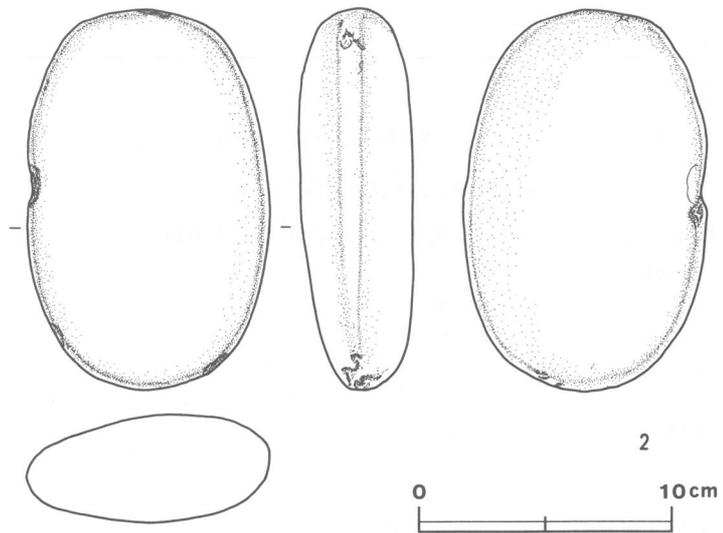
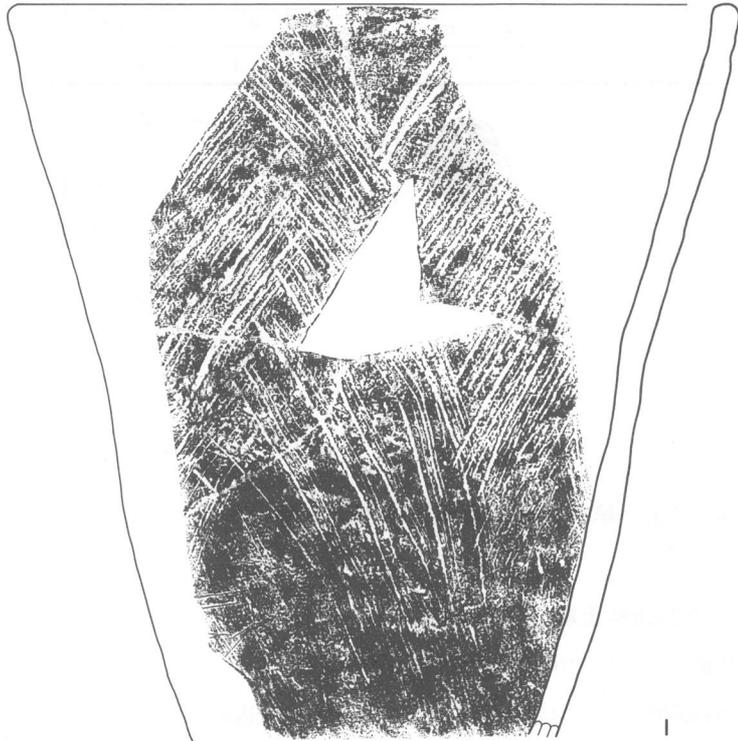
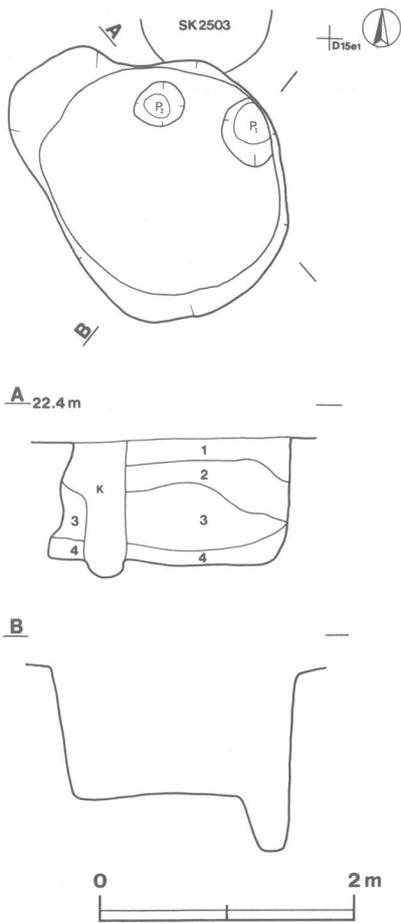
遺物 縄文土器片203点，敲石1点が出土している。第414図1の深鉢の胴部から口縁部の破片と2の敲石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内I式期）と考えられる。

第2446号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第414図 1	深鉢 縄文土器	A [28.6] B (29.3)	胴部から口縁部の破片。胴部は直線的に立ち上がる。斜行する条線文が施されている。	砂粒 灰褐色 普通	P84 25% PL56 覆土 堀之内I式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第414図2	敲石	15.3	9.6	4.5	(1,030.0)	安山岩	Q17 覆土



第414図 第2446号土坑・出土遺物実測図

第2451号土坑（第415図）

位置 調査区の南東部，D14d0区。

重複関係 第2520号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径〔1.88〕mの円形と推定され，深さは63cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 2層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

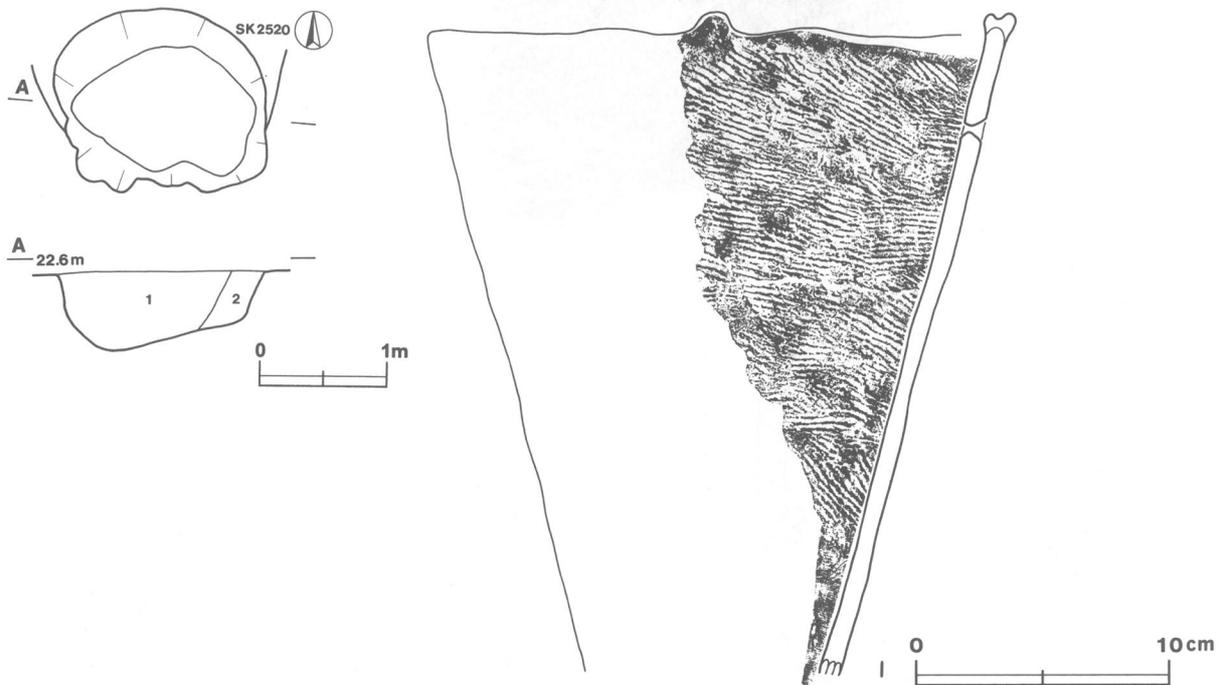
- 1 黒褐色 炭化物多量
- 2 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物 縄文土器片490点が出土している。第415図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内I式期）と考えられる。

第2451号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第415図 1	深鉢 縄文土器	A〔22.6〕 B〔26.4〕	胴部から口縁部の破片。口縁端部に小突起を有し，地文は無節縄文である。 補修孔がある。	砂粒・雲母・スコリア 褐色 普通	P85 30% PL56 覆土 堀之内I式



第415図 第2451号土坑・出土遺物実測図

第2456号土坑（第416図）

位置 調査区の南東部，D14f9区。

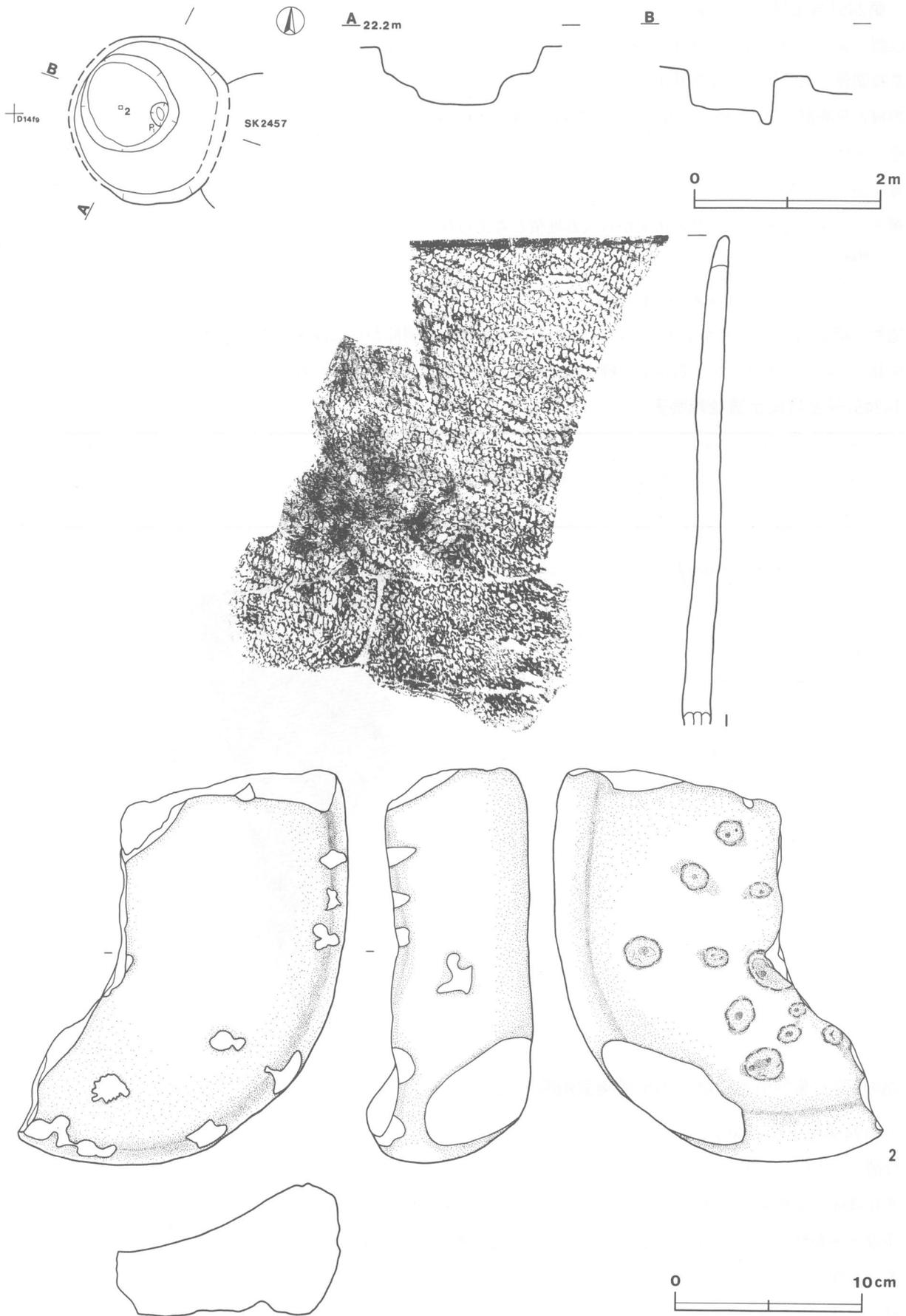
重複関係 東側部分で第2457号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.80m，短径〔1.70〕mの楕円形と推定され，深さは62cmである。

長径方向 N-0°

壁 段状に立ち上がる。

底 平坦である。



第416图 第2456号土坑·出土遗物实测图

ピット 1か所。P₁は中央部に位置し、長径23cm、短径18cmの楕円形で、深さは28cmである。

遺物 縄文土器片286点、石皿1点及び不明石器1点が出土している。第416図1は深鉢の胴部から口縁部の破片で、RLの単節縄文が施されている。2の石皿は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉（堀之内I式期）と考えられる。

第2456号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第416図2	石皿	(21.2)	(17.7)	7.1	(2920.0)	安山岩	Q18 覆土 凹石兼用

第2459号土坑（第417図）

位置 調査区の南東部、D14f9区。

重複関係 北側部分で第2458号土坑と、南側部分で第2518号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径[1.25]m、短径1.08mの楕円形と推定され、深さは53cmである。

長径方向 N-8°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

ピット 1か所。P₁は北東部に位置し、径23cmの円形で、深さは58cmである。

覆土 3層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

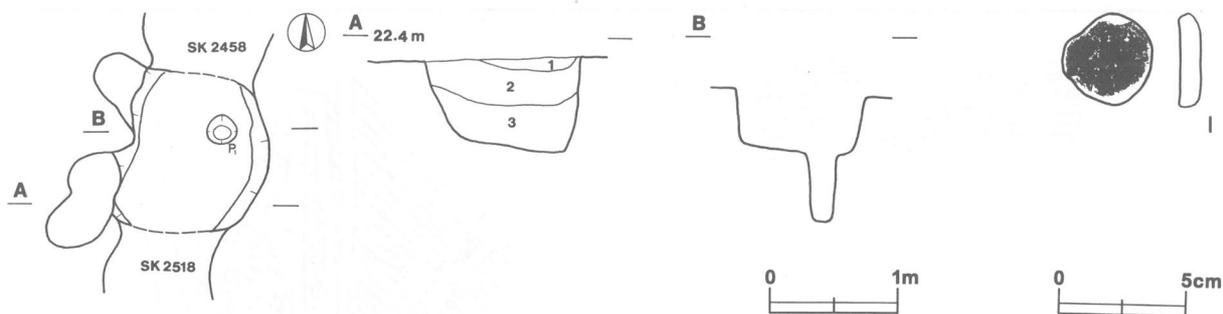
- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量、炭化物少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子微量、炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

遺物 縄文土器片315点及び土器片円盤1点が出土している。第417図1の土器片円盤は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第2459号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第417図1	土器片円盤	3.6	3.4	0.8	(13.0)	95	無文。	D P 16 覆土

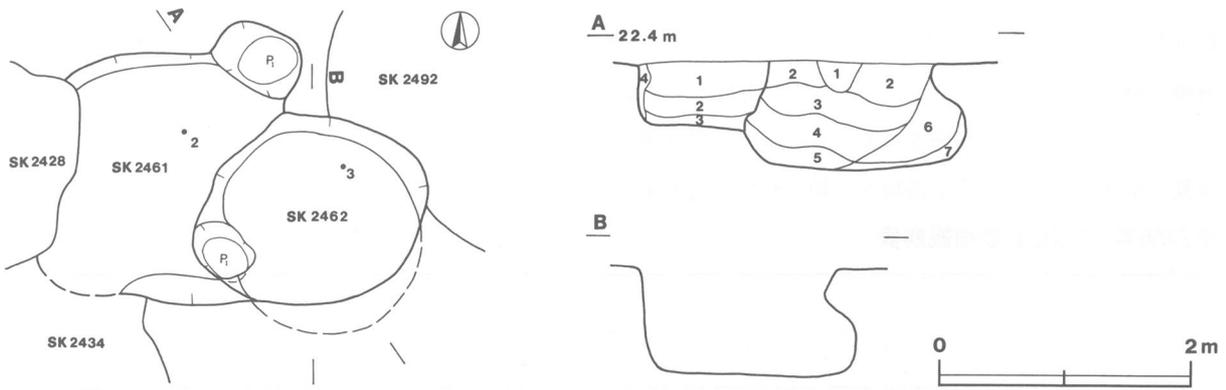


第417図 第2459号土坑・出土遺物実測図

第2461号土坑（第418図）

位置 調査区の南東部、D15f1区。

重複関係 東側部分で第2462号土坑を掘り込んでいる。南側部分で第2434号土坑と、西側部分で第2428号土坑



第418図 第2461・2462号土坑実測図

とそれぞれ重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.95mの円形と推定され、深さは40cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 1か所。P1は北東壁際に位置し、長径72cm、短径48cmの楕円形で、深さは52cmである。

覆土 4層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

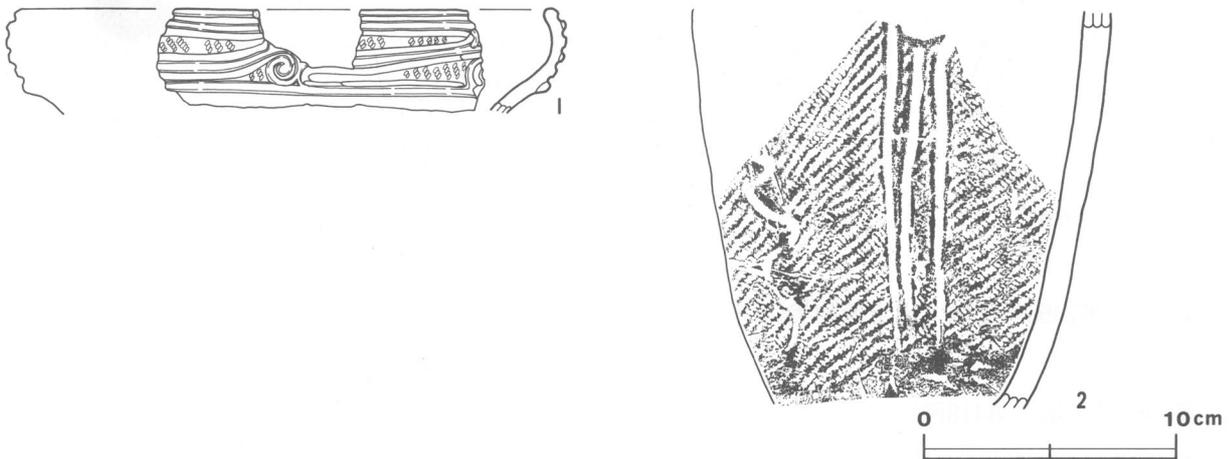
- | | | | |
|---------|----------------|------|----------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 にぶい褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、3層より色調が明るい |

遺物 縄文土器片2点が出土している。第419図1の深鉢の口縁部片と2の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

第2461号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第419図 1	深鉢 縄文土器	A [20.8] B (4.1)	口縁部片。口縁端部に沈線が施されている。口縁部には隆帯による区画文及び渦巻文が施され、区画内にはRLの単節縄文が充填されている。頸部は無文である。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P86 5% PL56 覆土 加曾利E I式
2	深鉢 縄文土器	B (15.8)	胴部片。胴部下位がわずかに内彎する。RLの単節縄文を地文に、沈線による懸垂文及び蛇行沈線文が施されている。	砂粒・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P87 10% PL56 覆土 加曾利E I式



第419図 第2461号土坑出土遺物実測図

第2462号土坑（第418図）

位置 調査区の南東部，D15f1区。

重複関係 第2461号土坑に掘り込まれている。北東部分で第2492号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.92m，短径1.54mの楕円形で，深さは86cmである。

長径方向 N-23°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 1か所。P₁は南西壁際に位置し，長径52cm，短径37cmの楕円形で，深さは36cmである。

覆土 7層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

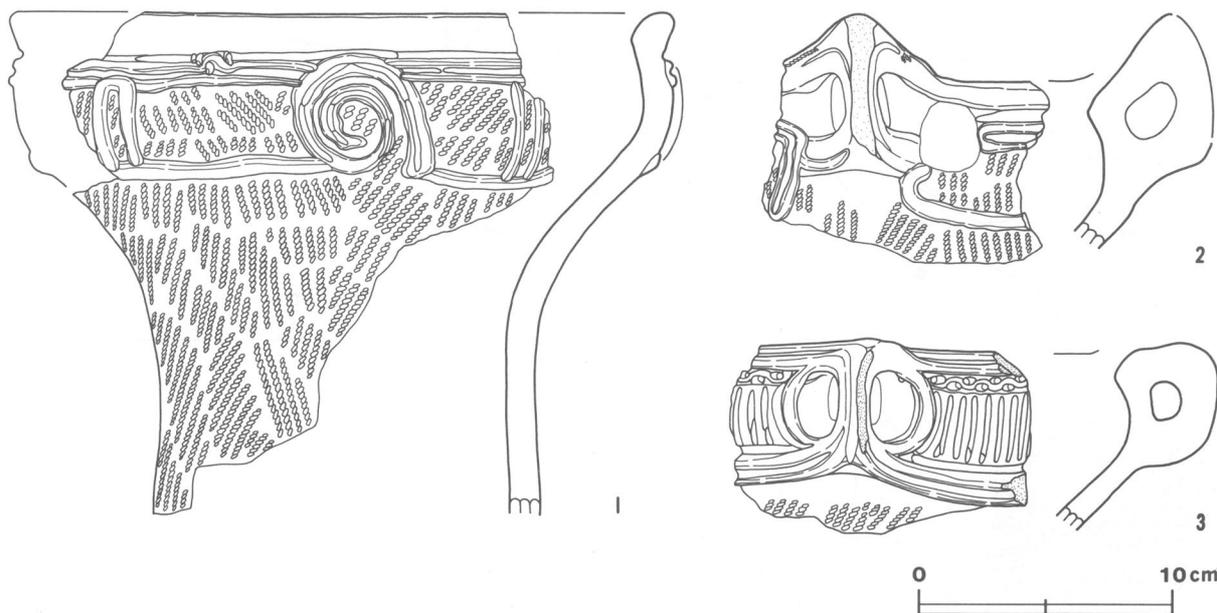
土層解説		4	褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	
1	褐色	ローム粒子少量	5	褐色	ロームブロック中量
2	褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量	7	褐色	ローム粒子少量，1層より明るい

遺物 縄文土器片181点が出土している。第420図1の深鉢の胴部から口縁部の破片と2の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。1と2は接合しないが，同一個体の可能性がある。3の深鉢の口縁部片は覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

第2462号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第420図 1	深鉢 縄文土器	A [25.6] B (22.9)	胴部から口縁部の破片。キャリバー形の器形で，口縁部上位に沈線が施され部分的に沈線に沿って交互刺突文がみられる。口縁部にはRLの単節縄文を地文に，粗く貼り付けられた隆帯で渦巻文及び区画文が施されている。隆帯に沈線が施されている部分がみられる。	砂粒・長石・雲母にぶい 橙色 普通	P88A 40% PL56 覆土 加曾利E I式併行
2	深鉢 縄文土器	B (9.2)	口縁部片。縄文及び沈線の施された把手を有する。RLの単節縄文を地文に，粗く貼り付けられた隆帯により区画文が施されている。	砂粒・長石・雲母にぶい 橙色 普通	P88B 5% PL56 覆土 加曾利E I式併行



第420図 第2462号土坑出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第420図 3	深鉢 縄文土器	B (7.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。眼鏡状把手を有する。口縁端部に沈線が施され、把手につながる。口縁部は隆帯及び沈線により区画され、区画内に交互刺突文及び縦位の沈線が施されている。口縁部と胴部は把手から続く沈線の施された厚い隆帯で区画され、胴部にはRLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P89 5% PL57 覆土 加曾利E I式

第2465号土坑（第421図）

位置 調査区の南東部，D15h4区。

重複関係 第2464号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.95m，短径[1.18]mの楕円形と推定され，深さは65cmである。

長径方向 N-4°-W

壁 緩やかに立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

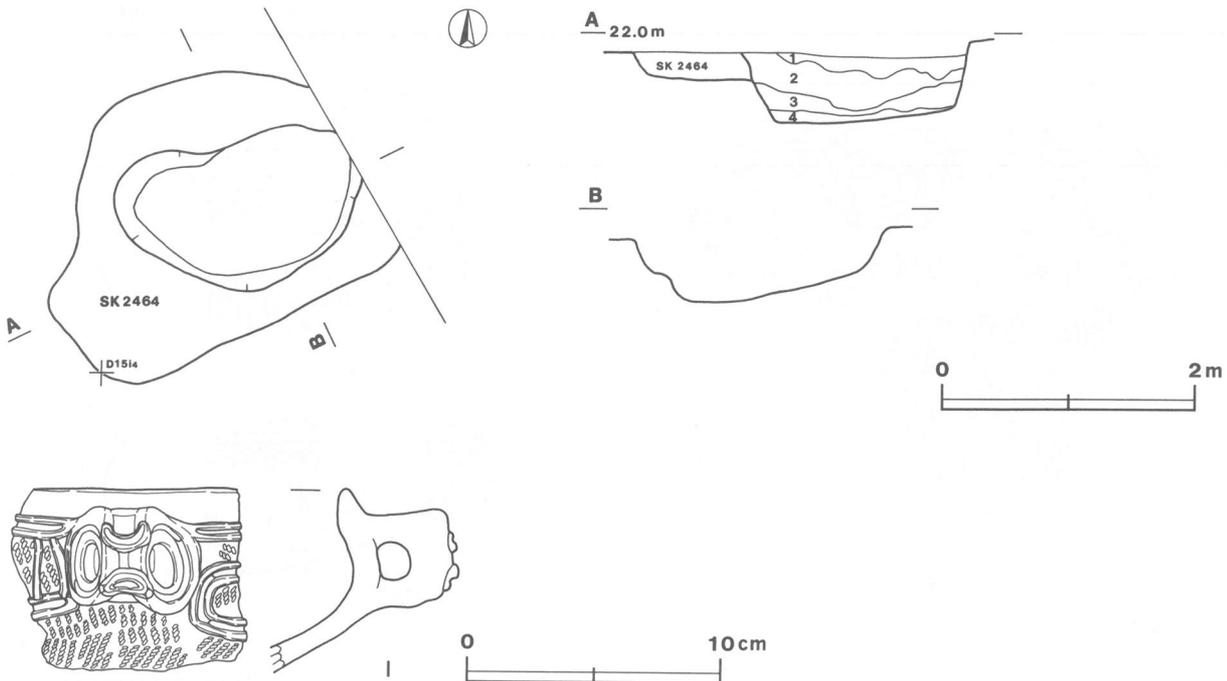
- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

遺物 縄文土器片85点が出土している。第421図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

第2465号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第421図 1	深鉢 縄文土器	B (7.3)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。眼鏡状把手を有する。把手先端に沈線の施されたU字状の隆帯が貼り付けられている。口縁部は沈線の施された隆帯で、文様を施している。地文はRLの単節縄文である。	砂粒・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P90 5% 覆土 加曾利E I式



第421図 第2465号土坑・出土遺物実測図

第2468号土坑（第422図）

位置 調査区の南東部，D14e0区。

重複関係 第2469号土坑に掘り込まれている。南側部分で第2470号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.33m，短径1.90mの不整楕円形で，深さは74cmである。

長径方向 N-0°

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 1か所。P1は北壁際に位置し，径26cmの円形で，深さは20cmである。

覆土 4層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

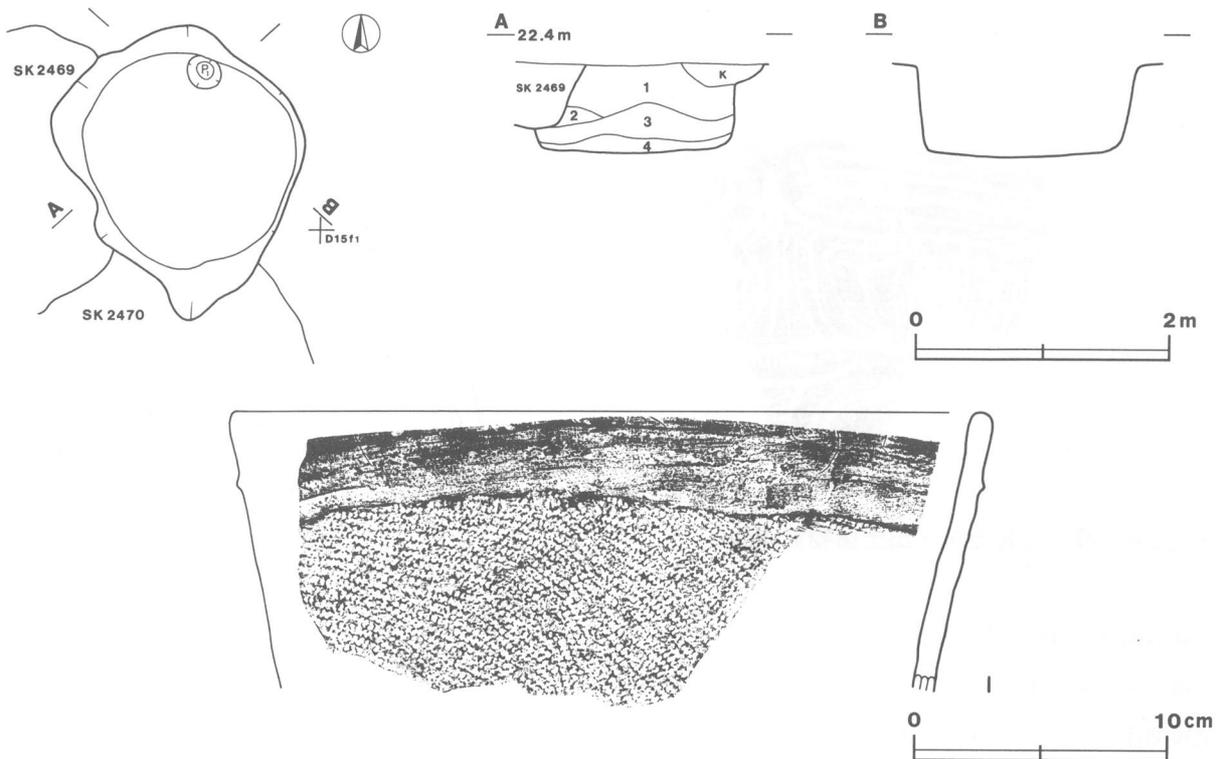
- 1 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ロームブロック中量

遺物 縄文土器片14点が出土している。第422図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E IV式期）と考えられる。

第2468号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第422図 1	深鉢 縄文土器	A [29.0] B (11.1)	胴部から口縁部の破片。胴部から口縁部にかけて外傾する。口縁部に微隆起線文を巡らして，無文帯を作っている。胴部はR Lの単節縄文を施している。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P91 10% PL57 覆土 加曾利E IV式



第422図 第2468号土坑・出土遺物実測図

第2472号土坑（第423図）

位置 調査区の南東部，D15e2区。

規模と平面形 長径1.51m，短径1.35mの楕円形で，深さは50cmである。

長径方向 N-15°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 1か所。P₁は中央部に位置し，径36cmの円形で，深さは15cmである。

覆土 5層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

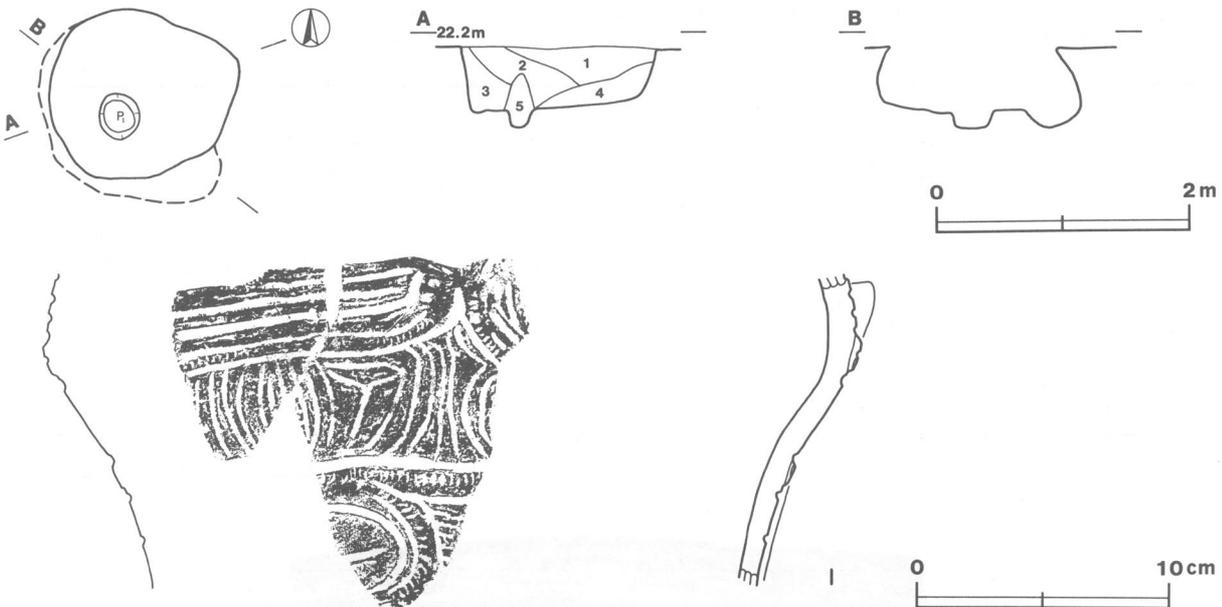
- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化材中量，炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量，炭化材少量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック多量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック多量

遺物 縄文土器片12点が出土している。第423図1の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2472号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第423図 1	深鉢 縄文土器	B (13.1)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部から胴部にかけて，キザミが施された隆帯により文様が描かれている。区画文内には沈線文を施している。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P92 10% PL57 覆土 中峠式



第423図 第2472号土坑・出土遺物実測図

第2474号土坑（第424図）

位置 調査区の南東部，D15g1区。

重複関係 第432号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.32m，短径1.20mの楕円形で，深さは84cmである。

長径方向 N-0°

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 1か所。P₁は中央部に位置し、径47cmの円形で、深さは59cmである。

覆土 8層に分層され、自然堆積と考えられる。

土層解説

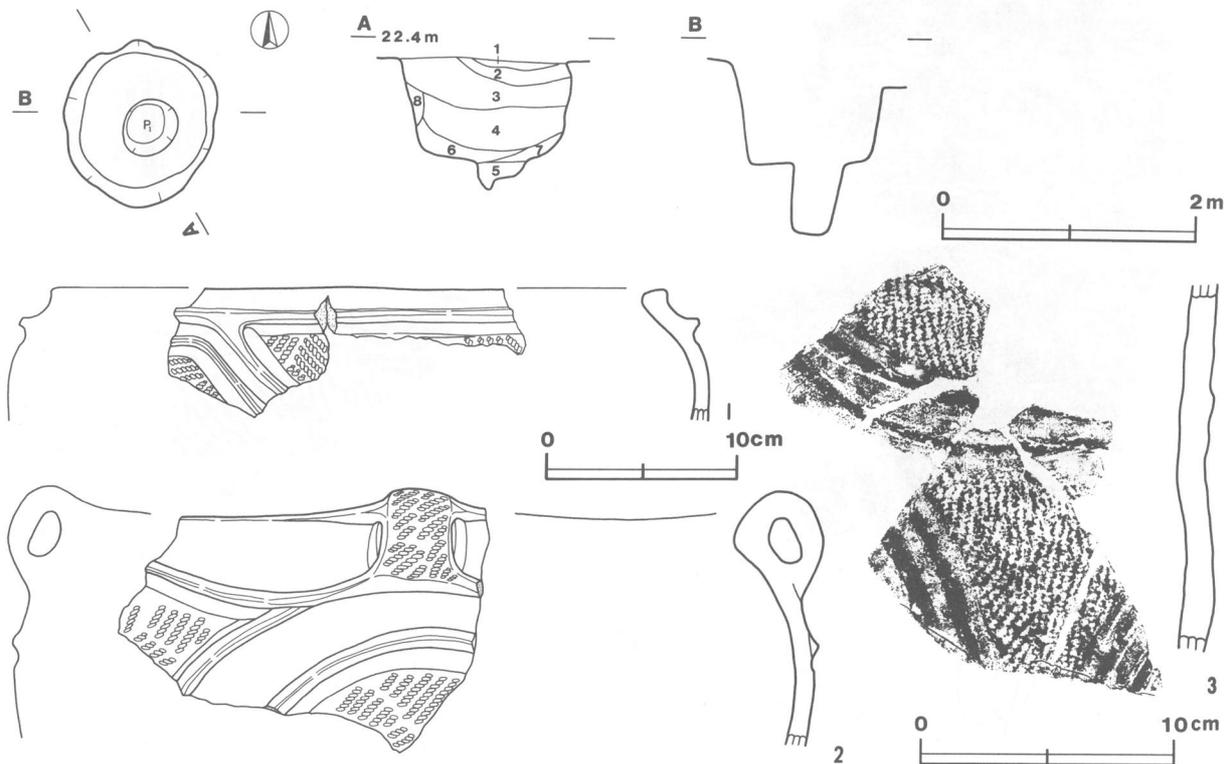
1 暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子多量	5 褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
2 明褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子多量	6 褐色	ローム粒子・ローム小ブロック中量
3 褐色	ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化材少量	7 にぶい褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
4 褐色	ローム粒子微量、ローム中ブロック少量	8 にぶい褐色	ローム粒子・ローム小ブロック微量

遺物 縄文土器片133点が出土している。第424図1・2の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。3は深鉢の胴部片で、RLの単節縄文を地文とし、2本一組の微隆起線文が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第2474号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第424図 1	深鉢 縄文土器	A [30.7] B (7.2)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部にはRLの単節縄文を地文とし、微隆起線文が施されている。	砂粒・雲母 黒褐色 普通	P93 5% PL57 覆土 加曾利EⅢ式
2	深鉢 縄文土器	A [29.0] B (10.1)	胴部から口縁部の破片。波状口縁。縄文の施された把手を有する。胴部には微隆起線の磨消帯が施されている。縄文はRLの単節縄文である。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P94 5% PL57 覆土 加曾利EⅢ式



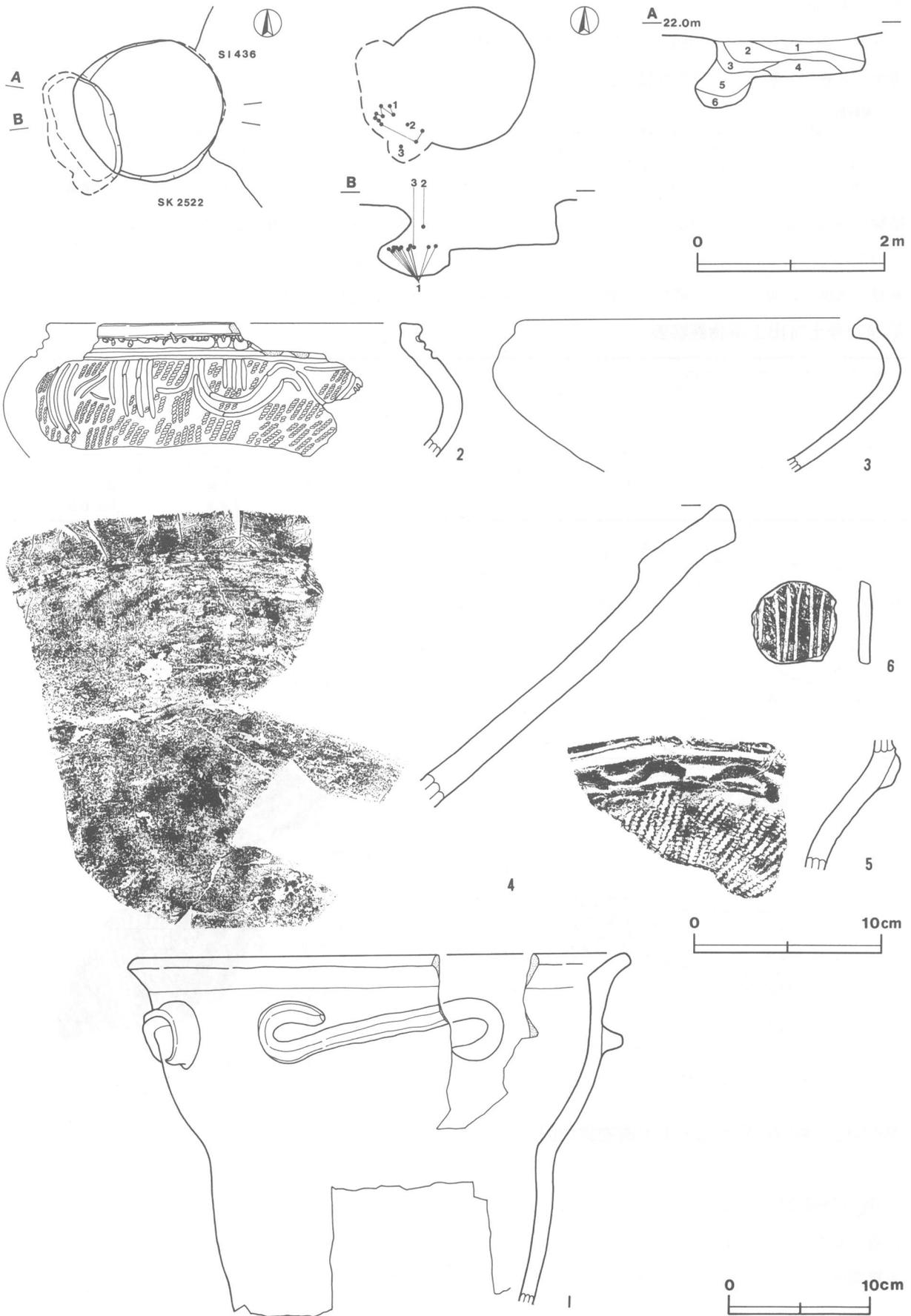
第424図 第2474号土坑・出土遺物実測図

第2475号土坑（第425図）

位置 調査区の南東部、D14d9区。

重複関係 第436号住居跡の西側部分を掘り込んでいる。南側部分で第2522号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.57mの円形で、深さは50cmである。



第425图 第2475号土坑·出土遗物实测图

壁 袋状である。

底 平坦である。南西壁際に大形ピットがある。

覆土 6層に分層され、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ロームブロック微量，炭化物中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子微量，焼土粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子・ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量，焼土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文土器片101点，土器片円盤1点が出土している。第425図1～3の深鉢や鉢の胴部から口縁部の破片は覆土中層から下層にかけて出土している。6の土器片円盤は覆土から出土している。4は浅鉢の口縁部片で，無文である。5は深鉢の胴部片で，2本の沈線を施し，その上から微隆帯を波状に貼り付けている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（中峠式期）と考えられる。

第2475号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第425図 1	深鉢 縄文土器	A [33.4] B (25.4)	胴部から口縁部の破片。胴部はくびれて，口縁部は外反する。口縁部には，4単位と推定される厚みのある横S字状の隆帯が貼り付けられている。無文である。	砂粒・長石・石英 雲母 にぶい赤褐色 普通	P95 40% PL57 覆土下層 中峠式
2	深鉢 縄文土器	A [20.0] B (7.2)	胴部から口縁部の破片。胴部は大きく外に膨らむ。口縁部には，刺突文及び2本単位の横位の沈線が施されている。胴部にはRLの単節縄文を地文に山形沈線文および縦位の沈線が施されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P96 10% PL57 覆土中層 中峠式
3	鉢 縄文土器	A [18.0] B (8.8)	胴部から口縁部の破片。胴部上位で外側に大きく張り出し内彎する。口縁端部に薄い隆帯が貼り付けられている。無文である。	砂粒・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P97 10% PL57 覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徵	備考
		長さ	幅	厚さ				
第425図6	土器片円盤	4.5	4.5	0.7	(20.0)	95	条線文。	DP18 覆土

第2486号土坑（第426図）

位置 調査区の南東部，D15e1区。

規模と平面形 長径1.11m，短径0.90mの楕円形で，深さは40cmである。

長径方向 N-31°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 皿状である。

ピット 1か所。P₁は南東壁際に位置し，径21cmの円形で，深さは54cmである。

覆土 3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

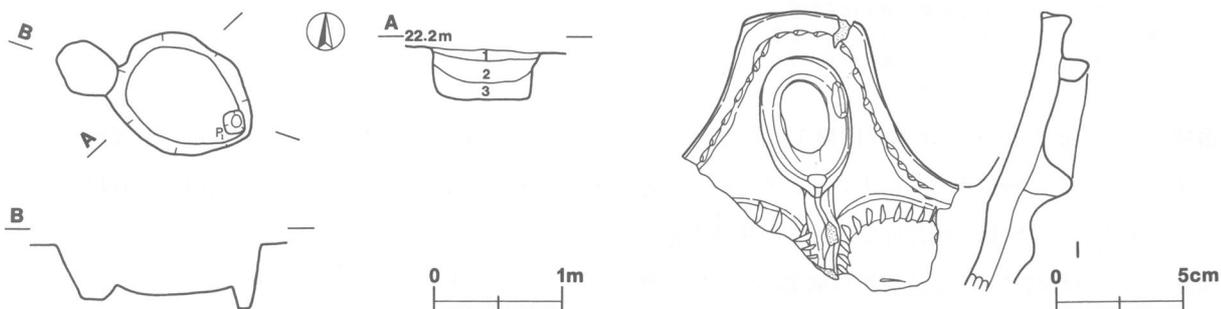
- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量，ローム小ブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量

遺物 縄文土器片20点が出土している。第426図1は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第2486号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第426図 1	深鉢 縄文土器	B (11.0)	波状口縁。端部に薄く隆帯を巡らして、隆帯に沿ってペン先状工具による押し刺突文が施されている。把手中央の0字状の隆帯の下に蛇行する隆帯を垂下させている。隆帯に沿って瓜形文が施されている。	砂粒・雲母 灰黄褐色 普通	P98 5% PL57 覆土 阿玉台Ⅲ式



第426図 第2486号土坑・出土遺物実測図

第2492号土坑 (第427図)

位置 調査区の南東部, D15f1区。

重複関係 北側部分で第2512号土坑と, 南西部分で第2462号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.90m, 短径2.50mの楕円形で, 深さは35cmである。

長径方向 N-38°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 2か所。P₁は南側に位置し, 長径66cm, 短径46cmの楕円形で, 深さは86cmである。P₂は西壁際に位置し, 長径56cm, 短径(46)cmの不整形で, 深さは35cmである。

覆土 2層に分層され, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量

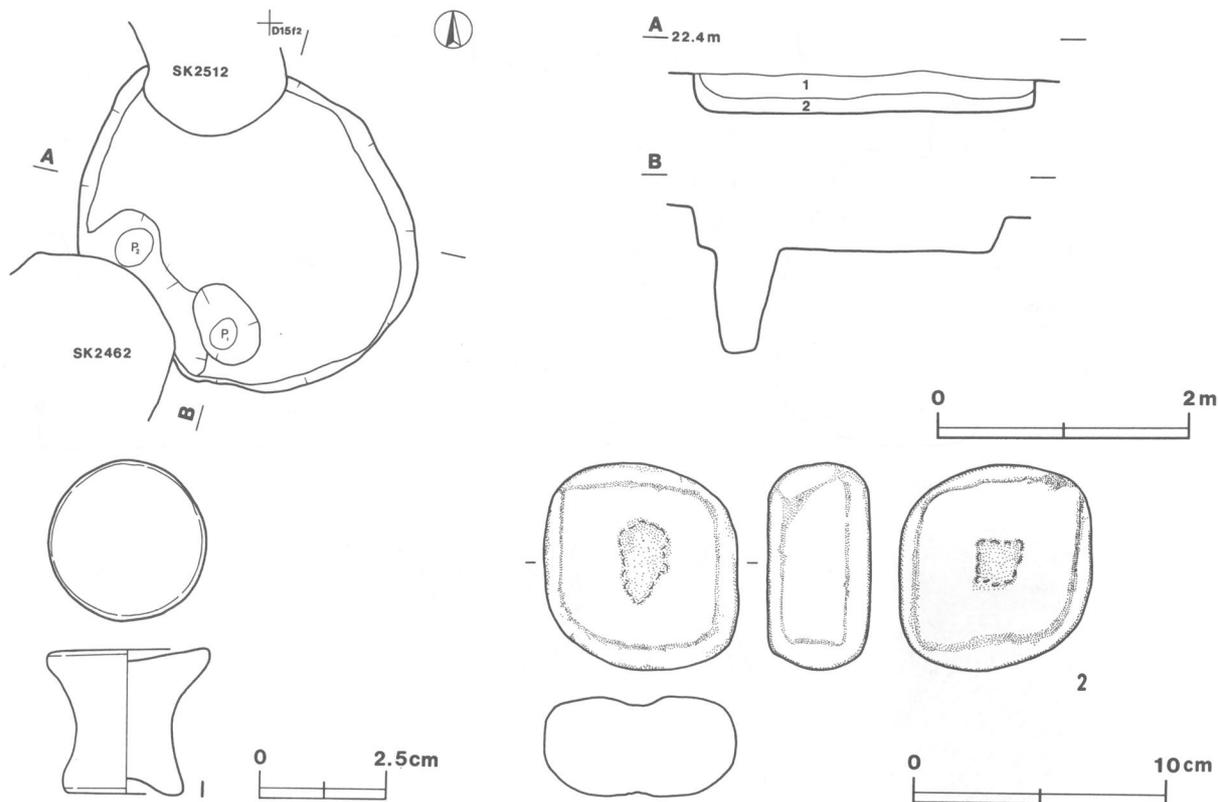
遺物 縄文土器片66点, 土製耳飾り1点, 磨石1点が出土している。第427図1の土製耳飾り, 2の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第2492号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第427図1	土製耳飾り	3.2	2.4	2.9	(20.0)	95	無穿孔。ラッパ状。	D P20 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第427図2	磨石	8.1	7.7	4.4	(458.0)	安山岩	Q20 覆土 凹石兼用



第427図 第2492号土坑・出土遺物実測図

第2493号土坑 (第428・429図)

位置 調査区の南東部, D15e1区。

重複関係 第433号住居跡を掘り込み, 第439号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長径2.35m, 短径[2.02]mの楕円形と推定され, 深さは54cmである。

長径方向 N-20°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

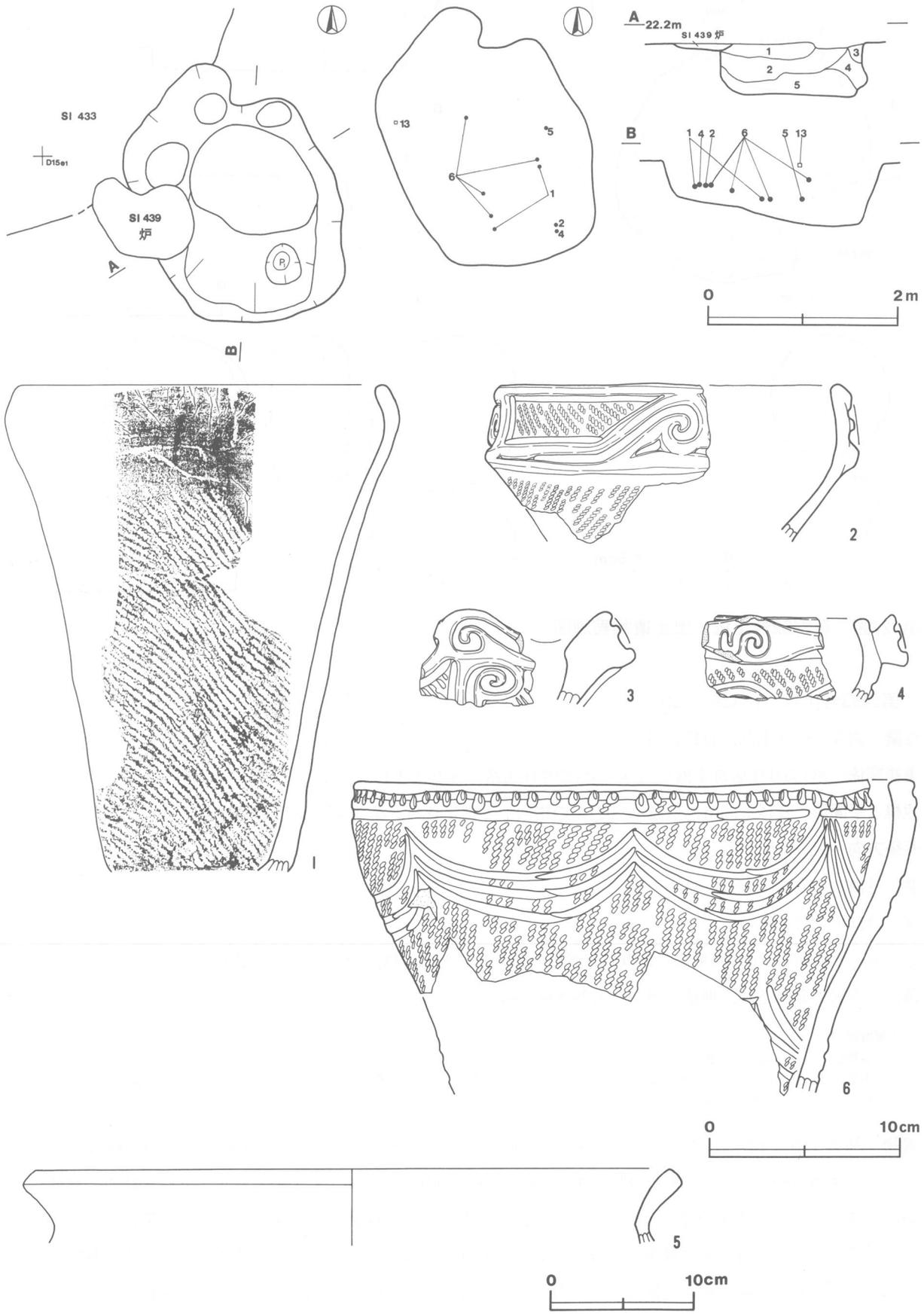
ピット 1か所。P₁は南東部に位置し, 長径43cm, 短径35cmの楕円形で, 深さは23cmである。

覆土 5層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

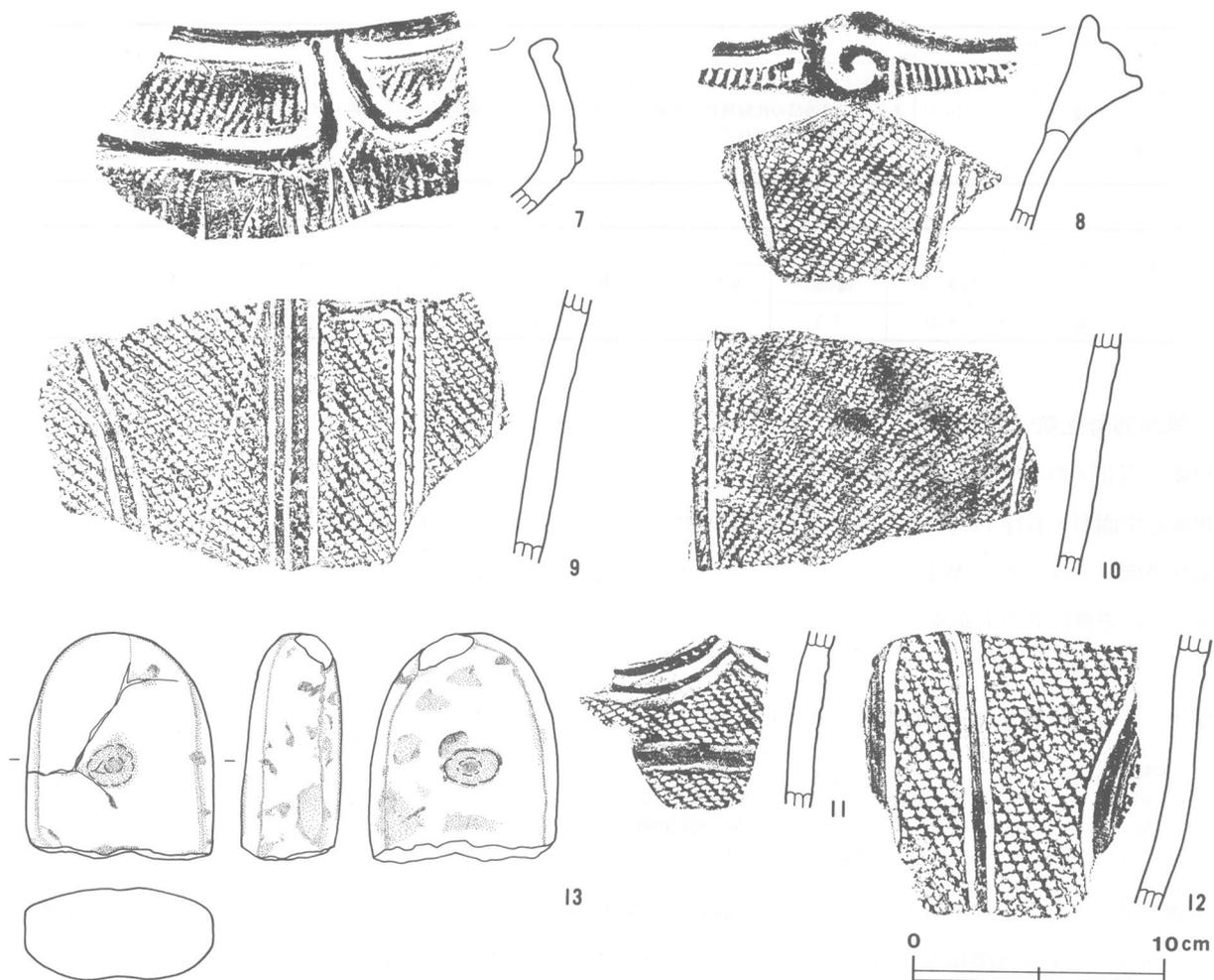
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------|------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量 | 5 褐色 | ローム粒子・ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物 縄文土器片407点, 敲石1点, 獣骨片が出土している。第428図3～5の深鉢と浅鉢の口縁部片, 1・2・6の深鉢の胴部から口縁部の破片, 第429図13の敲石は覆土から出土している。7・8は深鉢の口縁部から胴部の破片で, LRの単節縄文を地文に長方形区画文及び三角形区画文が隆帯で施され, 隆帯に沿って沈線が施されている。8は波頂部に隆帯で渦巻文を描き, 幅狭の口縁部に縦位の沈線文が施されている。胴部はRLの単節縄文を地文に幅の狭い沈線による3本1組の磨消懸垂文が施されている。9～12は深鉢の胴部片である。9は2本あるいは3本単位の沈線を垂下させ, 沈線間を磨り消している。10はRLの単節縄文を地文とし, 沈線を垂下させ沈線間を磨り消している。11はLRの単節縄文を地文とし, 2本単位の沈線が横位沈線による連



第428图 第2493号土坑·出土遗物实测图(1)



第429図 第2493号土坑出土遺物実測図（2）

狐文を施し、沈線間を磨り消している。12は複節縄文を地文に2本単位の沈線による懸垂文及び蛇行沈線が施され、沈線間を磨り消している。獣骨はイノシシとシカである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E II式期）と考えられる。

第2493号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 1	深鉢 縄文土器	A [19.2] B (25.7)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。地文はRLの単節縄文で、口縁部に無文帯をもつ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P99 30% PL57 覆土 加曾利E II式
2	深鉢 縄文土器	A [17.4] B (8.4)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部は隆帯により区画文及び渦巻文が施され、地文としてRLの単節縄文が施されている。胴部の地文はRLの単節縄文である。	砂粒・長石 にぶい赤褐色 普通	P100 10% PL57 覆土 加曾利E II式
3	深鉢 縄文土器	B (4.8)	口縁部片。波状口縁。波頂部に隆帯による渦巻文が施された突起を有し、突起から続く隆帯によりその直下に渦巻文が施されている。	砂粒・赤色粒子 褐色 普通	P101 2% 覆土 加曾利E II式
4	深鉢 縄文土器	B (4.5)	口縁部片。口縁部上位に沈線による渦巻文が施された隆帯を巡らしている。口縁部には隆帯による文様が施され、地文としてRLの単節縄文が施されている。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P102 2% 覆土 加曾利E II式
5	浅鉢 縄文土器	A [46.4] B (5.2)	口縁部片。口縁部は外反する。無文である。赤彩痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P103 10% PL58 覆土 加曾利E II式

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 6	深鉢 縄文土器	A [29.6] B (16.8)	胴部から口縁部の破片。キャリバー形の器形で、地文はRLの単節縄文である。口縁端部の沈線間に円形刺突文が施されている。胴部は3本の沈線により連弧文が施されている。	砂粒・石英・雲母 スコリア にぶい褐色 普通	P155 10% PL57 覆土 加曾利EⅡ式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第429図13	蔽石	(9.3)	7.5	4.0	(423.0)	安山岩	Q21 覆土 凹石兼用

第2495号土坑 (第430図)

位置 調査区の南東部, E15e2区。

規模と平面形 長径(1.62)m, 短径(0.54)mの楕円形と推定され, 深さは69cmである。

長径方向 [N-35°-W]

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

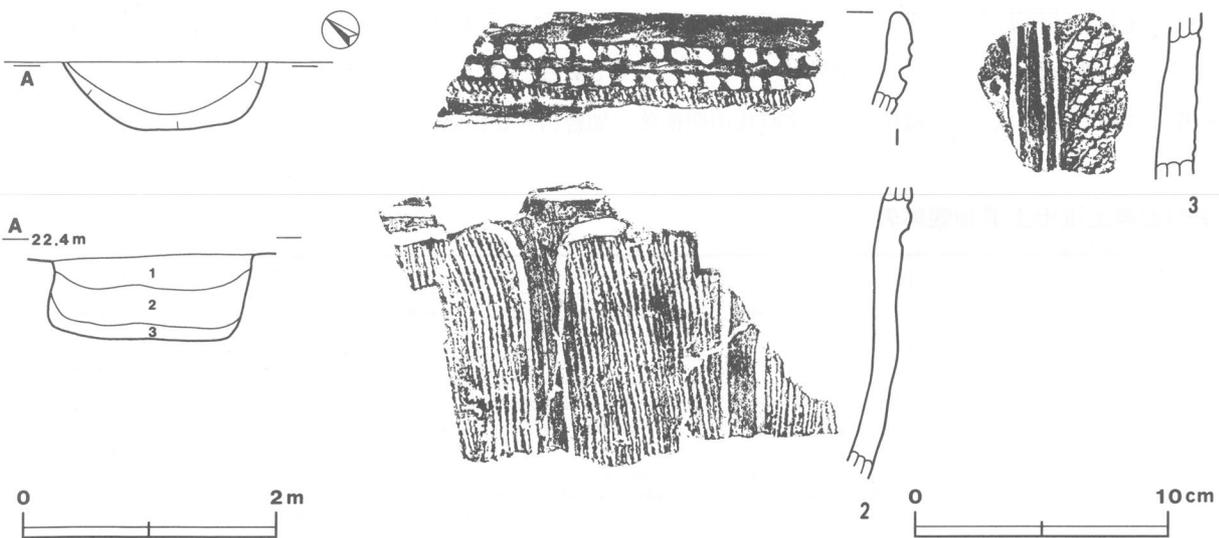
覆土 3層に分層され, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化物微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子・炭化物少量, ローム中ブロック中量

遺物 縄文土器片32点が出土している。第430図1は深鉢の口縁部片で, 円形刺突文を施している。地文は撚糸文である。2・3は深鉢の胴部片で, 2は撚糸文を地文に沈線で逆U字状に区画し, 沈線間を磨り消している。3はRLの単節縄文を地文とし, 幅の狭い沈線の磨消懸垂文が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

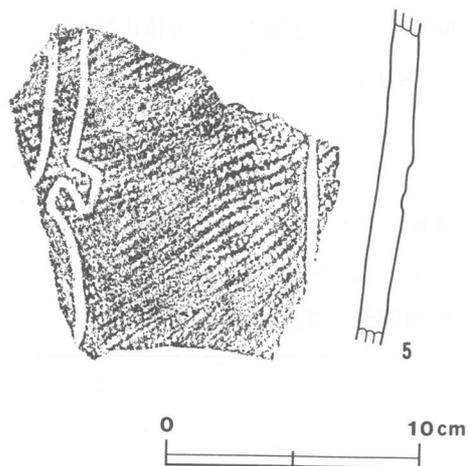
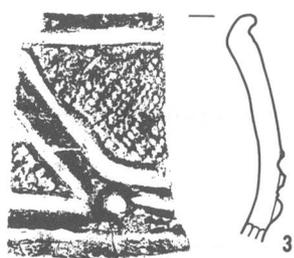
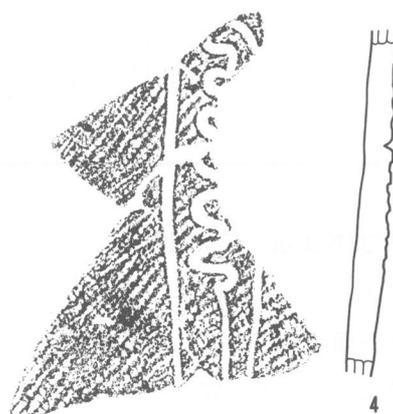
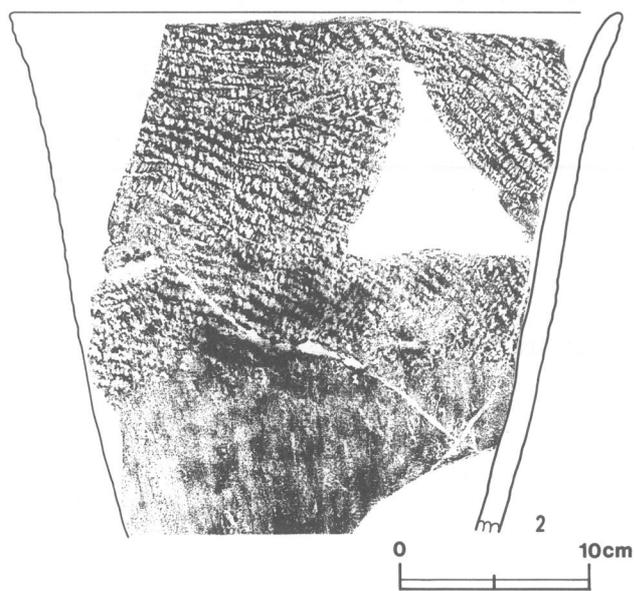
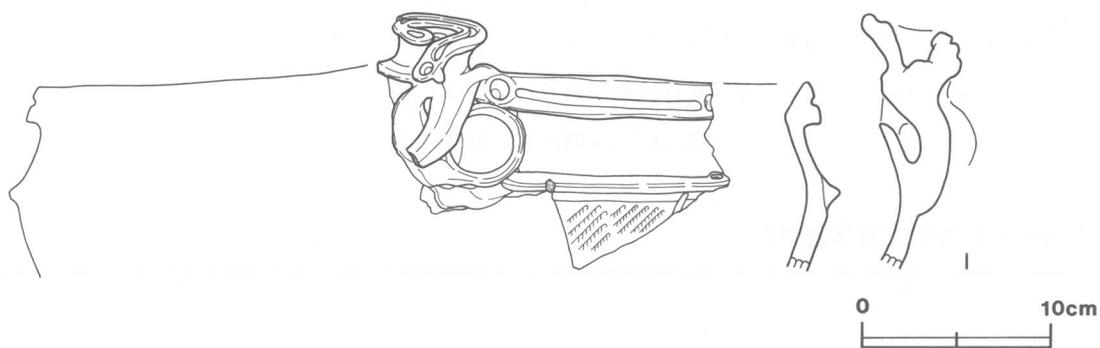
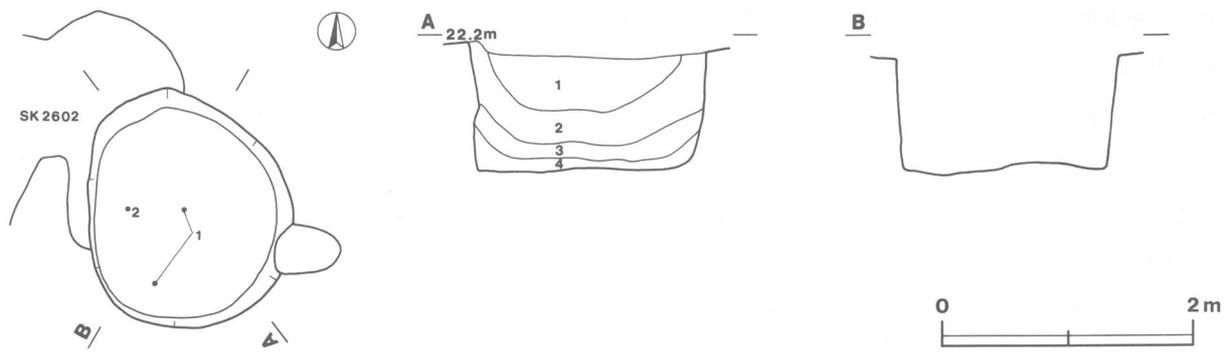


第430図 第2495号土坑・出土遺物実測図

第2497号土坑 (第431図)

位置 調査区の南東部, E15b6区。

重複関係 北西部分で第2602号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。



第431图 第2497号土坑·出土遗物实测图

規模と平面形 長径1.91m, 短径1.62mの楕円形で, 深さは91cmである。

長径方向 N-14°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 4層に分層され, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量, 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片580点が出土している。第431図1・2の深鉢の口縁部片は覆土から出土している。3は深鉢の口縁部片で, LRの単節縄文を地文として, 沈線及び円形刺突文が施されている。4・5は深鉢の胴部片で, LRの単節縄文を地文に懸垂文及び蛇行沈線が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉(堀之内I式期)と考えられる。

第2497号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第431図 1	深鉢 縄文土器	A [40.0] B (13.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部に円形刺突及び沈線の施された把手をもつ。口縁部は, 沈線及び円形刺突が施された隆帯により区画されている。区画内は無文である。胴部には無節縄文が施されている。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P104 10% PL58 覆土 堀之内I式
2	深鉢 縄文土器	A [31.5] B (27.8)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。胴部中位から口縁部にかけてRLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 スコリア にぶい黄橙色 普通	P105 20% PL58 覆土 堀之内I式

第2498号土坑(第432図)

位置 調査区の南東部, D15g3区。

規模と平面形 長径1.71m, 短径0.97mの不定形で, 深さは77cmである。

長径方向 N-34°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

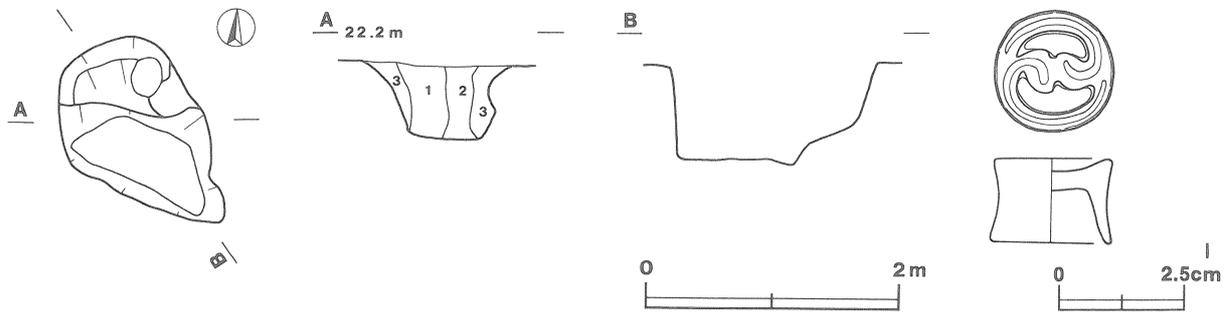
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量

遺物 縄文土器片53点, 土製耳飾り1点が出土している。第432図1の土製耳飾りは覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期から晩期と考えられる。

第2498号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第432図1	土製耳飾り	2.4	2.4	1.7	(6.3)	95	臼状。横S字状文。	DP21 覆土



第432図 第2498号土坑・出土遺物実測図

第2499号土坑（第433図）

位置 調査区の南東部，D14c0区。

重複関係 第436号住居跡の北壁を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.92m，短径1.53mの楕円形で，深さは81cmである。

長径方向 N-30°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 5層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|------|--------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量 | 4 褐色 | ローム粒子・炭化物少量，ローム中ブロック中量 |
| 2 にぶい褐色 | ローム粒子・ローム大ブロック・炭化物中量 | 5 褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック中量，炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物微量 | | |

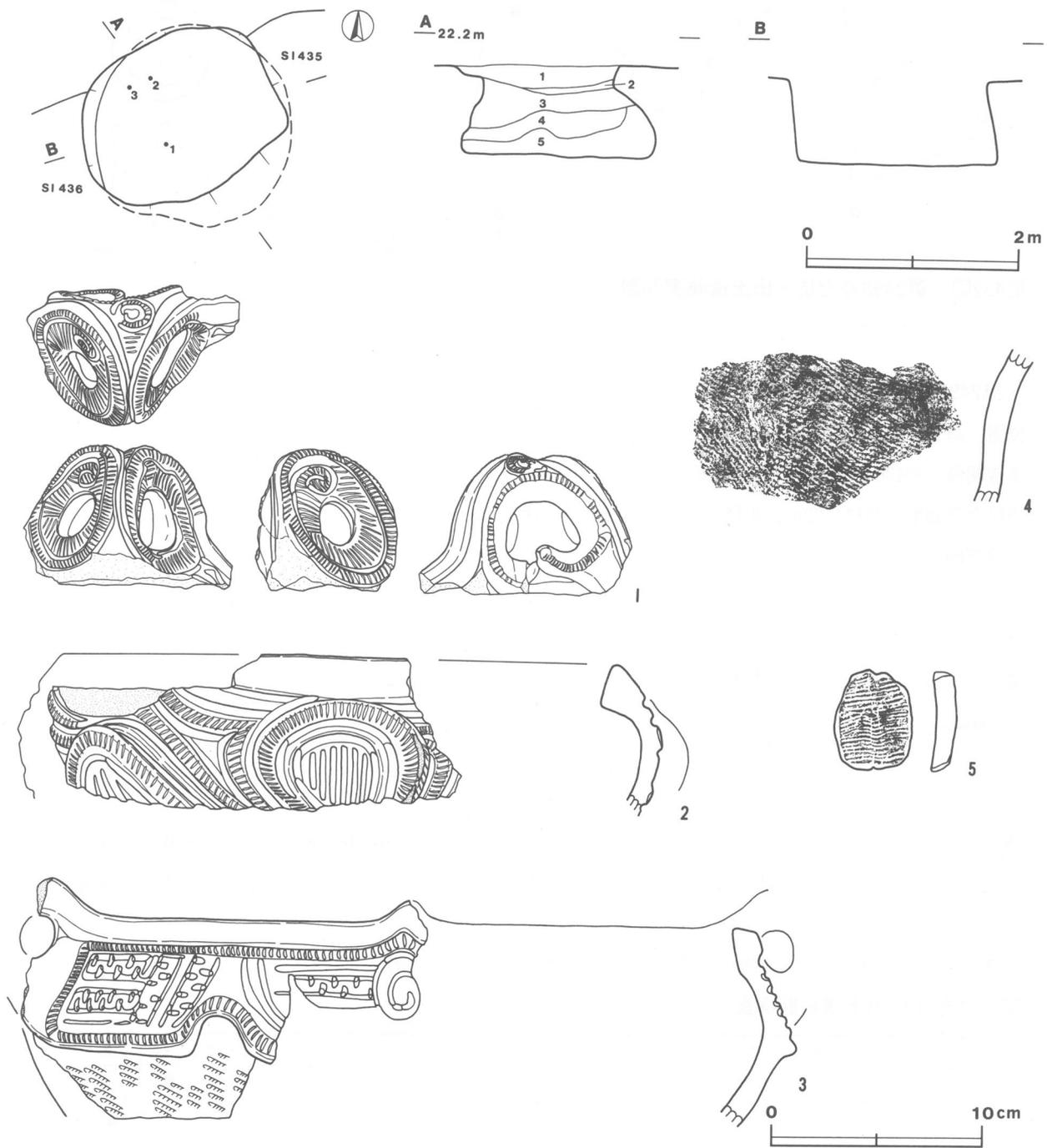
遺物 縄文土器片251点，土器片錘1点が出土している。第433図1の深鉢把手部分，2の深鉢の口縁部片，3の深鉢の胴部から口縁部の破片及び5の土器片錘は覆土から出土している。4は深鉢の胴部片で，地文はRLの単節縄文である。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2499号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第433図 1	深鉢把手 縄文土器	B (6.8)	眼鏡状把手。孔に沿ってキザミをもつ隆帯が施されている。頂部には，キザミをもつ細い隆帯による渦巻文が施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P106 5% 覆土 中峠式併行
2	深鉢 縄文土器	A (26.0) B (7.6)	口縁部片。口縁部は内彎する。キザミをもつ隆帯により施した区画内に縦位の沈線が施されている。区画外にはキザミをもつ薄い隆帯が貼り付けられている。	砂粒・長石・石英 雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P107 5% PL58 覆土 中峠式併行
3	深鉢 縄文土器	A (33.6) B (11.4)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部に把手を有する。口縁部は区画文に沿って爪形文を施し，沈線間に交互刺突による横位と縦位の連続コの字文が施されている。胴部には無節縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 スコリア 褐色 普通	P108 5% PL58 覆土 中峠式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徵	備考
		長さ	幅	厚さ				
第433図5	土器片錘	4.7	3.7	1.0	(25.0)	95	条線文。	DP22 覆土



第433图 第2499号土坑·出土遗物实测图

第2502号土坑（第434図）

位置 調査区の南東部，D15e1区。

重複関係 南側部分で第2512号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

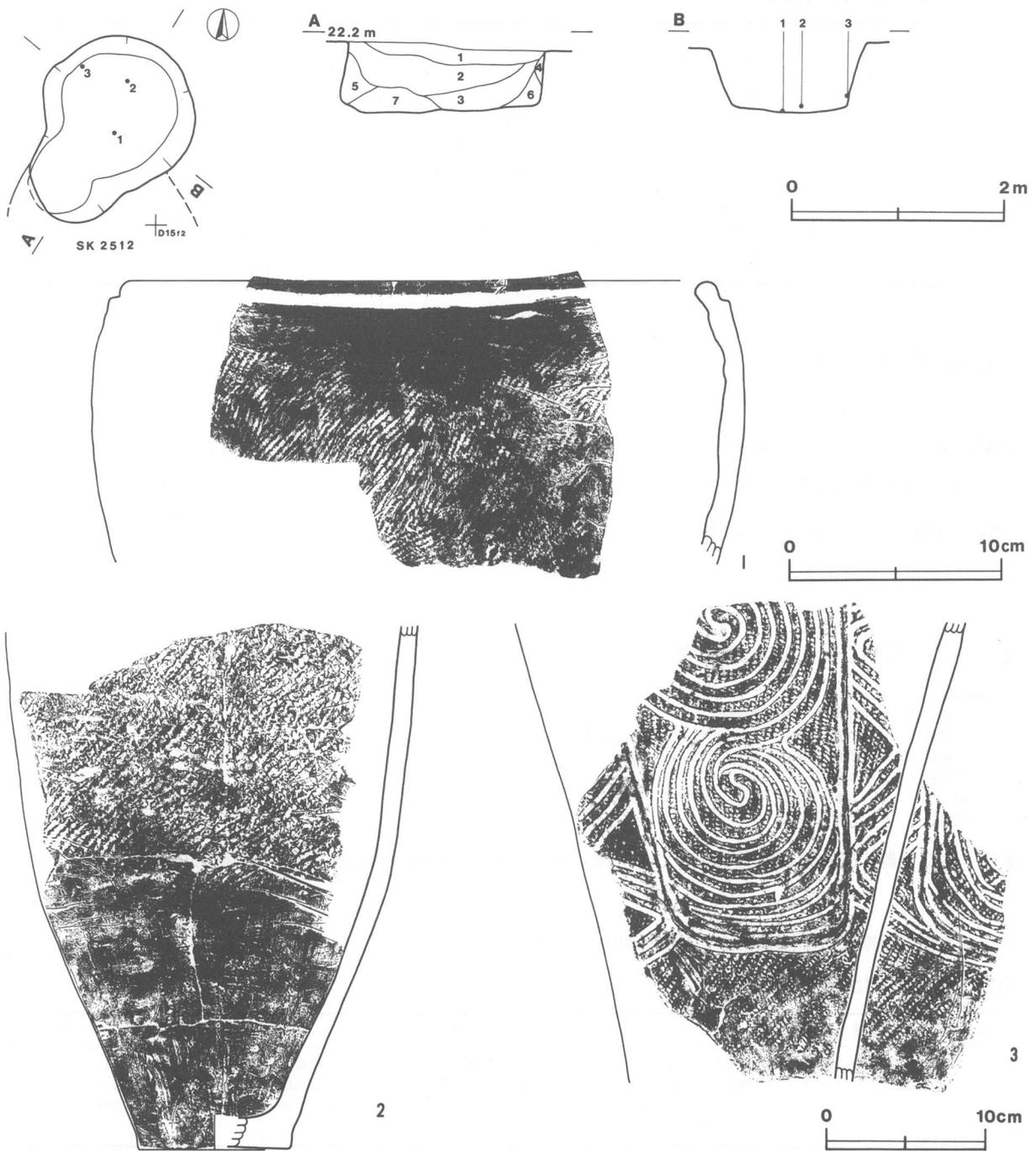
規模と平面形 長径1.86m，短径1.44mの不整楕円形で，深さは65cmである。

長径方向 N-47°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 7層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。



第434図 第2502号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化物少量, ローム小ブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化物少量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化物少量 (3層より締まりがあまい)
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物微量

遺物 縄文土器片486点が出土している。第434図1の深鉢の胴部から口縁部の破片, 2の深鉢の底部から胴部の破片, 3の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期前葉(堀之内I式期)と考えられる。

第2502号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第434図 1	深鉢 縄文土器	A [27.6] B (13.4)	胴部から口縁部の破片。胴部は内彎する。口唇部直下に沈線が施されている。胴部にはRLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P110 10% PL58 覆土 堀之内I式
2	深鉢 縄文土器	B (32.8) C [9.8]	底部から胴部の破片。底部はわずかに横に突出する。胴部は外傾して立ち上がり, 中位でわずかに内彎する。地文は無節縄文である。	砂粒 橙色 普通	P109 30% PL58 覆土 堀之内I式
3	深鉢 縄文土器	B (29.5)	胴部片。LRの単節縄文を地文に, 隆帯で長形状に区画され, 区画内に沈線による渦巻文が施されている。	砂粒 赤褐色 普通	P111 20% PL58 覆土 堀之内I式

第2507号土坑 (第435図)

位置 調査区の南東部, D14b0区。

重複関係 第2508号土坑を掘り込み, 第2514号土坑に掘り込まれている。北西部分で第2513号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 径2.09mの円形と推定され, 深さは80cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され, 人為堆積と考えられる。

土層解説

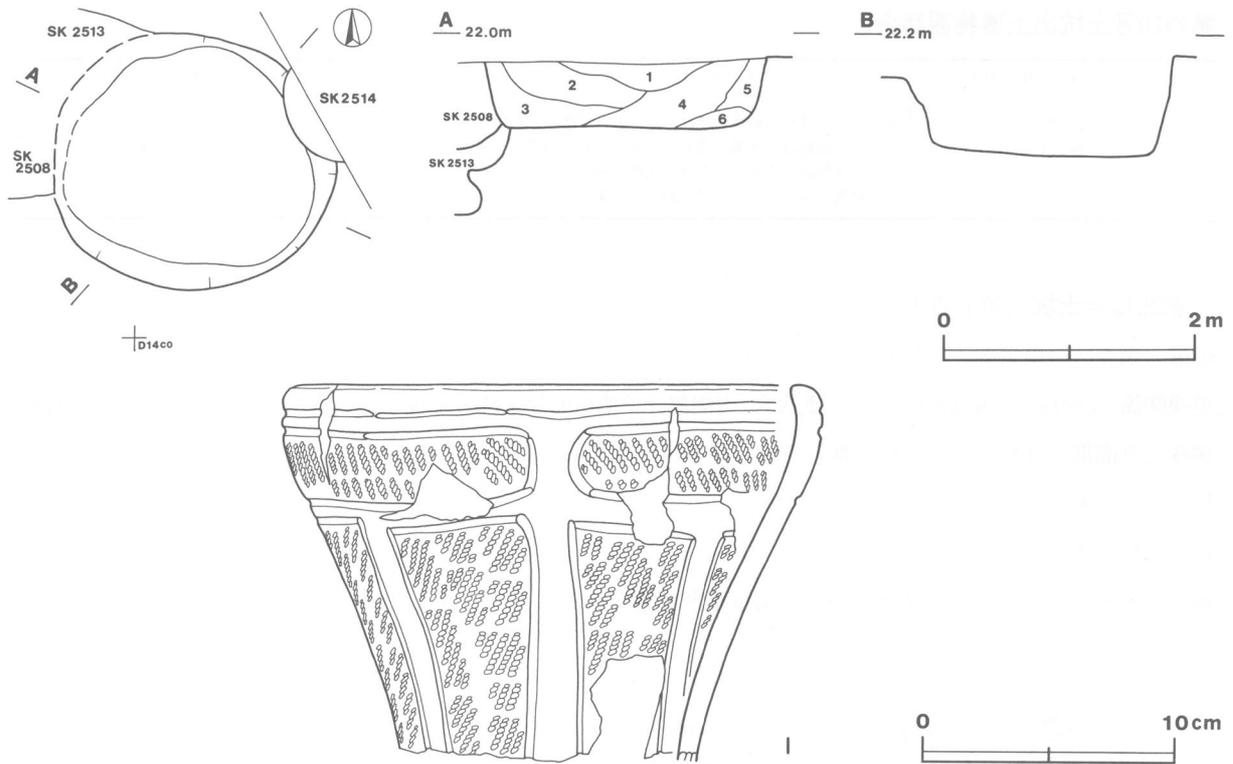
- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文土器片57点及び獣骨が出土している。第435図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。

第2507号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 1	深鉢 縄文土器	A [21.0] B (15.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。口唇部直下に沈線が横走り, 沈線による長楕円形状の区画内にはRLの単節縄文が横位に充填されている。胴部は沈線で逆U字状の区画文を施し, RLの単節縄文が縦位に充填されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	P112 30% PL58 覆土 加曾利EⅢ式



第435図 第2507号土坑・出土遺物実測図

第2510号土坑（第436図）

位置 調査区の南東部，D14d9区。

重複関係 第431号住居跡・第2524号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径0.43m，短径0.37mの楕円形で，深さは18cmである。

長径方向 N-0°

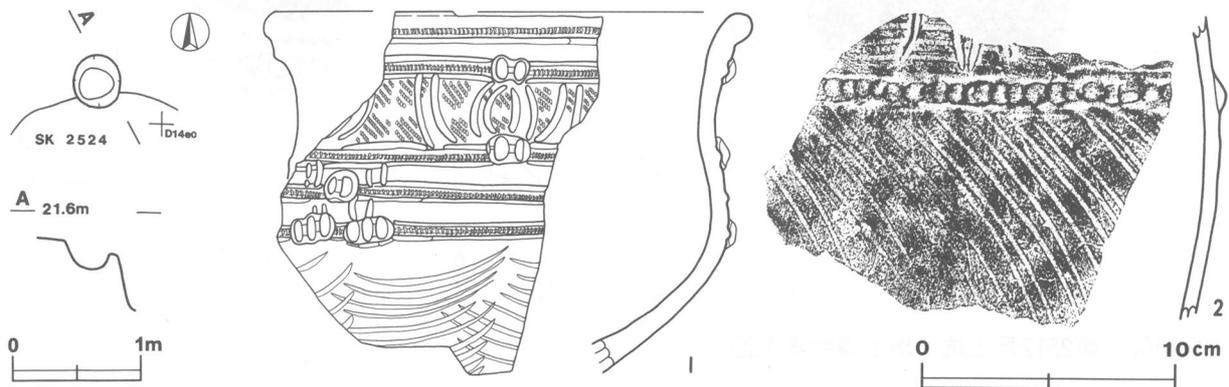
壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

遺物 縄文土器片8点が出土している。第436図1の台付鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

2は深鉢の胴部片で，胴部に条線文を斜行させ，押圧文をもつ紐線文が巡らされている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期後葉（安行2式期）と考えられる。



第436図 第2510号土坑・出土遺物実測図

第2510号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第436図 1	台付鉢 縄文土器	A [18.4] B (14.5)	胴部から口縁部の破片。胴部中位で大きく膨らみ、口縁部はわずかに外反する。口縁部はブタ鼻状突起とキザミをもつ隆帯により文様帯を区画し、RLの単節縄文を地文に弧状の沈線が施されている。胴部中位にキザミをもつ隆帯を巡らし、下部には斜行する条線文が施されている。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P 113 20% P L 58 覆土 安行 2 式

第2512号土坑 (第437図)

位置 調査区の南東部, D15e1 区。

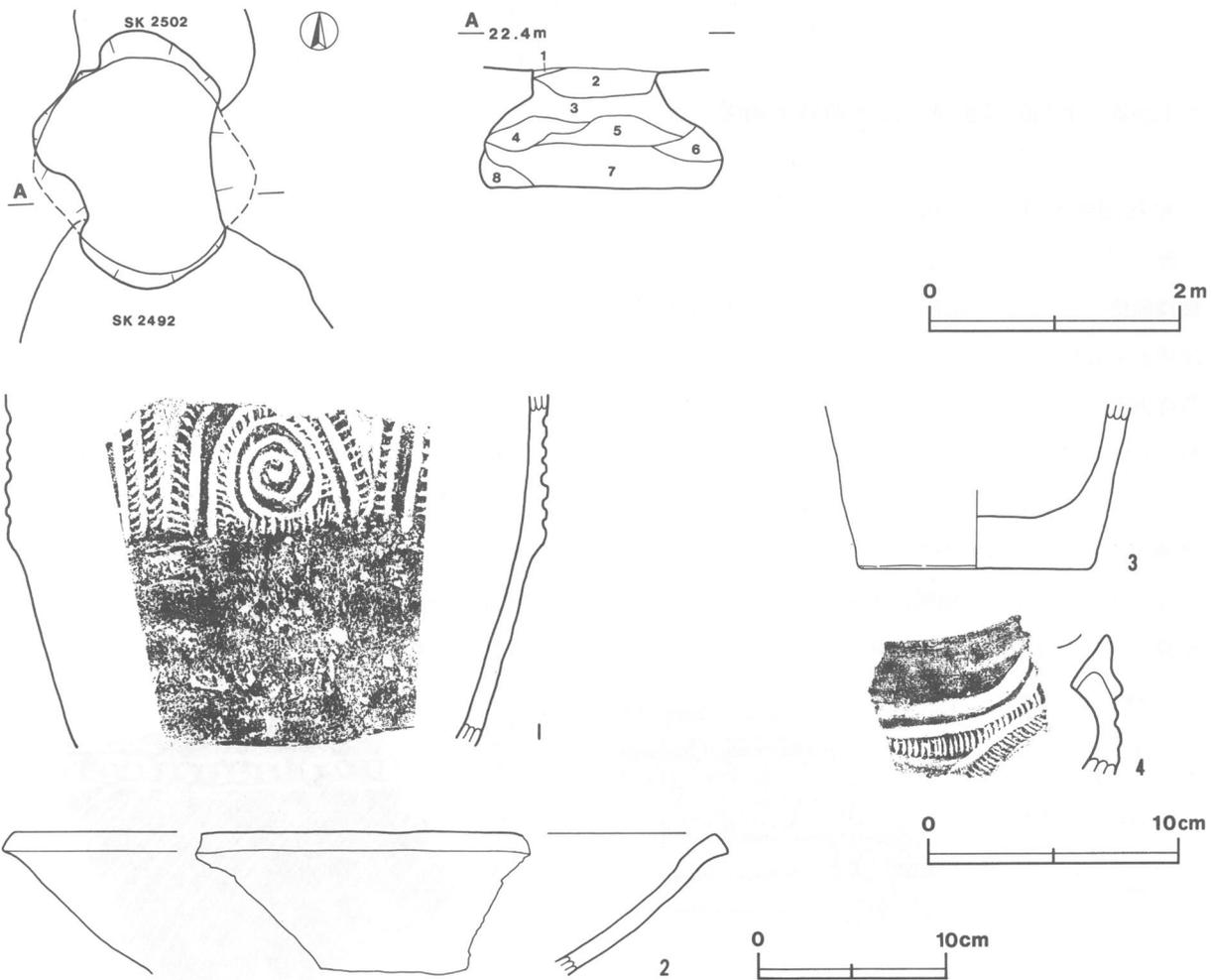
重複関係 北側部分で第2502号土坑と重複し, 南側部分で第2492号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.73mの円形と推定され, 深さは95cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 8層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。



第437図 第2512号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化物微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 | 6 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 | 7 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 |

遺物 縄文土器片109点が出土している。第437図1の深鉢の胴部片, 2の浅鉢の胴部から口縁部の破片, 3の深鉢の底部片は覆土から出土している。4は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で, キザミをもつ隆帯が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期中葉(中峠式期)と考えられる。

第2512号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第439図 1	深鉢 縄文土器	B (14.2)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がり, 肥厚してほぼ垂直に立ち上がる。胴部にはキザミをもつ隆帯が垂直あるいは半円形状に施され, 内側に沈線による渦巻文が施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P114 10% PL58 覆土 中峠式併行
2	浅鉢 縄文土器	A [37.0] B (7.6)	胴部から口縁部の破片。胴部は大きく外傾し, 口縁部は外反する。無文である。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P115 10% 覆土 中峠式
3	深鉢 縄文土器	B (6.7) C 9.2	底部片。底部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P116 10% PL58 覆土

第2514号土坑(第438図)

位置 調査区の南東部, D14b0区。

重複関係 西側部分で第2507号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 径[1.23]mの円形と推定され, 深さは102cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 播鉢状である。

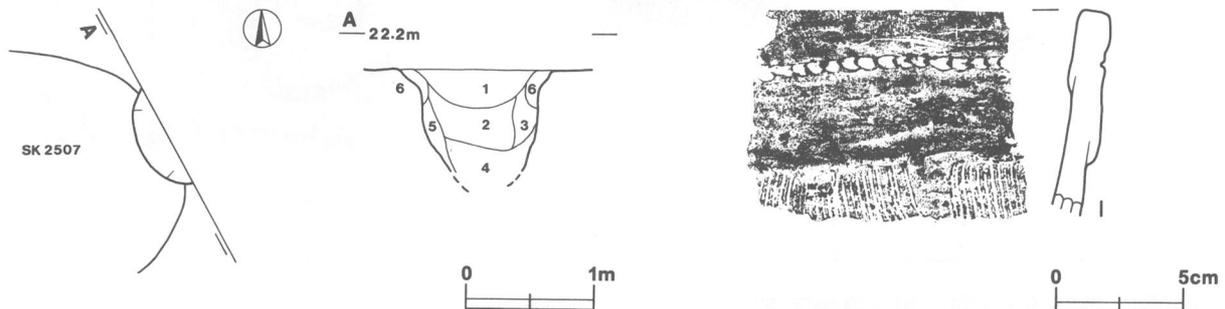
覆土 6層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・ロームブロック中量 |

遺物 縄文土器片48点, 獣骨片が出土している。第438図1は深鉢の胴部から口縁部の破片で, 口縁部に結節沈線文が施され, 胴部は縦位の条線文が施されている。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期と考えられる。



第438図 第2514号土坑・出土遺物実測図

第2515号土坑（第439図）

位置 調査区の南東部，D14d8区。

規模と平面形 径〔0.98〕mの不整円形と推定され，深さは46cmである。

長径方向〔N-15°-E〕

壁 外傾して立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

覆土 2層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化物少量，ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック中量，炭化物微量

遺物 縄文土器片4点，獣骨片が出土している。第439図1は深鉢の胴部片で，微隆起線を施し，RLの単節縄文が充填されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期と考えられる。



第439図 第2515号土坑・出土遺物実測図

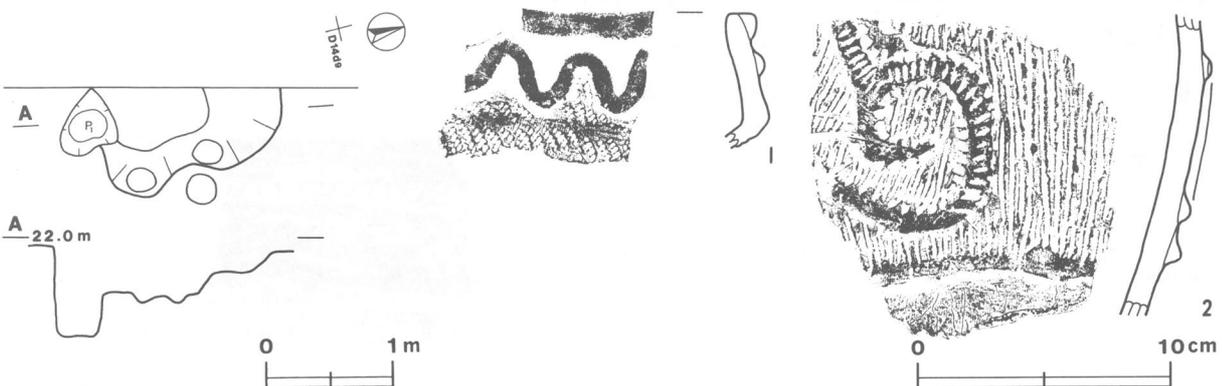
第2516号土坑（第440図）

位置 調査区の南東部，D14d9区。

規模と平面形 長径1.72m，短径(0.62)mの不定形で，深さは38cmである。

長径方向〔N-8°-E〕

壁 緩やかに立ち上がる。



第440図 第2516号土坑・出土遺物実測図

底 凹凸である。

ピット 1か所。P₁は南壁際に位置し、長径53cm、短径43cmの不整形で、深さは72cmである。

遺物 縄文土器片60点が出土している。第440図1は深鉢の口縁部片である。地文はRLの単節縄文で、隆帯が波状に施されている。2は深鉢の胴部片で、キザミをもつ隆帯が蕨手状に貼り付けられ、隆帯に沿って刺突文が施されている。地文は条線文である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利E式期）と考えられる。

第2521号土坑（第441図）

位置 調査区の南東部、D14d9区。

重複関係 南側部分を第431号住居跡に掘り込まれ、第2522号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.93m、短径(1.20)mの楕円形と推定され、深さは54cmである。

長径方向 N-52°-E

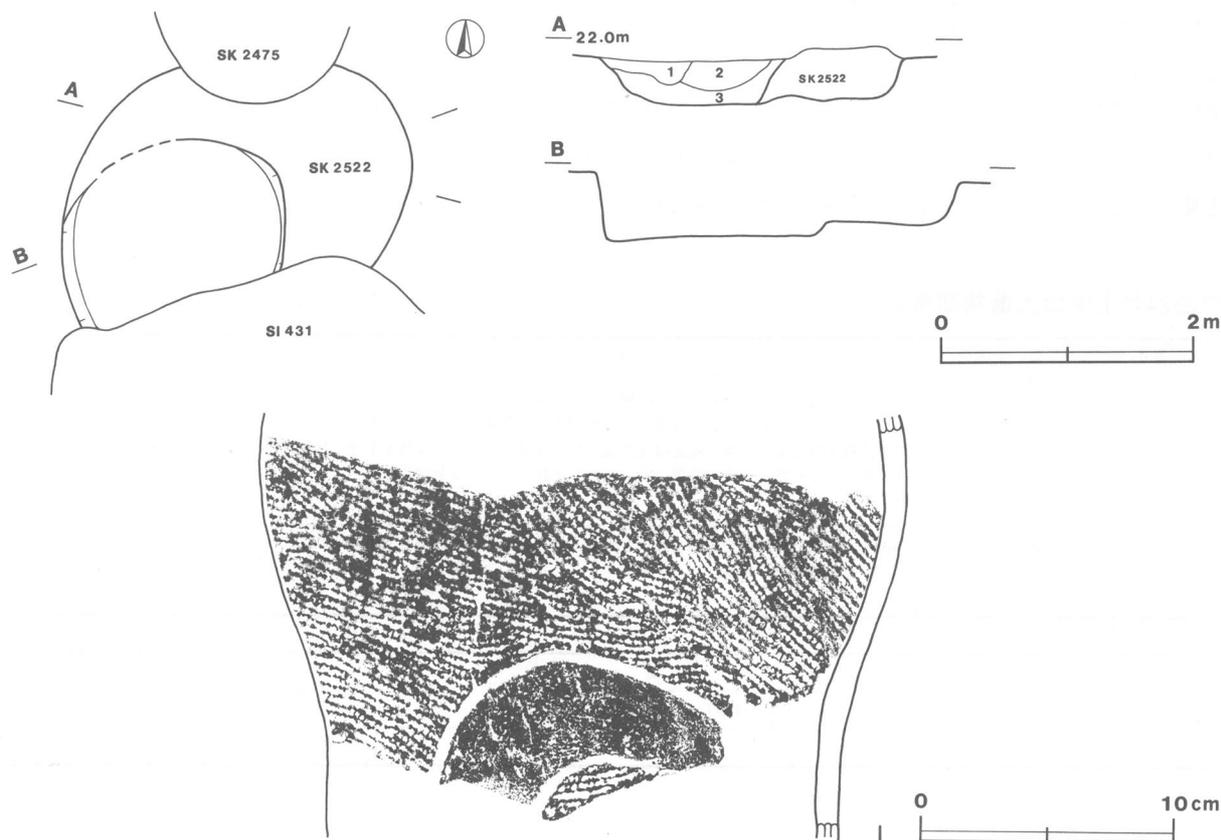
壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

覆土 3層に分層され、堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック少量 |



第441図 第2521号土坑・出土遺物実測図

遺物 縄文土器片23点が出土している。第441図1の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第2521号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第441図 1	深鉢 縄文土器	(16.9)	胴部片。胴部はわずかに内彎する。沈線による曲線的な幅広の磨消帯が施されている。縄文はLRの単節縄文である。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P117 30% PL59 覆土 加曾利EⅢ式

第2524号土坑（第442図）

位置 調査区の南東部，D14e9区。

重複関係 第431号住居跡の貼床下から検出されたことから，本跡が古い。

規模と平面形 径2.22mの円形で，深さは63cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 2か所。P₁は東部に位置し，径44cmの円形で，深さは16cmである。P₂は南西部に位置し，径32cmの円形で，深さは23cmである。

覆土 7層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化材・炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック微量，炭化材少量，炭化物中量
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化物少量
- 7 褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

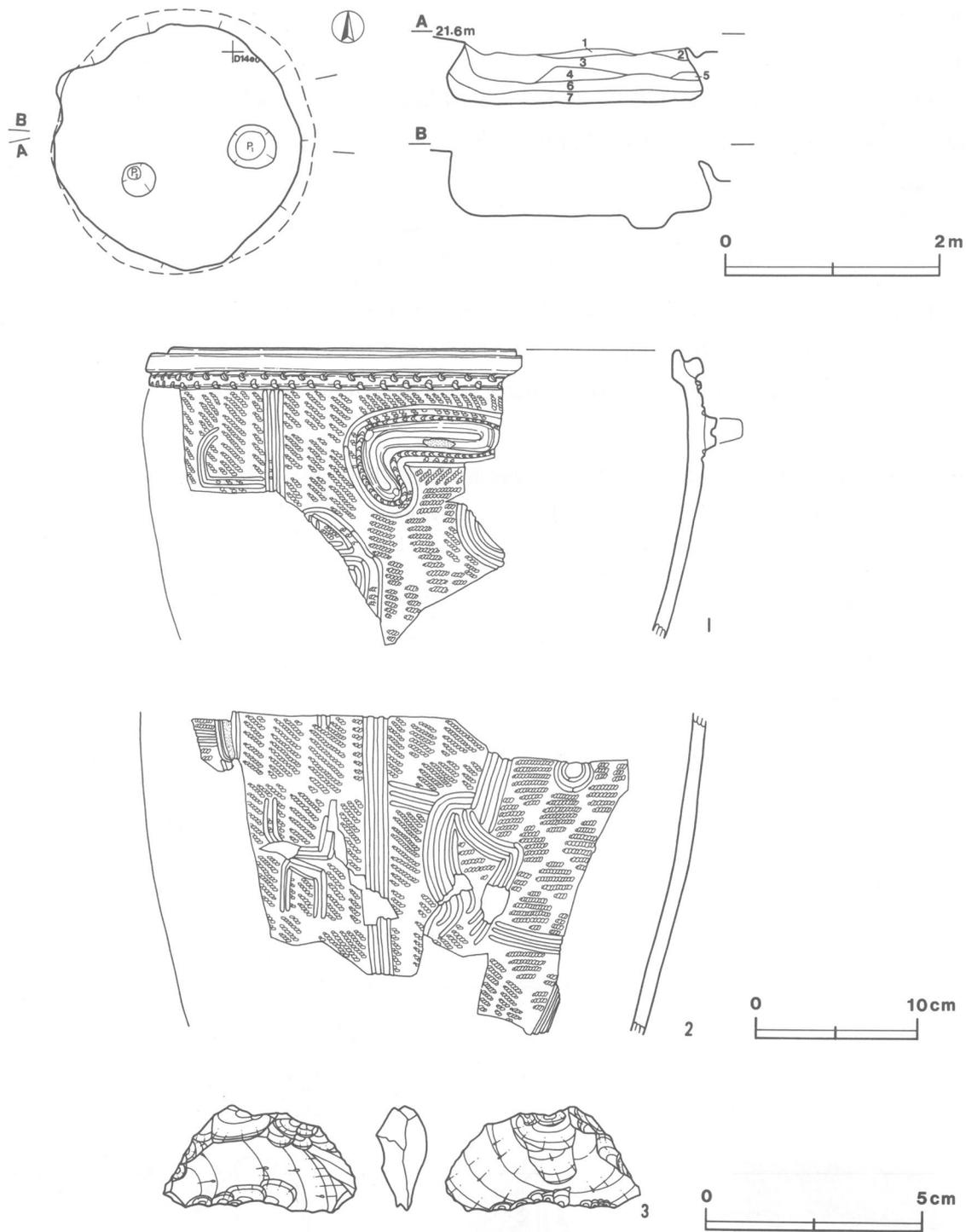
遺物 縄文土器片2点，剥片1点が出土している。第442図1・2の深鉢の胴部から口縁部の破片，3の剥片は覆土から出土している。1と2は接合しないが，同一個体の可能性がある。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2524号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第442図 1	深鉢 縄文土器	A (31.0) B (18.4)	胴部から口縁部の破片。わずかに内彎する。口縁部には交互刺突による連続コの字文が施されている。胴部には口唇部直下に隆帯が巡らされ，LRの単節縄文を地文に3本1組沈線文が施され，沈線の施された隆帯がL字状に貼り付けられている。隆帯に沿ってペン先状工具による刺突文が施されている。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	P118A 20% PL59 覆土 大木8a式併行
2	深鉢 縄文土器	B (20.4)	胴部片。LRの単節縄文を地文に，2本あるいは3本1組の沈線により曲線的な文様が描かれている。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	P118B 20% PL59 覆土 大木8a式併行

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第442図3	剥片	2.7	4.6	1.2	(8.35)	黒曜石	Q22 覆土



第442図 第2524号土坑・出土遺物実測図

第2541号土坑（第443図）

位置 調査区の南東部，C14j7区。

重複関係 北西部分を第2845号土坑に掘り込まれている。南側部分で第2838号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.58m，短径1.46mの楕円形で，深さは12cmである。

長径方向 N-71°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 1か所。P₁は中央部に位置し、長径38cm、短径35cmの楕円形で、深さは47cmである。

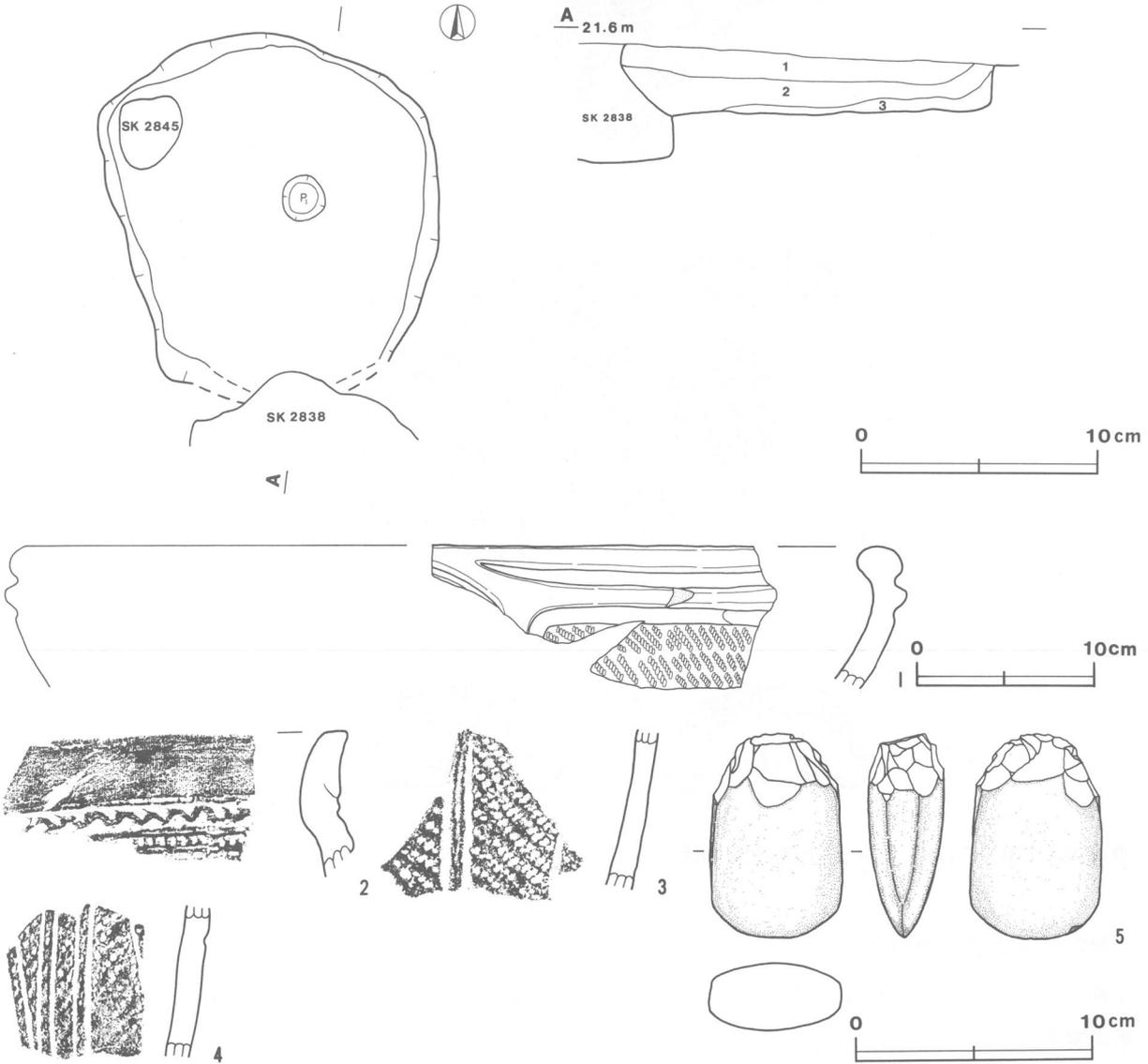
覆土 3層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物微量

遺物 縄文土器片351点, 磨製石斧1点が出土している。第443図1の深鉢の口縁部片及び5の磨製石斧は覆土から出土している。2は深鉢の口縁部片で、交互刺突文が施されている。3は複節縄文を地文に沈線の磨消懸垂文が施されている。4はLRの単節縄文を地文とし、沈線文が縦位に施されている。4は混入したものである。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第443図 第2541号土坑・出土遺物実測図

第2541号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第443図 1	深鉢 縄文土器	A [48.0] B (8.0)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部は隆帯により区画され、区画内にR Lの単節縄文が充填されている。	砂粒に ぶい褐色 普通	P119 5% PL59 覆土 加曾利E I式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第443図5	磨製石斧	(8.7)	5.6	3.3	(214.0)	砂岩	Q23 覆土

第2567号土坑 (第444図)

位置 調査区の南東部, D14f0区。

重複関係 第429号住居跡の北壁を掘り込んでいる。東側部分で第2428号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径 [0.72]m, 短径 [0.50]mの楕円形と推定され, 深さは45cmである。

長径方向 [N-42°-E]

壁 外傾して立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

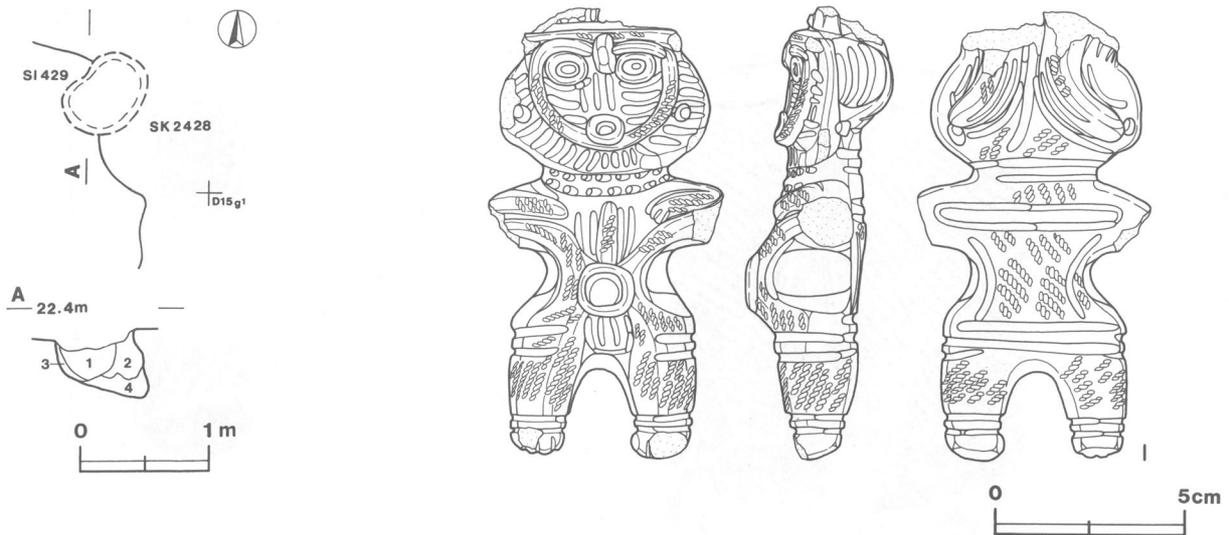
覆土 4層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 4 褐色 ローム粒子・ロームブロック中量

遺物 土偶1点が出土している。1のミミズク形土偶は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期後葉(安行1式期)と考えられる。



第444図 第2567号土坑・出土遺物実測図

第2567号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第444図 1	土 偶	11.8	6.2	3.1	(167)	80	顔面部は縄文の施された隆帯で縁取りされ、ボタン状の目と口を有している。肩部は張り、胴部はくびれて脚部となる。腹部は樹れ、中央部にボタン状の貼付文を施している。裏面は横位の沈線により区画されている。縄文は単節縄文である。赤彩痕。	DP 24 覆土 安行 1 式

第2764号土坑 (第445図)

位置 調査区の南東部, D14f6 区。

重複関係 南東部分で第2810号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

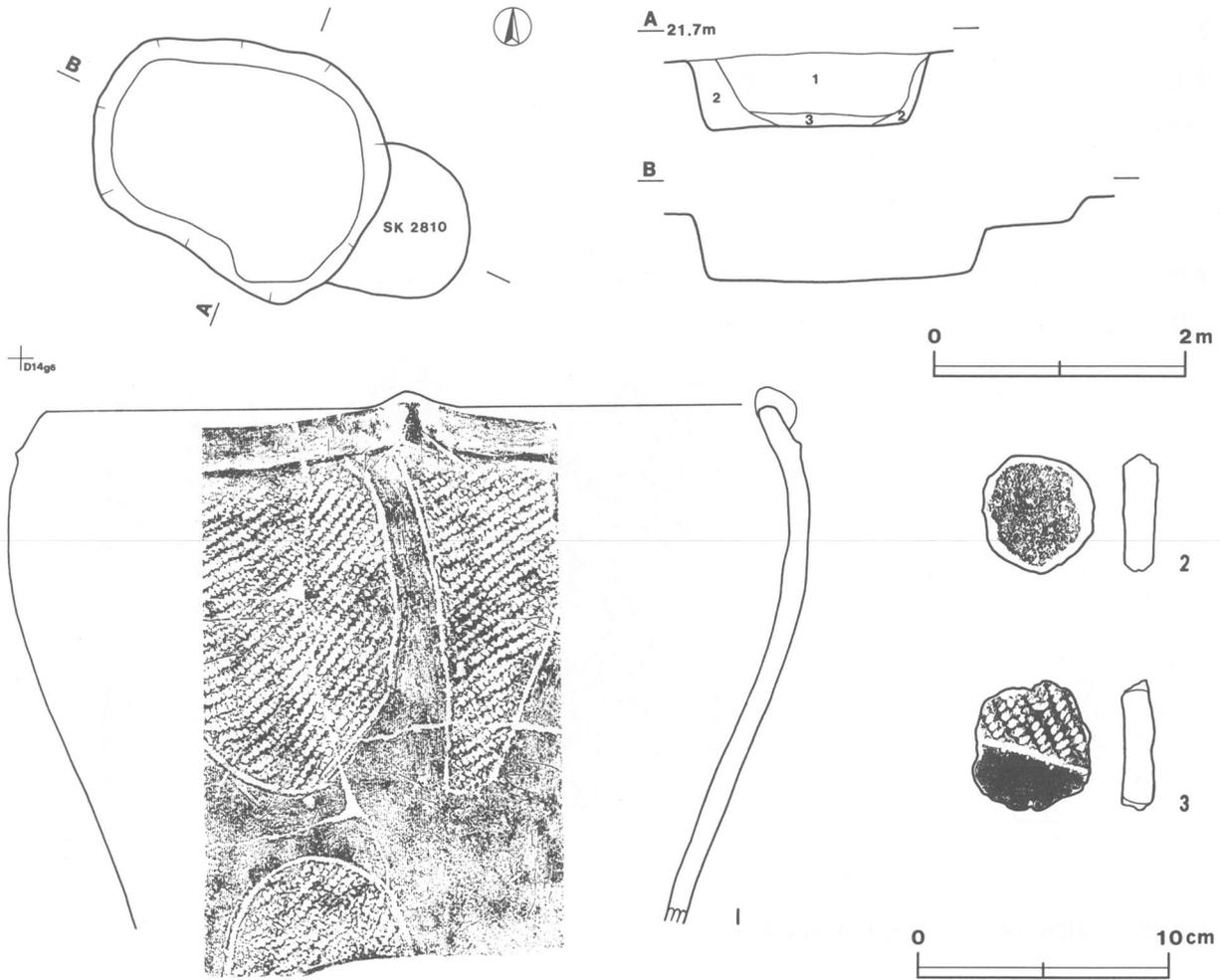
規模と平面形 長径2.37m, 短径1.82mの楕円形で, 深さは55cmである。

長径方向 N-64°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され, 堆積状況から自然堆積後, 人為的に埋め戻されたと考えられる。



第445図 第2764号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小・中・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 縄文土器片139点, 土器片円盤 1点, 土器片錘 1点が出土している。第445図1の深鉢の胴部から口縁部の破片, 2の土器片円盤, 3の土器片錘は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期後葉(加曾利E IV式期)と考えられる。

第2764号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第445図 1	深鉢 縄文土器	A [29.0] B (21.4)	胴部から口縁部の破片。小波状口縁を呈し, 口縁部は内彎する。微隆起線により幅狭の無文帯が区画される。胴部は2帯構成で, 沈線によりU字状の文様が施されている。縄文はRLの単節縄文である。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P120 10% PL59 覆土 加曾利E IV式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第445図2	土器片円盤	4.8	4.5	1.4	(33.0)	95	無文。	DP25 覆土
3	土器片錘	5.2	4.7	1.3	(37.0)	95	沈線及び単節縄文RL。	DP26 覆土

第2772号土坑(第446図)

位置 調査区の南東部, D14 e4区。

規模と平面形 径1.15mの円形で, 深さは76cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 皿状である。

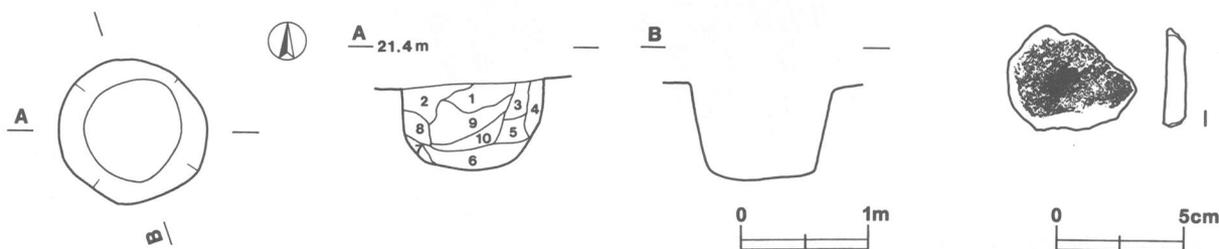
覆土 10層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられるが, 攪乱されている可能性がある。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化物少量, 焼土粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 炭化物多量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化物少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, 焼土粒子微量, 炭化物少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 8 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・炭化物中量, 焼土粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量, 焼土粒子・炭化物中量

遺物 縄文土器片74点, 土器片錘 1点が出土している。第446図1の土器片錘は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期と考えられる。



第446図 第2772号土坑・出土遺物実測図

第2773号土坑（第447図）

位置 調査区の南東部，D14 e6 区。

規模と平面形 径2.53mの円形で，深さは76cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 2か所。P₁は南壁を掘り込み，長径69cm，短径51cmの楕円形で，深さは確認面から105cmである。P₂は西壁を掘り込み，径44cmの円形で，深さは確認面から79cmである。

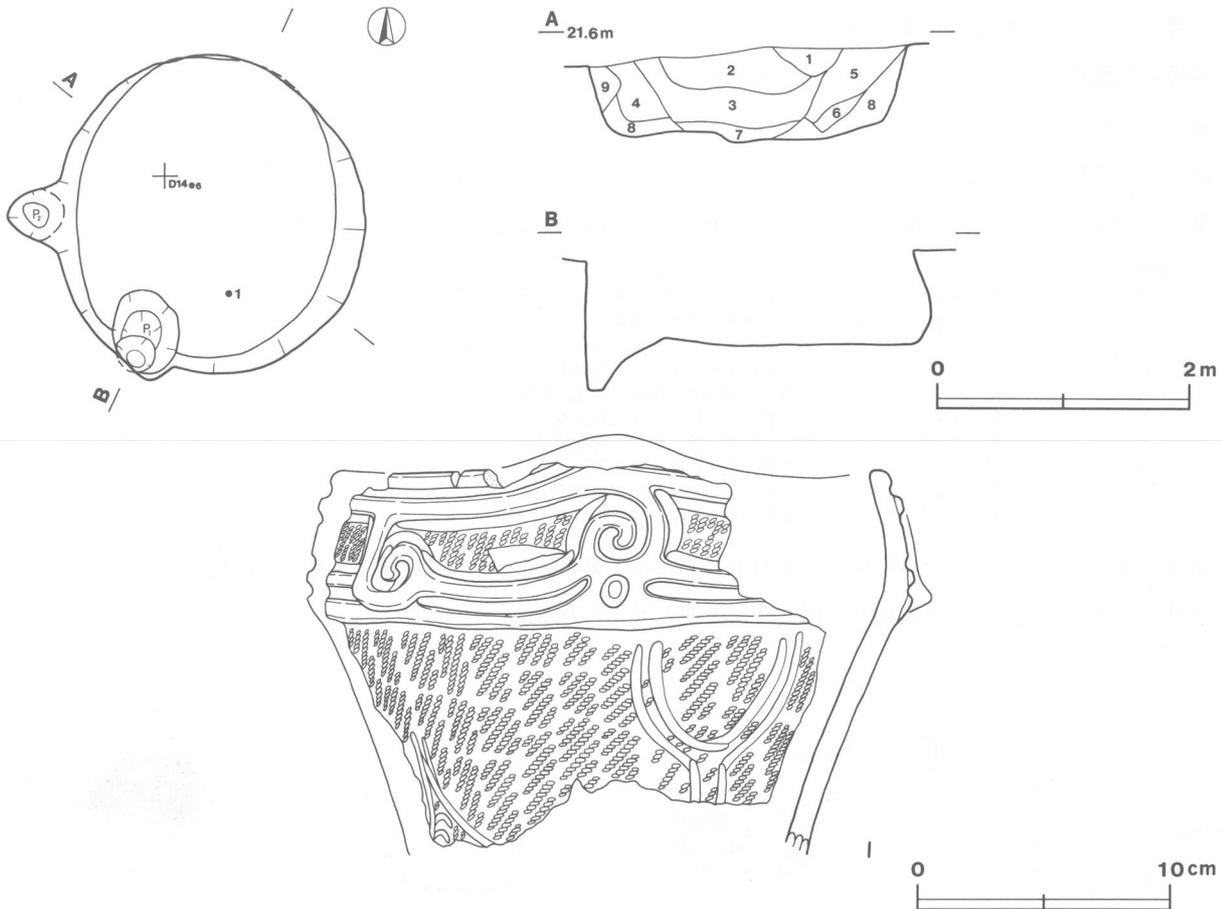
覆土 9層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量，炭化粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子中量，粘土微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量 |

遺物 縄文土器片71点が出土している。1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第447図 第2773号土坑・出土遺物実測図

第2773号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第447図 1	深鉢 縄文土器	A [21.0] B (15.4)	胴部から口縁部の破片。胴部は外傾し、口縁部はわずかに内彎する。波状口縁。口縁部は隆線と沈線で渦巻文及び区画文を描き、区画内にLRの単節縄文が施されている。口縁部と胴部は太い隆帯で区画され、胴部にはLRの単節縄文を地文に沈線がY字状に施されている。	砂粒・長石・石英 スコリア にぶい橙色 普通	P121 20% PL59 覆土 加曾利E I式

第2775号土坑 (第448図)

位置 調査区の南東部, D14e4区。

規模と平面形 長径1.64m, 短径1.17mの楕円形で、深さは36cmである。

長径方向 N-32°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 3層に分層され、堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

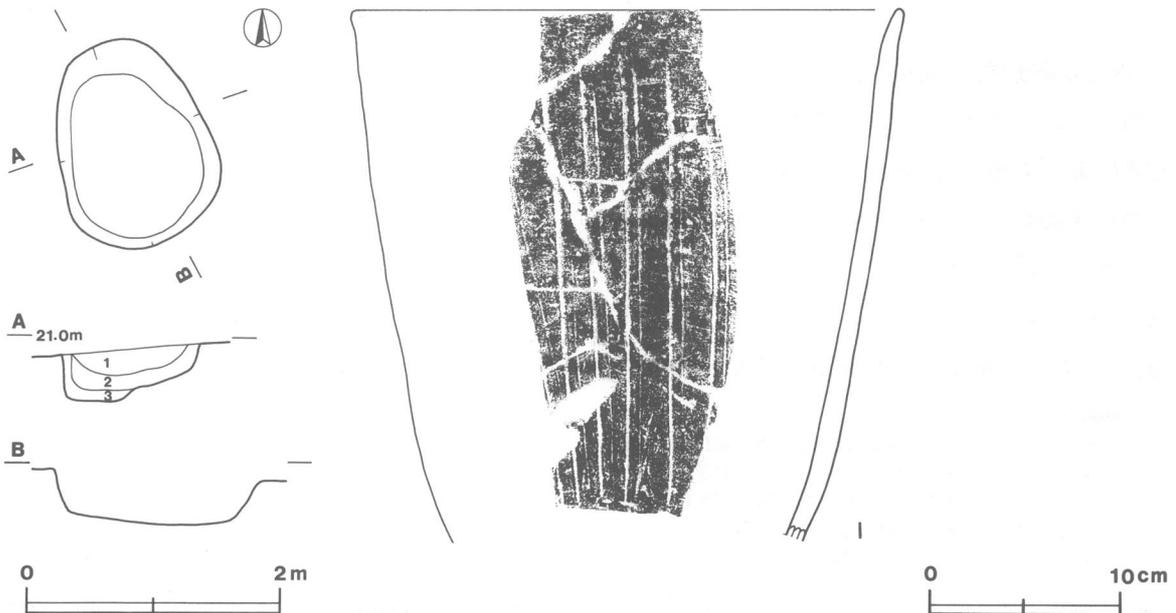
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文土器片31点が出土している。1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代後期前葉(堀之内I式期)と考えられる。

第2775号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第448図 1	深鉢 縄文土器	A [29.0] B (27.9)	胴部から口縁部の破片。胴部はわずかに外傾して口縁部に至る。胴部には半截竹管による平行沈線文が縦位に施されている。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P122 25% PL59 覆土 堀之内I式



第448図 第2775号土坑・出土遺物実測図

第2799号土坑（第449図）

位置 調査区の南東部，D14 a5区。

規模と平面形 径1.30mの円形で，深さは30cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 2層に分層されるが，攪乱のため堆積状況は不明である。

土層解説

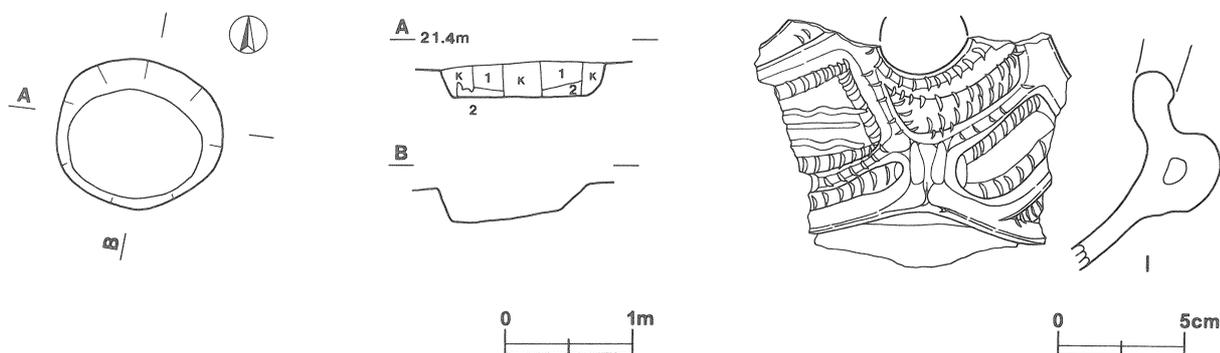
- 1 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
- 2 褐色 スコリア微量

遺物 縄文土器片33点が出土している。第449図1の深鉢の口縁部片は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第2799号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第449図 1	深鉢 縄文土器	B (9.2)	把手を有する口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部はキザミをもつ隆帯に沿って爪形文が施されている。口縁部文様帯と胴部を区画する隆帯は下方に突出している。以下は無文である。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P123 5% PL59 覆土 阿玉台Ⅲ式



第449図 第2799号土坑・出土遺物実測図

第2807号土坑（第450図）

位置 調査区の南東部，D14 c8区。

重複関係 第2808号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 径1.03mの円形で，深さは56cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 5層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 5 明褐色 ローム中ブロック微量

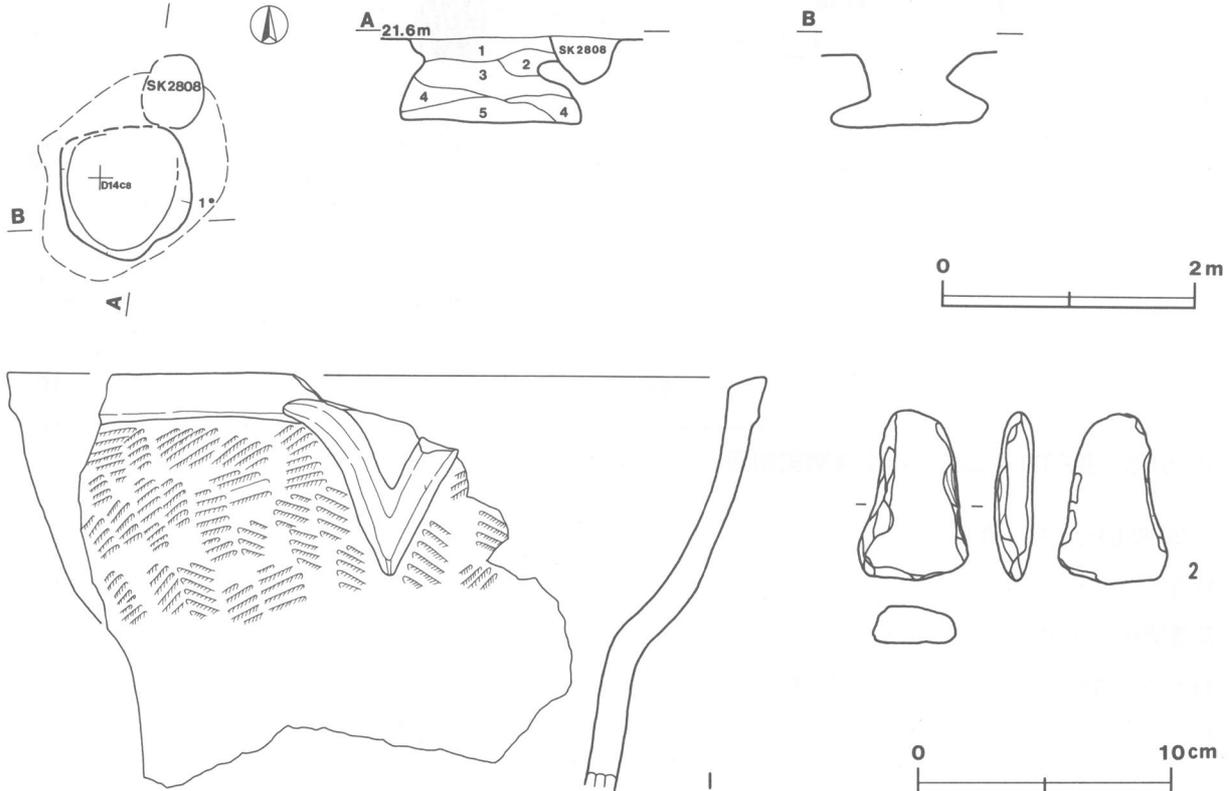
遺物 縄文土器片90点，打製石斧1点が出土している。第450図1の深鉢の胴部から口縁部の破片と2の打製石斧は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。

第2807号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第450図 1	深鉢 縄文土器	A [30.0] B (16.7)	胴部から口縁部の破片。胴部下位はわずかに外傾して立ち上がり、中位で屈曲し、口縁部に至る。口縁部はわずかに肥厚し、隆帯によるV字状文を施している。地文は無節縄文である。	砂粒・雲母・石英 スコリア にぶい褐色 普通	P124 10% PL60 覆土 阿玉台Ⅳ式

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第450図2	打製石斧	6.8	4.4	1.5	(62.0)	緑色凝灰岩	Q26 覆土



第450図 第2807号土坑・出土遺物実測図

第2811号土坑 (第451図)

位置 調査区の南東部, D14c7区。

規模と平面形 長径1.19m, 短径0.90mの楕円形で, 深さは22cmである。

長径方向 N-62°-W

壁 緩やかに立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 2層に分層され, 堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 2 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

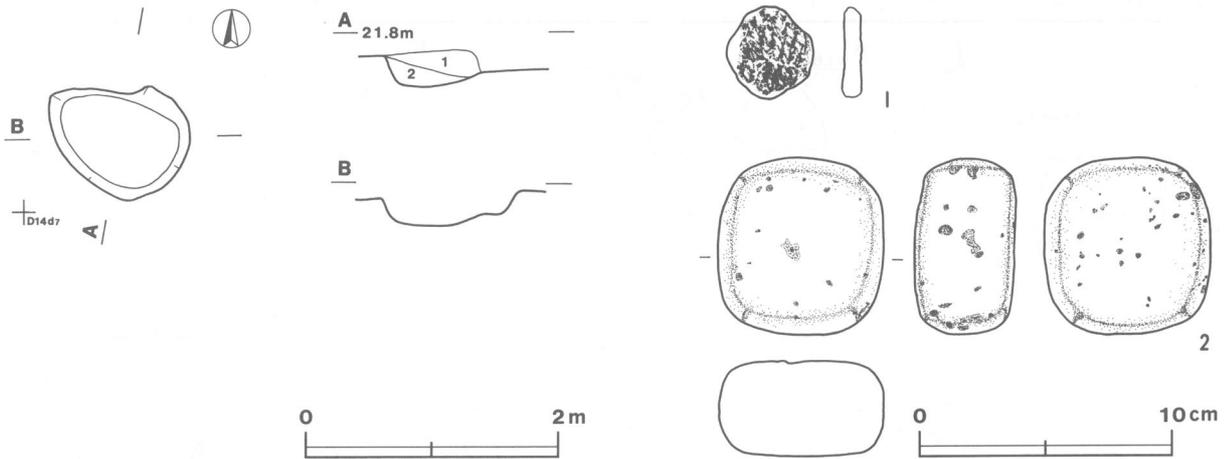
遺物 縄文土器片27点, 土器片円盤1点, 磨石1点が出土している。第451図1の土器片円盤, 2の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代後期と考えられる。

第2811号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第451図1	土器片円盤	3.7	3.5	0.8	(12.0)	95	単節縄文R.L。	D P 30 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第451図2	磨石	7.1	6.6	4.0	(327.0)	安山岩	Q27 覆土



第451図 第2811号土坑・出土遺物実測図

第2826号土坑 (第452図)

位置 調査区の南東部, D14e7区。

重複関係 第2827号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径 [1.88] mの円形と推定され, 深さは63cmである。

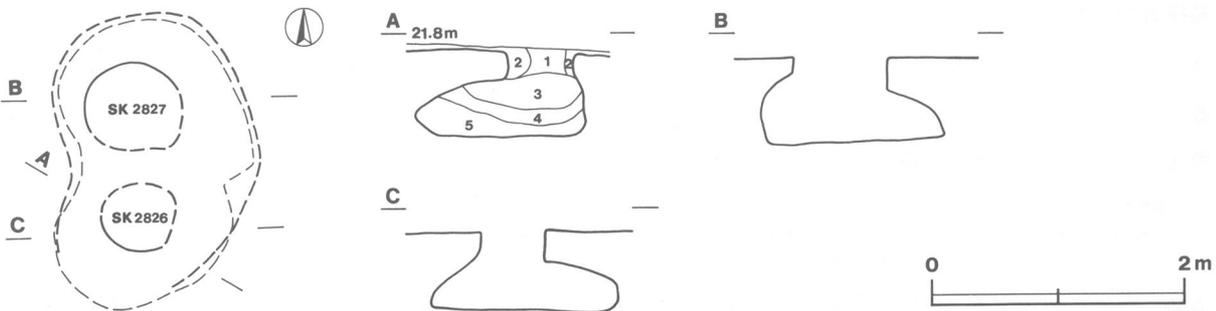
壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 5層に分層され, 覆土の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子中量, ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子少量



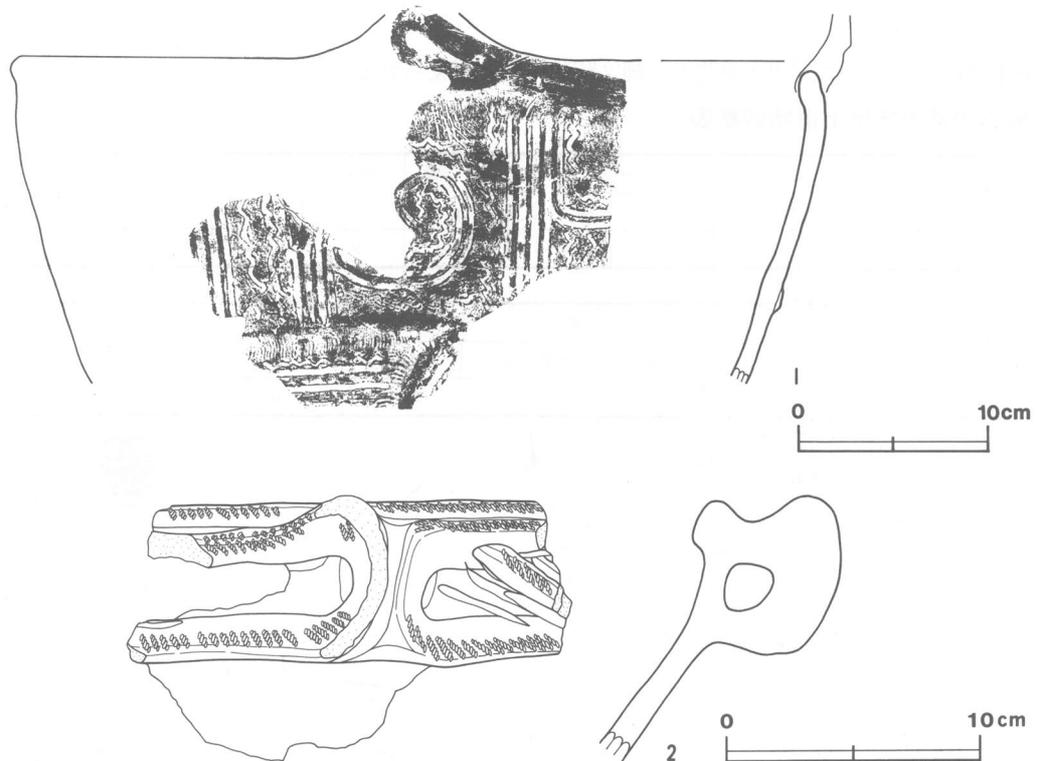
第452図 第2826・2827号土坑実測図

遺物 縄文土器片41点が出土している。第453図1・2の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅳ式）と考えられる。

第2826号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第453図 1	深鉢 縄文土器	A [42.0] B (19.8)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。波状口縁。波頂部に隆帯で渦巻文が施されている。頸部に隆帯を巡して、口縁部文様帯を形成している。口縁部には沈線により文様が施されている。胴部には隆帯に沿ってキザミが施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P125 10% PL60 覆土 阿玉台Ⅳ式
2	深鉢 縄文土器	B (10.3)	胴部から口縁部の破片。橋状把手を有し、口縁部は内彎する。把手を起点に、RLの単節縄文を施した隆帯を巡している。胴部は無文である。	砂粒・長石・石英 スコリア にぶい褐色 普通	P126 10% PL60 覆土 阿玉台Ⅳ式



第453図 第2826号土坑出土遺物実測図

第2827号土坑（第452図）

位置 調査区の南東部，D14d7区。

重複関係 南側部分を第2826号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 径 [0.75] mの円形と推定され、深さは69cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

遺物 縄文土器片19点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物及び遺構の形態から縄文時代中期と考えられる。

第2839号土坑（第454図）

位置 調査区の南東部，D14 a8 区。

重複関係 北側部分で第2863号土坑と，西側部分で第2838号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径 [3.00] m，短径 [2.28] mの楕円形と推定される。深さは62cmである。

長径方向 N-86°-E

壁 緩やかに立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 2か所。P₁は南側に位置し，長径56cm，短径49cmの楕円形で，深さは45cmである。P₂は中央部に位置し，径42cmの不整形で，深さは83cmである。

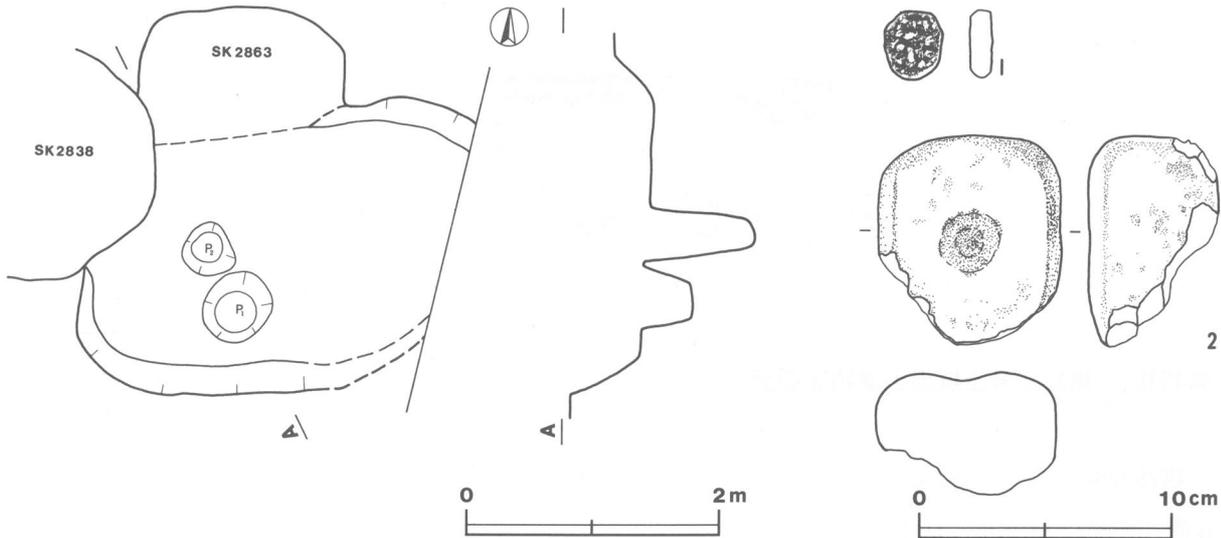
遺物 縄文土器片156点，土器片円盤1点，磨石1点が出土している。第454図1の土器片円盤，2の磨石は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

第2839号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第454図1	土器片円盤	2.7	2.3	0.9	(7.0)	95	単節縄文RL。	DP31 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第454図2	磨石	(8.4)	7.3	5.2	(335.0)	安山岩	Q28 覆土 凹石兼用



第454図 第2839号土坑・出土遺物実測図

第2840号土坑（第455図）

位置 調査区の東部，C14 g5 区。

規模と平面形 径1.36mの円形で，深さは112cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 搦鉢状である。

覆土 8層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

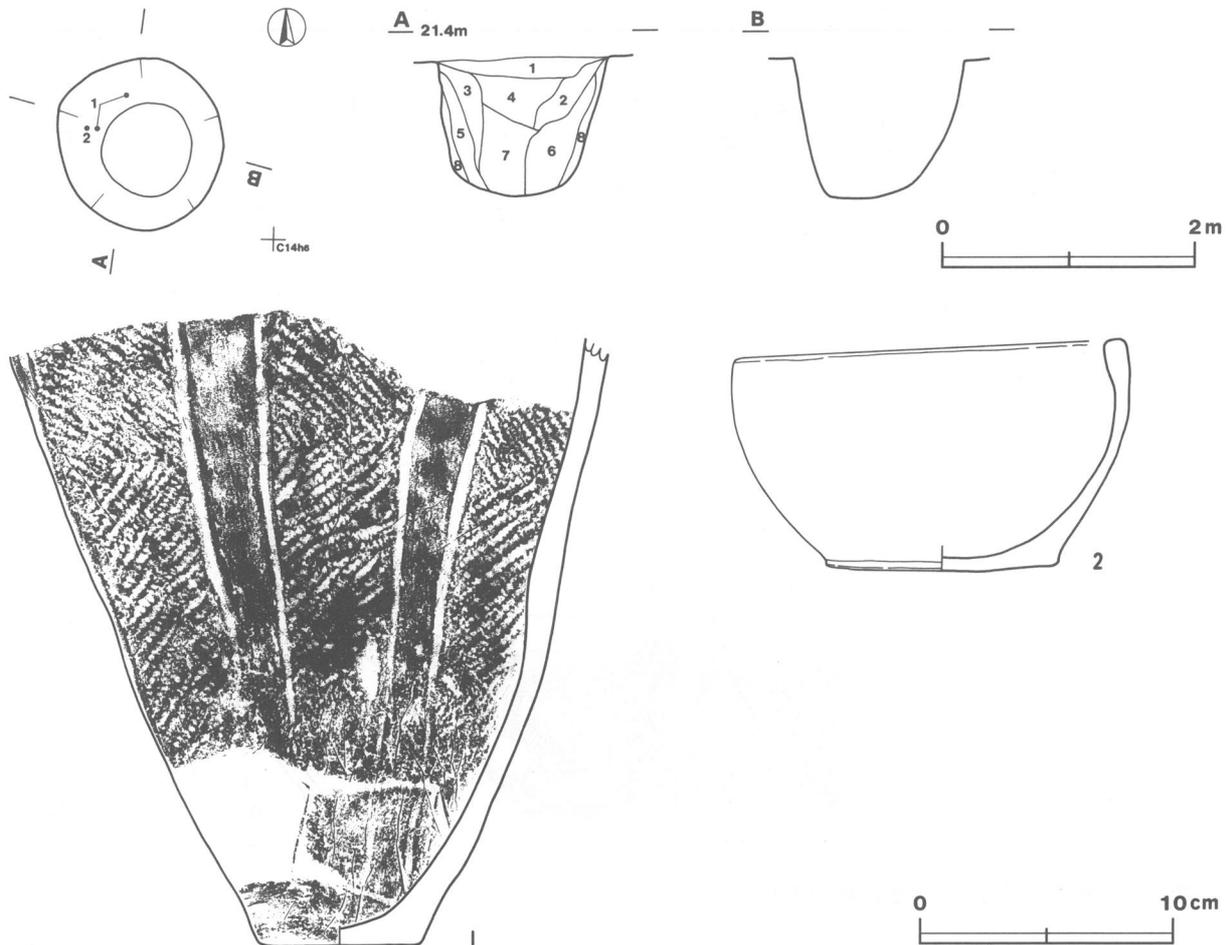
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 にぶい褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック中量, 焼土粒子微量

遺物 縄文土器片11点が出土している。第455図1の深鉢の底部から胴部の破片と2の鉢は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。

第2840号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第455図 1	深鉢 縄文土器	B (24.3) C 6.4	底部から胴部の破片。胴部は内彎気味に立ち上がる。RLの単節縄文を地文に、幅広の2本沈線の磨消懸垂文が施されている。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P127 55% PL60 覆土 加曽利EⅡ式
2	小形鉢 縄文土器	A 15.5 B 9.2 C 9.2	胴部は外傾して立ち上がり、上位で内彎し口縁部に至る。口唇部はやや肥厚する。無文である。	砂粒・長石・雲母 スコリア にぶい橙色 普通	P128 95% PL60 覆土 加曽利E式



第455図 第2840号土坑・出土遺物実測図

第2841号土坑（第456図）

位置 調査区の東部，C14i7区。

規模と平面形 長径2.13m，短径1.50mの楕円形で，深さは56cmである。

長径方向 N-55°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 1か所。北側に位置し，長径51cm，短径41cmの楕円形で，深さは77cmである。

覆土 4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

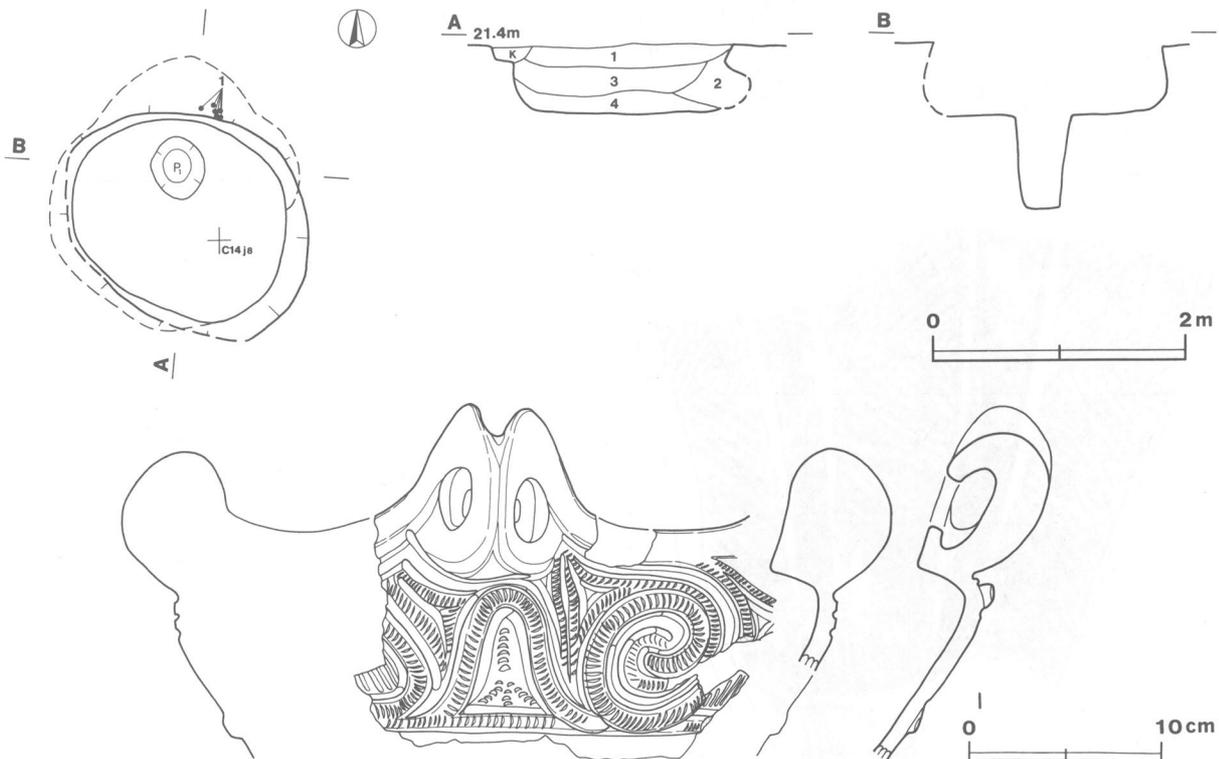
- 1 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子微量，炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量，炭化粒子微量

遺物 縄文土器片70点が出土している。第456図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2841号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第456図 1	深鉢 縄文土器	B (19.0)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。眼鏡状把手を有する。口縁部にはキザミをもつ隆帯により渦巻文，あるいは区画文が施され，区画内には沈線が充填されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P129 20% PL60 覆土下層 中峠式併行



第456図 第2841号土坑・出土遺物実測図

第2844号土坑（第457図）

位置 調査区の東部 C14i6区。

規模と平面形 長径2.58m，短径2.22mの楕円形で，深さは90cmである。

長径方向 N-17°-E

壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

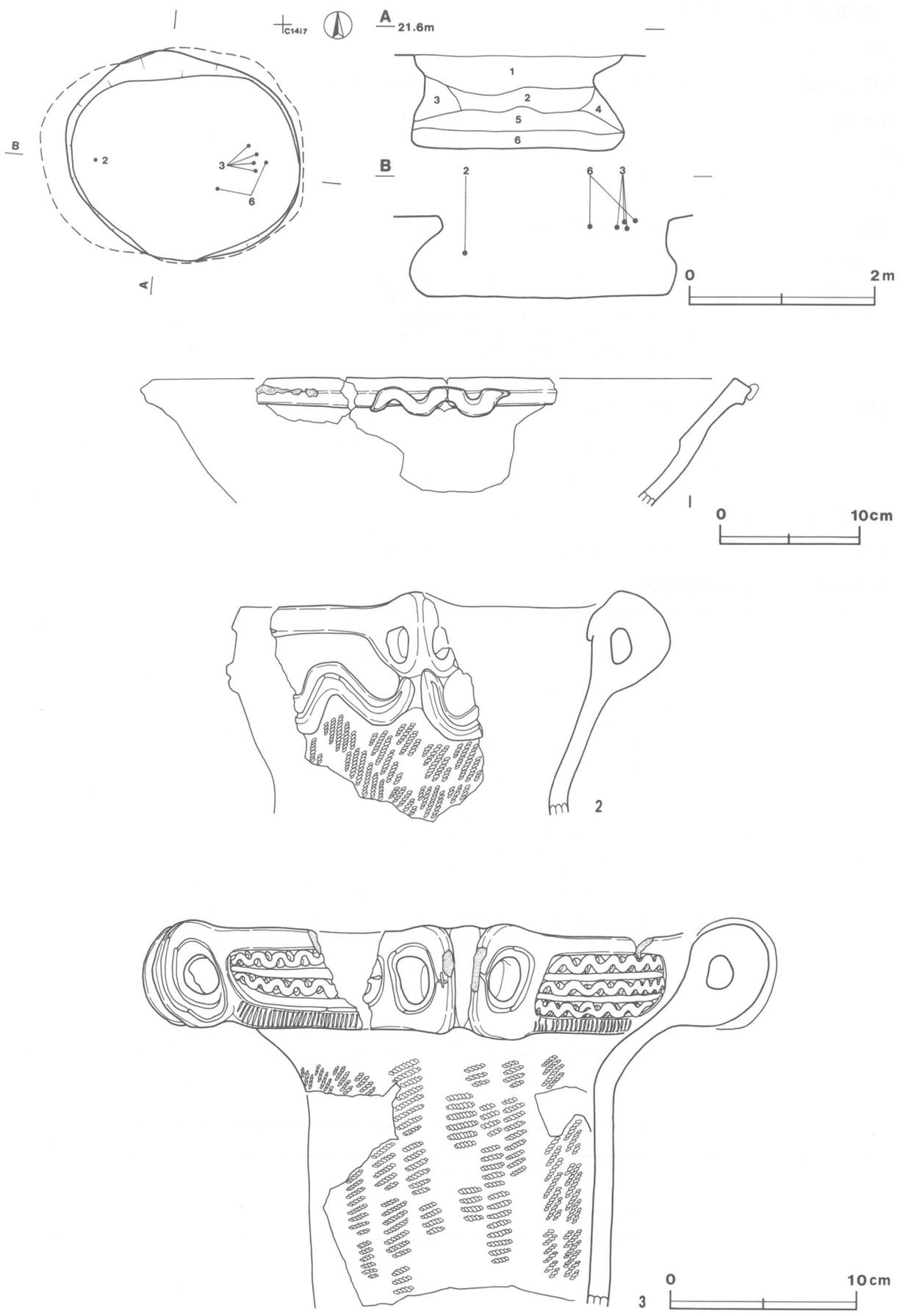
遺物 縄文土器片206点，土器片円盤1点が出土している。第457図1の浅鉢，2・3の深鉢の胴部から口縁部の破片，第458図4の深鉢の口部から胴部の破片，5の把手部片，6の深鉢の底部から胴部の破片及び9の土器片円盤は覆土から出土している。7は深鉢の口縁部片で，横位と斜位の沈線及び交互刺突文が施され，その上から沈線が施された隆帯が貼り付けられている。8は把手部片で，沈線による渦巻文及びキザミが施されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

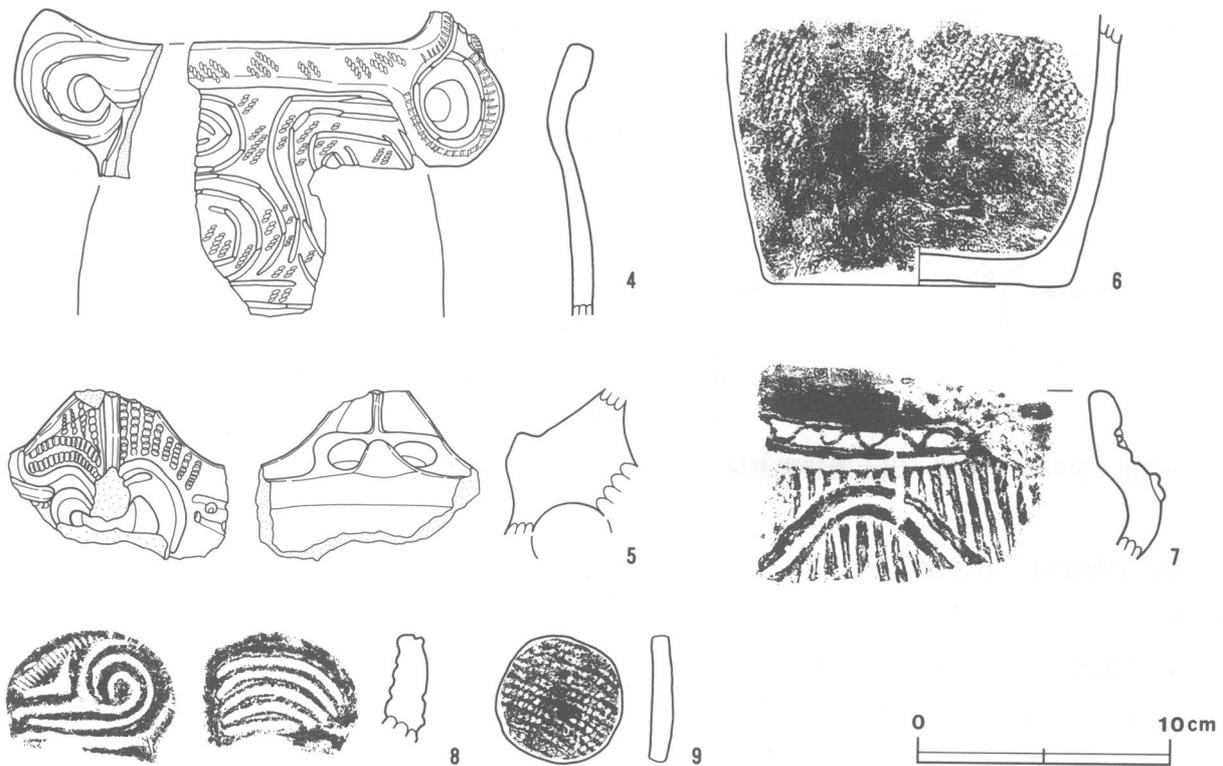
第2844号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第457図 1	浅鉢 縄文土器	A [41.2] B (9.0)	胴部から口縁部の破片。キャリバー形の器形で，口縁部は外傾する。口唇部外面には隆帯が波状に貼り付けられている。赤彩痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P134 5% PL61 覆土
2	深鉢 縄文土器	A [20.0] B (12.6)	胴部から口縁部の破片。口縁部はわずかに内彎する。眼鏡状把手を有する。口縁部には把手下から沈線の施された隆帯が波状に貼り付けられている。胴部にはRLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母・ 石英・スコリア 灰褐色 普通	P132 5% PL61 覆土 中峠式併行
3	深鉢 縄文土器	A 25.0 B (21.0)	胴部から口縁部の破片。胴部はほぼ垂直に立ち上がり，くびれて口縁部に至る。口縁部には4単位の橋状把手が付く。口縁部には沈線による長楕円形区画内に交互刺突文が施され，区画下にはキザミが施されている。胴部にはRLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・ スコリア 橙色 普通	P130 50% PL60 覆土 中峠式
第458図 4	深鉢 縄文土器	A 10.5 B (12.1)	胴部から口縁部の破片。胴部は内彎し，口縁部はわずかに外反する。口縁部に2対の眼鏡状把手をもつ。全面にRLの単節縄文が施され，胴部には沈線による曲線的文様が描かれている。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P131 30% PL61 覆土 中峠式
5	深鉢把手 縄文土器	B (6.8)	眼鏡状把手破片。表側には結節沈線文及び沈線が施されている。裏側には2単位の大きめの円形刺突文が施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P169 5% 覆土 中峠式
6	深鉢 縄文土器	B (10.0) C 11.9	底部から胴部の破片。胴部は直線的に立ち上がる。地文はRLの単節縄文である。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P133 30% PL61 覆土 中峠式

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第458図9	土器片円盤	5.1	4.9	0.8	(29.0)	95	単節縄文LR。	DP32 覆土



第457图 第2844号土坑·出土遗物实测图(1)



第458図 第2844号土坑出土遺物実測図(2)

第2848号土坑(第459図)

位置 調査区の東部, C14g6区。

重複関係 南側部分で第2849号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.97m, 短径1.58mの楕円形で, 深さは71cmである。

長径方向 N-44°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底 平坦である。

ピット 2か所。P₁は南東壁際に位置し, 長径55cm, 短径44cmの楕円形で, 深さは30cmである。P₂は北西壁際に位置し, 長径58cm, 短径24cmの不整楕円形で, 深さは79cmである。

覆土 4層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

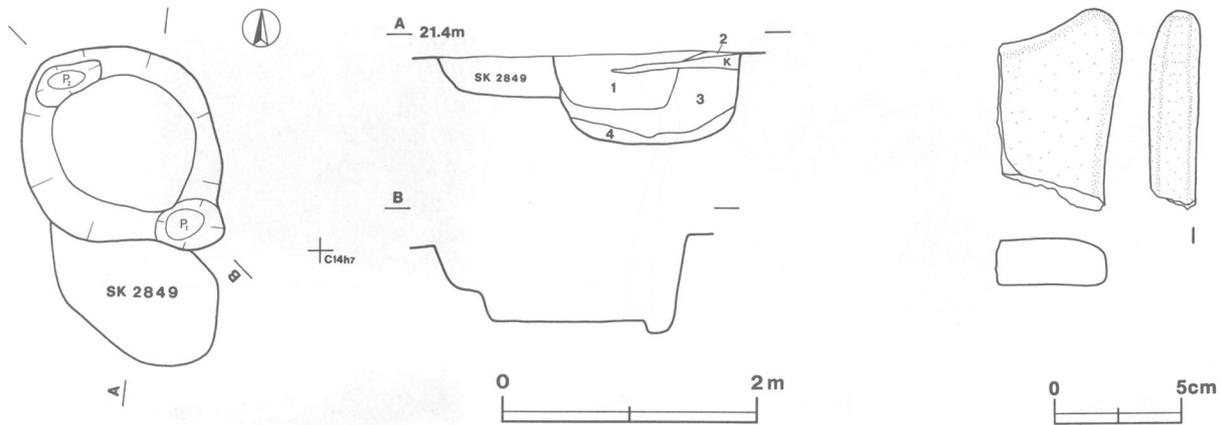
- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム少ブロック多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子微量

遺物 縄文土器片34点, 岩版1点が出土している。第459図1の岩版は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物と覆土の類似から縄文時代中期と考えられる。

第2848号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第459図1	岩版	7.9	5.0	1.9	(118.0)	砂口岩	Q29 覆土



第459図 第2848号土坑・出土遺物実測図

第2853号土坑 (第460図)

位置 調査区の東部, C14g7区。

規模と平面形 長径3.27m, 短径2.66mの楕円形で, 深さは120cmである。

長径方向 N-77°-E

壁 袋状である。

底 ほぼ平坦である。

覆土 6層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

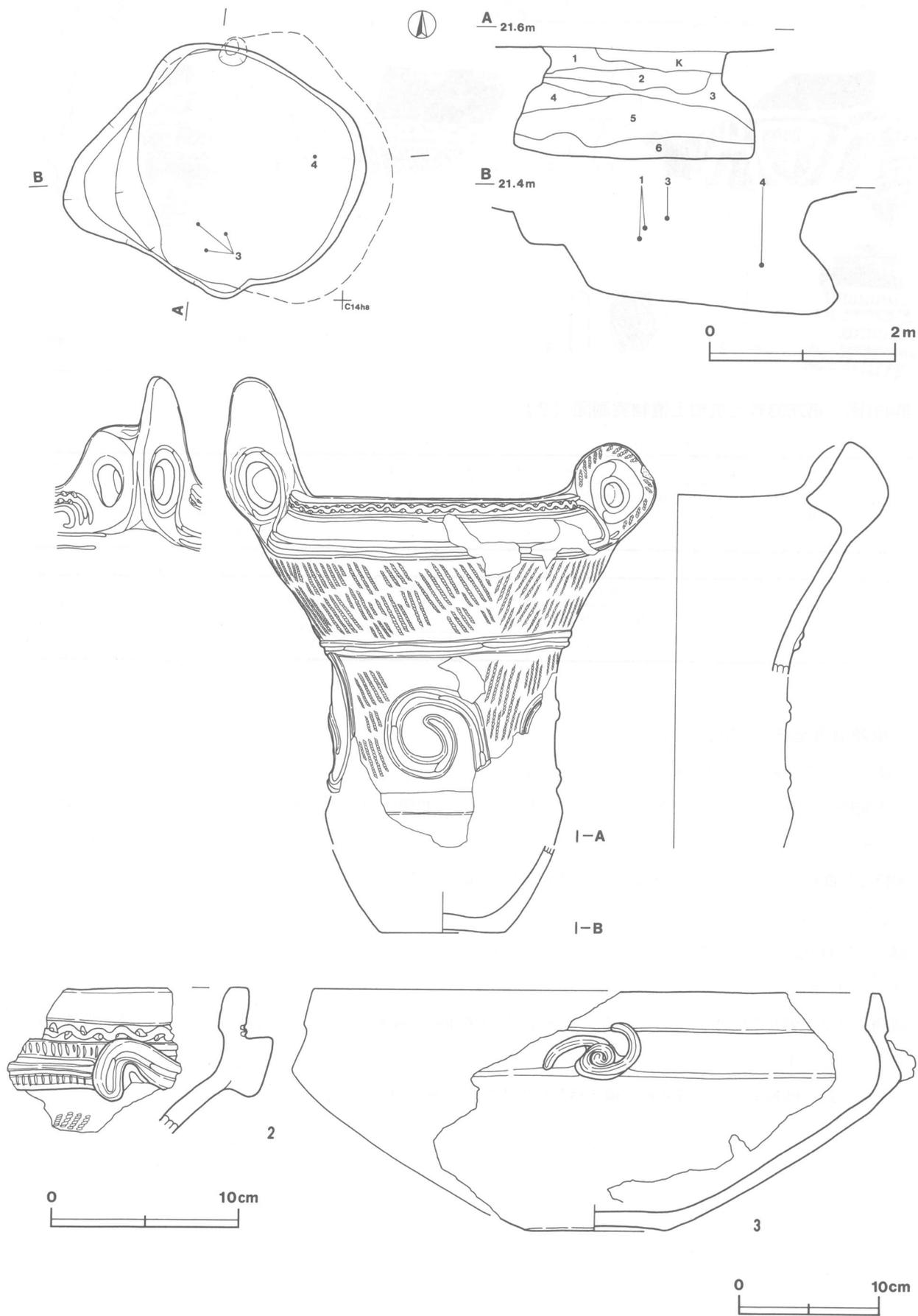
- | | | | |
|--------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・ロームブロック中量, 炭化物微量 |

遺物 縄文土器片189点, 土器片錘1点が出土している。第460図1の深鉢, 2の深鉢の胴部から口縁部の破片, 3の浅鉢の底部から口縁部片, 第461図4の浅鉢の口縁部片及び9の土器片錘は覆土上層から中層にかけてから出土している。5~8は深鉢の口縁部片である。5はキザミ目をもつ隆帯及び沈線で区画されている。6は交互刺突文及び横位の沈線が施され, 地文を条線文に, 山形沈線文が施されている。7は横位の沈線及び交互刺突文が施され, RLの単節縄文の隆起手法の帯縄文には浅い沈線が施されている。8はキザミをもつ平行沈線, 及びキザミをもつ隆帯が施されている。

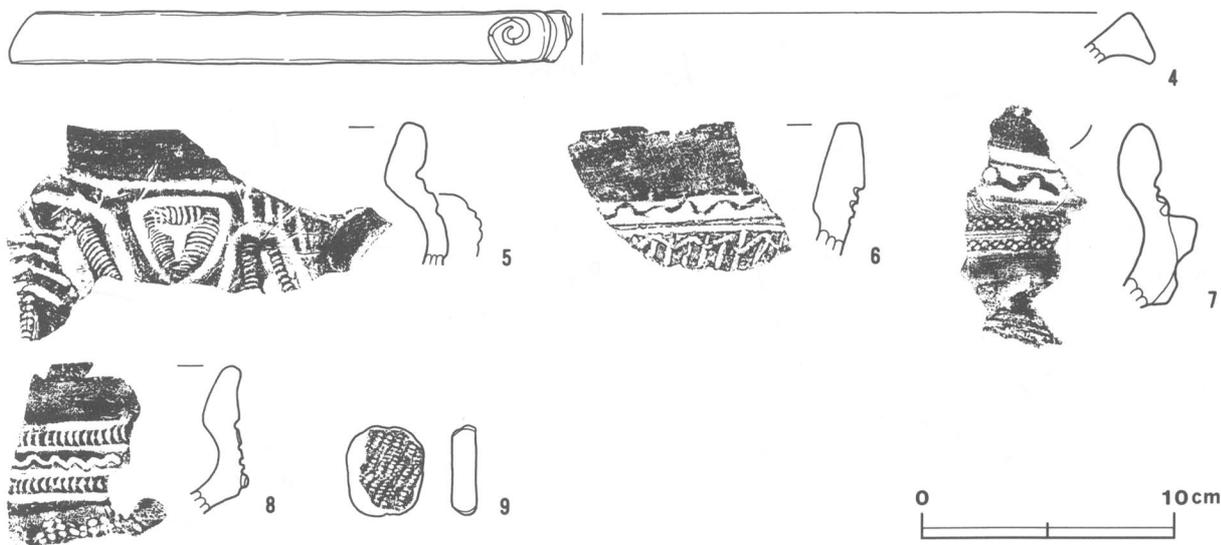
所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期中葉(中峠式期)と考えられる。

第2853号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第460図 1	深鉢 縄文土器	(A) A 21.5 B (34.0) (B) B (6.3) C 9.0	屈曲底を呈し, 口縁部はソロバン玉状で, 大小二つの把手を有する。口縁部は把手から続く沈線により区画され, 口唇部直下に交互刺突文が施されている。区画内は無文である。地文は捺糸文で, 隆帯により口縁部と胴部を区画している。胴部には, 沈線をもつ隆帯が蕨手状に施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P135 A・B P L61 80% 覆土上層 中峠式併行 AとBは同一個体
2	深鉢 縄文土器	B (8.4)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部には, 交互刺突文及びキザミ目が施され, 沈線の施された隆帯が横S字状に施されている。胴部にはRLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・雲母 石英・スコリア にぶい褐色 普通	P170 5% 覆土 中峠式併行
第461図 3	浅鉢 縄文土器	A [39.6] B 17.3 C 10.0	底部から口縁部片。胴部は外反して立ち上がり, 口縁部は屈曲して内傾する。口縁部には隆帯による渦巻文が施されている。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P136 25% P L61 覆土上層 中峠式併行



第460图 第2853号土坑·出土遗物实测图(1)



第461図 第2853号土坑出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第461図 4	浅鉢 縄文土器	A [57.2] B (2.7)	口縁部片。沈線による渦巻文が施されている。赤彩痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P137 5% 覆土中層 中峠式併行

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第461図9	土器片錘	3.7	3.2	0.9	(14.0)	95	単節縄文RL。	DP33 覆土

第2854号土坑 (第462図)

位置 調査区の東部, C14i8区。

重複関係 西側部分を第2855号土坑に掘り込まれている。北側部分で第2856号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.00m, 短径1.44mの不定形で、深さは44cmである。

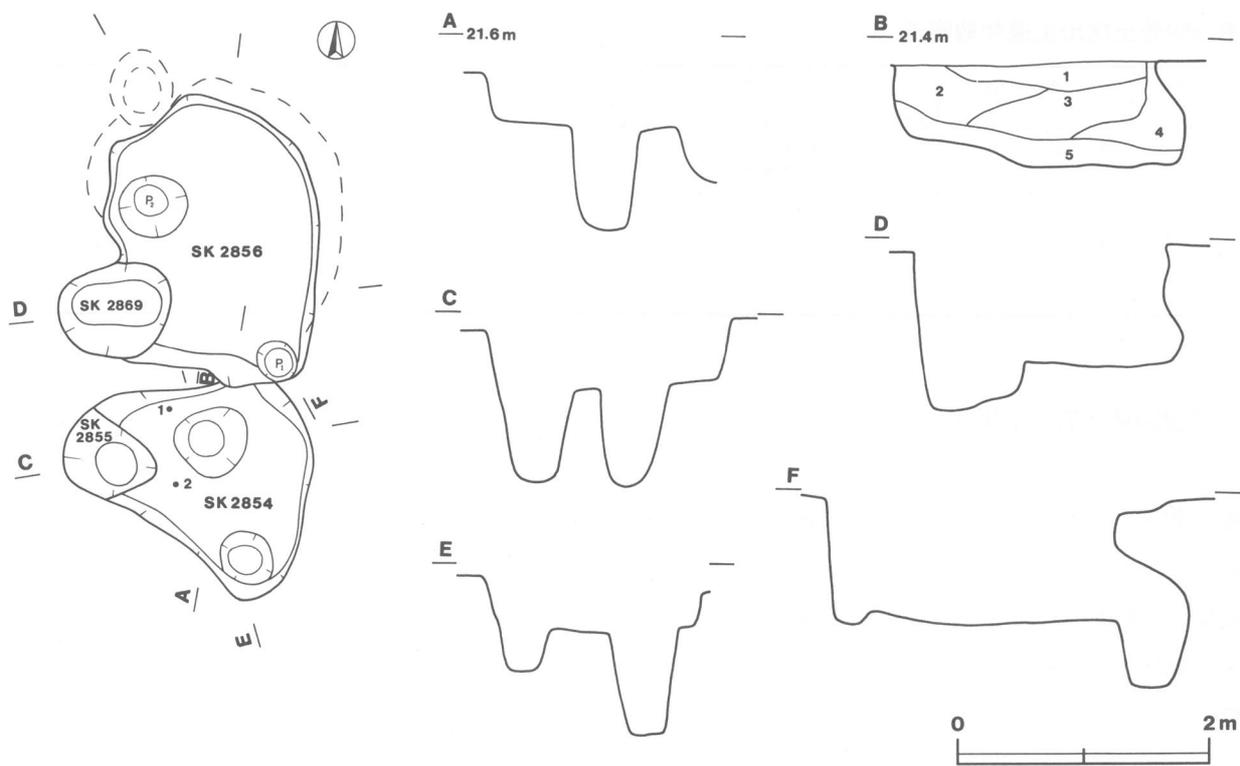
長径方向 N-59°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

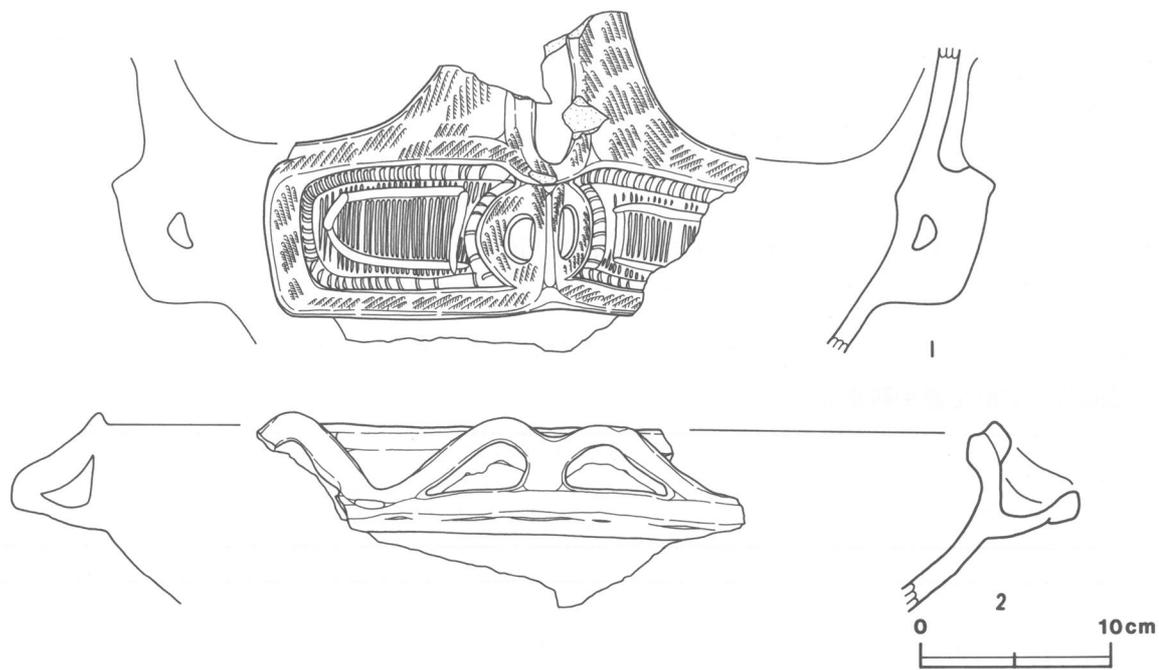
底 平坦である。

遺物 縄文土器片49点が出土している。第463図1の深鉢の口縁部片及び2の浅鉢の胴部から口縁部の破片は、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉(中峠式期)と考えられる。



第462图 第2854·2856号土坑实测图



第463图 第2854号土坑出土遗物实测图

第2854号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第463図 1	深鉢 縄文土器	B (18.0)	山形状把手をもつ口縁部片。LRの単節縄文が施された把手につながる隆帯で区画文が施されている。区画に沿って押し刺突文が施され、区画内に縦位の細い沈線が施されている。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P138 5% PL61 覆土 中峠式併行
2	浅鉢 縄文土器	A [45.4] B (9.5)	胴部から口縁部の破片。口縁部は内彎する。口縁部に隆帯が山形状に貼り付けられている。	砂粒・石英・雲母 スコリア にぶい褐色 普通	P139 20% PL61 覆土 中峠式併行

第2856号土坑 (第462図)

位置 調査区の東部, C14i8区。

重複関係 南西部分を第2869号土坑に掘り込まれている。南側部分で第2854号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.31m, 短径1.63mの楕円形で, 深さは100cmである。

長径方向 N-28°-W

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 2か所。P₁は南東壁際に位置し, 径34cmの円形で, 深さは12cmである。P₂は北西壁際に位置し, 径54cmの円形で, 深さは30cmである。

覆土 5層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	4 暗褐色	ローム粒子少量, ロームブロック中量
2 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	5 褐色	ローム粒子少量, ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物微量		

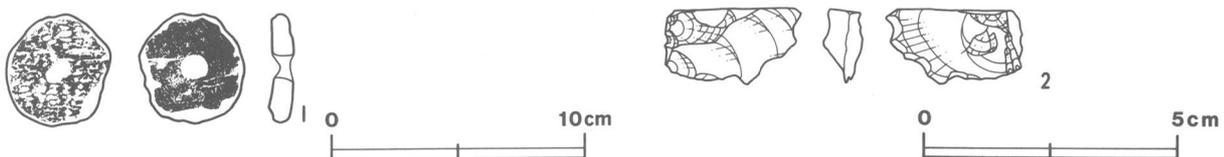
遺物 縄文土器片428点, 土器片円盤1点及び剥片1点が出土している。第464図1の土器片円盤と2の剥片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物及び遺構の形態から縄文時代中期と考えられる。

第2856号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第464図1	土器片円盤	4.4	4.1	0.9	(23.0)	95	単節縄文LR。	DP34 覆土

図版番号	器種	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第464図2	剥片	2.65	1.5	1.35	(2.62)	黒曜石	Q30 覆土



第464図 第2856号土坑出土遺物実測図

第2858号土坑（第465図）

位置 調査区の南東部，D14 a5 区。

重複関係 第2870号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径2.30m，短径（1.30）mの楕円形と推定され，深さは75cmである。

長径方向 N-43°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され，堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量，・ローム小ブロック・炭化粒子中量 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
 2 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

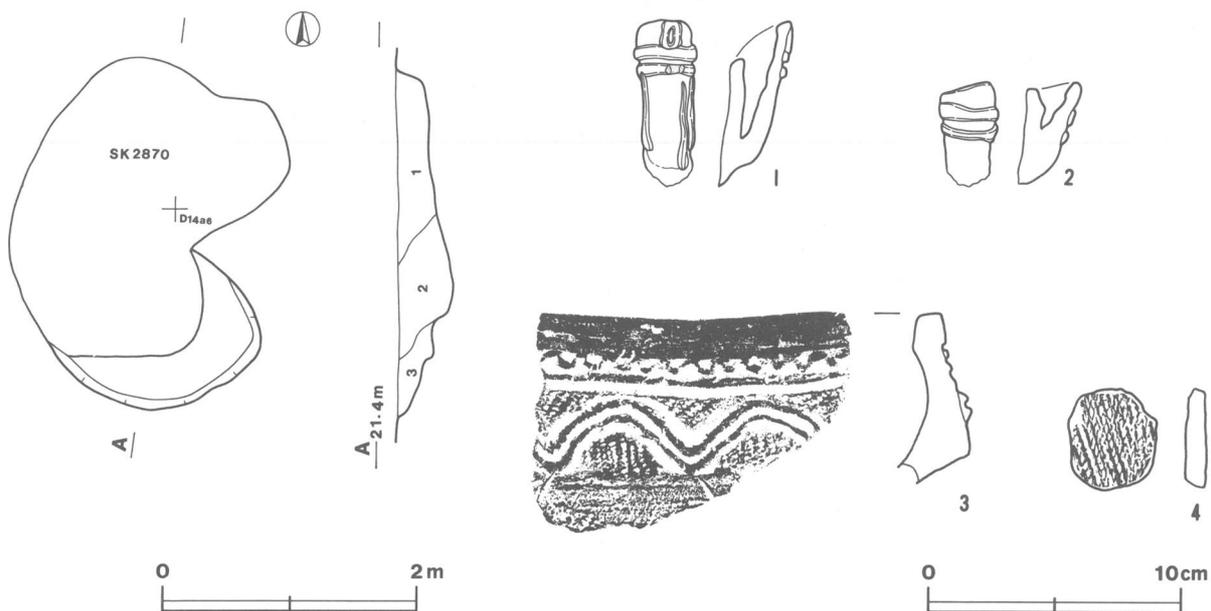
遺物 縄文土器片239点，土器片円盤1点が出土している。第465図1・2の把手と4の土器片円盤は覆土から出土している。3は浅鉢の口縁部片で，交互刺突文を施している。地文はRLの単節縄文で，沈線をもつ隆帯が波状に施されている。4は土器片円盤である。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2858号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第465図 1	深鉢 縄文土器	B (6.8)	把手部片。細い粘土紐が横位と縦位に貼り付けられている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P140 5% 覆土 中峠式併行
2	深鉢 縄文土器	B (4.3)	把手部片。細い粘土紐が横位に施されている。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P141 5% 覆土 中峠式併行

図版番号	器種	計測値(cm)			重量 (g)	現存率 (%)	形状及び文様の特徴	備考
		長さ	幅	厚さ				
第465図4	土器片円盤	4.0	3.05	0.9	(16.0)	95	撚糸文。	DP35 覆土



第465図 第2858号土坑・出土遺物実測図

第2859号土坑（第466図）

位置 調査区の東部，C14h7区。

重複関係 北西部分で第2860号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.63m，短径2.15mの楕円形で，深さは116cmである。

長径方向 N-84°-E

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 1か所。P₁は東壁際に位置し，長径80cm，短径70cmの不整楕円形で，深さは16cmである。

覆土 11層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説

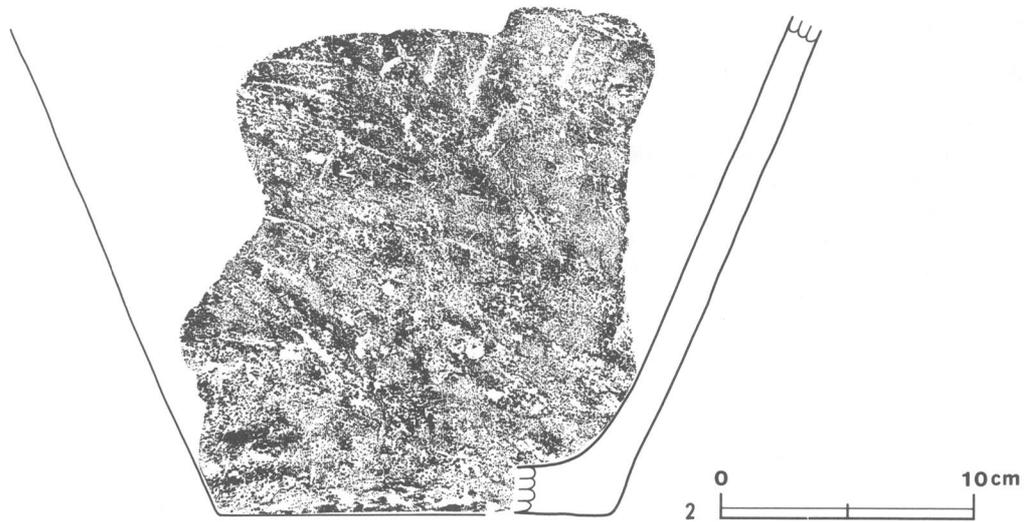
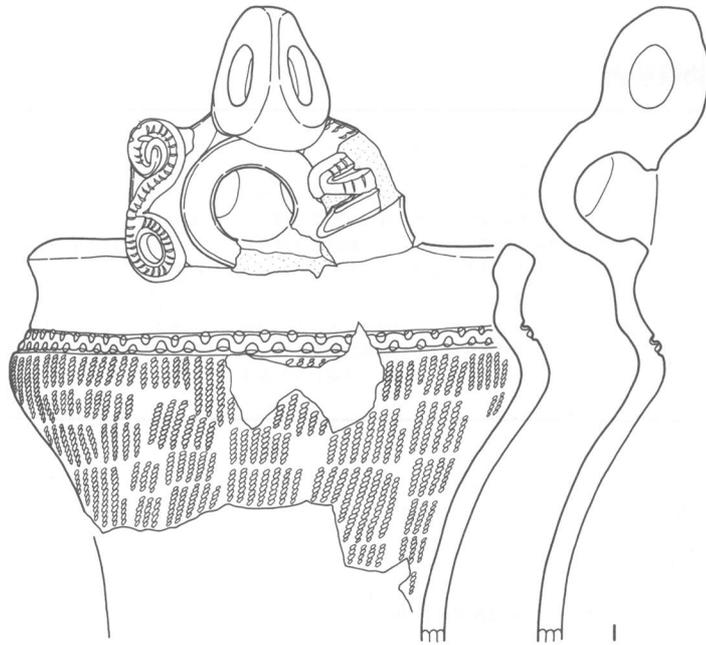
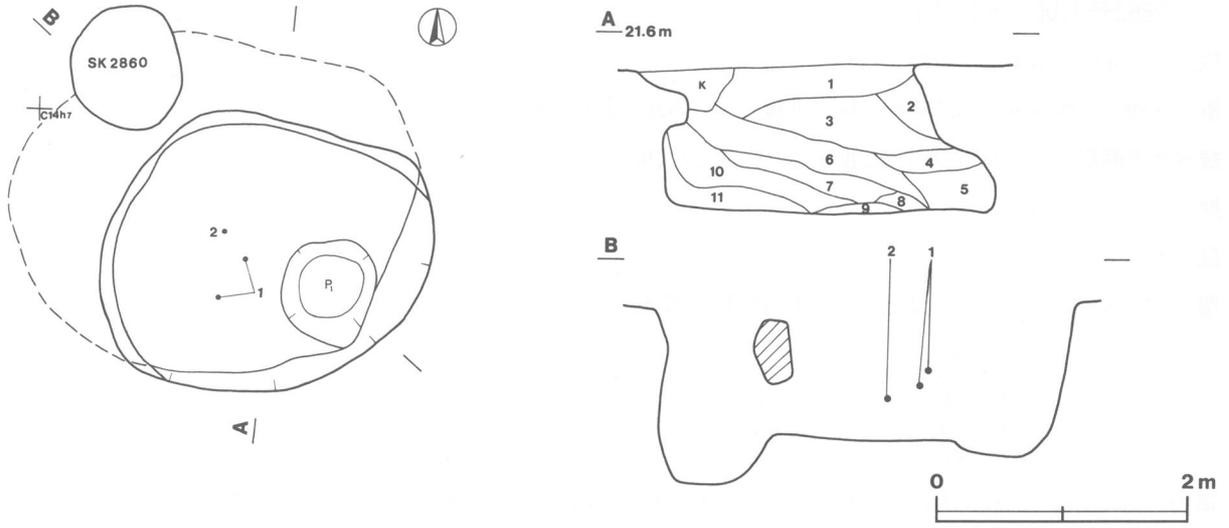
- | | | |
|----|----|---|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 7 | 褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 8 | 褐色 | ローム中ブロック少量 |
| 9 | 褐色 | ローム中ブロック中量（5層より締まりが強い） |
| 10 | 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 11 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム中ブロック少量 |

遺物 縄文土器片159点が出土している。第466図1の深鉢の胴部から口縁部の破片及び2の深鉢の底部から胴部の破片は覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2859号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第466図 1	深鉢 縄文土器	A 20.1 B (25.4)	胴部から口縁部の破片。キャリパー形の器形で，口縁部に眼鏡状把手が1か所付く。把手にキザミ目をもつ隆帯がS字状に貼り付けられている。口縁部は無文である。口縁部と胴部は交互刺突による連続コの字文で区画され，胴部にはRLの単節縄文が施されている。	砂粒・雲母 におい橙色 普通	P142 30% PL61 覆土中層 中峠式
2	深鉢 縄文土器	B (19.1) C [15.6]	底部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文である。	砂粒・長石・雲母・ 石英・スコリア におい黄橙色 普通	P143 10% PL61 覆土中層



第466图 第2859号土坑·出土遗物实测图

第2862号土坑（第467図）

位置 調査区の南東部，D14 a1 区。

重複関係 南西部分で第2785号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 径2.34mの円形と推定され，深さは49cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量，ロームブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子多量，ロームブロック少量

遺物 縄文土器片32点，剥片1点が出土している。第467図1・2の深鉢は底面から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台IV式期）と考えられる。

第2862号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	深鉢 縄文土器	A [32.0] B (42.0)	胴部から口縁部の破片。胴部は直線的に立ち上がり，口縁部には4か所の山形状の把手をもつ。全面にLRの単節縄文が施されている。キザミ目をもつ断面三角形の隆帯により口縁部文様帯が構成され，頸部は無文で，断面カマボコ状の隆帯及び沈線により胴部と区画されている。胴部にはJ環状の突起を有する隆帯が貼り付けられ，隆帯に沿って沈線が施されている。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P144 40% PL62 底面 阿玉台IV式
2	深鉢 縄文土器	A [22.4] B (29.5) C 9.5	胴部は直線的に立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。地文はLRの単節縄文で，2本の隆帯により口縁部文様帯が作られ，隆帯に沿って曲線的な沈線文が描かれている。胴部には沈線により蕨手文が施されている。	砂粒・長石・石英・ 雲母 にぶい赤褐色 普通	P145 60% PL62 底面 阿玉台IV式

第2867号土坑（第468図）

位置 調査区の南東部，D14 a7 区。

規模と平面形 径1.64mの円形で，深さは85cmである。

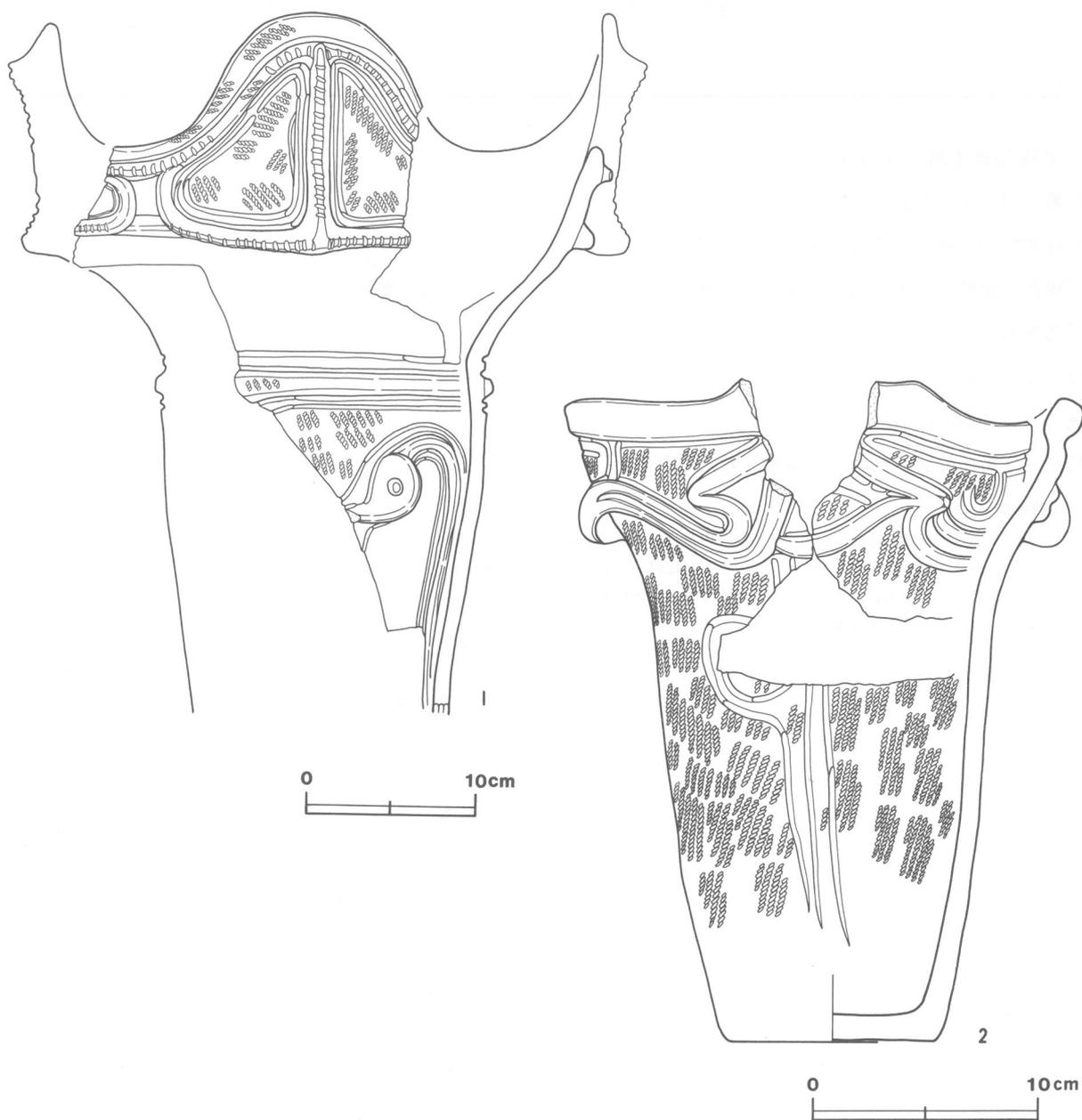
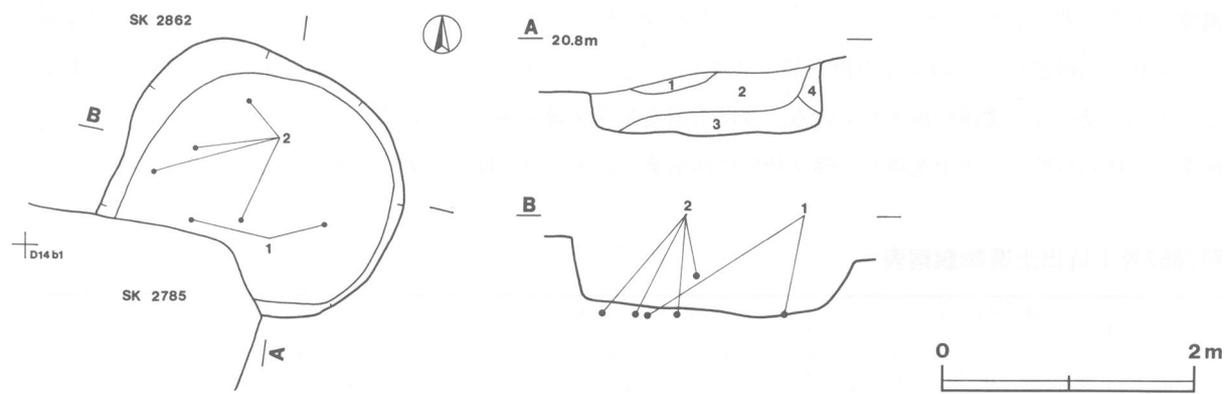
壁 袋状である。

底 平坦である。

覆土 6層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量，ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・ロームブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子・炭化物少



第467图 第2862号土坑·出土遗物实测图

遺物 縄文土器片422点が出土している。1は浅鉢の底部片口縁部の破片で、底面から出土している。第468図2の深鉢の口縁部片、3の深鉢の把手部片は覆土から出土している。4・5は深鉢の口縁部片である。4は幅広い爪形文及び波状沈線が施されている。5は爪形文及び沈線が施されている。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第2867号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第468図 1	浅鉢 縄文土器	A [51.4] B 16.0	底部から口縁部片。底部は小さい。口縁部には4単位と推定される突起をもつ。赤彩痕。	砂粒・長石・雲母 にふい褐色 普通	P146 40% PL62 底面 阿玉台Ⅲ式
2	深鉢 縄文土器	B (7.0)	口縁部片。隆帯を渦巻状に貼り付けた突起をもつ。突起から続く隆帯が口縁部に下がり、口縁部には半截竹管による結節沈線文及び山形沈線文が施されている。	砂粒・長石・雲母 赤褐色 普通	P171 2% 覆土 阿玉台Ⅲ式
3	深鉢 縄文土器	B (10.7)	把手部片。隆帯により文様を施し、隆帯に沿ってキザミが施されている。	砂粒・長石・ スコリア にふい赤褐色 普通	P174 2% 覆土 阿玉台Ⅲ式

第2870号土坑（第469図）

位置 調査区の南東部，D13j5区。

重複関係 南側部分で第2858号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径2.03m，短径 [1.50] mの不定形で，深さは92cmである。

長径方向 N-0°

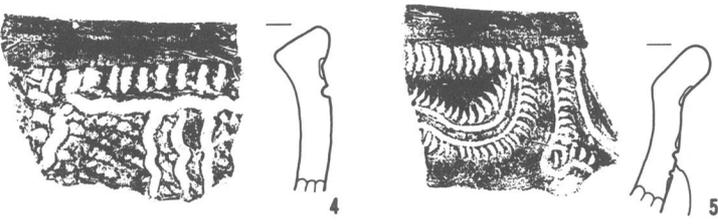
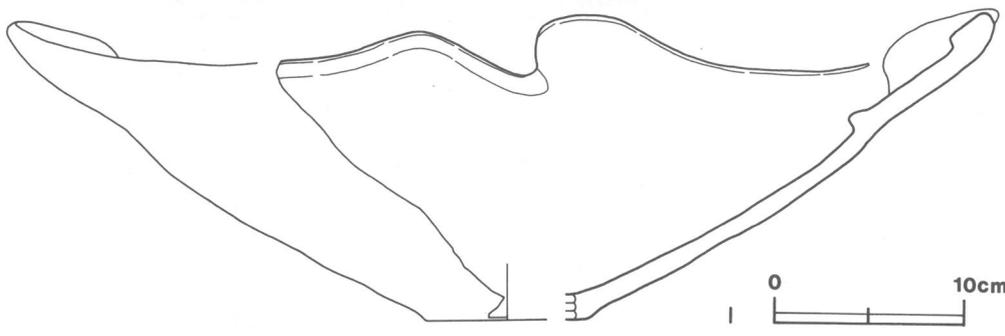
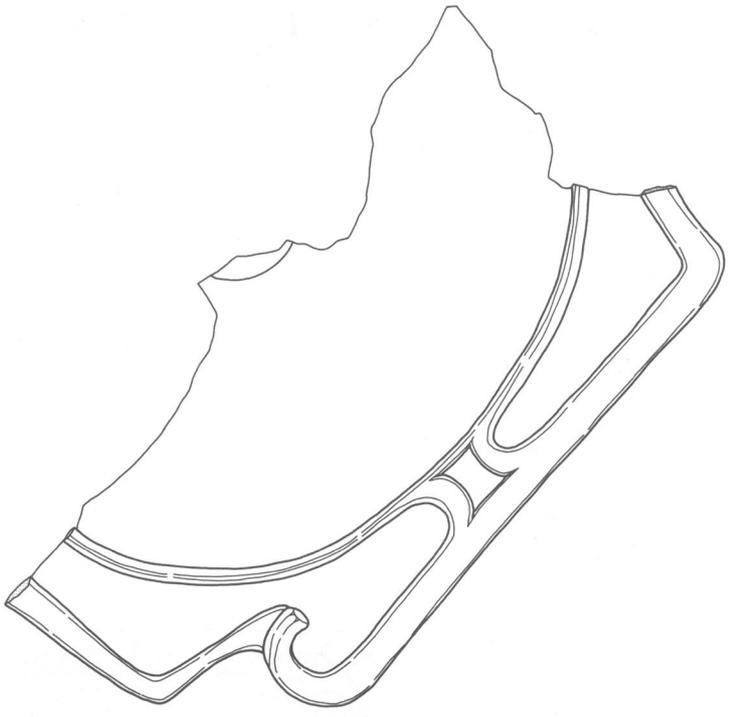
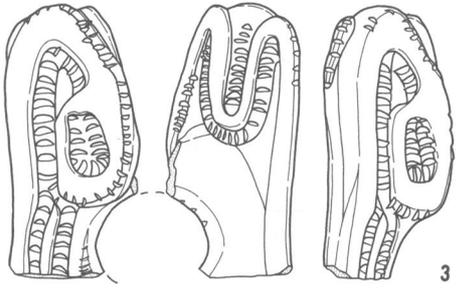
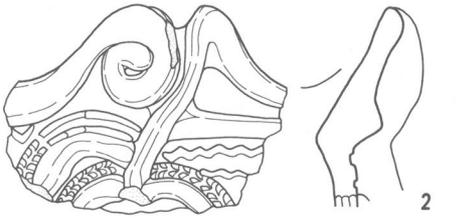
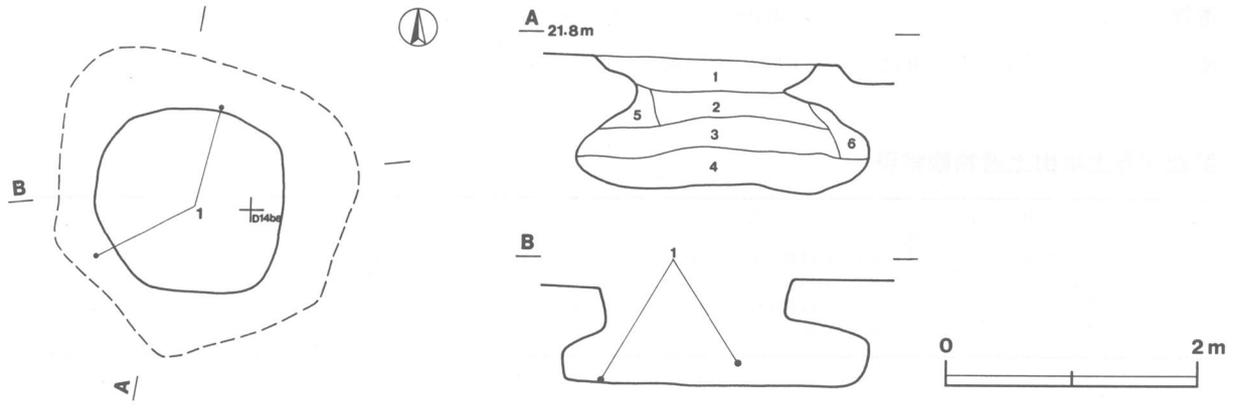
壁 袋状である。

底 皿状である。

覆土 4層に分層され，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子微量，炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量，炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量



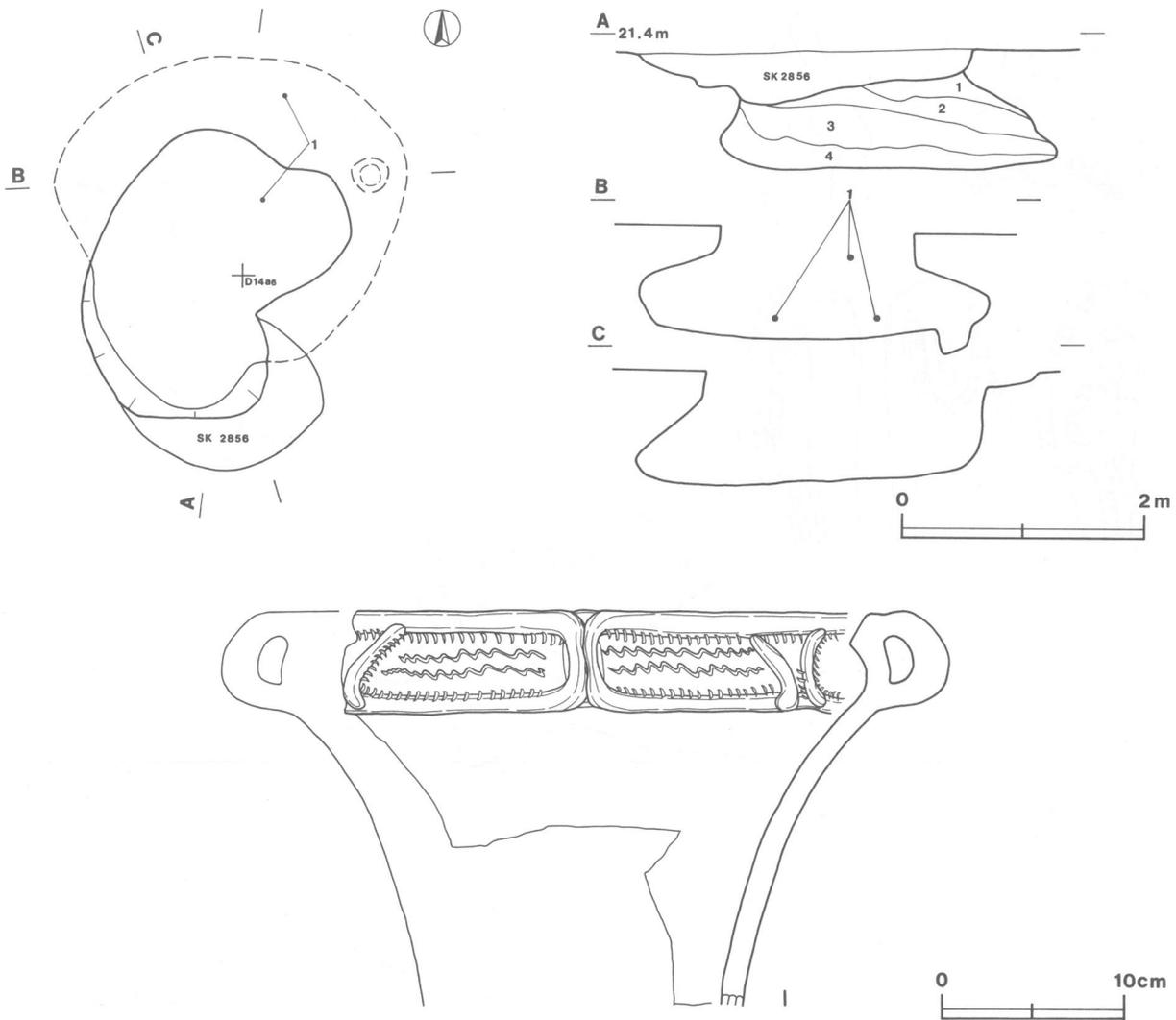
第468图 第2867号土坑·出土遗物实测图

遺物 縄文土器片37点が出土している。第469図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代中期前葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第2870号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第469図 1	深鉢 縄文土器	A [31.0] B (21.9)	胴部から口縁部の破片。口縁部に橋状把手を有し、把手につながる隆帯で口縁部に楕円形区画文が施され、区画内に爪形文及び山形沈線文が施されている。口縁部文様帯と胴部を区画する隆帯は下方に突出している。胴部は無文である。	砂粒・長石・雲母 にふい褐色 普通	P147 15% PL62 覆土下層 阿玉台Ⅲ式



第469図 第2870号土坑・出土遺物実測図

第2871号土坑（第470図）

位置 調査区の東部，C14h3区。

重複関係 西側部分で第2875号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.51mの円形と推定され，深さは61cmである。

壁 袋状である。

底 皿状である。

ピット 2か所。P₁は北壁際に位置し，径38cmの円形で，深さは83cmである。P₂は東壁際に位置し，径24cmの円形で，深さは23cmである。

覆土 4層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

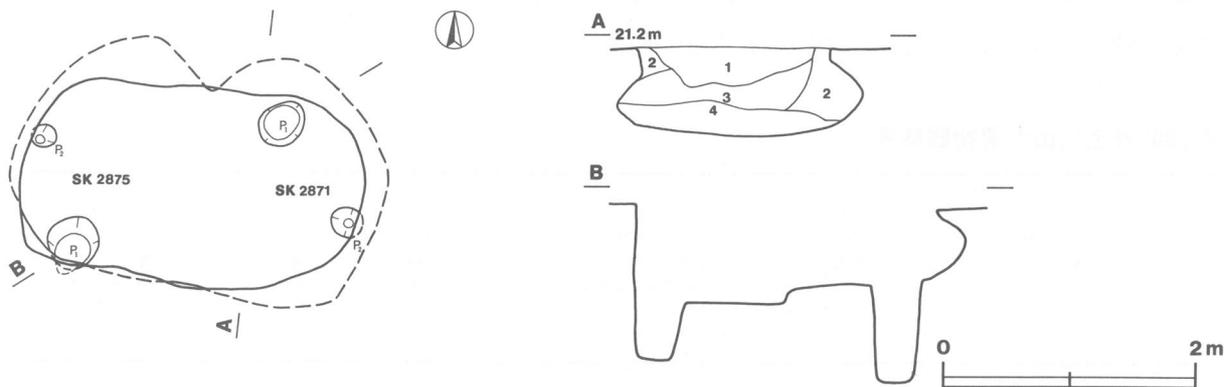
- 1 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文土器片80点が出土している。第471図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

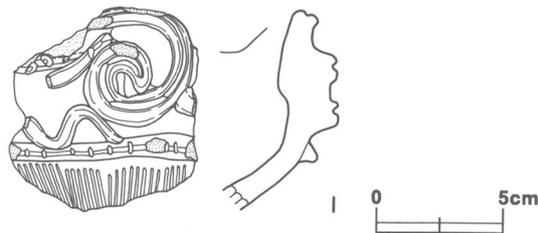
所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期中葉（中峠式期）と考えられる。

第2871号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第471図 1	深鉢 縄文土器	B (8.1)	胴部から口縁部の破片。沈線の施された隆帯による渦巻文が施された突起をもつ。口縁部には隆帯による山形文が施されている。口縁部と胴部はキザミをもつ隆帯で区画され，胴部には縦位の条線が施されている。	砂粒・長石・石英 雲母 にぶい橙色 普通	P172 5% 覆土 中峠式併行



第470図 第2871・2875号土坑実測図



第471図 第2871号土坑出土遺物実測図

第2875号土坑（第470図）

位置 調査区の東部，C14h3区。

重複関係 東側部分で第2871号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 径1.44mの円形と推定され，深さは80cmである。

壁 袋状である。

底 平坦である。

ピット 2か所。P₁は南壁際に位置し，径42cmの円形で，深さは49cmである。P₂は西壁際に位置し，径20cmの円形で，深さは42cmである。

所見 本跡の時期は，遺構の形態から縄文時代と考えられる。

第2899号土坑（第472図）

位置 調査区の東部，C14e5区。

重複関係 南側部分で第2903号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 径1.53mの円形で，深さは64cmである。

壁 袋状である。

底 皿状である。

覆土 3層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

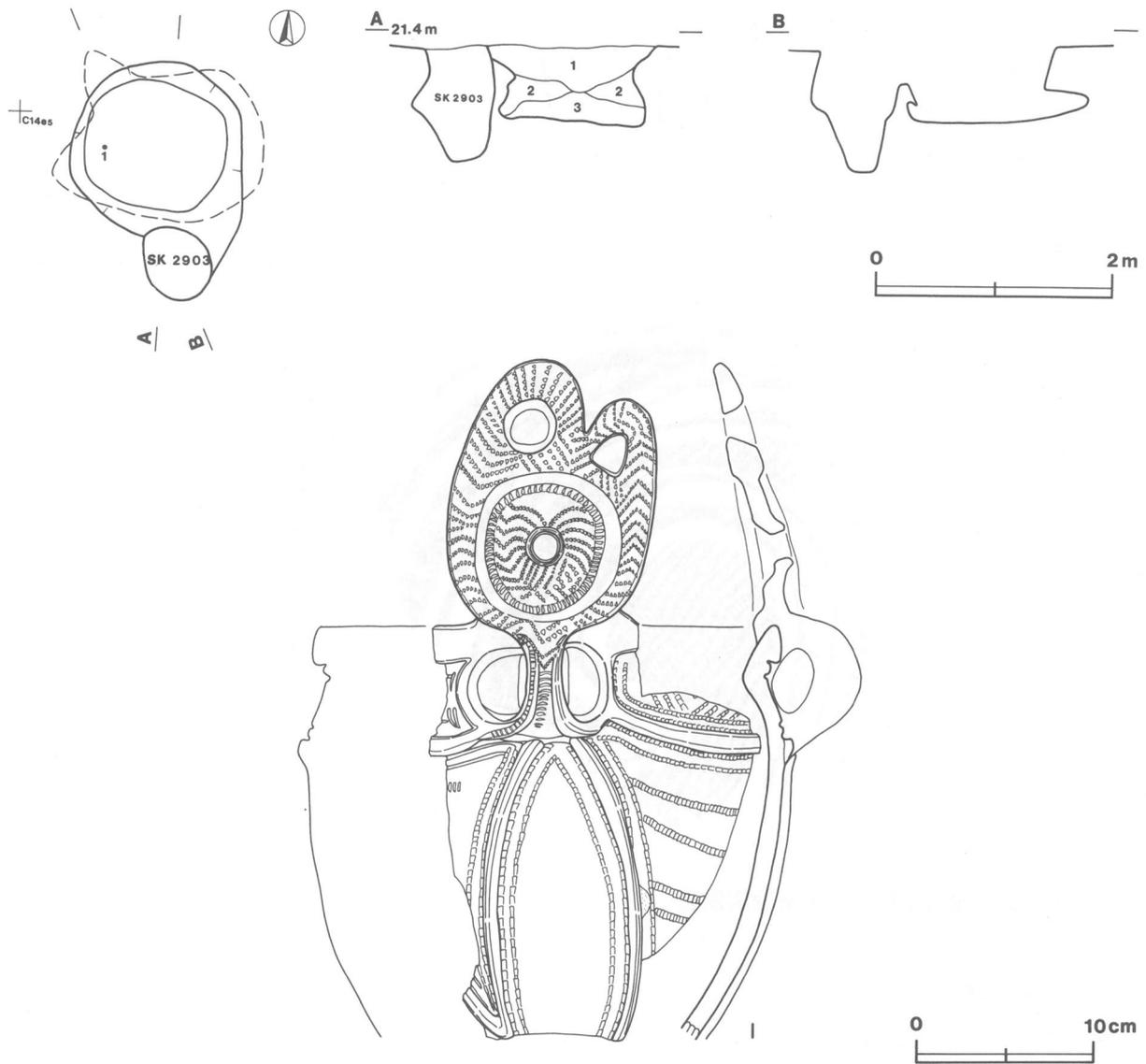
- 1 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 縄文土器片153点が出土している。第472図1の深鉢の胴部から口縁部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期前葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。

第2899号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第472図 1	深鉢 縄文土器	A [25.0] B (38.0)	胴部から口縁部の破片。胴部は内彎する。口縁部に，頂部が双頭で，孔をもつ把手を有し，全面に刺突文が施されている。隆帯による口縁部区画文内には，半截竹管による結節沈線文が施されている。胴部には断面カマボコ状の隆帯を垂下させ，隆帯に沿って半截竹管による結節沈線文が施されている。横位の結節沈線文もみられる。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P148 20% PL62 覆土 阿玉台Ⅱ式



第472図 第2899号土坑・出土遺物実測図

第2900号土坑（第473図）

位置 調査区の北東部，B14j5区。

規模と平面形 径1.53mの円形で，深さは45cmである。

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 3層に分層され，堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物 縄文土器片50点が出土している。第473図1は深鉢の口縁部付近の破片で，2本1組の微隆起線文により渦巻文を施し，地文としてRLの単節縄文が施されている。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第473図 第2900号土坑・出土遺物実測図

第2905号土坑 (第474図)

位置 調査区の東部, C14 e3 区。

規模と平面形 長径2.04m, 短径1.64mの楕円形で, 深さは54cmである。

長径方向 N-46°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底 皿状である。

覆土 4層に分層され, 堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

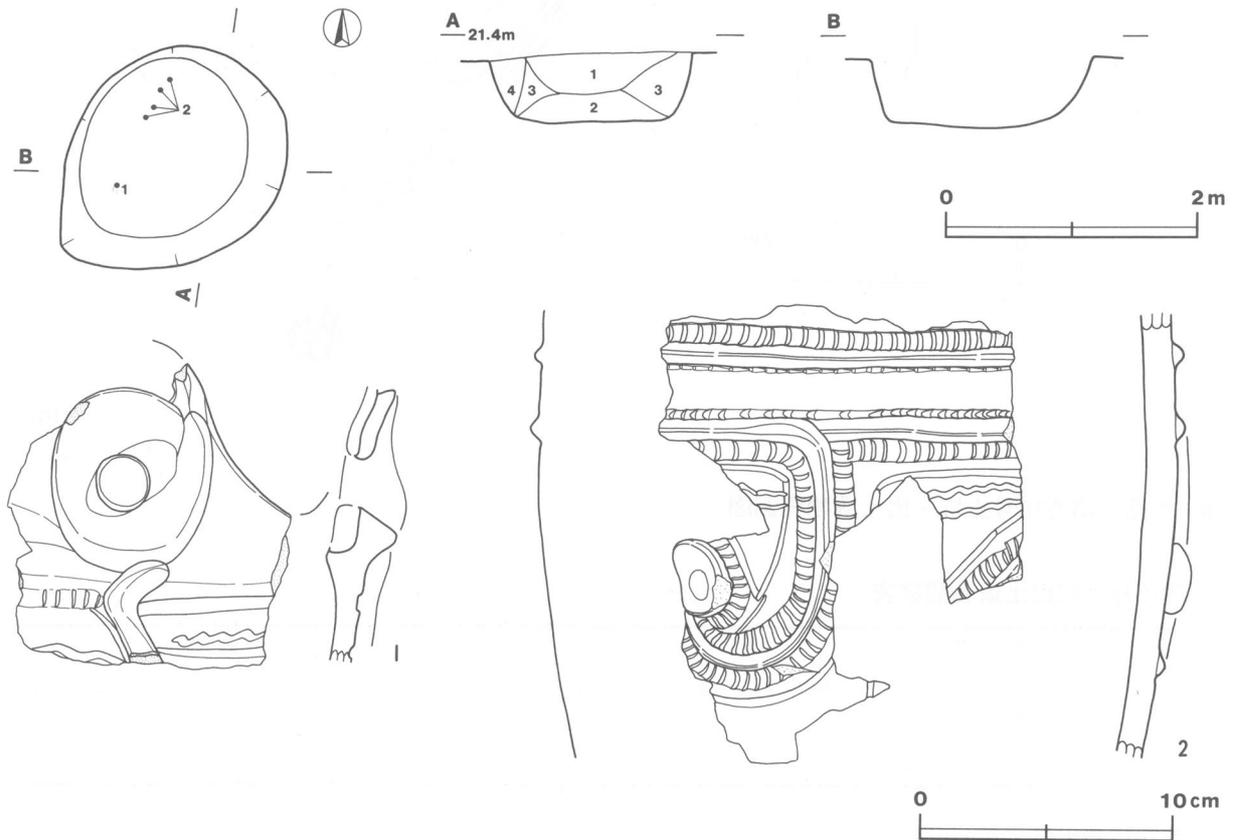
遺物 縄文土器片35点が出土している。第474図1の把手をもつ口縁部片と2の深鉢の胴部片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期前葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。

第2905号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第474図 1	深鉢 縄文土器	B (11.1)	把手をもつ口縁部片。断面三角形の隆帯が孔を巡り, 口縁部の隆帯につながる。口縁部には押し刺突文及び山形沈線文が施されている。	砂粒・長石・石英・雲母・スコリアにふい赤褐色普通	P173 2% 覆土 阿玉台Ⅲ式

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第474図 2	深鉢 縄文土器	B (18.1)	胴部片。隆帯が横位あるいはJ字状に施され、隆帯に沿って幅広の爪形文が施されている。区画内に隆帯による山形沈線文が施されている。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P149 10% 覆土 阿玉台Ⅲ式



第474図 第2905号土坑・出土遺物実測図

第2910号土坑（第475図）

位置 調査区の東部，C14g2区。

重複関係 南側部分を第2909号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径0.86m，短径0.47mの不定形で，深さは98cmである。

長径方向 N-45°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 凹凸である。

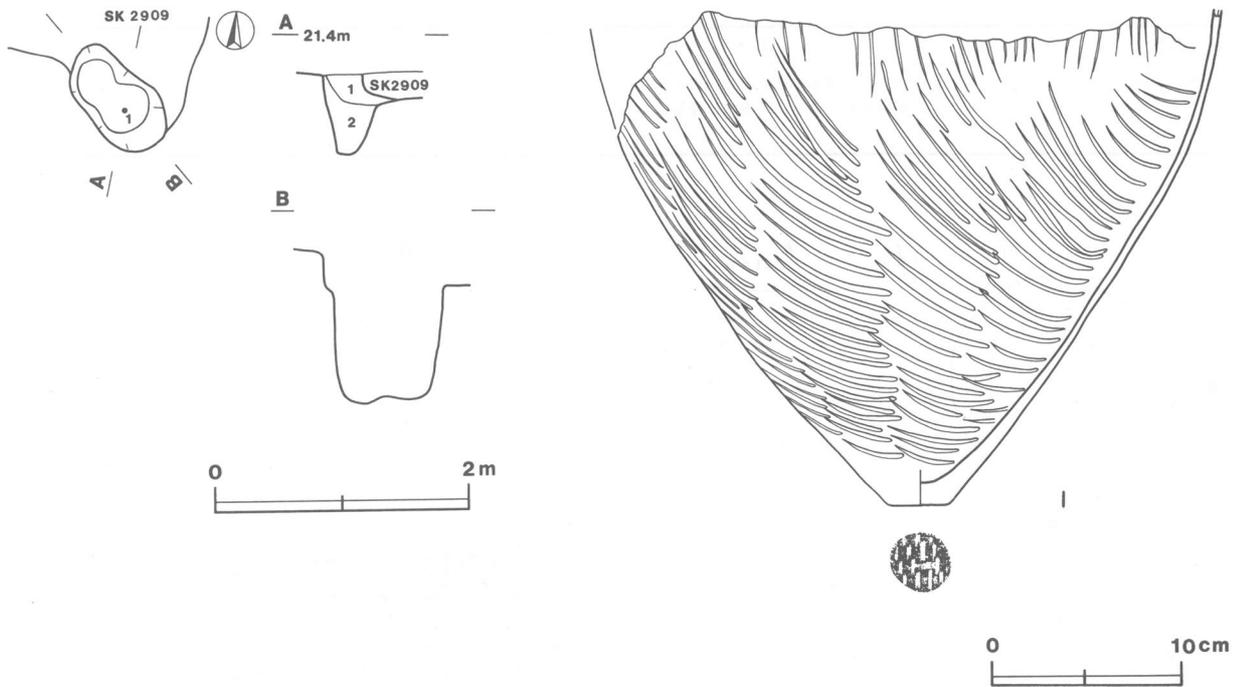
覆土 2層に分層され，堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物 縄文土器片2点が出土している。第475図1の深鉢の底部から胴部の破片は覆土から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代後期後葉（安行2式期）と考えられる。



第475図 第2910号土坑・出土遺物実測図

第2910号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第475図 1	深鉢 縄文土器	B (26.4) C 3.0	底部から胴部の破片。底部は小さく、胴部には斜行する条線文が施されている。	砂粒・長石・パミスに ぶい橙色 普通	P150 30% PL62 覆土 安行2式

第2912号土坑 (第476図)

位置 調査区の東部，C14b4区。

重複関係 南西部分で第2916号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.36m，短径1.15mの楕円形で，深さは41cmである。

長径方向 N-39°-W

壁 ほぼ垂直に立ち上がる。

底 平坦である。

覆土 2層に分層され，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 縄文土器片66点が出土している。第476図1の浅鉢は底面付近から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から縄文時代中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。

第2912号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第476図 1	浅鉢 縄文土器	A 27.8 B 16.5 C 10.7	胴部上位でくの字状に屈曲し，口縁部は内傾する。屈曲部から口縁部にかけてRLの単節縄文が施されている。	砂粒・長石・石英・ パミス・礫 褐色 普通	P151 90% PL62 底面 加曾利E I式